

平成30年8月16日

高等教育局長 殿

国立大学法人佐賀大学長
宮 崎 耕 治

佐賀大学農学部設置報告書

このたび、佐賀大学農学部を設置することについて、別紙書類にて報告いたします。

設置計画の概要

事項	記 入 欄
事前相談事項	事前伺い
計画の区分	学部設置
フリガナ者	コクリツダイガクホウジン サガダイガク 国立大学法人 佐賀大学
フリガナ大学の名	サガダイガク 佐賀大学 (Saga University)
新設学部等において養成する人材像	<p>【農学部】 ①養成する人材像 農学及び関連する学問領域において、多様な社会的要請にこたえうる深い専門性と幅広い素養を身につけ、国内外での農業及び関連産業の発展に貢献する人材を養成する。 ②習得させる能力 農学の学修を通して、生物生産に関わる原理・原則を理解し、農林水産業に関わる問題発見能力、課題の設定と解決能力を身につける。</p> <p>【生物資源科学科】 ①養成する人材像 農業生産性の改善、農業生産基盤の整備、食品・飲料の製造開発、或いは国内外の農業振興とアグリビジネスの創生に関わる諸分野に於いて、その社会的要請にこたえうる専門性と実践力を身につけた人材を養成する。 ②習得される能力 農学の基盤的学問分野ならびに幅広い教養の学修を通して、生物生産技術への対応力、農林水産資源の開発と生産、食と健康、環境問題など地球規模課題に対応できる実践力を修得させる。</p> <p>【生物科学コース】 ①養成する人材像 農学及び関連する学問領域において、新品種育成や栽培技術開発及び病虫害防除などの農業生産性の改善に関わる多様な社会的要請にこたえうる深い専門性と幅広い素養を身につけ、地域創生に繋がる農林水産業及び関連産業の発展に貢献する人材を養成する。 ②習得させる能力 農林水産資源の開発と生産に関する先進技術への対応力と豊かな国際性、並びに食と健康、環境問題などの地球規模課題に対応できる実践力を習得させる。 ③卒業後の進路 農業関連企業、食品関連企業、環境関連企業、公務員、教員、農業経営、大学院進学などである。</p> <p>【食資源環境科学コース】 ①養成する人材像 農学及び関連する学問領域において、農耕地と農業関連施設の整備ならびに、農林水産業の持続的発展に関わる多様な社会的要請にこたえうる深い専門性と幅広い素養を身につけ、地域創生に繋がる農林水産業及び関連産業の発展に貢献する人材を養成する。 ②習得させる能力 農業生産基盤と環境問題に関する先進技術への対応力と豊かな国際性、並びに農林水産資源の開発と生産、食と健康などの地球規模課題に対応できる実践力を習得させる。 ③卒業後の進路 農業関連企業、環境関連企業、食品関連企業、公務員、大学院進学などである。</p> <p>【生命機能科学コース】 ①養成する人材像 農学及び関連する学問領域において、食品・飲料の製造技術、機能性食品の開発及び生命現象の解明と利用に関わる多様な社会的要請にこたえうる深い専門性と幅広い素養を身につけ、地域創生に繋がる農林水産業及び関連産業の発展に貢献する人材を養成する。 ②習得させる能力 食と健康に関する先進技術への対応力と豊かな国際性、並びに農林水産資源の開発と生産、環境問題などの地球規模課題に対応できる実践力を習得させる。 ③卒業後の進路 食品、医薬品関連企業、化粧品関連企業、農業関連企業、公務員、教員、大学院進学などである。</p> <p>【国際・地域マネジメントコース】 ①養成する人材像 農学及び関連する学問領域において、国内外の農業・農村の振興と新たなアグリビジネスの創生に関わる多様な社会的要請にこたえうる深い専門性と幅広い素養を身につけ、地域創生に繋がる農林水産業及び関連産業の発展に貢献する人材を養成する。 ②習得させる能力 国内外の諸地域における農林水産資源の開発と生産・流通、食と健康、環境問題などの課題に豊かな国際性を持って対応できる実践力を習得させる。 ③卒業後の進路 農業協同組合、農業関連企業、卸売・小売業、国際協力事業団、NPO・NGO、公務員、教員、農業経営、大学院進学などである。</p>
既設学部等において養成する人材像	<p>【農学部】 ①養成する人材像 農学及び関連する学問領域において、多様な社会的要請にこたえうる幅広い素養と実行力を身につけた人材を養成する。 ②習得させる能力 情報を収集する能力、計画を作成する能力、結果を集約し解析する能力、プレゼンテーション能力を習得させる。</p> <p>【農学部 応用生物科学科】 ①養成する人材像 生物の特性を理解し、生物の改良や活用を通して、社会に貢献できる人材を養成する。 ②習得させる能力 有用生物資源の開発・利用、並びにこれらに影響を与える可能性のある生物に対する知識とこれらを制御する技術を身につけ、重要課題を解決できる能力を習得させる。 ③卒業後の進路 大学院進学、各種企業(食品、種苗、化学薬品、医薬、環境、情報、サービス)、JA、経済連、教員、国家公務員、地方公務員、他</p> <p>【農学部 生物環境科学科】 ①養成する人材像 将来の地球、また人類の食料と健康を支える能力と知識を有し、多様化、複雑化する課題を総合的視点に立って解決できる技術者、生産者、研究者、政策担当者などの各種専門的職業人を養成する。 ②習得させる能力 生物環境保全学コースでは、地球上の環境や生態系を深く理解し、これらの保全、再生及び活用を通して社会に貢献できる能力を習得させる。資源循環生産学コースでは、生物科学及び生産情報科学の理論と技術を学び、環境に配慮した食糧生産と環境問題を解決できる能力を習得させる。地域社会開発学コースでは、フィールドワークに基づく教育研究を通して、日本を含むアジア・太平洋諸地域における、持続可能な循環型地域社会の構築に貢献できる能力を習得させる。 ③卒業後の進路 大学院進学、国家公務員、地方公務員、農協組織(全国農業協同組合、県中央会、県経済連、各市町村農協など)、各種企業(製造業、情報通信業、建設・コンサルティング・環境サービス関連業)、他</p> <p>【農学部 生命機能科学科】 ①養成する人材像 科学的思考力を備え、生命科学技術の応用を通して、食と健康の分野において社会に貢献できる人材を養成する。 ②習得させる能力 生命現象を探求し、生物機能・生物資源を開発・利用するために必要な、基礎から応用に至る化学的な教養及び実践的な研究能力を習得させる。 ③卒業後の進路 大学院進学、国家公務員、地方公務員、教員、法人団体(JA、JTなど)、各種企業(製薬会社、食品会社、環境関連企業研究所など)、他</p>

新設学部等において 取得可能な資格	<p>【農学部 生物資源科学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校教諭一種（理科）・高等学校教諭一種（理科）・高等学校教諭一種（農業） <ul style="list-style-type: none"> ① 国家資格, ② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか, 教職関連科目の履修が必要であるが, 資格取得が卒業の必須条件ではない。 ・食品衛生管理者, 食品衛生監視員 <ul style="list-style-type: none"> ① 国家資格, ② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能であるが, 資格取得が卒業の必須条件ではない。 ・農業改良普及指導員 <ul style="list-style-type: none"> ① 国家資格, ② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか, 卒業後の実務経験が必要であるが, 資格取得が卒業の必須条件ではない。 ・家畜人工受精師受験資格（生物科学コース） <ul style="list-style-type: none"> ① 国家資格, ② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか, 家畜人工受精関連科目の履修が必要であるが, 資格取得が卒業の必須条件ではない。 ・1級及び2級土木施工管理技師, 測量士補, 自然再生士補（食資源環境科学コース） <ul style="list-style-type: none"> ① 国家資格, ② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能であるが, 資格取得が卒業の必須条件ではない。 ・測量士（食資源環境科学コース） <ul style="list-style-type: none"> ① 国家資格, ② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか, 卒業後の実務経験が必要であるが, 資格取得が卒業の必須条件ではない。
----------------------	---

既設学部等において 取得可能な資格	<p>【農学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校教諭一種（理科）・高等学校教諭一種（理科）・高等学校教諭一種（農業） <ul style="list-style-type: none"> ① 国家資格, ② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか, 教職関連科目の履修が必要であるが, 資格取得が卒業の必須条件ではない。 ・食品衛生管理者, 食品衛生監視員 <ul style="list-style-type: none"> ① 国家資格, ② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能であるが, 資格取得が卒業の必須条件ではない。 ・農業改良普及指導員 <ul style="list-style-type: none"> ① 国家資格, ② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか, 卒業後の実務経験が必要であるが, 資格取得が卒業の必須条件ではない。 ・家畜人工受精師受験資格（応用生物科学科, 生物環境科学科資源循環生産学コース） <ul style="list-style-type: none"> ① 国家資格, ② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか, 家畜人工受精関連科目の履修が必要であるが, 資格取得が卒業の必須条件ではない。 ・1級及び2級土木施工管理技師, 測量士補, 自然再生士補（生物環境科学科生物環境保全学コース） <ul style="list-style-type: none"> ① 国家資格, ② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能であるが, 資格取得が卒業の必須条件ではない。 ・測量士（生物環境科学科生物環境保全学コース） <ul style="list-style-type: none"> ① 国家資格, ② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか, 卒業後の実務経験が必要であるが, 資格取得が卒業の必須条件ではない。
----------------------	--

等部	新設学部等の名称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	授与する学位等		開設時期	専任教員		
							学位又は 称号	学位又は 学科の分野		異動元	助教 以上	うち 教授
	農学部 [Faculty of Agriculture]	生物資源科学科 [Department of Biological Resource Science]	4	145	-	580	学士 (農学)	農学関係	平成31年 4月	応用生物科学科	12	4
										生物環境科学科	18	3
										生命機能科学科	12	5
										計	42	12

既設 学 部 等 の 概 要	既設学部等の名称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	授与する学位等		開設時期	専任教員								
							学位又は 称号	学位又は 学科の分野		異動先	助教 以上	うち 教授						
	農学部	応用生物科学科 (廃止)	4	45	3年次 10	180	学士 (農学)	農学関係	平成18年 4月	生物資源科学科	12	4						
										退職	2	2						
										その他	2	2						
		計								16	8							
		生物環境科学科 (廃止)								4	60	240	学士 (農学)	農学関係	平成18年 4月	生物資源科学科	18	3
																その他	2	2
	計		20	5														
	生命機能科学科 (廃止)	4	40	160	学士 (農学)	農学関係	平成18年 4月	生物資源科学科	12	5								
								その他	1	1								
								計	13	6								

【備考欄】	
理工学部 数理科学科 [廃止] (入学定員 30) 物理科学科 [廃止] (入学定員 40) 知能情報システム学科 [廃止] (入学定員 60) 機能物質化学科 [廃止] (入学定員 90) → 機械システム工学科 [廃止] (入学定員 90) 電気電子工学科 [廃止] (入学定員 90) 都市工学科 [廃止] (入学定員 90) ※平成31年4月学生募集停止	理工学部 理工学科 (入学定員 480) (平成30年4月申請)
工学系研究科 (博士前期課程) [廃止] 数理科学専攻 [廃止] (入学定員 9) 物理科学専攻 [廃止] (入学定員 15) 知能情報システム学専攻 [廃止] (入学定員 18) → 循環物質化学専攻 [廃止] (入学定員 27) 機械システム工学専攻 [廃止] (入学定員 28) 電気電子工学専攻 [廃止] (入学定員 27) 都市工学専攻 [廃止] (入学定員 24) 先端融合工学専攻 [廃止] (入学定員 36) ※平成31年4月学生募集停止	理工学研究科 (修士課程) 理工学専攻 (入学定員 167) (平成30年4月申請)

農学研究科 (修士課程) 生物資源科学専攻	[廃止](入学定員 40)	→	農学研究科 (修士課程) 生物資源科学専攻	(入学定員 32)	(平成30年4月申請)
医学系研究科 (修士課程)[廃止] 医科学専攻 看護学専攻	[廃止](入学定員 15) [廃止](入学定員 16)		先進健康科学研究科 (修士課程) 先進健康科学専攻	(入学定員 52)	(平成30年4月申請)
※平成31年4月学生募集停止					

【施設・設備の状況】

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	※大学全体 借地面積 16,116 m ²		
	校 舎 敷 地	332,968 m ²	0 m ²	0 m ²	332,968 m ²			
	運 動 場 用 地	96,879 m ²	0 m ²	0 m ²	96,879 m ²			
	小 計	429,847 m ²	0 m ²	0 m ²	429,847 m ²			
	そ の 他	400,449 m ²	0 m ²	0 m ²	400,449 m ²			
合 計	830,296 m ²	0 m ²	0 m ²	830,296 m ²				
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	※大学全体		
		153,878 m ² (154,060 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	153,878 m ² (154,060 m ²)			
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	※大学全体		
	112 室	113 室	472 室	16 室 (補助職員 - 人)	4 室 (補助職員 - 人)			
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数				
		農学部		57 室				
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共 用分を含む
	大学全体	708,642 [221,063] (709,272 [222,323])	11,880 [4,096] (11,880 [4,096])	5,444 [4,146] (5,444 [4,146])	2,890 (2,770)	8,106 (6,372)	230 (230)	
	計	708,642 [221,063] (709,272 [222,323])	11,880 [4,096] (11,880 [4,096])	5,444 [4,146] (5,444 [4,146])	2,890 (2,770)	8,106 (6,372)	230 (230)	
図書館	面積	収 納 可 能 冊 数						
	7,887 m ²	819 席		571,361 冊				
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要						
	5,543 m ²	陸上競技場, 野球場, テニスコート, 弓道場, プール						

【既設学部等の状況】

既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	佐賀大学							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地
		年	人	年次 人	人		倍		
	教育学部 学校教育課程	4	120	—	360	学士 (学校教育)	1.05	平成28年度	佐賀県佐賀市本庄 町1番地
	文化教育学部 学校教育課程	4	—	—	—	学士 (学校教育)	—	平成9年度	平成28年度より名称変更
	国際文化課程	4	—	—	—	学士 (国際文化)	—	平成9年度	平成28年度より学生募集停止
	人間環境課程	4	—	—	—	学士 (人間環境)	—	平成9年度	平成28年度より学生募集停止
	美術・工芸課程	4	—	—	—	学士 (健康福祉・スポーツ) 学士 (美術・工芸)	—	平成9年度	平成28年度より学生募集停止
	芸術地域デザイン学部 芸術地域デザイン学科	4	110	3年次5	335	学士 (芸術) 学士 (地域デザイン)	1.05	平成28年度	佐賀県佐賀市本庄 町1番地
	経済学部 経済学科	4	110	—	440	学士 (経済学)	1.04		同上
	経営学科	4	80	—	320	学士 (経済学)	1.06	平成25年度	
	経済法学科	4	70	—	280	学士 (経済学)	1.04	平成25年度	
	医学部 医学科	6	106	—	636	学士 (医学)	1.02	平成25年度	
	看護学科	4	60	—	240	学士 (看護学)	1.00	平成16年度	佐賀県佐賀市鍋島 五丁目1番1号
								平成16年度	平成22年度入学定員増 (6人)
	理工学部 数理科学科	4	30	—	120	学士 (理学)	1.00	平成16年度	佐賀県佐賀市本庄 町1番地
	物理科学科	4	40	—	160	学士 (理学)	1.03	平成16年度	
	知能情報システム学科	4	60	—	240	学士 (理学)	1.01	平成16年度	
	機能物質化学科	4	90	—	360	学士 (理学)	1.02	平成16年度	
						学士 (工学)	1.05	平成16年度	
機械システム工学科	4	90	—	360	学士 (工学)	1.04	平成16年度		
電気電子工学科	4	90	—	360	学士 (工学)	1.03	平成16年度		
都市工学科	4	90	—	360	学士 (工学)	1.03	平成16年度		
各学科共通			3年次 20	40					
農学部 応用生物科学科	4	45	—	180	学士 (農学)	1.03	平成18年度	同上	
生物環境科学科	4	60	—	240	学士 (農学)	1.04	平成18年度		
生命機能科学科	4	40	—	160	学士 (農学)	1.03	平成18年度		
各学科共通			3年次 10	20		1.06	平成18年度		

学校教育学研究科 (専門職学位課程) 教育実践探究専攻	2	20	—	40	教職修士(専門職)	1.00	平成28年度	佐賀県佐賀市本庄町1番地
地域デザイン研究科 (修士課程) 地域デザイン専攻	2	20	—	40	修士(地域デザイン)	0.92	平成28年度	同上
医学系研究科 (修士課程) 医科学専攻	2	15	—	30	修士(医科学)	0.46	平成16年度	佐賀県佐賀市鍋島五丁目1番1号
看護学専攻	2	16	—	32	修士(看護学)	0.62	平成16年度	
(博士課程) 医科学専攻	4	25	—	100	博士(医学)	0.95	平成20年度	
工学系研究科 (博士前期課程) 数理科学専攻	2	9	—	18	修士(理学)	0.77	平成16年度	佐賀県佐賀市本庄町1番地
物理科学専攻	2	15	—	30	修士(理学)	0.69	平成16年度	
知能情報システム学専攻	2	18	—	36	修士(理学)	0.91	平成16年度	平成28年度入学定員増(2人)
循環物質化学専攻	2	27	—	54	修士(理学)	1.18	平成22年度	
機械システム工学専攻	2	28	—	56	修士(工学)	1.19	平成16年度	平成28年度入学定員増(1人)
電気電子工学専攻	2	27	—	54	修士(工学)	1.10	平成16年度	
都市工学専攻	2	24	—	48	修士(工学)	0.95	平成16年度	平成28年度入学定員減(3人)
先端融合工学専攻	2	36	—	72	修士(学術)	1.02	平成22年度	
(博士後期課程) システム創成科学専攻	3	24	—	72	修士(理学) 修士(工学)	0.84	平成22年度	
農学研究科 (修士課程) 生物資源科学専攻	2	40	—	80	修士(農学)	1.10	平成22年度	佐賀県佐賀市本庄町1番地

名称：アドミッションセンター	目的：入学者選抜，入試広報，高大接続等に関する企画，立案等の業務を行うとともに，学部及び研究科で実施する入学者選抜を専門的立場から支援し，本学の教育研究の充実発展に寄与することを目的とする。	所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地	設置年月：平成19年10月	規模等：土地 - m ² 建物 53 m ²
名称：キャリアセンター	目的：キャリア教育の調査研究及び就職支援に係る業務を行うことにより，本学の就職支援の充実発展に寄与することを目的とする。	所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地	設置年月：平成19年10月	規模等：土地 - m ² 建物 110 m ²
名称：国際交流推進センター	目的：部局及び地域社会と連携し一体となって，海外の教育研究機関との国際交流の進展に寄与することを目的とする。	所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地	設置年月：平成23年10月	規模等：土地 - m ² 建物 311 m ²
名称：教員免許更新講習室	目的：教育職員がその時々に必要な資質能力を保持し，定期的に最新の知識技能を身に付け，もって教育職員が自信と誇りを持って教壇に立ち，社会の尊敬と信頼を得ることを目的とする。	所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地	設置年月：平成21年4月	規模等：土地 - m ² 建物 23 m ²
名称：全学教育機構	目的：本学の共通教育，国際教育及び高等教育開発並びに本学の教育における情報通信技術の活用支援を総合的に行うことにより，「佐賀大学士力」に基づく学士課程教育の質保証等に資することを目的とする。	所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地	設置年月：平成23年4月	規模等：土地 - m ² 建物 7,606 m ²
名称：附属図書館	目的：教育，研究及び社会貢献等の諸活動を支援するため，必要な図書，雑誌等の資料をはじめ学術情報を収集し，整理，作成，保存して提供することを目的とする。	所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地	設置年月：平成元年4月	規模等：土地 - m ² 建物 7,643 m ²

附属施設の概要

<p>名称：美術館</p> <p>目的：本学の目的、使命にのっとり、本学の教育、研究、社会貢献等の諸活動を支援するため、必要な芸術資料等を収集、保存、管理及び調査し、並びに展示公開することを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地</p> <p>設置年月：平成25年6月</p> <p>規模等：土地 - m² 建物 1,502 m²</p>	
<p>名称：保健管理センター</p> <p>目的：本学の保健管理に関する専門的業務を行うことを目的とする</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地</p> <p>設置年月：昭和45年4月</p> <p>規模等：土地 - m² 建物 450 m²</p>	
<p>名称：海洋エネルギー研究センター</p> <p>目的：共同利用・共同研究拠点として、海洋エネルギーとその複合利用に関する研究を行い、かつ、全国の大学の教員その他の研究機関の研究者で、センターの目的たる研究と同一の分野の研究に従事するもの利用及び研究に供することを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地、佐賀県伊万里市山代町久原字平尾1番48号</p> <p>設置年月：平成14年4月</p> <p>規模等：土地 10,751 m² 建物 4,673 m²</p>	
<p>名称：総合分析実験センター</p> <p>目的：生物資源開発・機器分析・放射性同位元素利用・環境安全管理に関する体制を一元化し、各部門が有機的な連携を保ちつつ、教育・研究を効率的に推進するための拠点施設として、学際的・複合的な領域研究にも対応できる教育・研究支援体制の実現を目指すことを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地</p> <p>設置年月：平成14年4月</p> <p>規模等：土地 - m² 建物 5,246m²</p>	
<p>名称：総合情報基盤センター</p> <p>目的：本学の学術情報を支える基幹情報システムを統括するとともに、本学の共通的情報基盤の整備推進及び電子図書館機能の充実並びに事務情報化の推進を図ることを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地</p> <p>設置年月：平成18年2月</p> <p>規模等：土地 - m² 建物 939 m²</p>	
<p>名称：シンクロトロン光応用研究センター</p> <p>目的：本学の共同利用研究施設として、シンクロトロン光を応用して行う研究を推進し、その成果を公表することにより、本学の研究教育活動及び学術交流の活性化を図るとともに、地域社会における先端科学技術開発及び産学連携の振興に資することを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地</p> <p>設置年月：平成13年6月</p> <p>規模等：土地 - m² 建物 354 m²</p>	
<p>名称：地域学歴史文化研究センター</p> <p>目的：地域（佐賀）の歴史文化の固有性と普遍性を探求することにより、本学の文系基礎学の発展・充実を図り、もって新たな学問体系としての地域学を創造するとともに、広く地域社会に対し研究成果を提供することを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地</p> <p>設置年月：平成18年4月</p> <p>規模等：土地 - m² 建物 160 m²</p>	
<p>名称：教育学部附属幼稚園</p> <p>目的：本学部における幼児の保育又は児童若しくは生徒の教育に関する研究に協力し、本学部の計画に従い、学生の教育実習の実施に当たるとともに、教育の理論的、実証的研究を行うとともに、他の学校との教育研究の協力及び教育研究の成果の交流を行うことを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市水ヶ江1丁目4番45号</p> <p>設置年月：昭和45年4月</p> <p>規模等：土地 3,565m² 建物 744 m²</p>	
<p>名称：教育学部附属小学校</p> <p>目的：本学部における幼児の保育又は児童若しくは生徒の教育に関する研究に協力し、本学部の計画に従い、学生の教育実習の実施に当たるとともに、教育の理論的、実証的研究を行うとともに、他の学校との教育研究の協力及び教育研究の成果の交流を行うことを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市城内2丁目17番3号</p> <p>設置年月：昭和24年5月</p> <p>規模等：土地 17,426 m² 建物 5,624 m²</p>	
<p>名称：教育学部附属中学校</p> <p>目的：本学部における幼児の保育又は児童若しくは生徒の教育に関する研究に協力し、本学部の計画に従い、学生の教育実習の実施に当たるとともに、教育の理論的、実証的研究を行うとともに、他の学校との教育研究の協力及び教育研究の成果の交流を行うことを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市城内1丁目14番4号</p> <p>設置年月：昭和24年5月</p> <p>規模等：土地 22,166 m² 建物 6,379 m²</p>	

<p>名称：教育学部附属特別支援学校</p> <p>目的：本学部における幼児の保育又は児童若しくは生徒の教育に関する研究に協力し、本学部の計画に従い、学生の教育実習の実施に当たるとともに、教育の理論的、実証的研究を行うとともに、他の学校との教育研究の協力及び教育研究の成果の交流を行うことを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市本庄町正里46番2号</p> <p>設置年月：昭和53年4月</p> <p>規模等：土地 19,915 m² 建物 3,677 m²</p>	
<p>名称：教育学部附属教育実践総合センター</p> <p>目的：附属学校（園）等、学内外の関係機関との連携のもとに、教育臨床、教育実践及び教職支援に関する理論的・実践的研究及び指導を行い、教育実践の向上に資することを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地</p> <p>設置年月：平成14年4月</p> <p>規模等：土地 - m² 建物 530 m²</p>	
<p>名称：医学部附属病院</p> <p>目的：医学の教育及び研究に係る診療の場として機能するとともに、医療を通して医学の水準及び地域医療の向上に寄与することを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市鍋島五丁目1番1号</p> <p>設置年月：昭和56年4月</p> <p>規模等：土地 99,233 m² 建物 70,388 m²</p>	
<p>名称：医学部附属地域医療科学教育研究センター</p> <p>目的：本学における教育研究の先導的組織として、地域医療機関、保健行政機関等との連携を基盤に、地域包括医療の高度化等に関する総合的、学際的な教育研究を行うとともに、関連する医学・看護学の課題に関して重点的に研究を進展させることを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市鍋島五丁目1番1号</p> <p>設置年月：平成15年4月</p> <p>規模等：土地 - m² 建物 222 m²</p>	
<p>名称：医学部附属先端医学研究推進支援センター</p> <p>目的：本学部における医学研究活動をより一層推進するため、学際分野を含む医学研究の先端的・中心的な役割を担い、もって学内外への情報発信を行うとともに、本学部における教育研究の基盤となる高度な技術的支援とその研鑽を組織的に行うことにより、関連する医学・看護学の課題に関して重点的に研究を進展させることを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市鍋島五丁目1番1号</p> <p>設置年月：平成19年4月</p> <p>規模等：土地 - m² 建物 53 m²</p>	
<p>名称：農学部附属アグリ創生教育研究センター</p> <p>目的：農学部の附属教育研究施設として、学内外の関係機関との連携のもとに、アグリ創生に関する教育及び研究を行い、農業・医療・環境修復等の地域社会ニーズに対応した学際的な国際化戦略の向上に資することを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市久保泉町下和泉1841番地、佐賀県唐津市松南町152番1号</p> <p>設置年月：平成24年10月</p> <p>規模等：土地 180,840 m² 建物 4,018m²</p>	
<p>名称：神集島合宿研修所</p> <p>目的：本学学生の集団行動における訓練の場として、学生相互あるいは教職員との共同生活を通じて、学生の人間形成に資することを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県唐津市神集島コウソ辻1430番地</p> <p>設置年月：昭和48年3月</p> <p>規模等：土地 9,940 m² 建物 205 m²</p>	

教育課程等の概要 (事前伺い)

【全学教育機構】 (農学部 生物資源科学科 教養教育科目)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
科入大 目門学	大学入門科目 I	1前	2			○			1	1		1				
	小計(1科目)	—	2	0	0	—			1	1	0	1	0	—		
共通基礎科目	英語 A	1前	1				○							兼14		
	英語 B	1後	1				○							兼16		
	英語 C	2前	1				○							兼16		
	英語 D	2後	1				○							兼16		
	アカデミック・ジャパニーズA	1前		1			○							兼2		
	アカデミック・ジャパニーズB	1前		1			○							兼1		
	アカデミック・ジャパニーズC	1後		1			○							兼2		
	アカデミック・ジャパニーズD	1後		1			○							兼2		
	小計(8科目)	—	4	4	0	—			0	0	0	0	0	兼69	—	
	情報基礎概論	1前	2				○			1						
情報基礎演習 I	1前	1					○		1	1						
小計(2科目)	—	3	0	0	—			2	1	0	0	0	兼0	—		
基本教養科目	基礎自然科学															
	物理の世界 I	1・2前		2			○							兼2	共同	
	物理の世界 II	1・2後		2			○							兼2	共同	
	化学の世界 A	1・2前		2			○							兼2	オムニバス方式	
	化学の世界 B	1・2後		2			○							兼3	オムニバス方式	
	実験化学 I	1・2前		2			○			1				兼12	オムニバス方式	
	実験化学 II	1・2後		2			○							兼11	オムニバス方式	
	生物学の世界	1・2後		2			○							兼1		
	地学の世界	1・2後		2			○							兼2		
	自然科学・技術の現代的諸相															
	Breakthroughs in the Modern Age	1・2前		2			○								兼1	
	The Natural World	1・2前		2			○								兼2	
	Sustainable Society	1・2前		2			○								兼1	
	情報科学の世界 I	1・2前		2			○								兼2	
	情報科学の世界 II	1・2前・後		2			○								兼2	
	機械工学の世界 A	1・2後		2			○								兼2	オムニバス方式
	機械工学の世界 B	1・2前		2			○								兼2	オムニバス方式
	電気電子工学の世界 A	1・2前		2			○								兼1	
	電気電子工学の世界 B	1・2後		2			○								兼1	
	都市と生活	1・2前		2			○								兼1	ネット
	環境科学 II	1・2前		2			○				1				兼1	オムニバス方式
	農業と農地環境	1・2前		2			○								兼1	
	セラミックスの不思議	1・2後		2			○								兼1	
	21世紀のエネルギーと環境問題	1・2前		2			○								兼1	
	生物科学・生命科学															
	生物科学の世界 A	1・2前		2			○			2					兼1	オムニバス方式
	生物科学の世界 B	1・2前		2			○								兼1	
	栄養科学 A	1・2前		2			○								兼1	
	栄養科学 B	1・2後		2			○								兼1	
	くらしの中の生命科学	1・2後		2			○			3	3	2			兼1	オムニバス方式
	生命科学の基礎 A	1・2後		2			○								兼7	オムニバス方式
生命科学の基礎 B	1・2前		2			○								兼2	オムニバス方式・共同(一部)	
生命科学の基礎 C	1・2前		2			○								兼13	オムニバス方式	
生命科学の基礎 F	1・2前		2			○								兼3	オムニバス方式	
自然科学と技術の分野特別講義																
小計(31科目)	—	0	62	0	—			5	5	2	0	0	兼82	—		

基本 教養 科目	現代 社会 の 分野	心理学C	1・2前・後	2		○									兼1		
		健康科学A	1・2前・後	2		○										兼3	
		健康科学B	1・2前・後	2		○										兼1	
		スポーツと健康	1・2前・後	2		○										兼1	
		障がい者支援論	1・2前・後	2		○										兼2	オムニバス方式
		Citizenship Education	1・2前・後	2		○										兼1	
		Life in the Global World	1・2前・後	2		○										兼1	
		情報メディアと倫理	1・2前・後	2		○										兼2	
		身体表現入門	1・2前・後	2		○										兼1	集中
		シナリオ入門	1・2前・後	2		○										兼1	
		心の病と癒しのプロセス	1・2前・後	2		○										兼1	
		心身の発達過程	1・2前・後	2		○										兼1	
		現代社会の諸相															
		ジャーナリズムの現在	1・2前・後	2		○										兼1	
		アジアコミュニティ論	1・2前・後	2		○										兼1	
		知的財産学	1・2前・後	2		○										兼1	ネット
		環境科学Ⅰ	1・2前・後	2		○										兼1	
		環境科学Ⅲ	1・2前・後	2		○										兼1	
		環境会計	1・2前・後	2		○										兼1	
		高齢者・障がい者の生活・就労支援概論	1・2前・後	2		○										兼1	
高齢者・障がい者就労支援の諸理論	1・2前・後	2		○										兼1	集中		
インストラクショナル・デザイン	1・2前・後	2		○										兼1	ネット		
現代社会の分野特別講義																	
小計(33科目)		—	0	66	0	—			0	0	0	0	0	0	兼41	—	
基本 教養 科目	総合 科目	海外交流実習	1・2前・後	2		○									兼3		
		キャリアデザイン	1・2前・後	2		○									兼1		
		佐賀版キャリアデザイン	1・2前・後	2		○									兼1		
		グループワークの技法と実践	1・2前・後	2		○									兼1		
		データサイエンスへの招待	1・2前・後	2		○									兼1		
		チャレンジ・インターンシップA	1・2前・後	1		○									兼2	集中・共同	
		チャレンジ・インターンシップB	1・2前・後	2		○									兼2	集中・共同	
		小計(7科目)		—	0	13	0	—		0	0	0	0	0	0	兼11	—
外国 人 留 学 生 用 科 目	日本事情—自然科学と技術	1・2前・後	2		○										兼1		
	日本事情—文化	1・2前・後	2		○										兼1		
	日本事情—現代社会	1・2前・後	2		○										兼1		
	小計(3科目)		—	0	6	0	—		0	0	0	0	0	0	兼3	—	
イン ター フ ェ ー ス 科 目	環 境 コ ー ス	機械工学と環境Ⅰ	2前	2		○									兼3	オムニバス方式	
		機械工学と環境Ⅱ	2後	2		○									兼4	オムニバス方式	
		機械工学と環境Ⅲ	3前	2		○									兼6	オムニバス方式2コマ履修	
		機械工学と環境Ⅳ	3後	2		○									兼7	オムニバス方式3コマ履修	
		電気電子工学と環境Ⅰ	2前	2		○									兼1		
		電気電子工学と環境Ⅱ	2後	2		○									兼1		
		電気電子工学と環境Ⅲ	3前	2		○									兼1		
		電気電子工学と環境Ⅳ	3後	2		○									兼1		
		有明海学Ⅰ	2前	2		○				3	1				兼2	オムニバス方式・共同(一部)	
		有明海学Ⅱ	2後	2		○				1							
		有明海学Ⅲ	3前	2		○				3	1						
		有明海学Ⅳ	3後	2		○				2	1	1			兼1	共同	
		地域環境の保全と市民社会Ⅰ	2前	2		○									兼2	共同	
		地域環境の保全と市民社会Ⅱ	2後	2		○									兼2	共同	
		地域環境の保全と市民社会Ⅲ	3前	2		○				1					兼1	オムニバス方式	
		地域環境の保全と市民社会Ⅳ	3後	2		○									兼1		
小計(16科目)		—	0	32	0	—		0	10	3	1	0	0	兼33	—		
		芸術創造Ⅰ	2前	2		○									兼1		
		芸術創造Ⅱ	2後	2		○									兼6	オムニバス方式	
		芸術創造Ⅲ	3前	2		○									兼4	オムニバス方式	
		芸術創造Ⅳ	3後	2		○									兼3	オムニバス方式	
		異文化交流Ⅰ	2前	2		○									兼2		
		異文化交流Ⅱ	2後	2		○									兼3	オムニバス方式・共同(一部)	

インターフェース科目	文化と共生コース	異文化交流Ⅲ	3前	2	0	0	0	0	0	0	0	0	兼2		
		異文化交流Ⅳ	3後	2	0	0	0	0	0	0	0	0	兼3		
		Intercultural Communication I	2前	2	0	0	0	0	0	0	0	0	兼2		
		Intercultural Communication II	2後	2	0	0	0	0	0	0	0	0	兼2		
		Intercultural Communication III	3前	2	0	0	0	0	0	0	0	0	兼2		
		Intercultural Communication IV	3後	2	0	0	0	0	0	0	0	0	兼2		
		映像・デジタル表現 I	2前	2	0	0	0	0	0	0	0	0	兼3	共同	
		映像・デジタル表現 II	2後	2	0	0	0	0	0	0	0	0	兼5	集中・共同	
		映像・デジタル表現Ⅲ	3前	2	0	0	0	0	0	0	0	0	兼3	共同	
		映像・デジタル表現Ⅳ	3後	2	0	0	0	0	0	0	0	0	兼8	共同	
		肥前陶磁器産業体験 I	2前	2	0	0	0	0	0	0	0	0	兼1		
		肥前陶磁器産業体験 II	2後	2	0	0	0	0	0	0	0	0	兼1		
		肥前陶磁器産業体験Ⅲ	3前	2	0	0	0	0	0	0	0	0	兼4	集中・共同	
		肥前陶磁器産業体験Ⅳ	3後	2	0	0	0	0	0	0	0	0	兼4	集中・共同	
		ドイツの歴史・文化探究 I	2前	2	0	0	0	0	0	0	0	0	兼1		
		ドイツの歴史・文化探究 II	2後	2	0	0	0	0	0	0	0	0	兼1		
		ドイツの歴史・文化探究Ⅲ	3前	2	0	0	0	0	0	0	0	0	兼1		
		ドイツの歴史・文化探究Ⅳ	3後	2	0	0	0	0	0	0	0	0	兼1		
		フランスの歴史・文化探究 I	2前	2	0	0	0	0	0	0	0	0	兼1		
		フランスの歴史・文化探究 II	2後	2	0	0	0	0	0	0	0	0	兼1		
		フランスの歴史・文化探究Ⅲ	3前	2	0	0	0	0	0	0	0	0	兼1		
		フランスの歴史・文化探究Ⅳ	3後	2	0	0	0	0	0	0	0	0	兼1		
		日・中・韓の文化 I	2前	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼1	
		日・中・韓の文化 II	2後	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼1	
日・中・韓の文化Ⅲ	3前	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼1			
日・中・韓の文化Ⅳ	3後	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼1			
小計(32 科目)	—	0	64	0	—	0	0	0	0	0	0	0	兼73	—	
インターフェース科目	生活と科学コース	食料と生活 I	2前	2	0	0	0	1	2	1				オムニバス方式	
		食料と生活 II	2後	2	0	0	0	3	1					オムニバス方式	
		食料と生活Ⅲ	3前	2	0	0	0	1	2	1				オムニバス方式	
		食料と生活Ⅳ	3後	2	0	0	0	3		1	1			オムニバス方式・共同 (一部)	
		データサイエンス I	2前	2	0	0	0							兼1	
		データサイエンス II	2後	2	0	0	0							兼1	
		データサイエンスⅢ	3前	2	0	0	0							兼1	
		データサイエンスⅣ	3後	2	0	0	0							兼1	
		未来を拓く材料の科学 I	2前	2	0	0	0							兼3	オムニバス方式・共同 (一部)
		未来を拓く材料の科学 II	2後	2	0	0	0							兼3	オムニバス方式
		未来を拓く材料の科学Ⅲ	3前	2	0	0	0							兼4	オムニバス方式
		未来を拓く材料の科学Ⅳ	3後	2	0	0	0							兼6	オムニバス方式・共同 (一部)
		エレクトロニクスと生活 I	2前	2	0	0	0							兼1	
		エレクトロニクスと生活 II	2後	2	0	0	0							兼1	
		エレクトロニクスと生活Ⅲ	3前	2	0	0	0							兼1	
		エレクトロニクスと生活Ⅳ	3後	2	0	0	0							兼1	
		情報技術者キャリアデザイン I	2前	2	0	0	0							兼1	
		情報技術者キャリアデザイン II	2後	2	0	0	0							兼3	共同
		情報技術者キャリアデザインⅢ	3前	2	0	0	0							兼1	
		情報技術者キャリアデザインⅣ	3後	2	0	0	0							兼2	オムニバス方式・共同 (一部)
2年間でできる「かばいベンチャー」の作り方 I	2前	2	0	0	0	1									
2年間でできる「かばいベンチャー」の作り方 II	2後	2	0	0	0	1									
2年間でできる「かばいベンチャー」の作り方Ⅲ	3前	2	0	0	0	1									
2年間でできる「かばいベンチャー」の作り方Ⅳ	3後	2	0	0	0	1									
小計(24 科目)	—	0	48	0	—	12	5	3	1	0	0	0	兼31	—	
インタ、人間	人間	アントレプレナーシップ I	2前	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼6	オムニバス方式・共同 (一部)
		アントレプレナーシップ II	2後	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼4	オムニバス方式・共同 (一部)
		アントレプレナーシップⅢ	3前	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼4	オムニバス方式・共同 (一部)
		アントレプレナーシップⅣ	3後	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼4	オムニバス方式・共同 (一部)
		チームビルディングとリーダーシップ I	2前	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼3	共同
		チームビルディングとリーダーシップ II	2後	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼1	
		チームビルディングとリーダーシップⅢ	3前	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼1	

インターフェース科目	と社会コース	チームビルディングとリーダーシップⅣ	3後	2	○										兼1		
		リサーチ・リテラシーⅠ	2前	2	○											兼1	
		リサーチ・リテラシーⅡ	2後	2	○											兼1	
		リサーチ・リテラシーⅢ	3前	2	○											兼1	
		リサーチ・リテラシーⅣ	3後	2	○											兼4	オムニバス方式
		スポーツイベントとボランティアリーダーⅠ	2前	2	○											兼1	
		スポーツイベントとボランティアリーダーⅡ	2後	2	○											兼1	
		スポーツイベントとボランティアリーダーⅢ	3前	2	○											兼1	
		スポーツイベントとボランティアリーダーⅣ	3後	2	○											兼1	
		小計(16科目)	—	0	32	0	—			0	0	0	0	0	0	兼35	—
インターフェース科目	医療福祉と社会コース	現代社会と医療Ⅰ	2前	2	○										兼1		
		現代社会と医療Ⅱ	2後	2	○										兼1		
		現代社会と医療Ⅲ	3前	2	○										兼1		
		現代社会と医療Ⅳ	3後	2	○										兼1		
		食と健康Ⅰ	2前	2	○				1		1				兼1	オムニバス方式	
		食と健康Ⅱ	2後	2	○										兼1		
		食と健康Ⅲ	3前	2	○										兼7	オムニバス方式	
		食と健康Ⅳ	3後	2	○										兼1		
		ライフサイクルから見た医療Ⅰ	2後	2	○										兼1		
		ライフサイクルから見た医療Ⅱ	2前	2	○										兼1		
ライフサイクルから見た医療Ⅲ	3前	2	○										兼1				
ライフサイクルから見た医療Ⅳ	3後	2	○										兼3	オムニバス方式			
小計(12科目)	—	0	24	0	—			1	0	1	0	0	0	兼20	—		
インターフェース科目	地域・佐賀学コース	佐賀の歴史文化Ⅰ	2前	2	○										兼1		
		佐賀の歴史文化Ⅱ	2後	2	○										兼1		
		佐賀の歴史文化Ⅲ	3前	2	○										兼2	隔年交互開講	
		佐賀の歴史文化Ⅳ	3後	2	○										兼1		
		地域経済と社会Ⅰ	2前	2	○										兼1		
		地域経済と社会Ⅱ	2後	2	○										兼1		
		地域経済と社会Ⅲ	3前	2	○										兼1		
		地域経済と社会Ⅳ	3後	2	○										兼1		
		地域創成学Ⅰ	2前	2	○				2						兼1	オムニバス方式	
		地域創成学Ⅱ	2後	2	○										兼1		
地域創成学Ⅲ	3前	2	○										兼2	共同			
地域創成学Ⅳ	3後	2	○										兼2	共同			
小計(12科目)	—	0	24	0	—			2	0	0	0	0	0	兼15	—		
共通	共通	インターフェイス演習	3前	2	○										兼4	共同・集中	
		小計(1科目)	—	0	2	0	—			0	0	0	0	0	兼4	—	
共通教職科目	共通教職科目	体育実技Ⅰ	1前・後	1											兼6	オムニバス方式・共同(一部)	
		体育実技Ⅱ	1前・後	1											兼5	オムニバス方式・共同(一部)	
		小計(2科目)	—	0	2	0	—			0	0	0	0	0	兼11	—	
合計(239科目)		—	9	456	0	—			23	22	9	3	0	兼484	—		

教育課程等の概要(事前伺い)

(農学部 生物資源科学科 生物科学コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部基礎科目	生物学	1前	2			○			3	1					オムニバス
	物理学	1前	2			○			1						オムニバス
	化学	1前	2			○			1	2	1				オムニバス
	基礎数学	1前		2		○									兼1
	基礎統計学	1前		2		○									兼1
	小計(5科目)	—	6	4	0	—	—	—	5	1	1	0	0	兼2	—
専門導入科目	アグリキャリアデザイン	1前	2			○			2	3					兼3
	農学概論	1後	2			○			5						オムニバス
	農業ICT学	1後	2			○			3	1					オムニバス
	生物化学	1後		2		○			1		1				オムニバス
	栽培学汎論	1後		2		○			3						オムニバス
	土壌学	1後		2		○									兼1
	生物統計学	1後		2		○			1						オムニバス
	農業経済学	1後		2		○				1					オムニバス
	食品科学	1後		2		○			7						オムニバス
		小計(9科目)	—	6	12	0	—	—	—	14	4	0	1	0	兼4
専門科目	生物科学概論Ⅰ	2前	2			○			3	7	2				オムニバス
	生物科学概論Ⅱ	2後	2			○			8	5					オムニバス
	応用動物昆虫学	2前	2			○			1	2					オムニバス
	植物生理学	2前	2			○			2	1					オムニバス
	遺伝学	2前	2			○			1	1	1				オムニバス
	食用作物学	2後	2			○			2	1					オムニバス
	園芸学	2前	2			○			1	3	1				オムニバス
	生物学実験	2前	1					○	10	3					オムニバス
	フィールド科学基礎実習Ⅰ	2前	1					○		3	1				オムニバス
	群集生態学	2前		2		○				1					オムニバス
	昆虫学	2前		2		○			1						オムニバス
	線虫学	2前		2		○				1					オムニバス
	微生物学	2前		2		○			1						オムニバス
	植物育種学	2後	2			○			1	1	1				オムニバス
	植物病理学	2後	2			○			1	1					オムニバス
	畜産学	2後	2			○			1	2					オムニバス
	行動生態学	2後		2		○			1						兼1
	植物栄養学	2後		2		○									オムニバス
	熱帯作物学	2後		2		○			1	1					オムニバス
	蔬菜花卉園芸学	2後		2		○			1	1	1				オムニバス
	果樹園芸学	2後		2		○				2					オムニバス
	動物繁殖生理学	2後		2		○				1					オムニバス
	環境保全型農業論	2後		2		○				1	1				オムニバス
	応用化学実験	2後	1						○	5	3	1			オムニバス
	応用生物学実験	2後	1						○	5	4				オムニバス
	フィールド科学基礎実習Ⅱ	2後	1						○		3	1			オムニバス
	有機化学	2前		2		○				1					オムニバス
	植物代謝解析学実験Ⅰ	3前		1					○	1					オムニバス
	果樹園芸学実験Ⅰ	3前		1					○		1				オムニバス
	熱帯作物改良学実験Ⅰ	3前		1					○	1	1				オムニバス
	蔬菜花卉園芸学実験Ⅰ	3前		1					○	1	1				オムニバス
	植物分子育種学実験Ⅰ	3前		1					○	1		1			オムニバス
動物資源開発学実験Ⅰ	3前		1					○	1	1				オムニバス	
植物病理学実験Ⅰ	3前		1					○	1	1				オムニバス	
線虫学実験Ⅰ	3前		1					○		1				オムニバス	
昆虫学実験Ⅰ	3前		1					○	1					オムニバス	
生態学実験Ⅰ	3前		1					○	1	1				オムニバス	
作物学実験Ⅰ	3前		1					○	2					オムニバス	

遺伝資源フィールド科学実験 I	3前		1			○		3	1				オムニバス	
科学英語	3前	2				○		10	10	2				
食品化学	3前		2		○			1	1	1			オムニバス	
動物飼養管理学	3前		2		○			1	1					
インターンシップ S	3前・後		1				○	10	10	2			集中	
農業気象学	3前		2		○						兼1			
農業ビジネスマネジメント学	3前		2		○			1	1					
応用微生物学	3前		2		○			1	1					
分子遺伝学	3前		2		○			1	1	1			オムニバス	
生物有機化学	3前		2		○			1	1					
施設園芸学	3前		2		○						兼1			
植物代謝解析学実験 II	3後		1				○	1	1					
果樹園芸学実験 II	3後		1				○	1	1				オムニバス	
熱帯作物改良学実験 II	3後		1				○	1	1				オムニバス	
蔬菜花卉園芸学実験 II	3後		1				○	1	1				オムニバス	
植物分子育種学実験 II	3後		1				○	1	1	1			オムニバス	
動物資源開発学実験 II	3後		1				○	1	1				オムニバス	
植物病理学実験 II	3後		1				○	1	1				オムニバス	
線虫学実験 II	3後		1				○	1	1					
昆虫学実験 II	3後		1				○	1	1					
生態学実験 II	3後		1				○	1	1					
作物学実験 II	3後		1				○	2	2				オムニバス	
遺伝資源フィールド科学実験 II	3後		1				○	3	3	1			オムニバス	
生物科学英語	3後	2				○		10	10	2				
生物情報処理演習	3後	2				○		10	10	2				
動物遺伝育種学	3後		2		○			1	1					
インターンシップ L	3前・後		2		○		○	10	10	2			集中	
植物工場学	3後		2		○						兼1			
農業生産機械学	3後		2		○			1	1					
農薬化学	3後		2		○			1	1					
栄養化学	3後		2		○			1	1					
分子細胞生物学	3後		2		○						兼1			
分析化学	3前		2		○			1	1	1			オムニバス	
生物科学演習 I	4前	2				○		10	10	2				
生物科学演習 II	4後	2				○		10	10	2				
卒業研究	4通	8				○		10	10	2				
小計 (74科目)	—	43	81	0	—	—	—	14	13	3	0	0	兼3	—
合計 (88科目)	—	55	97	0	—	—	—	21	16	3	1	0	兼8	—
学位又は称号	学士 (農学)		学位又は学科の分野				農学関係							

教育課程等の概要(事前伺い)

(農学部 生物資源科学科 食資源環境科学コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部基礎科目	生物学	1前	2			○			3	1					オムニバス
	物理学	1前	2			○			1						オムニバス
	化学	1前	2			○			1	2	1				兼1
	基礎数学	1前		2		○									兼1
	基礎統計学	1前		2		○									兼2
	小計(5科目)	-	6	4	0				5	1	1	0	0		-
専門導入科目	アグリキャリアデザイン	1前	2			○			2	3					兼3
	農学概論	1後	2			○			5						オムニバス
	農業ICT学	1後	2			○			3	1					オムニバス
	生物化学	1後		2		○			1			1			オムニバス
	栽培学汎論	1後		2		○			3						オムニバス
	土壌学	1後		2		○									兼1
	生物統計学	1後		2		○			1						
	農業経済学	1後		2		○				1					
	食品科学	1後		2		○			7						オムニバス
	小計(9科目)	-	6	12	0				14	4	0	1	0	兼4	-
専門科目	環境基礎解析学 I	2前	2			○				1					兼1
	応用力学	2前	2			○									兼1
	応用力学演習	2前	2				○								兼1
	生産情報処理学	2前		2		○				1					
	農業水利学	2前		2		○				1					
	農業気象学	2前		2		○									兼1
	フィールド科学基礎実習 I	2前	1					○		3	1				
	栽培環境制御学	2前		2		○			1						
	生化学	2前	2			○			1						
	土壌環境科学	2後		2		○			1						
	地盤環境学 I	2後	2			○				1					
	環境基礎解析学 II	2後		2		○				1					
	環境水理学 I	2後	2			○				1					
	環境水理学演習 I	2後		2			○			1					
	農業生産機械学	2後		2		○				1					
	農産食品流通貯蔵学	2後		2		○			1						
	フィールド科学基礎実習 II	2後	1					○		3	1				
	栄養化学	2後		2		○			1						
	食品化学	2後		2		○			1		1				オムニバス
	植物栄養学	2後		2		○									兼1
	遺伝学	2前		2		○			1	1	1				オムニバス
	植物生理学	3前		2		○			2	1					オムニバス
	植物病理学	3後		2		○			1	1					オムニバス
	昆虫学	3前		2		○			1						
	環境水理学 II	3前		2		○				1					
	環境水理学演習 II	3前		2			○			1					
	生物有機化学	3前		2		○				1					
園芸学	3前		2		○			1	3	1				オムニバス	
植物育種学	3前		2		○			1	1	1				オムニバス	
地球環境学	3前	2			○				1						
有機化学	3前		2		○				1						
分析化学	3前		2		○			1			1			オムニバス	
物理化学	3前		2		○			1							
英書講読	3前	2			○			3	7		1				
測地学 I	3前		2		○				1						
測地学演習 I	3前		2			○						1			
地盤環境学 II	3前		2		○									兼1	
農村環境計画学	3前		2		○				1						

食資源物質工学	3前		2		○		1										
設計・製図学	3前		2			○		1									
実験水気圏環境学	3前		2							1							
インターンシップ S	3前・後		1				3	7		1							集中
インターンシップ L	3前・後		2				3	7		1							集中
応用微生物学	3前		2		○		1										
農薬化学	3後		2		○			1									
農地環境工学	3後		2		○		1										
科学英語	3後	2				○	3	7		1							
実験食資源環境科学	3後	2					2	2									
測地学Ⅱ	3後		2		○			1									
測地学演習Ⅱ	3後		2			○				1							
干潟環境学	3後		2		○			1									
水環境学	3後		2		○			1									
CAD利用学	3後		2			○		1									
農業水文学	3後		2		○												兼1
食資源環境科学演習	4前	1				○	3	7		1							
農業工学総合演習	4前		1			○		1									兼1
卒業研究	4通	8				○	3	7		1							オムニバス
小計（57科目）			29	86	0			12	15	3	1	0	兼3	-			
合計（71科目）		-	41	102	0			19	18	3	2	0	兼8	-			
学位又は称号	学士（農学）		学位又は学科の分野				農学関係										

教育課程等の概要(事前伺い)

(農学部 生物資源科学科 生命機能科学コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部基礎科目	生物学	1前	2			○			3	1					オムニバス
	物理学	1前	2			○			1						オムニバス
	化学	1前	2			○			1	2	1				兼1
	基礎数学	1前		2		○									兼1
	基礎統計学	1前		2		○									兼2
	小計(5科目)	—	6	4	0			—	5	1	1	0	0		—
専門導入科目	アグリキャリアデザイン	1前	2			○			2	3					兼3
	農学概論	1後	2			○			4						オムニバス
	農業ICT学	1後	2			○			3	1					オムニバス
	生物化学	1後		2		○			1			1			オムニバス
	栽培学汎論	1後		2		○			3						オムニバス
	土壌学	1後		2		○									兼1
	生物統計学	1後		2		○			1						
	農業経済学	1後		2		○				1					
	食品科学	1後		2		○			7						オムニバス
	小計(9科目)	—	6	12	0			—	14	4	0	1	0		兼4
専門科目	物理化学	2前	2			○			1						
	有機化学	2前	2			○				1					
	分析化学	2前	2			○			1		1				オムニバス
	遺伝学	2前		2		○			1	1	1				オムニバス
	植物生理学	2前		2		○			2	1					オムニバス
	応用動物昆虫学	2前		2		○			1	2					オムニバス
	生物有機化学	2前	2			○				1					
	生化学	2前	2			○			1						
	酵素化学	2前	2			○			1			2			オムニバス
	微生物学	2前	2			○			1						
	生命機能科学概説	3前	2			○			7	3	2	3			兼2
	植物病理学	2後		2		○			1	1					オムニバス
	線虫学	2前		2		○				1					
	昆虫学	2前		2		○			1						
	地球環境学	2前		2		○									兼1
	化学基礎実験	2前		1				○	7	3	2	3			オムニバス・隔年
	フィールド科学基礎実習Ⅰ	2前		1				○		3	1				
	化学実験Ⅰ	2後	1					○	3	2	1	1			
	食品衛生学	2後	2			○			1	1					オムニバス
	栄養化学	2後	2			○			1						
	化学実験Ⅱ	2後	3					○	3	2	1	1			
	分子生物学	2後	2			○			1						
	食品化学	2後	2			○			1		1				オムニバス
	動物繁殖生理学	2後		2		○				1					
	農薬化学	3後		2		○				1					
	人間開発論	2前		2		○			1						
	植物栄養学	2後		2		○									兼1
フィールド科学基礎実習Ⅱ	2後		1				○		3	1					
食糧安全学	3前		2		○			1	1					オムニバス	
食品工学	3前		2		○			1							
食品機能化学	3前		2		○			1							
分子細胞生物学	3後		2		○									兼1	
生化学実験	3前	2					○	2	1	1	2			兼2	
微生物学実験	3前	2					○	2							
応用微生物学	3前		2		○			1							
食糧流通貯蔵学	3前		2		○				1						
水圏生物学	3前		2		○			1	1					兼1	
生物資源化学	3後		2		○			1		1				オムニバス	

遺伝子工学	3後		2		○		1										
基礎放射線科学	3後		2		○									兼2		オムニバス	
コスメ産業学	3後		2		○		1										
藻類学	3後		2		○					1				兼1			
水産増養殖学	3後		2		○		1	1						兼1		オムニバス	
インターンシップ S	3前・後		1				○	7	3	2	3			兼2		集中	
インターンシップ L	3前・後		2				○	7	3	2	3			兼2		集中	
専門外書講読	3後	2				○	7	3	2	3				兼2			
基礎演習	3後	2				○	7	3	2	3				兼2			
生命機能科学演習 I	3後	2				○	7	3	2	3				兼2			
生物学基礎実験	4前	1				○	7	3	2	3				兼2		集中	
生命機能科学演習 II	4前	2				○	7	3	2	3				兼2			
生命機能科学演習 III	4後	2				○	7	3	2	3				兼2			
卒業研究	4通	8				○	7	3	2	3				兼2			
小計 (52科目)	—	51	54	0	—	—	12	13	4	3	0			兼4		—	
合計 (68科目)	—	63	70	0	—	—	20	17	4	3	0			兼9		—	
学位又は称号	学士 (農学)		学位又は学科の分野				農学関係										

教育課程等の概要(事前伺い)

(農学部 生物資源科学科 国際・地域マネジメントコース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部基礎科目	生物学	1前	2			○			3	1					オムニバス
	物理学	1前	2			○			1						オムニバス
	化学	1前	2			○			1	2	1				兼1
	基礎数学	1前		2		○									兼1
	基礎統計学	1前		2		○									兼2
	小計(5科目)	—	6	4	0	—	—	—	5	1	1	0	0	兼3	—
専門導入科目	アグリキャリアデザイン	1前	2			○			2	3					兼3
	農学概論	1後	2			○			4	4					オムニバス
	農業ICT学	1後	2			○			3	1					オムニバス
	生物化学	1後		2		○			1			1			オムニバス
	栽培学汎論	1後		2		○			3						オムニバス
	土壌学	1後		2		○									兼1
	生物統計学	1後		2		○			1						兼1
	農業経済学	1後		2		○				1					兼1
	食品科学	1後		2		○			7						オムニバス
	小計(9科目)	—	6	12	0	—	—	—	14	4	0	1	0	兼4	—
専門科目	国際・地域マネジメント入門	2前	2			○			1	3					オムニバス
	食用作物学	2後		2		○			2	1					オムニバス
	アジア地誌	2前		2		○				1					兼1
	農村地理学	2前		2		○									兼1
	農業市場流通学	2前		2		○									兼1
	群集生態学	2前		2		○				1					兼1
	地域再生論	2前		2		○									兼1
	地域マネジメント論	2前		2		○									兼1
	園芸学	2前		2		○			1	3	1				オムニバス
	農業水利学	2前		2		○				1					兼1
	人間開発論	2前		2		○			1						兼1
	社会調査実習Ⅰ	2前	1					○	1	3					兼1
	フィールド科学基礎実習Ⅰ	2前	1					○		3	1				兼1
	環境社会学	2前		2		○				1					兼1
	国際地域調査法	2前	2				○		1	3					オムニバス
	国際関係学要説	2前		2		○									兼1
	栽培環境制御学	2前		2		○			1						兼1
	経済法Ⅰ	2前		2		○									兼1
	経営管理論	2後		2		○									兼1
	農業生産機械学	2後		2		○				1					兼1
	農村開発論	2後		2		○									兼1
	島嶼・半島地域社会経済論	2後		2		○									兼1
	社会統計学	2後	2			○									兼1
	畜産学	2後		2		○			1	2					オムニバス
	昆虫学	2後		2		○			1						兼1
	干潟環境学	2後		2		○									兼1
	農産物食品流通貯蔵学	2後		2		○			1						兼1
	熱帯作物学	2後		2		○			1	1					オムニバス
	農村の環境・健康問題	2後		2		○			1	2					兼1
	社会調査実習Ⅱ	2後	2					○	1	3					兼1
	フィールド科学基礎実習Ⅱ	2後	1					○		3	1				兼1
生態人類学	3前		2		○				1					兼1	
農業ビジネスマネジメント学	3前		2		○				1					兼1	
比較農政学	3前		2		○									兼1	
開発経済論	3前		2		○									兼1	
農村環境計画学	3前		2		○				1					兼1	
農村と産業演習Ⅰ	3前		1				○		1					兼1	
環境と生活演習Ⅰ	3前		1				○		1	2				オムニバス	
実践語学	3前	2					○		1	3				兼1	

インターンシップ S	3前		1			○	1	3				集中	
インターンシップ L	3前		2			○	1	3				集中	
アジア・フィールドワーク	3前		1			○	1	3				集中	
民法Ⅳ	3前		2		○							兼1	
経営史	3後		2		○							兼1	
民法Ⅱ	3後		2		○							兼1	
農村社会学	3後	2			○				1				
人口学	3後		2		○		1						
地域資源論	3後		2		○							兼1	隔年
アグリビジネス論	3後		2		○							兼1	
協同組合論	3後		2		○							兼1	
ランドスケープ	2後		2		○							兼1	
環境法	3後		2		○							兼1	
農村と産業演習Ⅱ	3後		1			○			1			兼1	オムニバス
環境と生活演習Ⅱ	3後		1			○	1	2					オムニバス
科学英語	3後	2				○	1	3					
卒業研究Ⅰ	4前	4				○	1	3				兼1	
アカデミック・プレゼンテーションⅠ	4前	1				○	1	3					
国際・地域インターンシップ	4前		2				○	1	3			集中	
卒業研究Ⅱ	4後	4				○	1	3				兼1	
アカデミック・プレゼンテーションⅡ	4後	1				○	1	3					
小計（60科目）	—	27	86	0	—	—	8	15	1	0	0	兼21	—
合計（74科目）	—	39	102	0	—	—	20	16	2	1	0	兼27	—
学位又は称号	学士（農学）		学位又は学科の分野				農学関係						

I 設置の趣旨・必要性

1. 社会的背景

科学技術の進展と情報通信技術の急激な進化により、グローバルな環境下における既存の産業構造や技術分野の融合、連携が生み出されている。産官学連携による地球規模課題の解決の重要性が益々大きくなってきている。少子高齢化が加速し、地域が疲弊するなかで、国民一人一人の安全・安心の確保と豊かな生活の実現のために、新しい付加価値を生み出すための地域と連携した教育研究活動の充実、海外機関との国際連携、ならびに地域活性化に繋がる産業創生とリーダー人材の育成が求められている。農林水産資源の開発と生産、多様な生物との共生、生活環境の維持、また安全な食品の提供等、食と健康に関わる総合科学を推進する農学に対する期待は益々大きくなっており、海外に目を向けた革新的な新品種の開発、また、機能性農水産物を核とした新産業、新市場の創出による地域社会の活性化が急務となっている。

地域から必要とされる教育研究をより明確にアピールし、地域産業構造の急激な変化に対応する人材育成を強力に推進し、地域と一体となった教育研究の活性化のためには、地域及び産業界から求められている農学全般にわたる基礎知識と研究能力を含めた専門性という両方のバランスのとれた強化が必須である。近年、特に社会的な要請が高まっている知財教育や、起業精神、経営感覚などを醸成するカリキュラムの強化、さらに、佐賀大学が全学をあげて推し進める地域創生を目指すための地域社会と協働した教育プログラムの実践が求められている。そのためには、学問領域が見え易く、地域ニーズに柔軟に対応する教育研究を実行できる組織体制が必要である。

2. 本学に設置する必要性

佐賀大学農学部では、農業及び関連産業（品種開発、農産物生産、食品加工、機能性食品・化粧品開発、流通・販売、環境保全技術開発など）に対応し、地域のリーダーとして、高度な専門知識と幅広い教養を合わせ持つ、創造性豊かな専門職業人の育成を目指している。佐賀大学が目指す「地域に必要とされる大学」のミッションの下、農学部は農業を基盤とした地域創生を果たすべく、近年益々高度化かつ複合化する地域からの要望に対応しなくてはならない。

そのためには、農学全般に渡る基礎的知識の充実と基礎学力の強化、並びに総合学問である農学の幅広い専門性の理解と専門の連携による応用力の養成が必要である。さらに、急激に進歩する最先端技術への対応が必須となってきた。従って、本学部においても、学部一体となった共通基礎教育の充実、基礎から専門への体系的カリキュラムの構築と、変動する社会からの要望に柔軟かつ機動的に対応出来る組織体制が必要である。

そこで、現行の3学科体制から、学科間の壁のない1学科体制とし、協働的な教育体制で幅広い教養と多様な専門性への理解を涵養するとともに、さらに高度な専門への接続を明確にした4つの教育研究コースを設置することとした。その構成は、生産の基盤となる様々な生物資源の利活用についての専門知識を身に付けることを目指した生物科学コース、生産現場から地球規模までの様々な環境問題に対応するための専門知識を身に付けることを目指した食資源環境科学コース、食品や化粧品の加工や機能性についての専門知識を身に付けることを目指した生命機能科学コースに加え、地域振興の鍵を握ると考えられる、産業化・起業化を後押しする人材の育成を目指す国際・地域マネジメントコースからなる。これらのコースが協働して教育研究を実施することで、農学の幅広い基礎力と専門性に裏打ちされた地域社会の要望に応える実践力が養成できる。【図1参照】

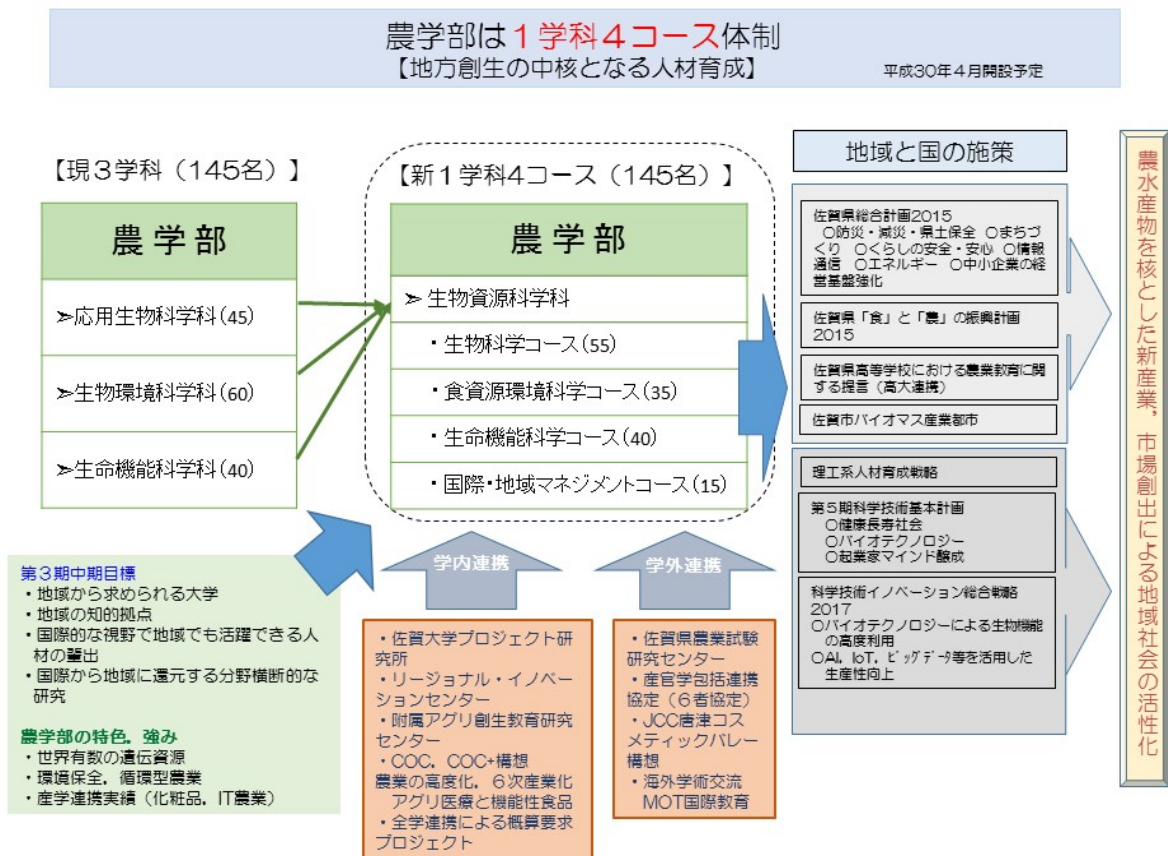


図 1

II 教育課程編成の考え方・特色

1. 教育課程の基本的な考え方

地域社会に貢献する人材を輩出するためには、汎用性の高い専門知識や技術を身に付けるための学部一体となった体系的な教育プログラムを構築し、効果的に実施することが重要である。そのために、1学年前学期の学部基礎科目において、総合学問である農学の基礎科目である生物学、物理学、化学を必修とし、基礎統計学を選択必修とすることにより、深い専門性を身に付けるための素地を構築するとともに、後学期の専門導入科目において、アグリキャリアデザイン、農学概論、農業ICT学を必修とすることにより、IT化や6次産業化という地域創生に繋がる農業及び関連産業の発展に貢献する人材の養成を実施する。また、専門導入科目では、生物化学、栽培学汎論、土壌学、生物統計学、農業経済学、食品科学を選択必修とすることにより、各コースに渡る幅広い素養を身に付けることができる。1学年において、農学に関する基礎知識を幅広く十分に習得した上で、2学年において専門コースを選択するレイト・スペシャライゼーションにより、専門コースとの確かなマッチングを行う。

さらに、より実践的な応用力を涵養するために、キャリア教育やインターンシップの履修により目的意識を高めつつ、実践的な専門知識を積み上げていく教育プログラムが有効である。【図2参照】

単位配当案

教養教育プログラム											1年次基礎及び専門導入教育											合計				
											学部基礎科目				専門導入科目							専門教育				
大学入門科目	外国語・英語	情報基礎概論	情報基礎演習	基本教養・自然	基本教養・文化	基本教養・社会	インテリフェース	教養教育科目小計	生物学	物理学	化学	基礎数学	基礎統計学	農学概論	農業ICT学	アグリキャリアデザイン	生物化学	栽培学汎論	土壌学	生物統計学	食品科学	農業経済学	1年次基礎・専門導入教育小計	専門科目	卒業研究8単位を含む	合計
2	4	2	1	12			8	29	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	20	77	126	
備考								必修科目				選択科目							卒業研究8単位を含む							
								計6単位以上必修				計14単位以上必修														

専門科目は、実験など一部の科目を除き、全学生が履修可能とする。
これにより、学生の主体的学びによるキャリアデザインに沿った教育を行う。

図2

今回の改組では、生物関連科目を生物科学コースに統合し、整理することで、生物資源の開発から栽培、生産まで総合的な教育研究が可能で、より効果的なカリキュラムが編成できるコースとした。

また、近年、特に地域社会からの要望が高い、マネジメント力ある農学系人材の養成に関する領域として、農業経済学や農村社会学を基盤とした国際・地域マネジメントコースを設置する。1学科体制となることで、総合学問である農学の共通基礎領域を幅広く習得するとともに、横断的な教育により各コースの専門性への理解を涵養することができる。さらに、生物資源の生産、農業基盤の整備、加工から流通まで、4つのコースの専門性の役割が明確になり、基礎から応用まで体系化されたカリキュラムが機能することで、地域課題に対応する実践力が養成される。

これらのコースを基軸とし、地域と連携した農学教育を実践、展開する教育体制は、地域を理解し、地域と協働する学部として、強く望まれる体制である。

2. 教育課程の特色

教育課程編成については、1学科コース制にすることで、基礎から専門への移行体制が統一され、学部一体での基礎教育の充実と、専門教育の体系化が強化される。具体的には、学部一丸となった履修指導体制により、農学全般についての基礎知識の教授が図られ、特に農学基礎の共通科目において、学科基礎科目として農業ICT学やアグリキャリアデザイン等、社会からの要望が高い起業家精神や経営感覚を醸成する新たなカリキュラムが強化される。また、コース横断的な幅広い専門性を深める関連科目の柔軟な履修が可能になることで、学生のモチベーションが高まり、より実践的な問題解決力が身に付く。それぞれのコースの特性を生かした体系的なカリキュラムをとおして、高度な専門知識が身に付き、国際社会においても活躍できるグローバルな人材の養成に繋がる。また、コース横断的な履修が必要な教職、公務員関連科目や食品衛生等の資格関連科目を、学部一丸となった協働体制で実施することができる。結果として、各コースの特色ある、また既存の就職先から求められる専門性を維持しつつ、コース横断的な幅広い教育により、新たな社会的需要にも対応できる実践力ある人材を育成する。さらに、大学院進学が早い段階で決まっている学部学生には、3、4年時に大学院の授業を履修させ、大学院進学後に既修得単位として認める。【図3、図4及び図5参照】

教育カリキュラムの構成 (農学部)



図 3

農学部共通教育カリキュラム

学部基礎科目と専門導入科目

- 学部基礎科目: 生物学, 化学, 物理学, 基礎数学, 基礎統計学
- 専門導入科目: 農学概論, 農業ICT学, 栽培学汎論, 土壌学, 生物化学, アグリキャリアデザイン, 生物統計学, 食品科学, 農業経済学

情報基礎概論, 演習 英語 (TOEICを大学院の入試に活用)

基礎学力
専門導入

農学部と地域社会が連携した体系的科目 (4コース履修可能)

- キャリア教育 (起業精神と経営感覚の醸成, 知財教育など)
- 4年間にわたって修得

企業, 佐賀県との協働講義 (非常勤講師として協力)
アグリセンターを活用した実習
地域社会と連携した教育

インターフェース科目と連動した農学専門科目 (食品, 化粧品)
アグリビジネス論, インターンシップ (企業, 試験場)
フィールド科学実習
COC+関連科目, 海外を含めた研修

実践力
応用力

コース横断的な専門性を高める履修科目 (選択履修可能)

- 公務員 (技術系)
- 資格関連科目

公務員, 教職関連
食品衛生管理者資格関連

土壌学, 園芸学, 農業経済学, 植物生理学, 昆虫学, 畜産学, 他
栄養化学, 農業化学, 植物栄養学, 土壌学, 生物化学, 他

高度な
専門性

図 4

農学部「養成する人材像と特色ある教育カリキュラム」

養成する人材像と習得させる能力

- 人材像：農学及び関連する学問領域において、多様な社会的要請にこたえうる深い専門性と幅広い素養を身につけ、国内外での農業及び関連産業の発展に貢献する人材を養成する。
- 能力：農学の学修を通して、生物生産に関わる原理・原則を理解し、農林水産業に関わる問題発見能力、課題の設定と解決能力を身につける。

特色ある教育カリキュラム

- 科学技術の進歩や社会構造の急激な変化に対応できる自由度の高い1学科制
- コース制により専門性が明確化し、体系化されたカリキュラム
- 全教員が有機的に連携する効率的な共通教育による基礎教育と応用力を高める専門科目の強化
- 地域社会と協働する実践教育による学部シユーズの地域社会への還元
- 公務員、教職、各種資格関連科目をコース横断的に履修

農業・農水産物を核とした新産業・市場創出による地域社会の活性化



図5

この改編により、現行の教育体制の弱点を克服し、これまで培ってきた農学教育をさらに発展させ、地域及び国際社会との連携を一層強化した教育体系が実現する。

3. 専門性を考慮した4つのコース設定

- 生物科学コース：生物資源の開発と応用に関する教育研究を行うコースである。
- 食資源環境科学コース：食料生産の中核となる農業基盤の整備と環境科学に関する教育研究を行うコースである。
- 生命機能科学コース：生命機能の解析と応用に関する教育研究を行うコースである。
- 国際・地域マネジメントコース：農業や地域社会のマネジメントについて実践的な教育研究を行うコースである。

学生のコース配属は2年次ははじめに実施することとし、各コースに目安人数を設定し、当該学生の希望および1年次後期までの履修科目の成績により判定する。特定のコースに志願者が集中した場合には当該コースにおける受け入れ可能人数を勧奨して決定する。なお、コース配属されたのちに転コースを志願する場合は、3年次始めに許可することができるものとする。

4. 特色ある各コースの教育研究

(1) 生物科学コース

地域の特色ある生物資源を活用した、高付加価値の新規農産物や新品種の開発や効率的で収益性の高い農産物生産技術の開発、また多様な生物と環境との関わりや、新たな機能性を持つ生物素材の産業利用に関する教育研究を行う。

本コースでは、世界有数の遺伝資源コレクションであるミカン亜科植物、約4万種のダイズ突然変異体、日本各地で採集した数百の野蒜個体等を活用した研究を推進し、オリジナルブランドの開発や、食品・化粧品等の機能性素材への応用により地域の新産業育成に貢献する。佐賀県の特産物である米、佐賀牛等の生物資源の開発、保存、育種から、植物病原菌、ウイルス、昆虫類等、農業生産に相関する多様な生物の機能解析、さらにフィールドを活用した実際の生産・加工技術に至るまでの、幅広い学問分野をカバーするプログラムを提供する。

(2) 食資源環境科学コース

地球規模課題である環境保全、エネルギー、農業生産システムに関する先端技術の開発と利用を推進する教育、研究を行うことで、地域社会からの需要に応える農業の技術革新を先導し、地域の農業基盤を支える。農業機械、植物工場やコンピュータ等のIT技術、また土壌や環境水の分析化学等、農業生産に関する先端技術を幅広く学ぶことで、地域の農業現場をリードする実践力を養成する。

(3) 生命機能科学コース

本コースでは、様々な生物や生物資源、食と健康に関して、基礎から応用に至る幅広い教育研究を行う。抗メタボ等食品機能性成分の研究実績を活かして、6次産業化など地域生物素材の健康分野（食品、製薬、化粧品）での活用を進める。このコースでは、平成25年より農学部が実施している「アグリ医療と機能性食品研究」事業、及び平成27年度から佐賀大学が実施している地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）「農業の高度化と6次産業化」において、機能性食品や化粧品に係わる研究の中核を担っている。

(4) 国際・地域マネジメントコース

本コースでは、地域産業の振興に繋がる農業経営やビジネス戦略の構築を担うことのできる企業者マインドを持った人材を養成する。同時に疲弊している農山漁村地域の課題を、現場に寄り添いつつ、マクロな視点から考える能力を発揮できる人材の養成を図る。さらに、グローバル化の中での地域創生にとって、農業と社会生活・保健などの幅広い知識と技術を習熟し、特にアジアを中心に国際的な視野で地域の農業・農村生活、健康問題の解決に寄与し、佐賀地域はもちろんわが国との関係が深化している諸外国においてもその地域振興に貢献できる人材を養う。

Ⅲ 学位授与の方針

各コースの目的を実現するために、佐賀大学学士力および学部・学科の目的を踏まえ、学生が身に付けるべき以下の具体的学習成果の達成を学位授与の方針とする。また、学則の定める卒業の認定の要件を満たした者には、教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、学位を授与する。

①基礎的な知識と技能

言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目を履修し、日本語と英語を用いたコミュニケーション能力を身に付け、情報通信技術（ICT）などを用いて多様な情報を収集・分析し、科学的合理性や科学的論理に基づいて判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。

②課題発見・解決能力

農学分野の知識・技術を体系的に修得し、農学に関わる業務を遂行する職業人としての必要な実践能力を有する。さらに深い学識を用いて専門分野における課題解決に向けての基本的研究技能と研究マインドを身に付けている。

③個人と社会の持続的発展を支える力

4年間の教育課程を通して高い倫理観と豊かな人間性を育み、社会生活で守るべき規範を順守し、自己の能力を社会の健全な発展に寄与する姿勢を身に付けている。

Ⅳ 教育課程の編成・実施の方針

学生が身に付けるべき具体的な学習成果の達成を農学部の「学位授与の方針」、①基礎的な知識と技能、②課題発見・解決能力、③個人と社会の持続的発展を支える力、として定めている。この方針に基づき、効果的な学習成果をあげるために、教養教育科目と専門教育科目を有機的かつ体系的に配置した4年間の教育課程を編成する。

①基礎的な知識と技能

教養教育において、文化・自然・現代社会と生活に関する授業科目（主に基本教養科目）、言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目（外国語科目、情報リテラシー科目、大学入門科目、基本教養科目）を、幅広く履修できるように配置する。農学分野の基礎的な知識・技術を体系的に学習し、出口に直結したカリキュラムを構築するために、1年前学期に学部基礎科目を、1年後学期に専門導入科目を必修および選択必修科目として配置する。また、コースの専門領域を理解するための専門必修科目を配置する。3年次からは、各教育研究分野の独自性を発揮した多様なカリキュラムに応じた専門科目を配置する。

②課題発見・解決能力

農学分野の基礎的な知識・技術を体系的に身に付けるために学部基礎科目（生物学、物理学、化学、基礎数学、基礎統計学）と専門導入科目（アグリキャリアデザイン、農学概論、生物化学、栽培学汎論、土壌学、農業ICT学、生物統計学、農業経済学、食品科学）を1年次に配置する。また、専門の情報リテラシー科目や外国語科目（科学英語）を配置する。農学分野における課題発見と解決能力の修得のために、情報収集・分析力、研究技能と研究マインド、リーダーシップを発揮する指導力などの養成に関する講義科目、実験・演習科目および卒業研究を専門科目として配置する。農学に関する専門的な知識・技術を修得し、農学に関わる業務を遂行する職業人としての実践能力を養うために、専門科目（必修および選択）と実験・演習科目を2年次から4年次まで体系的に配置する。

③個人と社会の持続的発展を支える力

社会との関わりを理解し、持続的な自己実現を図るための能力・習慣を身に付けるために、学部専門科目として、問題解決型学習方式で実施する演習やインターンシップを配置する。また、横断的な学習を支援するために学生が所属コース指定外の科目を自由に履修でき、修得単位の一定範囲内を専門科目の単位として認定する。各教育研究分野への配置を3年次に実施し、卒業研究修了まで専門的な研究環境を長期間経験する。その環境下において学士（農学）として十分な専門知識と先端技術を修得し、研究チームの一員としての協調性・高い倫理観と豊かな人間性を養うことを目的とした専門科目（卒業研究など）を配置する。

Ⅴ 入学受け入れの方針（アドミッションポリシー）

農学部の教育目標・方針に沿った人材を育成するために、開放性、客観性、公平性を旨とし、以下に示す「入学後の学修に必要な能力や適性等」を多面的・総合的な評価方法によって選考します。

1. 入学後の学修に必要な能力や適性等

- ①高等学校で修得すべき幅広い教科・科目の知識・技能と、これらを踏まえた基本的な思考力・判断力
- ②専門分野を理解するために必要な数学、理科に関する知識・技能と、これらを踏まえた数理的かつ科学的な思考力・判断力・表現力
- ③国内に限らずグローバルな視点で情報収集、情報発信できる英語の読解力と表現力
- ④本学部で学ぶために必要な基礎的な知識・技能
- ⑤本学部の専門分野に対する強い興味・関心及び主体的に学び続けようとする意欲と態度
- ⑥本学で学びたいという強い意欲

2. 選抜方法

・一般入試

入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全てのものを対象とし、「前期日程」と「後期日程」の入試区分により、入学者を選考します。

・特別入試

一般入試では評価が難しい多様な能力や資質を有し、本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象とし、「推薦入試」、「AO入試」、「帰国子女」の入試区分により、入学者を選考します。

・私費外国人留学生入試

外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生を対象とし、入学者を選考します。

・3年次編入学試験

短期大学、専修学校及び高等学校の専攻科の課程の卒業生で、さらに高度な専門教育・研究を希望する入学希望者を対象とし、入学者を選考します。

VI 教育上の様々な取り組み

1. 高校から大学での学習への接続と系統的な授業科目配置

大学における農学の専門教育との接続のために、1年生対象の学部基礎科目においては、生物学、物理学、化学、基礎数学及び基礎統計学を開講し、大学の専門科目との連携を意図した内容としている。また1年前学期の大学入門科目Iでは、キャリアパスを取り入れて学習の動機付けを行う。

教養教育科目は1、2年次の低学年を中心に配置し、研究倫理、情報教育を始めとする幅広い教養とともに、コミュニケーション能力や外国語教育による国際性を涵養する。学部共通の科目として、学部基礎科目及び専門導入科目を1年次から選択必修として配置し、農学の基礎理解を深めさせる。

また専門科目は2年次から順次、系統的に各コース別に配置し、深い専門性と問題解決能力を身に付けさせる。1学科コース制で授業科目を開講することで、学部基礎科目、専門導入科目及び専門科目のすべての専門教育科目において、コース間の壁のない、流動性の高い効率的なカリキュラムを構成する。コース制の教育により、各コースの明確な専門性を理解させるとともに、総合的な農学領域におけるトランスレーショナルな応用力を養う。また、教養教育科目であるインターフェース科目と関連する専門科目を体系的に履修することで、専門分野と社会との関わりを理解させ、専門知識の応用や実践力の養成に繋げる。さらに、大学院進学を目指す学生には、先行履修科目として、大学院科目の履修を認め、進学後は大学院における主体的研究活動に専念させる。

2. 農学の特色ある実習

農学部の特色ある実習として、附属アグリ創生教育研究センター（農場施設）を教育現場とした「フィールド科学基礎実習 I, II」などの生物資源を活用した教育研究を行う。国際・地域マネジメントコースでは、国際的な視野で地域の農業・農村生活を考える視野と方法論を身に付けるとともに、具体的な職業と結びつけて考える機会を作るという目的から、アジア農村での現地研修である「アジア・フィールドワーク」、国内外の企業や研究所、援助団体などの仕事を現地体験する「国際・地域インターンシップ」等の特色ある専門科目を開講する。また、学内共同施設である総合分析実験センターを利用した機器分析実験、遺伝子実験や放射性同位元素に関する高度な実験も教育研究活動の一環として実施する。

3. COC+構想と連携した教育研究

佐賀大学が押し進める地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）において、農学部は、農業の高度化、産学官連携によるI o T農業研究や起業家精神を涵養する企業参画によるインターフェース教育の核として、農業分野におけるイノベーション、知財創造、ベンチャー起業に繋がる教育を実践する。また、COC+事業でテーマとして掲げている食品・化粧品機能性研究と6次産業化推進についても、フィールド実習、インターンシップの充実や資格取得の為に明確なカリキュラムを構成するコース体制により、事業の推進を図る。同時に、I o T活用、アントレプレナーシップ、知財教育を柱に据えた教育プログラムの構築と実装を進めており、I o T知識を身に付けた技術系公務員や専門的職業人を育成し、情報技術による社会変革にもシームレスに対応することができる人材を地域へ輩出する。

4. グローバルな教育研究

日本を中心にアジア・太平洋地域を対象として、地域資源の持続可能な開発と利用システム、諸民族・地域社会における人間と環境との諸関係、農林水産資源の循環的利用システムと農林水産業ビジネスの開発、離島・半島など条件不利地域の維持と再生に関わる独自性ある教育研究を推進する。また、学生の社会適応力を強化する視点からのカリキュラム編成を行い、地域の農業経営や企業、その他諸機関との教育面での交流を一層強化する。

さらに、外国語運用能力の強化、海外での教育活動に加え、すでに先行している佐賀大学芸術地域デザイン学部で開講される授業科目を積極的にカリキュラムに取り入れて、学部横断的な教育体制とする。国際・地域マネジメントコースでは、「アジア・フィールドワーク」や「国際・地域インターンシップ」等の関連科目を開講する。

5. 教育・指導の方法

①講義による知識の学習と、演習や実験実習による実証的学習や体験学習とをバランスよく組み合わせ学習成果を高める。

②全ての学生にチューター（指導教員）を配置し、GPAを利用した、きめ細かな履修指導や学習支援を行う。

③各教員は、全ての授業科目について学生による授業評価を実施し、その結果を踏まえて授業改善報告書を作成する。また、全ての教員が簡易版TPを作成するなど、教育方法の改善に努めるとともに、教育に関するFD活動に積極的に参加する。

④各教員は実習科目や演習科目において、可能な限りTAを採用し、学部教育の改善を図り、各学期末にはTA報告書を作成する。

⑤大学入門科目やインターンシップなどの授業科目において、可能な限りキャリア教育の充実を図る。

⑥LMSによるeラーニングやアクティブ・ラーニングなどの新しい教育方法を積極的に導入して、教育方法の改善を図る。

⑦英語に関しては、1年前学期、2年後学期に原則として全員にTOEICの受験を義務付け、学修状況の可視化を図り、3年以降の自発的なTOEICのレベルの向上を促す。

6. 教育体制

専任教員の体制は、カリキュラムの実施に必要な、教授、准教授、講師及び助教とする。また、特任教員や兼任の教授、准教授、講師及び助教も教育研究に参加する。さらに、企業や自治体の職員を客員研究員（招聘教授、招聘准教授など）として採用し、教育研究に参加させることで、社会実践教育の充実を図る。

7. 履修指導方法と成績の評価

各授業科目の学習内容、到達目標、成績評価の方法・基準を学習要項（シラバス）により学生に周知し、それに則した厳格な成績評価を実施する。複数の教員が担当する科目においては、複数の教員による採点評価方法を導入する。また、学生の求めに応じ、成績評価の根拠資料の提示や説明を義務付ける。また、GPAとラーニング・ポートフォリオによって学習成果を可視化するとともに、コースナンバリング制を活用し、個々の学生の知識の修得、能力の形成の積み上げを指導する。具体的には、毎学期終了後、学生全員のGPAを担当教員がチェックし、面談を行い、その学生がカリキュラムマップに沿って学士力を身に付けているかどうかをチェックし、学習支援にあたる。

VII 取得可能な資格

本学部の学生に対して、以下の資格の取得が可能のようにカリキュラムを編成する。

- ・中学校教諭一種（理科）・高等学校教諭一種（理科）・高等学校教諭一種（農業）
- ・食品衛生管理者、食品衛生監視員
- ・農業改良普及指導員
- ・家畜人工受精師受験資格（生物科学コース）
- ・1級及び2級土木施工管理技師、測量士補、自然再生士補（食資源環境科学コース）
- ・測量士（食資源環境科学コース）

VIII 卒業後の進路

各種企業（農業関連、食品、医薬品関連、環境関連、化粧品関連、卸売・小売業など）、公務員、教員、農業協同組合、国際協力事業団、NGO、NPO、農業経営、進学（大学院修士・博士課程）

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
【生物科学コース】 [卒業要件] 教養教育科目29単位以上、専門教育科目97単位以上、合計126単位以上を修得し、かつ、必修科目等を修得すること。 [履修方法] 1. 教養教育科目 ①大学入門科目 2単位 ②共通基礎科目 7単位 ③基本教養科目 12単位 ④インターフェース科目 8単位 2. 専門教育科目 ①学部基礎科目 6単位 ②専門導入科目 14単位（必修6単位、選択必修8単位） ③専門科目 77単位（必修43単位、選択必修2単位、 選択32単位。ただし、選択必修では、分属された分野の実験Ⅰ及びⅡを選択すること） 合計126単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：44 単位（年間））	1 学年の学期区分	2 学期
	1 学期の授業期間	1 5 週
	1 時限の授業時間	9 0 分
【食資源環境科学コース】 [卒業要件] 教養教育科目29単位以上、専門教育科目97単位以上、合計126単位以上を修得し、かつ、必修科目等を修得すること。 [履修方法] 1. 教養教育科目 ①大学入門科目 2単位 ②共通基礎科目 7単位 ③基本教養科目 12単位 ④インターフェース科目 8単位 2. 専門教育科目 ①学部基礎科目 6単位 ②専門導入科目 14単位（必修6単位、選択必修8単位） ③専門科目 77単位（必修29単位、選択必修12単位、 選択36単位） 合計126単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：44 単位（年間））		
【生命機能科学コース】 [卒業要件] 教養教育科目29単位以上、専門教育科目97単位以上、合計126単位以上を修得し、かつ、必修科目等を修得すること。		

[履修方法]

1. 教養教育科目

- ①大学入門科目 2単位
- ②共通基礎科目 7単位
- ③基本教養科目 12単位
- ④インターフェース科目 8単位

2. 専門教育科目

- ①学部基礎科目 6単位
- ②専門導入科目 14単位 (必修6単位, 選択必修8単位)
- ③専門科目 77単位 (必修51単位, 選択26単位)

合計126単位以上修得すること。

(履修科目の登録の上限：44 単位 (年間))

【国際・地域マネジメントコース】

[卒業要件]

教養教育科目29単位以上, 専門教育科目97単位以上, 合計126単位以上を修得し, かつ, 必修科目等を修得すること。

[履修方法]

1. 教養教育科目

- ①大学入門科目 2単位
- ②共通基礎科目 7単位
- ③基本教養科目 12単位
- ④インターフェース科目 8単位

2. 専門教育科目

- ①学部基礎科目 6単位
- ②専門導入科目 14単位 (必修6単位, 選択必修8単位)
- ③専門科目 77単位 (必修27単位, 選択50単位)

合計126単位以上修得すること。

(履修科目の登録の上限：44 単位 (年間))

教育課程等の概要(事前伺い)

【既設】(農学部 応用生物科学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	基礎数学	1前		2		○									兼1
	物理学	1前		2		○									兼3
	化学	1前	2			○									兼2
	生物学	1前	2			○			1	3					
	小計(4科目)	—	4	4	0	—			1	3	0	0	0	兼6	—
農学基礎科目	作物生産学	1前		2		○									兼1
	動物資源開発学	1後		2		○			1	1					
	生物化学	1後		2		○									兼3
	土壌学	2前		2		○									兼1
	食料流通経済学	2後		2		○									兼1
小計(5科目)	—	0	10	0	—			1	1	0	0	0	兼6	—	
専門科目	植物生理学	1後	2			○			1						
	熱帯農業論	1後	2			○			1						
	遺伝学	1後	2			○			1						
	応用動物昆虫学	1後	2			○			1	2					
	生物統計学	1後	2			○			1						
	植物育種学	2前	2			○					1				
	植物病理学	2前	2			○			1						
	線虫学	2前		2		○				1					
	システム生態学	2前		2		○				1					
	動物行動生態学	2前		2		○			1						
	花卉園芸学	2前		2		○				1					
	フィールド科学基礎実習Ⅰ	2前	1					○							兼4
	生物学実験	2前	1					○	8	7	1				
	応用化学実験	2後	1					○	4	3	1				
	熱帯作物改良学	2前		2		○				1					
	果樹園芸学	2後	2			○				1					
	蔬菜園芸学	2後	2			○			1						
	動物繁殖生理学	2後		2		○				1					
	植物病原学	2後		2		○				1					
	昆虫学	2後		2		○			1						
	応用生物学実験	2後	1					○	4	5					
	フィールド科学基礎実習Ⅱ	2後		1				○							兼4
	農業政策論	2後		2		○									兼1
	植物分子遺伝学	3前		2		○			1		1				
	動物遺伝育種学	3前		2		○			1						
	動物生体生理学	3前		2		○				1					
	植物生態生理学	3前		2		○			1						
	動物生産管理学	3前		2		○									兼1
	科学英語	3前	2			○			8	7	1				
	生物科学英語	3後	2			○			8	7	1				
インターンシップⅠ	3前・後		1		○			8	7	1				集中	
インターンシップⅡ	3前・後		2		○			8	7	1				集中	
植物代謝解析学実験Ⅰ	3前		1				○	1							
果樹園芸学実験Ⅰ	3前		1				○		1						
熱帯作物改良学実験Ⅰ	3前		1				○	1	1						
蔬菜花卉園芸学実験Ⅰ	3前		1				○	1	1						

植物分子育種学実験 I	3前		1				○	1		1				
動物資源開発学実験 I	3前		1				○	1	1					
植物病理学実験 I	3前		1				○	1	1					
線虫学実験 I	3前		1				○		1					
昆虫学実験 I	3前		1				○	1						
生態学実験 I	3前		1				○	1	1					
熱帯有用植物学	3後		2		○			1						兼1
経営資源管理学	2後		2		○									兼1
食用作物学	3後		2		○									
生物情報処理演習	3後	2				○		8	7	1				
植物代謝解析学実験 II	3後		1				○	1						
果樹園芸学実験 II	3後		1				○		1					
熱帯作物改良学実験 II	3後		1				○	1	1					
蔬菜花卉園芸学実験 II	3後		1				○	1	1					
植物分子育種学実験 II	3後		1				○	1		1				
動物資源開発学実験 II	3後		1				○	1	1					
植物病理学実験 II	3後		1				○	1	1					
線虫学実験 II	3後		1				○		1					
昆虫学実験 II	3後		1				○	1						
生態学実験 II	3後		1				○	1	1					
農業演習 I	4前		2		○			8	7	1				
農業演習 II	4後		2		○			8	7	1				
卒業研究	4通		8		○			8	7	1				
小計 (59科目)	—	36	62	0	—			8	7	1	0	0	兼8	—
合計 (68科目)	—	40	76	0	—			8	7	1	0	0	兼18	—
学位又は称号	学士 (農学)			学位又は学科の分野			農学関係							

教育課程等の概要(事前伺い)

【既設】(農学部 生物環境科学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門基礎科目	基礎数学	1前		2		○									兼1	
	物理学	1前		2		○			2						兼1	
	化学	1前		2		○									兼2	
	生物学	1前		2		○									兼4	
	小計(4科目)	—	0	8	0				2	0	0	0	0		兼8	—
農学基礎科目	作物生産学	1前		2		○			1							
	動物資源開発学	1後		2		○									兼2	
	生物化学	1後		2		○									兼3	
	土壌学	2前		2		○			1							
	食料流通経済学	2後		2		○			1							
小計(5科目)	—	0	10	0				3	0	0	0	0		兼5	—	
専門科目	生物環境保全学概説	1後	2			○			2	5		1			兼1	
	資源循環生産学概説	1後	2			○			6	3	2					
	地域社会開発学概説	1後	2			○			2	3						
	生産情報処理学Ⅰ	1後		2		○				1						
	環境基礎解析学	2前		2		○									兼1	
	環境化学	2前		2		○				1					集中	
	水環境学	2前		2		○				2						
	実験水気圏環境学	2前	2			○			2	5		1			兼1	
	植物栄養学	2前		2		○									兼1	
	システム生態学	2前		2		○									兼1	
	植物生態生理学	2前		2		○			1							
	実験生物環境保全学	2後	2			○			2	7	2	1			兼1	
	環境汚染化学	2後		2		○				1						
	応用力学	2後		2		○			1							
	地球環境学	2後		2		○									兼1	
	気象水文学	2後		2		○									兼1	
	土壌環境科学	2後		2		○			1						兼1	
	生物統計学	2後		2		○									兼1	
	環境水理学Ⅰ	3前		2		○				1						
	環境水理学演習Ⅰ	3前		2				○		1						
	測地学Ⅰ	3前		2		○				1		1				
	測地学演習Ⅰ	3前		2				○		1		1				
	土壌微生物学	3前		2		○			1							
	地盤環境学Ⅰ	3前		2		○			1							
	農村環境計画学	3前		2		○				1						
	英書講読	3前		2		○			2	5		1			兼1	
	インターンシップⅠ	3前・後		1		○			2	5		1			兼1	集中
	インターンシップⅡ	3前・後		2		○			2	5		1			兼1	集中
	環境水理学Ⅱ	3後		2		○				1						
	環境水理学演習Ⅱ	3後		2				○		1						
	地盤環境学Ⅱ	3後		2		○			1							
	現代環境学	3後		2		○									兼1	
	環境浄化生物学	3後		2		○			1							
	干潟環境学	3後		2		○									兼1	
	測地学Ⅱ	3後		2		○				1		1				
	測地学演習Ⅱ	3後		2				○		1		1				
	科学英語	3後	2			○			2	5		1			兼1	
	生物環境保全学演習	4前	2					○	2	5		1			兼1	
	卒業研究	4前・後	8					○	2	5		1			兼1	
小計(39科目)	—	22	61	0				10	11	2	1	0		兼7	—	

合計（48科目）		—	22	79	0	—	—	10	11	2	1	0	兼18	—	
専 門 科 目	生物環境保全学概説	1後	2			○		2	5		1		兼1		
	資源循環生産学概説	1後	2			○		6	3	2			兼1		
	地域社会開発学概説	1後	2			○		2	3						
	生産情報処理学Ⅰ	1後		2		○			1						
	栽培環境制御学	2前	2			○		1							
	生産情報処理学Ⅱ	2前		2		○		1							
	フィールド科学基礎実習Ⅰ	2前	1				○			2	2				
	生物科学実験実習	2前	2				○	6	1						
	エネルギー利用学	2前		2		○			1						
	植物遺伝資源学	2前		2		○		1							
	環境保全型農業論	2後	2			○			1						
	農産食品流通貯蔵学	2後		2		○		1							
	環境科学演習（分野演習）	2後		1			○	6	3	2				兼1	
	農業生産機械学	2後	2			○			1						
	果樹生産生理学	2後		2		○					1				
	フィールド科学基礎実習Ⅱ	2後	1				○			2	2				
	雑草学	3前		2		○								兼1	集中
	生産エンジニアリング	3前		2		○				1					
	園芸植物繁殖学	3前		2		○					1				
	フィールド科学総合実習	3前		2			○			2	2				集中
	インターンシップⅠ	3前・後		1			○	6	3	2					集中
	インターンシップⅡ	3前・後		2			○	6	3	2					集中
	土壌微生物学	3前		2		○		1							
	植物生態生理学	2前		2		○		1							
	作物学実験実習Ⅰ	3前		1			○	2							
	園芸工学実験実習Ⅰ	3前		1			○	1							
	資源循環生物学実験実習Ⅰ	3前		1			○	1							
	動物生産管理学	3前		2		○			1						
	農業資源物質工学	3前		2		○		1							
	設計・製図学	3前		2		○			1						
	資源循環フィールド科学実習	3前		1			○		2	2					
	植物遺伝資源学実験実習Ⅰ	3前		1			○	1							
	食用作物学	3後		2		○		1							
	環境浄化生物学	3後		2		○		1							
	CAD利用学	3後		2		○			1						
	生産情報管理学	3後		2		○								兼1	
	遺伝資源フィールド科学実習	3後		1			○	1	2	2					
	植物遺伝資源学実験実習Ⅱ	3後		1			○	1							
	作物学実験実習Ⅱ	3後		1			○	2							
	園芸工学実験実習Ⅱ	3後		1			○	1							
	資源循環生物学実験実習Ⅱ	3後		1			○	1							
	科学英語	3後	2			○		6	3	2					
	作物学演習Ⅰ	4前		1			○	2							
	園芸工学演習Ⅰ	4前		1			○	1							
	資源循環生物学演習Ⅰ	4前		1			○	1							
	資源循環フィールド科学演習Ⅰ	4前		1			○	1	2	2					
	植物遺伝資源学演習Ⅰ	4前		1			○	1						兼1	
	作物学演習Ⅱ	4後		1			○	2							
園芸工学演習Ⅱ	4後		1			○	1								
資源循環生物学演習Ⅱ	4後		1			○	1								
資源循環フィールド科学演習Ⅱ	4後		1			○	1	2	2						
植物遺伝資源学演習Ⅱ	4後		1			○	1						兼1		
卒業研究	4通	8				○	6	3	2						
環境化学	2前		2		○			1							
遺伝学	2後		2		○		1								
環境汚染化学	2後		2		○			1							
地球環境学	2後		2		○								兼1		
応用動物昆虫学	2後		2		○								兼3		
経営資源管理学	2後		2		○			1							
有機化学	2後		2		○								兼1		

栄養化学	2後	2	○									兼1	
飼料資源学	3前	2	○									兼1	
植物育種学	3前	2	○									兼1	
生物物理化学	3前	2	○									兼2	
植物病理学	3前	2	○									兼1	
微生物学	3前	2	○									兼1	
植物分子遺伝学	3前	2	○									兼2	
生化学	3前	2	○									兼1	
環境水理学 I	3前	2	○					1					
動物生体生理学	3前	2	○									兼1	
応用微生物学	3前	2	○									兼1	
植物栄養学	3前	2	○									兼1	
動物遺伝育種学	3前	2	○				1					兼1	
環境基礎解析学	3前	2	○									兼1	
応用力学	3前	2	○				1						
動物資源開発学実験 I	3前	1				○						兼2	
分析化学	3後	2	○									兼2	
熱帯作物改良学	3後	2	○									兼1	
食品衛生学	3後	2	○				1	1				兼2	
物理化学	3後	2	○				1					兼1	
食品化学	3後	2	○				1		1			兼2	
植物病原学	3後	2	○					1				兼1	
植物生理学	3後	2	○				1					兼1	
分子生物学	3後	2	○				1					兼1	
農業政策論	3後	2	○									兼1	
動物繁殖生理学	3後	2	○					1				兼1	
蔬菜園芸学	3後	2	○				1					兼1	
生物統計学	3後	2	○				1					兼1	
果樹園芸学	3後	2	○					1				兼1	
生物資源化学	3後	2	○				1		1			兼2	
農産物利用学	3後	2	○				1					兼1	
動物資源開発学実験 II	3後	1				○	1	1				兼2	
生物有機化学	4前	2	○					1				兼1	
分子細胞生物学	4後	2	○									兼1	
遺伝子工学	4後	2	○				1					兼1	
小計 (95科目)	—	26	144	0	—	—	10	11	2	1	0	兼33	—
合計 (104科目)	—	38	156	0	—	—	10	11	2	1	0	兼38	—
生物環境保全学概説	1後	2	○				2	5		1		兼1	
資源循環生産学概説	1後	2	○				6	3	2			兼1	
地域社会開発学概説	1後	2	○				2	3					
生産情報処理学 I	1後	2	○					1					
地域資源論	2前	2	○					1					
人類生態学	2前	2	○				1	1					
地域ビジネス開発論	2前	2	○				1	1					
フィールドワーク基礎演習	2前	1				○	2	3				兼1	
フィールド科学基礎実習 I	2前	1				○		2	2				
システム生態学	2前	2	○									兼1	
環境基礎解析学	2前	2	○									兼1	
栽培環境制御学	2前	2	○				1						
アジア栄養生態学	3前	2	○					1				兼1	
観光人類学	2後	2	○					1					
環境地理学	2後	2	○									兼1	
人間開発学	2後	2	○				1						
環境社会学	2後	2	○					1					
経営資源管理学	2後	2	○					1					
国際環境農業論	2前	2	○				1						
農業政策論	2後	2	○									兼1	
環境保全型農業論	2後	2	○					1					
土壌環境科学	2後	2	○				1						
アジア比較農業論	3後	2	○					1					

隔年・集中

隔年

専門科目	科学英語	3後	2		○		2	3							
	地域社会開発学コース	3前		2	○		1								
	農業資源物質工学	3前		2	○										
	生態人類学	3前		2	○				1						
	食料市場論	3前		2	○		1								
	地域資源学演習Ⅰ	3前		1		○			1				兼1		
	人類生態学演習Ⅰ	3前		1			○		1	1					
	地域ビジネス開発学演習Ⅰ	3後		1			○			1					
	島嶼社会経済学演習Ⅰ	3前		1									兼1		
	アジアフィールドワーク	3前		1				○		2	3			兼1	集中
	農村環境計画学	3前		2		○					1				
	インターンシップⅠ	3前・後		1		○			2	3				兼1	集中
	インターンシップⅡ	3前・後		2		○			2	3				兼1	集中
	土壌微生物学	3前		2		○			1						
	植物病理学	2前		2		○								兼1	
	エネルギー利用学	2前		2		○					1				
	生産情報処理学Ⅱ	2前		2		○			1						
	農村開発学	3後		2		○								兼1	
	地域社会論	3後		2		○					1				
	国際健康開発論	3後		2		○			1					兼1	
	農業会計学	3前		2		○					1				
	地域資源学演習Ⅱ	3後		1			○				1			兼1	
	人類生態学演習Ⅱ	3後		1				○		1	1				
	地域ビジネス開発学演習Ⅱ	4前		1				○		1					
	島嶼社会経済学演習Ⅱ	3後		1				○						兼1	
	農業技術経営学入門	3後		2		○					1			兼1	
	食用作物学	3後		2		○			1						
	生物統計学	1後		2		○								兼1	
	熱帯有用植物学	3後		2		○								兼1	
	熱帯農業論	1後		2		○								兼1	
	半島・島嶼産業論	3後		2		○								兼1	
社会統計学	3前		2		○			1	1						
卒業研究	4通		8			○		2	3				兼1		
小計 (55科目)	—		26	78	0	—		10	11	2	1	0	兼8	—	
合計 (64科目)	—		26	95	0	—		10	11	2	1	0	兼20	—	
学位又は称号	学士 (農学)		学位又は学科の分野				農学関係								

教育課程等の概要(事前伺い)

【既設】(農学部 生物環境科学科・生物環境保全学コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	基礎数学	1前		2		○			2						兼1
	物理学	1前		2		○									兼1
	化学	1前		2		○									兼2
	生物学	1前		2		○									兼4
	小計(4科目)	—	0	8	0	—			2	0	0	0	0	兼8	—
農学基礎科目	作物生産学	1前		2		○			1						兼2 兼3
	動物資源開発学	1後		2		○									
	生物化学	1後		2		○									
	土壌学	2前		2		○				1					
	食料流通経済学	2後		2		○			1						
小計(5科目)	—	0	10	0	—			3	0	0	0	0	兼5	—	
専門科目	生物環境保全学概説	1後	2			○			2	5		1		兼1	
	資源循環生産学概説	1後	2			○			6	3	2			兼1 集中	
	地域社会開発学概説	1後	2			○			2	3					
	生産情報処理学Ⅰ	1後		2		○				1					
	環境基礎解析学	2前		2		○									
	環境化学	2前		2		○				1					
	水環境学	2前		2		○				2					
	実験水気圏環境学	2前	2			○			2	5		1			
	植物栄養学	2前		2		○									
	システム生態学	2前		2		○									
	植物生態生理学	2前		2		○			1						
	実験生物環境保全学	2後	2			○			2	7	2	1			
	環境汚染化学	2後		2		○				1					
	応用力学	2後		2		○			1						
	地球環境学	2後		2		○									
	気象水文学	2後		2		○									
	土壌環境科学	2後		2		○			1						
	生物統計学	2後		2		○									
	環境水理学Ⅰ	3前		2		○				1					
	環境水理学演習Ⅰ	3前		2			○			1					
	測地学Ⅰ	3前		2		○				1		1			
	測地学演習Ⅰ	3前		2			○			1		1			
	土壌微生物学	3前		2		○			1						
	地盤環境学Ⅰ	3前		2		○			1						
	農村環境計画学	3前		2		○				1					
	英書講読	3前		2		○			2	5		1			
	インターンシップⅠ	3前・後		1		○			2	5		1			
	インターンシップⅡ	3前・後		2		○			2	5		1			
	環境水理学Ⅱ	3後		2		○				1					
	環境水理学演習Ⅱ	3後		2			○			1					
地盤環境学Ⅱ	3後		2		○			1							
現代環境学	3後		2		○										
環境浄化生物学	3後		2		○			1							
干潟環境学	3後		2		○										
測地学Ⅱ	3後		2		○				1		1				
測地学演習Ⅱ	3後		2			○			1		1				

科学英語	3後	2			○		2	5		1		兼1
生物環境保全学演習	4前	2				○	2	5		1		兼1
卒業研究	4前・後	8				○	2	5		1		兼1
小計 (39科目)	—	22	61	0	—	—	10	11	2	1	0	兼7 —
合計 (48科目)	—	22	79	0	—	—	10	11	2	1	0	兼18 —
学位又は称号	学士 (農学)		学位又は学科の分野			農学関係						

教育課程等の概要(事前伺い)

【既設】(農学部 生物環境科学科・資源循環生産学コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	基礎数学	1前		2		○									兼1
	物理学	1前		2		○			2						兼1
	化学	1前		2		○									兼2
	生物学	1前		2		○									兼4
	小計(4科目)	—	0	8	0		—		2	0	0	0	0		兼8
農学基礎科目	作物生産学	1前		2		○			1						
	動物資源開発学	1後		2		○									兼2
	生物化学	1後		2		○									兼3
	土壌学	2前		2		○			1						
	食料流通経済学	2後		2		○			1						
小計(5科目)	—	0	10	0		—		3	0	0	0	0		兼5	—
	生物環境保全学概説	1後	2			○			2	5		1			兼1
	資源循環生産学概説	1後	2			○			6	3	2				兼1
	地域社会開発学概説	1後	2			○			2	3					
	生産情報処理学Ⅰ	1後		2		○				1					
	栽培環境制御学	2前	2			○			1						
	生産情報処理学Ⅱ	2前		2		○			1						
	フィールド科学基礎実習Ⅰ	2前	1					○		2	2				
	生物科学実験実習	2前	2					○	6	1					
	エネルギー利用学	2前		2		○				1					
	植物遺伝資源学	2前		2		○			1						
	環境保全型農業論	2後	2			○				1					
	農産食品流通貯蔵学	2後		2		○			1						
	環境科学演習(分野演習)	2後		1				○	6	3	2				兼1
	農業生産機械学	2後	2			○				1					
	果樹生産生理学	2後		2		○						1			
	フィールド科学基礎実習Ⅱ	2後	1					○		2	2				
	雑草学	3前		2		○									兼1 集中
	生産エンジニアリング	3前		2		○				1					
	園芸植物繁殖学	3前		2		○						1			
	フィールド科学総合実習	3前		2				○		2	2				集中
	インターンシップⅠ	3前・後		1				○	6	3	2				集中
	インターンシップⅡ	3前・後		2				○	6	3	2				集中
	土壌微生物学	3前		2		○			1						
	植物生態生理学	2前		2		○			1						
	作物学実験実習Ⅰ	3前		1				○	2						
	園芸工学実験実習Ⅰ	3前		1				○	1						
	資源循環生物学実験実習Ⅰ	3前		1				○	1						
	動物生産管理学	3前		2		○				1					
	農業資源物質工学	3前		2		○			1						
	設計・製図学	3前		2		○				1					
	資源循環フィールド科学実習	3前		1				○		2	2				
	植物遺伝資源学実験実習Ⅰ	3前		1				○	1						
	食用作物学	3後		2		○			1						
	環境浄化生物学	3後		2		○			1						
	CAD利用学	3後		2		○				1					
	生産情報管理学	3後		2		○									兼1
	遺伝資源フィールド科学実習	3後		1				○	1	2	2				
	植物遺伝資源学実験実習Ⅱ	3後		1				○	1						
	作物学実験実習Ⅱ	3後		1				○	2						
	園芸工学実験実習Ⅱ	3後		1				○	1						

専門科目	資源循環生物学実験実習Ⅱ	3後	1			○	1							
	科学英語	3後	2		○		6	3	2					
	作物学演習Ⅰ	4前	1			○	2							
	園芸工学演習Ⅰ	4前	1			○	1							
	資源循環生物学演習Ⅰ	4前	1			○	1							
	資源循環フィールド科学演習Ⅰ	4前	1			○	1	2	2					
	植物遺伝資源学演習Ⅰ	4前	1			○	1						兼1	
	作物学演習Ⅱ	4後	1			○	2							
	園芸工学演習Ⅱ	4後	1			○	1							
	資源循環生物学演習Ⅱ	4後	1			○	1							
	資源循環フィールド科学演習Ⅱ	4後	1			○	1	2	2					
	植物遺伝資源学演習Ⅱ	4後	1			○	1						兼1	
	卒業研究	4前・後	8			○	6	3	2					
	環境化学	2前	2		○			1						
	遺伝学	2後	2		○		1							
	環境汚染化学	2後	2		○			1						
	地球環境学	2後	2		○								兼1	
	応用動物昆虫学	2後	2		○								兼3	
	経営資源管理学	2後	2		○			1						
	有機化学	2後	2		○								兼1	
	栄養化学	2後	2		○								兼1	
	飼料資源学	3前	2		○								兼1	隔年・集中
	植物育種学	3前	2		○								兼1	
	生物物理化学	3前	2		○								兼2	
	植物病理学	3前	2		○								兼1	
	微生物学	3前	2		○								兼1	
	植物分子遺伝学	3前	2		○								兼2	
	生化学	3前	2		○								兼1	
	環境水理学Ⅰ	3前	2		○			1						
	動物生体生理学	3前	2		○								兼1	
	応用微生物学	3前	2		○								兼1	
	植物栄養学	3前	2		○								兼1	
	動物遺伝育種学	3前	2		○		1						兼1	
	環境基礎解析学	3前	2		○								兼1	
	応用力学	3前	2		○			1						
	動物資源開発学実験Ⅰ	3前	1				○						兼2	
	分析化学	3後	2		○								兼2	
	熱帯作物改良学	3後	2		○								兼1	
	食品衛生学	3後	2		○		1	1					兼2	
	物理化学	3後	2		○		1						兼1	
	食品化学	3後	2		○		1		1				兼2	
	植物病原学	3後	2		○			1					兼1	
	植物生理学	3後	2		○		1						兼1	
	分子生物学	3後	2		○		1						兼1	
	農業政策論	3後	2		○								兼1	
	動物繁殖生理学	3後	2		○			1					兼1	
蔬菜園芸学	3後	2		○		1						兼1		
生物統計学	3後	2		○		1						兼1		
果樹園芸学	3後	2		○			1					兼1		
生物資源化学	3後	2		○		1		1				兼2		
農産物利用学	3後	2		○		1						兼1		
動物資源開発学実験Ⅱ	3後	1				○	1	1				兼2		
生物有機化学	4前	2		○				1				兼1		
分子細胞生物学	4後	2		○								兼1		
遺伝子工学	4後	2		○			1					兼1		
小計(95科目)	—	26	144	0	—	—	10	11	2	1	0	兼33	—	
合計(104科目)	—	26	162	0	—	—	10	11	2	1	0	兼38	—	
学位又は称号	学士(農学)		学位又は学科の分野			農学関係								

教育課程等の概要 (事前伺い)

【既設】 (農学部 生物環境科学科・地域社会開発学コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	基礎数学	1前		2		○			2						兼1
	物理学	1前		2		○									兼1
	化学	1前		2		○									兼2
	生物学	1前		2		○									兼4
	小計 (4科目)	—	0	8	0	—	—	—	2	0	0	0	0	0	兼8
農学基礎科目	作物生産学	1前		2		○			1						
	動物資源開発学	1後		2		○									兼2
	生物化学	1後		2		○									兼3
	土壌学	2前		2		○				1					
	食料流通経済学	2後		2		○				1					
小計 (5科目)	—	0	10	0	—	—	—	3	0	0	0	0	0	兼5	—
専門科目	生物環境保全学概説	1後	2			○			2	5		1			兼1
	資源循環生産学概説	1後	2			○			6	3	2				兼1
	地域社会開発学概説	1後	2			○			2	3					
	生産情報処理学 I	1後		2		○				1					
	地域資源論	2前	2			○				1					
	人類生態学	2前	2			○			1	1					
	地域ビジネス開発論	2前	2			○			1	1					
	フィールドワーク基礎演習	2前	1				○	○	2	3					兼1
	フィールド科学基礎実習 I	2前	1					○		2	2				
	システム生態学	2前		2		○									兼1
	環境基礎解析学	2前		2		○									兼1
	栽培環境制御学	2前		2		○			1						
	アジア栄養生態学	3前		2		○				1					兼1
	観光人類学	2後		2		○				1					
	環境地理学	2後		2		○									兼1
	人間開発学	2後		2		○			1						
	環境社会学	2後		2		○				1					
	経営資源管理学	2後		2		○				1					
	国際環境農業論	2前		2		○			1						
	農業政策論	2後	2			○									兼1
	環境保全型農業論	2後		2		○				1					
	土壌環境科学	2後		2		○			1						
	アジア比較農業論	3後		2		○				1					隔年
	科学英語	3後	2			○			2	3					
	農業資源物質工学	3前		2		○			1						
	生態人類学	3前		2		○				1					
	食料市場論	3前		2		○			1						
	地域資源学演習 I	3前		1				○		1					兼1
	人類生態学演習 I	3前		1				○		1	1				
	地域ビジネス開発学演習 I	3後		1				○			1				
	島嶼社会経済学演習 I	3前		1				○							兼1
アジアフィールドワーク	3前		1				○		2	3				兼1 集中	
農村環境計画学	3前		2			○				1					
インターンシップ I	3前・後		1			○			2	3				兼1 集中	
インターンシップ II	3前・後		2			○			2	3				兼1 集中	
土壌微生物学	3前		2			○			1						

植物病理学	2前		2		○								兼1	
エネルギー利用学	2前		2		○				1					
生産情報処理学Ⅱ	2前		2		○			1						
農村開発学	3後		2		○								兼1	
地域社会論	3後		2		○					1				
国際健康開発論	3後		2		○			1					兼1	
農業会計学	3前		2		○					1				
地域資源学演習Ⅱ	3後		1			○					1		兼1	
人類生態学演習Ⅱ	3後		1			○		1		1				
地域ビジネス開発学演習Ⅱ	4前		1			○		1						
島嶼社会経済学演習Ⅱ	3後		1			○							兼1	
農業技術経営学入門	3後		2		○					1			兼1	
食用作物学	3後		2		○			1						
生物統計学	1後		2		○								兼1	
熱帯有用植物学	3後		2		○								兼1	
熱帯農業論	1後		2		○								兼1	
半島・島嶼産業論	3後		2		○								兼1	
社会統計学	3前		2		○			1		1				
卒業研究	4前・後	8				○		2		3			兼1	
小計（55科目）	—	26	78	0	—			10	11	2	1	0	兼8	—
合計（64科目）	—	26	96	0	—			10	11	2	1	0	兼20	—
学位又は称号	学士（農学）		学位又は学科の分野				農学関係							

教育課程等の概要(事前伺い)

【既設】(農学部 生命機能科学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	基礎数学	1前		2		○									兼1
	物理学	1前	2			○									兼3
	化学	1前	2			○			1		1				兼3
	生物学	1前	2			○									兼4
	小計(4科目)	—	6	2	0	—	—	—	1	0	1	0	0	—	兼8
農学基礎科目	作物生産学	1前		2		○									兼1
	動物資源開発学	1後		2		○									兼2
	生物化学	1後		2		○			2			1			兼1
	土壌学	2前		2		○									兼1
	食料流通経済学	2後		2		○									兼1
小計(5科目)	—	0	10	0	—	—	—	2	0	0	1	0	—	兼5	
専門科目	物理化学	1後	2			○			1						
	有機化学	1後	2			○				1					
	分析化学	1後	2			○			1		1				
	科学英語	1前	2			○			2		1	1			
	生物有機化学	2前	2			○				1					
	生化学	2前	2			○			1						
	生物物理化学	2前	2			○			1			1			
	微生物学	2前	2			○			1						
	生命化学概説	2前	2			○			4	1	1	1			
	食糧科学概説	2前	2			○			4	2	1	1			
	化学実験Ⅰ	2後	1					○	4	2	1	1			
	食品衛生学	2後	2			○			1	1					
	栄養化学	2後	2			○			1						
	食品化学	2後	2			○			1		1				
	化学実験Ⅱ	2後	3					○	4	2	1	1			
	分子生物学	2後	2			○			1						
	化学基礎実験	2前		1				○	7	3	1	1			隔年・集中
	食糧安全学	3前		2		○			1	1					
	食品工学	3前		2		○			1						
	食品機能化学	3前		2		○			1						
	分子細胞生物学	3後		2		○									兼1
	生化学実験	3前	2					○	2	1	1	1			兼2
	微生物学実験	3前	2					○	2						
	応用微生物学	3前		2		○			1						
	食糧流通貯蔵学	3前		2		○				1					
	農産物利用学	3後		2		○			1						
	生物資源化学	3後		2		○			1		1				
	遺伝子工学	3後		2		○			1						
	基礎放射線科学	3後		2		○			8	3	2	1			兼2
	インターンシップⅠ	3前・後		1		○			8	3	2	1			集中
インターンシップⅡ	3前・後		2		○			8	3	2	1			集中	
専門外書講読	3後		2		○			8	3	2	1			兼2	
生物学基礎実験	4前	1					○	8	3	2	1			集中	
演習	4前		2				○	8	3	2	1			兼2	
卒業研究	4前・後	8					○	8	3	2	2				
遺伝学	1後		2		○			1						兼1	

植物生理学	1後		2		○		1					兼1	集中
生物統計学	1後		2		○		1					兼1	
環境化学	2前		2		○			1				兼1	
昆虫学	2後		2		○		1					兼1	
植物病原学	2後		2		○			1				兼1	
地球環境学	2後		2		○							兼1	
人間開発学	2後		2		○		1					兼1	
植物栄養学	3前		2		○							兼1	
小計 (44科目)	—	45	46	0	—		8	3	2	2	0	兼9	
合計 (53科目)	—	51	58	0	—		8	3	2	2	0	兼21	—
学位又は称号	学士 (農学)		学位又は学科の分野				農学関係						

授 業 科 目 の 概 要 (農学部生物資源科学科)				
科目 区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
教養教育科目	大学入門科目 大学入門科目Ⅰ		(概要) 佐賀大学に入学した学生に、高校から大学への接続を円滑化をはかるために大学での学習方法を詳解し、本学の新生として学修準備に必要とされる知識やスキルを身に付けることを目的とする。佐賀大学や学部の歴史や特徴、教養教育の意義、計画的な履修方法、附属図書館の利用方法、情報リテラシー、ラーニングポートフォリオの活用、サークル活動などの正課外活動、学生生活、環境問題への取り組み、国際交流、留学、キャリアガイダンスなどについて議論し、大学生としての学習態度を養う。同じ学科や課程の学生によってクラスを編成し、各専門分野の特性に応じて、比較的少人数のクラスで授業を行う。講義だけでなく、討論や演習などを通じて、能動的な学習への転換を促す。また佐賀大学の地域との結びつきを通して社会貢献、地域貢献の必要性を学ぶ佐賀学を授業に含める。	学部学科毎に開講
教養教育科目	大学入門科目 大学入門科目Ⅱ		(概要) 各学部の特性に応じて、論理的な理解、分析、思考及び表現等の能力またはデザイン力を養うことを目的とする。特定の課題についての調査、分析、デザイン、報告、討論など、各学部で必要とされる基礎的なスキルや問題解決能力を身に付けるとともに、他者とともに共同して目標を達成することを学ぶ。	学部学科毎に開講
教養教育科目	共通基礎科目	外国語科目 英語 A	(概要) <英語基礎> 中学・高校の 6 年間で培った基礎学力を基盤として、4技能をバランスよく高め、基礎的な英語の運用能力とコミュニケーション能力の育成を目指す。異文化についての知識と理解を深め、国際的な視野の養成を目指す意思や情報の発信及び情報の収集に必要な英語運用能力を育成・強化することで、学生の専門分野を問わず、国際的な場面で通用する基礎的な英語コミュニケーション能力を養う。多様な文化に関する知識と異文化への理解を深めることで、今日的な課題に対して国際的な視点で対応・判断できる能力を養う準備をする。	
教養教育科目	共通基礎科目	外国語科目 英語 B	(概要) <異文化理解基礎> 中学・高校の 6 年間で培った基礎学力及び英語 A で修得した語学力を基盤として、4技能をバランスよく高め、英語の運用能力とコミュニケーション能力の育成を目指す。異文化についての知識と理解を深め、国際的な視野の養成を目指す意思や情報の発信及び情報の収集に必要な英語運用能力を育成・強化することで、学生の専門分野を問わず、国際的な場面で通用する英語コミュニケーション能力を養う。多様な文化に関する知識と異文化への理解を深めることで、今日的な課題に対して国際的な視点で対応・判断できる基礎的な能力を養う。	
教養教育科目	共通基礎科目	外国語科目 英語 C	(概要) <異文化理解発展> 中学・高校の 6 年間で培った基礎学力、英語 A 及び英語 B で修得した語学力を基盤として、4技能をバランスよく高め、さらなる英語の運用能力とコミュニケーション能力の育成を目指す。異文化についての知識と理解をさらに深め、国際的な視野の養成を目指す意思や情報の発信及び情報の収集に必要な英語運用能力を育成・強化することで、学生の専門分野を問わず、国際的な場面で通用する英語コミュニケーション能力を養う。多様な文化に関する知識と異文化への理解を深めることで、今日的な課題に対して国際的な視点で対応・判断できる発展的な能力を養う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	共通基礎科目	外国語科目 英語D	(概要) <異文化理解応用> 中学・高校の6年間で培った基礎学力、英語A、英語B及び英語Cで修得した語学力を基盤として、4技能をバランスよく高め、応用的な英語の運用能力とコミュニケーション能力の育成を目指す。異文化についての知識と理解をさらに深め、国際的な視野の養成を目指す意思や情報の発信及び情報の収集に必要な高い英語運用能力を育成・強化することで、学生の専門分野を問わず、国際的な場面で通用する英語コミュニケーション能力を養う。多様な文化に関する知識と異文化への理解を深めることで、今日的な課題に対して国際的な視点で対応・判断できる応用的な能力を養う。	
教養教育科目	共通基礎科目	外国語科目 アカデミック・ジャパニーズA	(概要) この講義では、読解が苦手な学生が大学での学術的な読みにつながるような読書の習慣を身につけることを目標とする。大学の図書館や学外の図書館を利用して、多くの本を読む。また、グループでディスカッションを行い、読むための素材について話し合う。それらの授業活動を通じて、大学で学習するために必要な日本語能力、とりわけ読解力や自律的な学習習慣の獲得を目指す。	外国人留学生のための科目
教養教育科目	共通基礎科目	外国語科目 アカデミック・ジャパニーズB	(概要) この講義では、日本語運用能力を高めると同時に日本社会への理解を深めるために、日本人に対するアンケートを行い、その後アンケート結果をまとめて発表する、などの授業活動を行う。発表の形式を理解してもらうため、発表の例をいくつか紹介する。また、調査(アンケート・インタビュー・文献)の方法や発表資料の作成方法なども指導する。それらの授業活動を通じて、大学で学習するために必要な日本語能力、とりわけ口頭発表の力の獲得を目指す。	外国人留学生のための科目
教養教育科目	共通基礎科目	外国語科目 アカデミック・ジャパニーズC	(概要) この講義では、読解が苦手な学生が大学での学術的な読みにつながるような読書の習慣を身につけることを目標とする。大学の図書館や学外の図書館を利用して、多くの本を読む。また、グループでディスカッションを行い、読むための素材について話し合う。それらの授業活動を通じて、大学で学習するために必要な日本語能力、とりわけ読解力や自律的な学習習慣の獲得を目指す。	外国人留学生のための科目
教養教育科目	共通基礎科目	外国語科目 アカデミック・ジャパニーズD	(概要) この講義では、レポートの書き方について、教員が序論の書き方や引用の方法等の情報提供を行う。履修者は、いくつかの文章を書き、最終的には、ミニレポートを書く。また、クラスの仲間とお互いのテーマや文章について意見交換する活動も行う。それらの授業活動を通じて、大学で学習するために必要な日本語能力、とりわけ論理的でまとまった文章を書く能力の獲得を目指す。	外国人留学生のための科目
教養教育科目	共通基礎科目	情報リテラシー科目 情報基礎概論	(概要) 情報技術は、我々の生活を便利にしてくるものである。同時に、普及にともなって様々な負の側面も現れている。本講義では、現代の社会で生きていく上で不可欠な情報技術の基礎について学ぶとともに、情報化された社会とその仕組みについて、利点と課題について学ぶ。そのため、情報技術に関する基礎知識の習得と、社会で日常的に使われている様々なインターネット媒体の活用に関する利点と課題の把握を目標とする。特に、利用者としてのセキュリティ対策の基本習得を行う。	学部学科毎に開講
教養教育科目	共通基礎科目	情報リテラシー科目 情報基礎演習I	(概要) 大学で学習し、研究をするためにも、情報技術の活用が不可欠である。本講義では、大学での専門教育及び卒業後に必要とされる情報に関する基礎技術を習得することを目的とする。そのため、情報技術に関する基礎技能の習得として、大学での学習を行う上で必要となる情報システムやソフトウェアの利用方法などの基礎的情報処理技術を、学科・課程の特性に応じて習得することを目標とする。	学部学科毎に開講

科目区分		授業科目の名称		講義等の内容	備考
教養教育科目	共通基礎科目	情報リテラシー科目		<p>(概要) 大学で学習し、研究をするためにも、情報技術の活用が不可欠である。本講義では、大学での専門教育及び卒業後に必要とされる情報に関する基礎技術を習得することを目的とする。特に、専門課程で必要とされる技能の習得に重点を置く。 そのため、情報技術に関する基礎技能の習得として、専門課程で必要とされるソフトウェアの応用やプログラミング等の技術を、学科・課程の特性に応じて習得することを目標とする。</p>	学部学科毎に開講
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	基礎自然科学	<p>(概要) 古典物理学（力学、波動、熱力学、電磁気学）を中心に、物理的な世界観を構成するために必要な基本的な知識と意味について順次説明しますので、毎回予習復習を行い、物理的な見方を学んで下さい。</p>	共同
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	基礎自然科学	<p>(概要) 量子力学が突きつける世界観は、理解困難です。したがってこの講義を受けても何も理解できないはずですが、己の無知と人間の限界を思い知ることができます。その最大の謎は、「私とは何か?」ということです。この量子力学が示す問題の核心見てしまったら、常識を覆され、世界観が変わるおそれがあります。授業は、このような問題を様々な観点から論じますので、自分自身で深く考察することで、その限界を知って下さい。</p>	共同
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	基礎自然科学	<p>(概要) 現代の生活に関わる、大気汚染、オゾン層破壊、地球温暖化、エネルギー問題、飲料水、酸性雨の6つのテーマを扱う。社会および個人として見た各課題の諸側面を提示した後でそれぞれの課題と化学との関わりを示し、次いで、その化学の中身を説明し、最後に、社会および個人の関わりを改めて議論する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (132 富永 昌人/8回) 大気、オゾン層、気候変動に関する化学。 (91 花本 猛士/7回) エネルギー、水、酸性雨に関する化学</p>	オムニバス方式
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	基礎自然科学	<p>(概要) 現代の生活に関わるテーマを扱い、実際の生活に係る様々な場面において化学がどのように関わっているのか、具体例を紹介しながら講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (174 鯉川 雅之/5回) 核分裂反応の基礎について講義し、原子力発電の仕組みを解説する。また、放射能や放射線の正しい定義や生態系に与える影響を説明し、原子力に関する理解を深める。 (227 森貞 真太郎/5回) 電池の原理と種類、および高分子の基礎とその合成方法について講義する。また、それらが現代生活においてどのように利用されているかについて解説する。 (185 長田 聡史/5回) 医薬品の歴史的背景をもとに分子構造と薬理作用の関係について概説し、現代の新薬設計について紹介する。また、食品類から得られる三大栄養素の生体内での役割について化学的観点から概説し、生活習慣病との関連について紹介する。</p>	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考		
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	基礎自然科学	実験化学Ⅰ	<p>(概要) 化学のおもしろさは実験にある。この講義では、高校や中学で紹介された実験や生活の中で役立つ簡単な化学実験を中心に、「なぜだろう」から「簡単な原理」までを紹介する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (奇数年度) (174 鯉川 雅之／5回) 諸注意と安全教育、炎色反応と化学発光の実験と講義 (104 高椋 利幸／2回) 水和と溶解熱についての実験と講義 (91 花本 猛士／2回) エステル化合物の合成実験と講義 (132 富永 昌人／1回) 電圧と電位に関する実験と講義 (100 岡島 俊哉／1回) バイオ燃料の合成実験と講義 (23 上田 敏久／2回) 脂肪酸のケン化や高分子についての実験と講義 (190 兒玉 宏樹／2回) 腐植物質に関する実験と講義 (偶数年度) (215 成田 貴行／5回) 諸注意と安全教育、ナイロンの合成の実験と講義 (297 米田 宏／2回) 火を使わずに目玉焼きについての実験と講義 (226 梅木 辰也／2回) ヨウ素デンプン反応についての実験と講義 (139 山田 泰教／2回) いろいろな色の無機化合物についての実験と講義 (286 磯野 健一／2回) 石鹼からろうそくについての実験と講義 (197 矢田光徳／2回) 人工イクラについての実験と講義</p>	オムニバス方式
				実験化学Ⅱ	<p>(概要) 化学のおもしろさは実験にある。この講義では、高校や中学で紹介された実験や生活の中で役立つ簡単な化学実験を中心に、「なぜだろう」から「簡単な原理」までを紹介する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (奇数年度) (221 坂口 幸一／5回) 実験説明、2回「アミノ酸と糖のつくる匂い」・2回「化学平衡」に関する講義および実験を行う (185 長田 聡史／2回) 「ナイロンの合成」に関する講義および実験を行う。 (121 海野 雅司／3回) 「色と光の吸収」に関する講義および実験を行う。アンケート、レポート作成の講義を行う。 (279 藤澤 知績／3回) 「高吸水性樹脂」に関する講義および実験を行う。レポートの作成について講義を行う。 (61 北村 二雄／2回) 「ヨウ素の化学と生活」に関する講義および実験を行う。 (偶数年度) (オムニバス方式／全15回) (220 川喜田 英孝／5回) 実験説明、2回「まるいゲル色つきゲルをつくる」、アンケート、レポート作成を行う。 (80 大石 祐司／2回) 「すみに置けない墨流し」に関する講義および実験。 (124 竹下 道範／2回) 「秘密のえ？」に関する講義および実験。 (296 小山田 重蔵／2回) 「ナイロン66の合成」に関する講義および実験。 (227 森貞 真太郎／2回) 「下から上に色が移動(金属の溶媒抽出)」に関する講義および実験。</p>	オムニバス方式

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
				(141 大渡 啓介/2回) 「カメレオンエマルション」に関する講義および実験。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	基礎自然科学	生物学の世界 (概要) 佐賀大学キャンパス内、あるいはその周辺からもその巧妙な生き様に、生きるための戦略を学ぶことが出来る。また、日頃スーパーマーケットに並ぶ野菜からも植物形態学の基礎を学ぶことが出来る。本講義を学ぶことにより人里の植物や野菜を見る楽しみが増大するであろう。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	基礎自然科学	地学の世界 (概要) 地球環境の変遷と生物進化および環境問題・自然災害について講義を行う。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	Breakthroughs in the Modern Age (英文) This class is a part of the comprehensive ISAC program. It is a group discussion class based on moral, ethical, and judicious decision making skills for situations in the real world and in the modern age. Education and deduction skills will be firmly balanced. However, students will be primarily taught to think their own way through problems logically. Once they reach a decision or opinion about a given topic on their own, they will be expected to defend their opinions in a small group. Most classes will be based on a task: ranking, prioritizing, classifying, comparing, contrasting. Students will be expected to complete tasks both on their own and in groups. The class will be arranged thematically with approximately three weeks per unit. The class will comprise of weekly in-class quizzes, blogs, online quizzes, and final exam. (和訳) この授業は包括的な留学支援英語教育プログラムの一部であり、現実世界と現代の状況下における、モラル的、倫理的そして賢明な意思決定の技術を基礎としたグループディスカッションの授業である。教育および推論の技術のバランスがしっかりととられているが、学生は諸問題を通じて自ら論理的に思考する方法を第一に学習する。与えられたトピックについて自らの決断もしくは意見を持った際には、学生らは小グループで自分の意見を擁護することが期待される。ほとんどの授業は、順序づけ、優先化、分類化、比較といったタスクベースとなる。学生は個別にもしくはグループでタスクを完了することが期待されている。授業は約3週間を1つの単位としてテーマ別に提供され、毎週の授業内小テスト、ブログ、オンライン上の小テスト、そして期末試験で構成されている。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	The Natural World (英文) This course will consist of note-taking strategies, critical thinking training, lectures (during which students will take notes and ask questions), discussions, and quizzes for each lecture to test the students' ability to understand the lecture and take adequate notes. Regular attendance is very important. (和訳) この授業は、ノートテイキングの方略、批判的思考のトレーニング、講義（学生はその間にノートテイキングを行って適宜質問をする）、ディスカッション、そして講義内容の理解と適切なノートテイキングの技術を理解しているかどうかを問う、毎回の講義についての小テスト、という構成である。毎回授業に参加することはとても重要となる。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相	(英文) This course is focused on studying some of the most important issues facing the world today. Through studying a variety of issues that face the world, and Japan, students will learn and consider the impact of issues such as global warming, aging societies, economic systems, recycling, energy management, as well as sustainable water and food management and agricultural production. By studying such topical content in English as an international language, students will evaluate their own role and contribution in maintaining current global society, in particular how problems in society are created and exacerbated through human activity. The course will support and enable learners to critically evaluate and understand the impact of their choices and how they can live and work in responsible ways to ensure that our home, planet earth, can thrive and remain habitable for future generations. (和訳) この授業は今日の世界が直面している最も重要な事項の幾つかについて学習することに重点を置く。この世界と日本が直面する様々な問題の学習を通じて、学生は持続可能な水と食料の管理や農作物の生産についてだけではなく、地球温暖化、高齢化社会、経済構造、リサイクリング、エネルギー管理のような諸問題の影響について学んで考える。このような時事問題を国際語としての英語で学ぶことで、特に人間の活動を通じてどのように社会問題が発生してそれが悪化するのかという点について、学生は現在のグローバル社会を維持することへの自らの役割と貢献を自己評価する。この授業は、学習者が自分たちが選択した影響について、さらには私たちの故郷である地球が繁栄し、後の世代にとって居住可能であり続けることができることを確かなものにするためにどのように責任のある方法で生活して取り組むことができるかを批判的に評価して理解することを支援し、それを可能にする。	
			情報科学の世界 I	(概要) 情報科学の重要概念である「計算」と「アルゴリズム」を中心に、コンピュータに仕事をさせるとはどのような事かの理解を目標とする。アルゴリズムとは、仕事を機械的に処理する手順である。このアルゴリズムをどう記述するか、記述したアルゴリズムをどのようにしてコンピュータに入れるか、コンピュータの中ではどのように処理されるか、など情報科学の分野を概観する。また、それらの応用として多様なコンピュータについても触れる。	
			情報科学の世界 II	(概要) インターネットの普及は90%を超え、情報システムは社会の基盤を支える技術となり、すべての分野の人が情報システムに関する基本的理解を必要としている。本講義では、社会基盤としての情報システムの理解のため、情報科学の基本的概念から始めて、コンピュータシステムならびにインターネットをはじめとする情報ネットワークの仕組みを解説する。情報システムが企業活動や社会活動と密接な関係にあること、現代の情報セキュリティリスク、情報セキュリティ対策の仕組みと実際、情報システムが進化していることなどを概説する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相 機械工学の世界A	(概要) 機械工学の世界において、安全で、かつ経済的なものづくりを行うには、材料の力学、製図、加工などの知識が欠かせない。この科目は二人の教員で担当する。 (オムニバス方式/全15回) (113 萩原 世也/8回) 機械工学の世界における、力学の基礎となる力のつり合い、モーメントのつり合いなど初歩的な内容について説明した後、材料力学の基礎となる応力とひずみなどについて解説する。 (108 服部 信祐/7回) 機械工学の世界における、機械材料、製図、および加工などの基礎的な内容について解説を行う。	オムニバス方式
		自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相 機械工学の世界B	(概要) 機械工学のもっとも基礎的な力学の一つである流体力学(流れの力学)の初歩を理解する。 (オムニバス方式/全15回) (142 木上 洋一/8回) 流体力学(流れの力学)の初歩を講義する。具体的には、粘性と圧縮性、圧力と水深の関連性、浮力の働き、渦運動や加速度運動、流体のエネルギーなどについて、具体例を交えて解説する。 (109 松尾 繁/7回) 引き続き流体力学(流れの力学)の初歩を講義する。具体的には、ジェット推進、流線曲率の定理、コアンダ効果、はく離、境界層、揚力、マグナス効果などについて、具体例を交えて解説する。	オムニバス方式
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相 電気電子工学の世界A	(概要) 普段の生活の中で使われている様々なセンサ(光センサ、超音波センサ、電磁波センサ、磁気センサなど)及びセンシング技術について紹介する。また、医療及び産業界で開発されている先端センシング技術に関する原理や開発に至るまでの過程について紹介する。さらに、センサ及びセンシングをもとに発想や想像力の重要性について講義する。毎回、講義の最後に紹介したセンサ及びセンシング技術についての小テストを行うことで理解度を確認する。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相 電気電子工学の世界B	(概要) 電気回路を学ぶに当り必要となる知識を、中学と高校で学んだ理科・物理の内容を含め、簡単な歴史にふれながら説明する。基礎知識を学んだあと、身の回りに利用されている電気回路について紹介する。最後に、最近の話題に上がる電気機器について例を示す。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相 都市と生活	(概要) 暑さ寒さを和らげて快適な室内空間を作り出すために、住宅やビルなどの建築には様々な工夫がなされています。特に最近では住宅においても断熱と気密の性能が向上しており、快適性だけでなく、省エネルギー性も高くなりつつあります。この講義では、住宅やオフィスビルなどにおける室内熱・空気環境調節技術について、建築的ならびに設備的な観点から説明します。また、建築を取り巻く昨今のエネルギー問題や地球環境問題についても紹介します。	ネット

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相 環境科学Ⅱ	(概要) 生態系保全に関する基礎知識、手法および取組事例など、将来の社会人として知っておくべき知識等の範囲を紹介する。 (オムニバス方式／全15回) (34 郡山 益実／8回) 生物多様性が適切に保たれ、自然の恵みを将来にわたって享受できる「自然共生社会」を念頭に、生態系保全に関する基礎知識、手法および取組事例など、将来の社会人として知っておくべき知識等について講義する。 (100 岡島 俊哉／7回) 生態系サービス、関連法、取組の流れ及び概要（国内および国際）等	オムニバス方式
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・生命科学 農業と農地環境	(概要) 農業生産の基盤である農地は、高い土地生産性と労働生産性、および環境に関する保全性を併せ持つ必要がある。本授業は、地域による特殊性を考慮した農地の造成、整備、環境保全に関わる基本的な事項について講義する。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相 セラミックスの不思議	(概要) 初めに、セラミックスの全般的な説明（定義、特徴、一般的製造方法、組織など）を行なった後に、不思議な（特徴ある）セラミックスについて特性とその特性発現理由を分かり易く説明する。毎回、確認問題を実施する。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・技術の現代的諸相 21世紀のエネルギーと環境問題	(概要) 21世紀の国際的な緊急課題の一つであるエネルギーと環境問題を取り上げ、最新の現状と展望とともに、その本質および考え方について教授する。また、佐賀大学で行われているエネルギーと環境に関する最先端の研究内容について詳細に概説する。特に、エネルギーの歴史と21世紀の課題、自然エネルギーの開発の現状、資源リサイクルと社会問題などについて行う。なお、教師は、各学部より数名の教師が担当する。 授業は、全てネット授業である。講義内容を理解するまで、何度でも、何処でも講義を受講することができる。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	自然科学・生命科学 生物科学の世界A	(概要) 本講義では「生命の科学」分野の中でも、特に細胞と遺伝子について、それらはどういうものなのか？私達の生活とどのような関わりがあるのかなどを学ぶ。 なお、本講義は基本的に前半を早川洋一教授、後半を鈴木章弘教授が担当する。 (オムニバス方式／全15回) (6 早川 洋一／8回) 生命の基礎的概念の説明から始め、動物生理学的な一般的知見について広く紹介する。 (17 鈴木 章弘／7回) 主に高等植物の細胞と遺伝子の働きについて具体例を交えて解説する。	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称		講義等の内容	備考
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	生物科学・生命科学 生物科学の世界B	(概要) 多くの生物のゲノム配列が解読された現在、生物に対する分子レベルでの理解が急速に深まりつつある。この新しい生命科学研究の潮流を踏まえつつ、生命科学、特に遺伝学・分子生物学の基礎について講義する。また、この講義で学んだ基礎知識を踏まえて、近年進展が目覚ましいゲノム科学について、講義の最後で解説する。ネット上の教科書であるDNA from the beginning (http://www.dnafb.org/) に沿って、生命科学の基礎について講義する。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	生物科学・生命科学 栄養科学A	(概要) 生体分子（特に三大栄養素）の体内挙動について、人体の臓器の種類と機能を関連させて講義する。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	生物科学・生命科学 栄養科学B	(概要) 栄養学および調理学の基本的な知識と技術（栄養素の機能、調理の方法など）を講義する。	
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	生物科学・生命科学 くらしの中の生命科学	(概要) 本授業は第六分野、総合型授業であり、ネット授業 (http://netwalkers.pd.saga-u.ac.jp/) により開講する。各授業は、インターネット上で聴けるネット授業で、内容を理解するまで、何度でも聴くことができる。 本科目は身近な題材をテーマとして最先端の生命科学を紹介することをめざしている。各先生方の研究を中心にして、タンパク質などの生体分子からウイルス、バクテリオファージ、高等植物から脊椎動物までの幅広い対象について現代生命科学を概観できるようなカリキュラムになっている。なお、本科目は弁理士など、職務上、生命科学の基礎知識を必要とする職業を目指している方に向けた高度なレベルです。 (オムニバス方式／全15回) (5 渡邊 啓一／1回) 生命をつかさどるタンパク質 (9 大島 一里／1回) 植物ウイルスの分子進化 (50 関 清彦／1回) どうして風邪が治るの？ (28 草場 基章／1回) 菌学入門 一身近な生き物：カビの世界— (48 渡邊 啓史／1回) 遺伝子組換え作物の現状と課題 (31 古藤田 信博／1回) 桃栗三年柿八年のはなし (46 山中 賢一／1回) 生命を伝える不思議な細胞：生殖細胞 (7 和田 康彦／8回) 遺伝子と遺伝子工学、鳥骨鶏の生物学、核内受容体遺伝子の分子生物学、ゲノムの中の反復配列、ゲノムインフォマティクス等	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野 生物学・生命科学	生命科学の基礎 A (概要) 男女の「性差」についての知見は、遺伝子やDNAの発見によって大きく進展し、性ホルモンや脳の機能にまで研究が及ぶようになっている。しかし、日本社会の全般的な認識としては旧来の常識がまだ根強く残っており、影響を及ぼしている。そこで、多分野の専門教員のオムニバス形式での概説や多様な視点からの分析を通して「性」とは何か、また性によって生じる男女の差など、「性差」について統合的に幅広く説明する。 (オムニバス方式/全15回) (76 河野 史/8回) 脳機能と性差、性とは、発達と性差、DV、性暴力、男女共同参画講座ほか (138 鈴木 智恵子/1回) 男の病気・女の病気 (性差と健康のリスク) (103 新地 浩一/1回) メンタルヘルスと性 (290 柿原 奈保子/1回) FGMを通して文化と女性の性のあり方を考える (153 吉岡 剛彦/1回) リプロダクティブ・ライツと性差 (74 池上 寿伸/2回) スポーツと性差 (160 小山 宏義/1回) 男女間の社会的・法的問題	オムニバス方式
			生命科学の基礎 B (概要) 人類が幸福な生活を送るために医学・医療は不可欠なものである。医学・医療の発達には動物実験が不可欠であることは多くのヒトが認めることではあるが、不適切な動物実験に対する反対運動があることも事実である。適切な動物実験を理解し、社会に認知された動物実験を行うことが求められている。本講義では、動物実験に使用される実験動物の種類、適切な維持・管理の方法と動物福祉に基づいた適切な動物実験について学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (176 北嶋 修司/15回) 実験動物概論、規則・法律、実験動物の種類、実験動物の遺伝学的統御、環境統御、飼育管理と取扱い、動物福祉。 (303 松久 葉一/5回) (共同) 実験動物の微生物学的統御、人獣共通感染症、発生工学。	オムニバス方式・共同 (一部)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	基本教養科目	自然科学と技術の分野	生物学・生命科学	<p>(概要) 医学・看護学研究の最新的话题を、主に基礎医学系、看護系の研究室から紹介する。後半は海外留学の勧めや臨床医学の導入や臨床研究に関して紹介する。研究室見学も行う予定。臨床的な視点に興味は向きがちだが、医学・看護学の基礎研究も重要であることを知ってほしい。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (97 市場 正良／1回) 第1回 社会医学と研究1 (70 戸田 修二／1回) 第2回 病理学と研究 (287 島ノ江 千里／1回) 第3回、第4回 社会医学と研究2 (289 菖蒲池 健夫／1回) 第5回 微生物学と研究 (158 村田 祐造／2回) 第6回 解剖学と研究 (182 村田 尚恵／1回) 第7回 看護学と研究1 (111 吉田 裕樹／1回) 第8回 分子生物学と研究1 (294 福森 則男／1回) 第9回 卒前海外留学の勧め (206 福山 由美／1回) 第10回 看護学と研究2 (84 出原 賢治／1回) 第11回 分子生物学と研究2 (123 杉岡 隆／1回) 第12回 臨床医学と研究1 (299 大串 昭彦／1回) 第13回 臨床医学と研究2 (173 中野 理佳／1回) 第14回 看護学と研究3 第15回 研究室見学 1回 (全員)</p>	オムニバス方式
		自然科学と技術の分野	生物学・生命科学	<p>(概要) 生命現象の分子的基盤について、いろいろな生体分子の構造・機能・生合成という点から解説する。講義は、3人の担当者が各5回を分担するオムニバス形式で行なう。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (119 池田 義孝／5回) 酵素反応と遷移状態理論、遷移状態理論の応用、酵素の触媒機構と活性調節、酵素反応機構と速度論的解析、活性酸素と酸化ストレス (208 井原 秀之／5回) 血液型と糖鎖、糖鎖と疾病、糖鎖工学、翻訳後修飾(1)、翻訳後修飾(2) (295 岡田 貴裕／5回) 免疫システム：自己・非自己の認識 ①、免疫システム：自己・非自己の認識 ②、抗体の構造と生物機能、抗体医薬、タンパク質製剤</p>	オムニバス方式
		文化の分野	言語と文化	ドイツの言語と文化 I	<p>(概要) 「言語」では毎回文法項目をひとつずつ解説し、表現演習を通じてドイツ語の理解を定着させます。いわゆる初級文法をきっちり学ぶための授業です。「文化」では映画を鑑賞し、その背景を学ぶことによってドイツ語圏の文化・歴史に関する理解を深めます。前期はゲーテの『若きウェルテルの悩み』をもとに作られた「ゲーテの恋」を扱います。なお、「ドイツの文化I」ではすべての開講クラスで同じ内容の授業を提供します。</p>

科目区分		授業科目の名称		講義等の内容	備考
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	ドイツの言語と文化Ⅱ (概要) 前期の「ドイツの言語と文化Ⅰ」の延長として、「言語」では毎回文法項目をひとつずつ解説し、表現演習を通じてドイツ語の理解を定着させます。映画を鑑賞し、その背景を学ぶことによってドイツ語圏の文化・歴史に関する理解を深めます。後期はナチスに抵抗したミュンヘン大学の学生たちの史実をもとにした映画「白バラの祈り」を扱います。なお、「ドイツの言語と文化Ⅱ」ではすべての開講クラスで同じ内容の授業を提供します。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	フランスの言語と文化Ⅰ (概要) ビデオ教材を用いて、フランスの文化を題材に、フランス語の基礎的な能力を身につける。フランスの言語と文化の習得を通して、異文化の人々のものの考え方や価値観を学び、国際社会に対する複眼的な視野と柔軟な認識力を育成する。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	フランスの言語と文化Ⅱ (概要) ビデオ教材を用いて、フランスの文化を題材に、フランス語の基礎的な納涼区を身につける。フランスの言語と文化の習得を通して、異文化の人々のものの考え方や価値観を学び、国際社会に対する複眼的な視野と柔軟な認識力を育成する。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	中国の言語と文化Ⅰ (概要) 言語の分野においては、中国語の初歩を発音の基礎から講じていく。また漢字の構造について日中の違いなどを講じる。またピンインについても講じていく。単語や簡単な挨拶語を用いて全員に発音の練習をさせる。次第にまとまった短文に入っていく。発音を聞いて、漢字やピンインを、理解し、漢字で書けるようにする。ピンインを見て、正しく発音できるように指導していく。簡単な日本語の単語や挨拶語を、中国語で言ったり、書けるようになるようにする。教員は学生に暗唱させる。 次に文化の分野においては、毎回、生活・歴史・文学・芸術・宗教など様々な内容を幅広くとりあげ、受講生が教養として中国語の基礎知識を身につけると同時に、その背景にある文化についても理解することを目指す。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	中国の言語と文化Ⅱ (概要) Ⅱは、Ⅰの延長線上にある。ⅠとⅡは連続したもの、統一したものである。 言語の分野においては、Ⅰを踏まえ、漢字の構造について日中の違いなどを講じる。またピンインについても復習的に講じていく。単語や簡単な挨拶語を用いて全員に発音の練習をさせる。次第にまとまった短文に入っていく。発音を聞いて、漢字やピンインを、理解し、漢字で書けるようにする。ピンインを見て、正しく発音できるように指導していく。簡単な日本語の単語や挨拶語を、中国語で言ったり、書けるようになるようにする。教員は学生に暗唱させる。 次に文化の分野においては、毎回、生活・歴史・文学・芸術・宗教など様々な内容を幅広くとりあげ、受講生が教養として中国語の基礎知識を身につけると同時に、その背景にある文化についても理解することを目指す。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と文化	韓国・朝鮮の言語と文化Ⅰ (概要) 朝鮮半島で主に話されている朝鮮語は、日本の隣国のことばであると同時に、日本でも見聞きすることが多いことばの1つです。朝鮮語は日本と同じ漢字文化圏に属し、その語彙には日本語と共通する漢字語が大量に含まれており、さらには朝鮮語の文法構造は日本語とよく似ており、日本語母語話者や日本語を知る学習者にはとても学びやすいことばです。朝鮮語の学習においては、そのような知識を生かしつつ、最初に朝鮮語を表記するための文字、ハングルの読み書きを学び、その後、必要最低限の語彙と文法事項を習得し、それを基礎にして朝鮮語の実践的な会話練習を行います。また、朝鮮語の基礎的な語彙と文法事項が身に着いた段階で韓国の歌や番組などを実際に味わい、朝鮮語と深くかかわる朝鮮の文化なども垣間見る予定です。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野 言語と文化	韓国・朝鮮の言語と文化Ⅱ (概要) 本授業では、朝鮮語を表記する文字、ハングルの読み書きが自由にでき、さらには、朝鮮語の基礎的な語彙と文法事項がある程度身につけているという前提で授業を進めていきます。本授業では、最初に朝鮮語学習の核となる用言の活用を学び、その後、基礎語彙を増やしつつ、基本的な文法事項を学んでいきます。同時に、学んだ語彙と文法事項をもとに実践的な会話練習を頻繁に行い、朝鮮語の読み書きだけでなく、聞く話すもある程度できるようになることを目指します。また、朝鮮語の基礎的な語彙と文法事項が身についた段階で韓国の歌や漫画、ミュージカルに、映画などを実際に味わい、朝鮮語と深くかかわる朝鮮の文化なども垣間見る予定です。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野 言語と文化	東南アジアの言語と文化 (概要) 日本と東南アジアの歴史、日本語・外国語教育、多様な宗教や習俗を反映した多文化教育の実例などを通して日本、東南アジア（インドネシア、マレーシア、シンガポールを主に）の関係について紹介する。東南アジア学入門。またアクティブ・ラーニングによる連続講義試行のため一部集中講義形式でも実施する。 (オムニバス方式／全15回) (135 山崎 功, 198 山田 直子, 202 布尾 勝一郎, 277 吉川 達 /2回共同) 東南アジア学入門と総まとめ (135 山崎 功 /4回) 日本・東南アジア関係につき近世から近代にいたる歴史を紹介。 (198 山田 直子 /4回) 東南アジアのコミュニティをめぐる問題をジェンダー、家族、宗教などの視点から紹介。 (202 布尾 勝一郎 /3回) 日本と東南アジアの言語状況や言語政策、人の移動、宗教と文化の問題等について紹介。 (277 吉川 達 /2回) 日本と東南アジアの国際教育、国際交流状況について紹介。	オムニバス方式・共同（一部）
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野 言語と文化	Western Culture (英文) This course consists of the following two contents: (1)lectures on various aspects of western culture, especially the ones of English-speaking countries (2)group discussions on the given topics. In particular, the students will learn some aspects of one (or some) of the English speaking countries, such as food, education, language, literature, religion, leisure, sports, art, TV and etc. In order to check the students' understanding, this course comprises of in-class quizzes, reports, and final exam. (和訳) この授業は、以下の2つの内容で構成されている： (1) 西洋文化、とりわけ英語圏の多様な文化の側面についての講義 (2) 与えられたトピックについてのグループディスカッション とりわけ学生は、例えば食べ物、教育、言語、文学、宗教、余暇、スポーツ、芸術、テレビなど、1つのもしくは複数の英語圏の国の文化の側面について学習することになる。学生の理解度をチェックするため、授業内小テスト、レポートそして期末テストがこの授業の構成要素となる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野 言語と文化	Immersion Program (英文) This course consists of the following three contents: (1) preparatory lessons for attending classes conducted in English (2) immersion program at Slippery Rock University (3) fieldwork in New York or Washington D.C. The intention of the course is to give the students experience in authentic content lectures at a sister university abroad and to motivate them to study abroad for a longer term in the future. (和訳) この授業は以下の3つの内容で構成されている: (1) 英語で行われる授業に対応するための事前研修 (2) スリッパリーロック大学でのイマージョンプログラム (3) ニューヨークもしくはワシントンD.C. でのフィールドワーク この授業の目的は、海外の姉妹校で実施されるオーセンティックな内容の講義の体験を学生に与えること、さらには将来においてさらに長期で留学をするための動機付けを与えることでもある。	共同・集中
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野 文学と芸術	日本文学 (概要) 日本を代表する怪奇幻想小説家・江戸川乱歩の主要作品群を熟読していく。読んでもらうことになるのは、『人間椅子』『黒蜥蜴』『芋虫』『孤島の鬼』『蜘蛛男』『陰獣』等である。どの回においても、読んだテキストに基づく「学生主体のディスカッション」を授業時間すべてを使って行う。毎回、読了指定箇所に関する簡単な「報告書」を事前に用意してきてもらい、授業ではそれを踏まえてのディスカッションを受講者全員で行ってもらう。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野 文学と芸術	アジアの文化・文学 (概要) 始めに暦の原理を天文学の方から簡単に説明する。次に現行の暦の構造を説明する。次に中国人の発明である二十四節気・七十二候の構造を説明する。さらにそれぞれの節気と物候について、その成立、背景などを詳細に説明していく。最後に、その詩文への応用を見ていき、その詩文への表現から中国人の生活意識、季節意識を見ていく。それによって中国の文化的特徴を説明していく。同時に中国古典語の文法や漢字学についても機会を捉えて、説明していく。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野 文学と芸術	欧米の文化・文学 (概要) ロシアが生んだ二人の文豪、ドストエフスキーとチェーホフの主要作品のいくつかを熟読していく。読んでもらうことになるのは、『地下室の手記』『永遠の夫』（ドストエフスキー）『かもめ』『桜の園』（チェーホフ）等である。どの回においても、読んできたテキストに基づく「学生主体のディスカッション」を授業時間すべてを使って行う。毎回、読了指定箇所に関する簡単な「報告書」を事前に用意してきてもらい、授業ではそれを踏まえてのディスカッションを受講者全員で行ってもらう。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野 文学と芸術	芸術論 (概要) 「人間が存在しなければ、当然、芸術も存在しない。芸術についての考察は、必ず人間や社会についての根本的な問いを伴う」。 こうした命題を受けて、絶えず「人間とは何か」「人間は何ができるか」といった人間の考察を踏まえながら、受講者自身と芸術文化の関係を多角的に捉え直すことができるような方法を提示する。 (オムニバス方式／全15回) (143 栗山 裕至／8回) 音楽芸術に対する教養を深めるために、一つのトピックについて受講生による討論などの授業形態も採る。 (116 吉住 磨子／7回) 芸術文化に対する教養を深めるために、一つのトピックについて受講生による討論などの授業形態も採る。	オムニバス方式

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	文学と芸術	画像へのアプローチ	
				(概要) デジタル表現の基礎には、写真に代表される静止画を構成する構図の考え方が必要である。この講義では、動画の基本ともいえる静止画の見方と考え方を理解することを目標とする。歌舞伎から、沖縄、シルクロード、日本の伝統工芸など、フォトジャーナリストとしての仕事で見て来た世界を、写真を通して解説する。写真を見ながら、構図の考え方、更に構図を考えるのに必要な「ものの見方」についても学習する。また、中国や日本の歴史・伝統・文化やシルクロードを通じた文化交流についても学習する。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	文学と芸術	伝統工芸と匠	
				(概要) 佐賀県の伝統工芸といえば、有田焼や唐津焼を中心とした焼きものが思い浮かぶが、それら以外にも多種多様な伝統工芸があり、素晴らしい技術を持った匠たちがたくさんおり、技術が現代まで引き継がれている。 今回はその中から、担当教員であるフォトジャーナリスト・大塚清吾が出会った様々な匠たちの技について、動画と写真を見ながら学習する。取り上げるテーマは、「木版摺更紗」、「練り上げ技法」、「肥前名尾和紙」、「肥前刀と研師」、「木工の世界」、「風ン谷淳窯」、「鍋島御庭焼」、「御菓子司鶴屋」、「岡本為吉羊羹」、「佐賀錦の世界」、「肥前びどろ(副島硝子)」、「鍋島緞通」である。また同時に、これらに関する歴史的、文化的な背景や事柄についても学習する。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	文学と芸術	映像制作入門	ネット授業
				(概要) 本科目は、古今の名画のなかから、映画技術の核たる部分を探し出し、映像文法の基礎を分かりやすく解説する。世界の映画作家たちは何かを表現したいと思った時、どのような方法を取ったか? そうしたテーマ、考え方、思想の部分も含め、映画用語の語源から掘り起こして、映像作りの基本や意味、実践的な”映画言語”を学んでいく。カメラ・アングルとカメラ・ポジションなどの撮影技術的なテクニックから、モニタージュやS F Xなど編集テクニックに至るまで、映画を作り上げる方法について学習する。 尚、この講義は、映画評論家の西村雄一郎氏の講義を収録しコンテンツ化したものである。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	文学と芸術	シルクロード入門	ネット授業
				(概要) グローバル化が進んだ世界の中で、古代より文化や文明がどのように広がり、現在の世界が形成されたかを知っておくことはとても重要である。シルクロードは、古代よりユーラシア大陸の東西交流の一大ルートであり、シルクロードを知ることは、アジアにおいてどのように文化や文明が広がったかを知ることに繋がる。大塚清吾氏は、NHKシルクロード特集の撮影にスチールカメラマンとして同行し、今では見ることができない貴重な風景を写真に収められている。その写真を見ながら解説を聞くことで、シルクロードについての知識を深めるとともに、アジアや世界を広く見る目を養う授業とする。講義では、「シルクロード」と「ガンダーラ」、「敦煌・莫高窟」をキーワードに、仏教及び仏教美術を中心に、文化の東西交流について学習する。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と表現	日本語学	
				(概要) 上代から現代まで日本語がどのように変化してきたかについて、音韻、文字・表記、文法、語彙の側面から概観する。時代ごとに言葉の変化を各側面から見たのちに、その時代の代表的な文学作品を講読することで、言葉の変化を具体的に捉えられるようにする。また、文学史の復習を織り交ぜ、言語文化資料の知識を身につけることも狙う。言葉の変化の様相をたどるとともに、その時代の社会的背景や言語変化の特徴を考え合わせることで、なぜ言葉が変化したかなど変化の背景についても考えることを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と表現 言語学	(概要) この授業は、言語学の入門の授業である。古賀が担当する授業では、母語話者が無意識のうちに意味に応じて文を作って使っている言語を「科学」し、佐賀西部方言の簡単な型の文を生成する統語理論を一步一步作っていく。また、布尾が担当する授業では、社会言語学の観点から「多言語社会としての日本」について学び、日本社会の中で「ことば」がどのように位置づけられ、どのような点で問題になっているかを共に考える。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と表現 応用言語学	(概要) この授業では主に言語学習において行われるテストや評価をとりあげ、その実施方法、目的、評価方法などを例を挙げながら解説し、テストや評価についての基礎を学習する。実際にテストを実施する側の視点を持つことによって、言語テストをはじめとするテスト全体を客観的に見るきっかけを与える。なおこの授業は教師の一方的な講義ではなく、学生同士での話し合いや作業の機会を多く持つので、積極的な態度で臨んでほしい。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と表現 コミュニケーション論	(概要) 本科目は、総合的なコミュニケーション能力の向上につながる基本的な知識や技能を修得するための講義を行う。基礎理論、言語、非言語コミュニケーション、対人的コミュニケーション、異文化コミュニケーション、高度情報コミュニケーション、インターネットコミュニケーション、ビジュアルコミュニケーションと幅広く、包括的に取り扱う。現代社会において重要なスキルであるコミュニケーションについての学問的な知識を土台にして、実際の生活でのコミュニケーション力に結びつける。 講義は複数名の教員で担当するオムニバス形式の授業で、各講義の後には、小テストやレポートをオンラインで提出することになっている。最終試験は、ペーパーテストが対面で行われる。 (オムニバス方式／全15回) (64 早瀬 博範／9回) 本授業の責任者。イントロダクション、対人コミュニケーション、異文化間コミュニケーション、最終試験などを担当。 (69 角 和博／4回) コミュニケーションの基本概念、高度情報コミュニケーション、インターネットコミュニケーションなど。 (82 田中 彰一／1回) 言語学的視点からのコミュニケーション論。 (106 中村 隆敏／1回) ビジュアル・コミュニケーション。	オムニバス方式 ネット
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と表現 記号論	(概要) 本講義は、記号論の知識の修得をおこない、さらにその知識を応用して記号情報論の世界に目を向けていきたい。その際には、企業のコミュニケーションに光をあて、企業会計の世界ではどのような記号情報が用いられているか、あるいはその特性について学んでいきたい。 なお、本講義は、経済学部以外の学生が聴講していることを前提として話をすすめていきたい。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と表現 Critical Thinking for the Modern Age	(英文) This is a practical class focused on developing intercultural communication and some skills required to understand spoken or written opinions in English. The course will focus on the study of culture and environmental issues, using practical examples from current society. The course is aimed and structured to nurture and develop participants' cultural intelligence and comprises of quizzes, discussions, four reviews and a final report. (和訳) この授業は異文化コミュニケーションと、英語で話されるもしくは書かれた意見を理解するスキルを促進することに重点を置いている。またこの授業は、現代社会で実際に起こっている事例を取り入れながら、特に文化と環境問題の学習に焦点を当てる。この授業は参加学生の文化的な意識を涵養して発展させることを目的とし、さらにはそのように組み立てられており、小テスト、ディスカッション、4回のレビュー、そして最終レポートで構成されている。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と表現 Cultural Metaphors	(英文) This course will consist of note-taking strategies, critical thinking training, lectures (during which students will take notes and ask questions), discussions, and quizzes for each lecture to test the students' ability to understand the lecture and take adequate notes. Regular attendance is very important. In particular, at the beginning of each class, the students will listen to lectures of about 30 minutes in length about some Cultural Value Dimensions (CVDs) and discuss some differences in cultures in small groups. (和訳) この授業は、ノートテーキング、批判的思考の訓練、講義(学生はノートを取って質問をする)、ディスカッション、そして毎回の講義についての学生の理解と適切なノートを取ることに理解を問う小テストで成り立っている。毎回の授業参加がとても重要である。とりわけ、毎回の授業の冒頭で、学生は文化的価値の様相についての30分の長さの講義のビデオを視聴し、文化間の差異について小グループで議論することになる。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と表現 デジタル表現技法	(概要) 本科目は、古今の名画のなかから、映画技術の核たる部分を探し出し、映像文法の基礎を分かりやすく解説する。世界の映画作家たちは何かを表現したいと思った時、どのような方法を取ったか? そうしたテーマ、考え方、思想の部分も含め、映画用語の語源から掘り起こして、映像作りの基本や意味、実践的な”映画言語”を学んでいく。この講義では、撮影が終わった後の作業となる、「編集」における映像文法について学習する。取り上げるテーマは、「モンタージュ」「ワイプ」「スローモーション」「オーバーラップ」「サウンド」「映画音楽」「SFX (特殊効果)」「タイトル」「ラスト・クレジット」である。それぞれの映像文法を学ぶとともに、実際の作品でそれらがどのように用いられているのか学習する。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と表現 映画製作	(概要) 本科目は、古今の名画のなかから、映画技術の核たる部分を探し出し、映像文法の基礎を分かりやすく解説する。世界の映画作家たちは何かを表現したいと思った時、どのような方法を取ったか? そうしたテーマ、考え方、思想の部分も含め、映画用語の語源から掘り起こして、映像作りの基本や意味、実践的な”映画言語”を学んでいく。この講義では、撮影における映像文法について学習する。取り上げるテーマは、「カメラ・アングルとカメラ・ポジション」「カットのつながりとイマジナリーライン」「パン・ティルト」「ズーム」「移動撮影」「ステディ・カム」「クレーン」「レンズの特性」「広角レンズと望遠レンズ」「パン・フォーカス」「照明」「シャドウとシルエット」「色彩」である。それぞれの映像文法を学ぶとともに、実際の作品でそれらがどのように用いられているのか学習する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と表現	3DCG表現 (概要) 3Dコンピュータグラフィックスの基本概念を養う為に手の鉛筆デザインを行う。Illustratorを用い、三次元理解としてキャラクターデザインの三面図を作成する。次にShadeによりキャラクターを自由曲面モデリングで作成する。最終課題として鉛筆デッサンで描いた手をポリゴンでモデリングし、UVマッピングとジョイントアニメーションでデジタルデッサン作品として完成させる。 作品テーマの一部として佐賀県内における地域資源をコンテンツとして制作する。	共同
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と表現	アニメーション表現 (概要) アニメーション制作の概観や表現方法を講義し、演習形式でアニメーションを作成する。制作方式やアプリケーションソフト毎に分かれて作業を行う。作品は、4種の技法から選択して制作する。使用アプリケーションソフトはFlashやAfterEffects等を組み合わせて使用する。 作品テーマの一部として佐賀県内における地域資源をアニメーションコンテンツとして制作する。	共同
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	言語と表現	立体アニメーション入門 (概要) ヒトの進化の過程で残されてきた様々な表現の歴史を概観し、表現することの意味を考える。その中で線画のもつ役割に注目する。その線画を時系列に移動させることで現れるアニメーションのもつ意義を検討する。 様々なアニメーション表現の中でシナリオ制作、人形制作、背景制作、撮影、編集等の立体アニメーション制作の理解を通して人間のもつ表現の本質を探求し、人間社会の様々な問題を解決能力の向上をはかる。	集中
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化	哲学・倫理学 (概要) 哲学は、前提条件をつけずに、あらゆる事柄をとことん最後まで考え抜くところに、その特徴があります。哲学が、様々な学問が前提にしている知識や概念（自然、生命、文化、経済、法、道徳）を自明視せず、それらの根拠を更に問おうとするのは、哲学的思惟の本質に属しているといえます。 本講義の前半では、いくつかのテーマに沿って、代表的な哲学者の思想内容のエッセンスについて紹介します。講義の後半では、哲学的倫理学の主要な潮流について紹介したうえで、応用倫理的問題についても言及します。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化	考古学 (概要) この科目では、日本の弥生時代を代表する佐賀県吉野ヶ里遺跡の歴史的特性について、中国や朝鮮半島、日本の他の地域やその遺跡・遺物との関係、比較も交えながら検証する。それにより、吉野ヶ里遺跡をはじめとする佐賀県、九州北部の弥生時代について知識を深めるとともに、考古学の基礎を学ぶことを目的とする。また、吉野ヶ里遺跡の発見、調査から歴史公園としての整備に至るまでの過程を講義し、遺跡などの文化遺産の保存と地域との関係について考える。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化	日本史 (概要) 本講義では、日本史上の政治情勢の変遷を中心にその基礎的内容の解説を行うが、特に各時代の政治・経済・文化等の様々な社会システムの中核施設だった「城」と「城下町」の発達史を通じて、最新の調査・分析成果を交えながら日本社会の変化の実像を学習してもらう。その一環として、県史跡「佐賀城跡」と城下町などの校外に所在する歴史遺産に赴いて、前近代の封建社会下の政治拠点を見学し、実際の遺構を目の前にしながらディスカッションする体感型学習を行う。	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化	西洋史 (概要) 西洋史学に関する基礎的かつ包括的な講義を行う。ヨーロッパ史を対象として歴史の流れと時代の特徴を跡付けるとともに、歴史の見方や歴史学の学問的特徴についても説明し、西洋史を含む歴史学への導入を図る。 前半の1～6回は、西洋史の歴史区分に従って、各時代の特徴について概説する。後半の7～12回は、各時代に書かれた歴史書を取り上げ、「歴史を書く行為の歴史」を各時代の歴史的背景に即して説明する。最後の13～15回は、現代の西洋史研究の特徴と問題について紹介して、まとめとする。	

科目区分		授業科目の名称		講義等の内容	備考
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化 人類学	<p>(概要) 人類学は大きく分けて2つある。一つは、ヒトの文化的特徴や社会的営みを研究対象にする文化人類学、もう一つは、霊長類全般（ヒト包括したサル仲間）を含め、身体的特徴や遺伝的情報など生物学的特徴を研究対象にする自然人類学である。この講義では、自然人類学を学んでいく。特に、どのような動物・霊長類からヒトが進化して現在に至るのか、さらには日本列島のヒト・地域集団は、どのような集団から分かれて現在のものとなったのか、形態学的特徴と遺伝的情報の2つの側面から探っていく。毎回の講義は、スライドと配布資料を用いて行う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (269 菊池 泰弘／8回) 人類学一般論、霊長類学、化石霊長類、初期人類、研究紹介など。 (292 川久保 善智／7回) 原人、旧人、日本人起源論、復顔、研究紹介など。</p>	オムニバス方式
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	歴史と文化 スポーツウェルネスの世界	<p>(概要) 本科目は、ゴルフ、ボウリングというポピュラーなスポーツを題材とし、これらへの興味・関心を高めることを通じて、生涯スポーツ実施への布石と成すことを意図している。各回の講義では主に板書・スライドを用い、これらの競技が成立するに至った文化背景、ルール変遷の歴史的経緯、著しい技術革新がもたらした道具の進化、そして日本への導入、普及状況など、主に歴史的・文化的側面からスポットを当て、様々な興味深いエピソードを交えつつ解説する。また、各回に学生同士のディスカッション、あるいは学生による意見発表などアクティブラーニングの要素を含める。</p>	
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	特別講義 グローバルリーダーシップ	<p>(概要) この授業ではサステナビリティをテーマに、佐賀県内の事例を中心として、専門家による講義や参与観察・体験を通して、今日的課題や可能性について学びます。海外の学生とのグループワークでは社会の持続可能性について学際的・国際的に調査・分析し、最終日にグループで集約した成果を発表します。また、異文化を持つ学生と共に意見を交換したり、協力して課題を取り組むことで、多分化環境下におけるリーダーシップ能力を高めます。</p>	集中
教養教育科目	基本教養科目	文化の分野	特別講義 囲碁	<p>(概要) 囲碁は昔から日本や中国などで広く親しまれてきた頭脳ゲームの一つですが、今日では、世界中に愛好者がいます。この授業では、日本棋院から派遣されたプロ棋士が、わかりやすく囲碁のルールを解説してくれます。対局の進め方、ルール、布石、中盤の戦い方、ヨセについて一通り学習した後、9路盤、13路盤、19路盤の順に、実戦形式で、対局を通して棋力の向上を目指します。第15回目の授業では、プロ棋士が13路盤で受講生全員と多面打ちで対局し、棋力認定をしてくれます（プロ棋士は合計2回出講）。</p>	共同
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	基礎社会科学 経済学	<p>(概要) 経済学の基礎的知識、経済問題のトピックの理解を目的とし、以下の項目を講義する。 1 経済学とは何か？ 2 統計数字の作成方法 (1) 3 統計数字の作成方法 (2) 4 指数について (1) 5 指数について (2) 6 人口に関するデータについて 7 雇用に関するデータについて 8 労働に関するデータについて 9 企業・経営に関するデータについて 10 金融政策と財政政策について 11 日本の経済政策について 12 格差論について 13 景気理論および関連データについて 14 貿易理論について 15 最近の経済トピックスと総まとめ</p>	

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	基礎社会科学	会計学	<p>(概要) 会計学の基礎知識の理解を目的としている。 税理士法人の協力のもと実務の立場から、会計学の基礎と会計の社会における役割について以下の内容の講義がなされる。</p> <p>①会計とは ②会計の種類 ③財務諸表 ④企業経営における会計の役割 ⑤財務諸表から読み取れるもの ⑥経営計画と会計 ⑦日本の租税制度 ⑧税務調査 ⑨医療機関における会計 ⑩新地方公会計における会計 ⑪環境問題と会計 ⑫新地方公会計の活用事例について ⑬中小企業のM&Aの実態 ⑭会計事務所の役割</p>	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	基礎社会科学	経営学	<p>(概要) 企業活動に伴う「カネ」、「ヒト」、「モノ」、「チエ」といった経営資源の分配・効率化に関する基礎的知識・理論を学ぶことを目的とし、以下の項目を講義する。</p> <p>①経営学とは？経営資源、企業の定義 ②株式の基本、財務活動 ③会計学と財務管理論の違い ④コーポレートガバナンス ⑤企業の再編 ⑥「ヒト」の面からみた株式会社 ⑦「モノ」の面からみた株式会社 ⑧「チエ（情報）」の面からみた株式会社 ⑨経営戦略と企業戦略の基本的な考え方 ⑩競争戦略の基本的な考え方 ⑪日本的経営</p>	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	基礎社会科学	法律学	<p>(概要) 現代社会を支える「法」の役割・機能を法学の観点から学ぶことを目的とし、以下の項目を講義する。</p> <p>1 身の回りの法的ルール 2 法解釈と法律制度の仕組み 3 司法制度の仕組み 4 公法と私法（1） 5 公法と私法（2） 6 私法の基本法としての民法の体系 7 民法の基本的制度の概要（1）能力制度と意思表示 8 民法の基本的制度の概要（2）不動産取引 9 民法の基本的制度の概要（3）金融取引 10 民法の基本的制度の概要（4）動産取引 11 救済法理としての損害賠償 民法と特別法 12 救済法理としての契約の取り消し 民法と特別法 13 環境問題と法 14 消費者被害と法 15 高齢者問題と法</p>	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	基礎社会科学 政治学	<p>(概要) 日本国憲法を法解釈学的観点からだけでなく、現代社会において日本国憲法の果たす役割と意義を具体的紛争事例を通して教授することを目的とする科目である。本科目は教職課程用科目でもある。 以下の項目を講義する。 ①立憲主義とは何か(立憲主義の発展と日本への影響) ②立憲主義と民主主義の対立(権力分立が動くとき:立法 v. s. 司法) ③現代社会における人権保障のしくみ(人権の主体と私人間効力の問題) ④憲法と公共性(自由と公共の福祉の対立, 公法私法二分論: プライバシーと名誉 v. s. 表現の自由の攻防) ⑤平和主義(憲法9条の解釈と平和的生存権の意義) ⑥法の下での平等(家族生活・社会生活における平等) ⑦国家と宗教(政教分離と良心の自由) ⑧医療と人権(自己決定権と医療倫理) ⑨子どもと人権(学校教育と子どもの自由) ⑩経済活動への規制(市場の自由とその調整) ⑪福祉国家の現在(自立と福祉をめぐる対立) ⑫人身の自由(手続的正義 v. s. 真実発見)</p>	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	基礎社会科学 日本国憲法	<p>(概要) 日本国憲法を法解釈学的観点からだけでなく、現代社会において日本国憲法の果たす役割と意義を具体的紛争事例を通して教授することを目的とする科目である。本科目は教職課程用科目でもある。 以下の項目を講義する。 ①立憲主義とは何か(立憲主義の発展と日本への影響) ②立憲主義と民主主義の対立(権力分立が動くとき:立法 v. s. 司法) ③現代社会における人権保障のしくみ(人権の主体と私人間効力の問題) ④憲法と公共性(自由と公共の福祉の対立, 公法私法二分論: プライバシーと名誉 v. s. 表現の自由の攻防) ⑤平和主義(憲法9条の解釈と平和的生存権の意義) ⑥法の下での平等(家族生活・社会生活における平等) ⑦国家と宗教(政教分離と良心の自由) ⑧医療と人権(自己決定権と医療倫理) ⑨子どもと人権(学校教育と子どもの自由) ⑩経済活動への規制(市場の自由とその調整) ⑪福祉国家の現在(自立と福祉をめぐる対立)</p>	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	基礎社会科学 社会思想史	<p>(概要) 現代社会のを客観的に認識するには、古今、洋の東西を問わず、社会の制度や秩序に対する考え方(社会思想)を知ることが有益である。代表的な社会思想や系譜を取り上げ現代社会を考えることを目的とする。 以下の項目を講義する。 ①授業概要説明-社会思想の「有用性」 ②明治維新を生み出した思想 ③文明開化から明治憲法まで ④大日本帝国の生成 ⑤大正デモクラシー ⑥「近代の超克」の波動 ⑦「戦後」のはじまり ⑧時代思想史まとめ ⑨刑法的思考法 ⑩民法的思考法 ⑪経済思想の変遷 ⑫国際法思想の影響 ⑬科学/技術思想の受容史 ⑭新聞・雑誌の社会的役割 ⑮諸文化の「日本化」</p>	

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	基礎社会科学	地理学	<p>(概要) 複雑化する現代社会において、人間の身近な生活世界をグローバルな視点で考える必要がある。「地理学」における主要なテーマである景観と環境と人間との関係について理解し、それらを保全する意味(主体的に行動するための基礎)を解説することを目的としている。主たる講義内容は次のとおりである。</p> <p>① 環境論Ⅰ：自然(生命)中心主義と人間中心主義 ② 地理的環境論：決定論と可能論、東洋的環境観としての風土論 ③ 環境と文化的景観の諸相：1) 北海道を開拓した佐賀藩士とアメリカ人 2) 近代化と日本のフロンティア 3) 先住民アイヌ問題、4) 世界の先住権回復運動とアイヌ民族 5) 札幌の都市プランと広域中心都市(福岡との比較において) 6) ミャンマー連邦の山岳少数民族と貧困問題 7) ミャンマー連邦・インレー湖の環境問題と国際開発援助 8) ミャンマー連邦・チン州の少数民族と国際開発援助 ④ 環境と文化的景観の保全・活用：環境・景観保全とNPO・NGOの世界</p>	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	基礎社会科学	Introduction to Sociology	<p>(英文) This course consists of the following two contents: (1) lectures on various aspects of sociological concepts, theories and methods to understand social groups, culture, social stratification and social institutions (2) group discussions on the given topics The intention of the course is to give the students basic sociological knowledge and opportunities to think about the relationship between society and the individual as well.</p> <p>(和訳) この授業は以下の2つの内容で構成されている： (1) 社会的グループ、文化、社会的成層、そして社会的関関を理解するための社会学的な概念、理論そして手法の様々な側面に関する講義 (2) 与えられたトピックに関するグループディスカッション この授業の開講意図は、学生に基礎的な社会学的知識を与え、そしてそれと同時に社会と個人との関係について考える機会を与えることにある。</p>	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	教育学	<p>(概要) 現代社会においてますます重要性を増す教育について教育学の観点から授業を行う。本科目は複数開講され、講義内容にバリエーションを持たせている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教育の研究課題」：教育学者が教育をめぐる人の営みに対して、どのような視座から、何を課題として、いかなる研究を行ってきたのか ・「教育の社会学」：教育の仕組みを作り上げる人の営みに関する社会学的な研究の系譜を整理しながら解説 ・「教員のための環境教育」：環境教育をテーマとする ・「大学での学び」 	

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	心理学A	<p>(概要)</p> <p>心理学の入門講義。心理学Aは、副題を「発達の心理学」とし、発達段階と発達の心理学を講ずる。誕生以前から看取りに至るまでを展望する。</p> <p>①発達の心理学を学ぶ意味 ②加齢に伴う変化としての「発達」 ③母性と愛着行動 ④ヒトのいのちのメカニズム ⑤誕生と家族／ホスピタリズムの教訓 ⑥乳幼児期の発達 ⑦新生児医療の黎明 ⑧思春期と自我（自己）—思春期 ⑨思春期と自我（自己）—アイデンティティ ⑩思春期の危機—摂食障害 ⑪人生の最長期としての大人 ⑫大人期と脳 ⑬成熟と老化 ⑭死の看取り ⑮発達とライフサイクル／ライフステージ</p>	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	心理学B	<p>(概要)</p> <p>心理学の入門講義。心理学Bは、副題を「人間と社会の心理学」とし、対人関係の社会心理学、認知の心理学、メンタルヘルスの心理学を講ずる。具体的には以下のような内容である。</p> <p>①人間と社会の心理学の対象 ②認知・認識および意味づけとゲシュタルト ③パーソナルスペースとタブーゾーン ④好意の成り立ち—物理的的近接性・性格的好感度・身体的魅力 ⑤好意の相互性、性格の相互性・性格の相補性・身体的興奮と好意感覚 ⑥印象形成（印象情報の順序・中核となる印象情報・視覚条件が与える印象） ⑦同調と服従—アッシュの同調実験 ⑧同調と服従—ミルグラムの服従実験 ⑨責任の拡散—社会的手抜き ⑩責任の拡散—社会的無関心 ⑪責任の収束（リーダーシップと遂行行動） ⑫援助専門職の過重労働—バーンアウト ⑬ストレスとメンタルヘルス—過労死と突然死 ⑭ストレスとメンタルヘルス—ストレスコーピング</p>	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	心理学C	<p>(概要)</p> <p>心理学の入門講義。心理学Cは、副題を「臨床心理学」とし、援助専門職に求められる臨床心理学の基礎について取り上げる。講義項目は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床心理学の歴史と研究対象 ・臨床心理学と心理査定 ・精神分析の理論と実践 ・行動療法の理論と実践 ・人間尊重の心理学の理論と実践 ・傾聴とカウンセリングの基本的態度 ・援助としての理解学および被尊重体験 ・カウンセリングの基本的技法 ・心理的援助の対象と場 	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考		
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	健康科学A	<p>(概要)</p> <p>現代はストレスの多い社会であり、かつ高齢化が著しく進んでいる社会である。長い人生を有意義に送るには、大学生の時代から、健康に関する正しい認識と知識を身につけておく必要がある。健康科学Aでは、心身の健康に関する様々な科学的な知識や体得すべき生活習慣について学び、健康の保持増進、健康的なライフスタイルの確立に対する理解を深めることを目的とする。具体的には以下のような内容を扱う。</p> <p>①保健管理センターの概要、健康管理について ②飲酒について ③喫煙について ④アレルギーについて ⑤メンタルヘルス、コミュニケーションについて ⑥感染症 ⑦食中毒 ⑧メンタルヘルス（デートDV等） ⑨性感染症 ⑩生活習慣病 ⑪食事と健康 ⑫運動と健康 ⑬救急蘇生法 ⑭睡眠について ⑮海外渡航と健康</p>	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	健康科学B	<p>(概要)</p> <p>一般的な病気について学習するとともに、日本の医療事情を知る。具体的講義内容は以下のとおりである（一部ゲストスピーカーを迎える）。</p> <p>①最大の急所—頭の構造と機能 ②命を護る身のこなし方（町田正直・全学教育機構） ③誰のためのメタボ健診？ ④さまよえる血圧 ⑤発がんリスク—タバコ、アスベスト、ピロリ菌 ⑥なぜ、アレルギーは増えたのか ⑦知らないで損をする口腔ケア（山下佳雄・医学部・歯科口腔外科） ⑧脳梗塞、心筋梗塞、エコノミー症候群—血栓症の恐怖 ⑨沈黙の臓器—肝臓 ⑩サイレントキラー—糖尿病 ⑪認知症との付き合い方 ⑫なぜ、うつ病が増えているのか ⑬心のストレス、体のストレス、細胞のストレス—実は同じメカニズム ⑭日本の医療は、素晴らしい？</p>	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	スポーツと健康	<p>(概要)</p> <p>本講義は、日々の生活の中で運動・スポーツを健康と関連させながら実践するための基本的能力の養成を目指す。初めの数回は講義形式で行い、昨今のスポーツと健康に関する知見について講義する。さらに、体育館やグラウンドで受講生が経験してきた運動・スポーツを行い、実際の運動・スポーツ活動がどの程度健康に貢献しているのかを検証する。後半は、受講生が経験したことのないスポーツを題材に、受講生が主体的になって新しいスポーツのルールや技能について学ぶ能力を養う。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野 教育と人間	障がい者支援論 (概要) 身体機能・知的発達障害を持つ重度障害児の中で、自身の身体を動かすことができない子供に対して、電動移動装置によるコミュニケーション方法などの獲得支援とテクニカルエイドによる発育支援により、これまで以上の発育を促進することができる可能性が、近年の研究で明らかになってきた。この考え方と子供の変化などについて、事例を紹介する。また、これまで支援してきた子供たちの動作を画像で観察することや実際の遊具やテクニカルエイドに触れて、使い方や教育方法について演習を行う。 (オムニバス方式/全15回) (155 松尾 清美/11回) 障害児の発達を促す様々な遊具や機具（移動機器や移乗機器を中心として、生活支援機具）の考え方と使い方、そして生活や人生の構築方法と家族の支援方法を講義と演習。 (245 井手 将文/4回) 発達を促す様々な機具（入力器具やゲーム関連器具、コミュニケーション機器、意志疎通機具など）の講義と演習。	オムニバス方式
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野 教育と人間	Citizenship Education (概要) グローバルな視点をもった市民を目指して、今日、世界が抱える問題に目を向け、自ら課題を発見し、それに対して様々な角度から議論を深め、課題解決のための提案など、全て英語で行うことができることを目標としている。それぞれのテーマに関して、英語を全て媒体として、グローバルな視点から理解し、問題点を考察し、レポートを作成し、最終的にはクラス全体でディスカッションによって深める。テーマに関しての理解を通して、課題発見、課題解決能力、そして、それらの内容を英語で理解し、論理的に表現できる英語力の習得を目指す。取り上げるテーマは、1) 言語、異文化理解、2) ジェンダー、3) 環境、4) 安全保障、5) 人口増加、6) 経済 である。 講義は主として英語で行われ、課題も全て英語によるもので、中級以上の英語力が要求される。講義科目ではあるが、英語運用能力も併せて育成するためにアクティブラーニングを取り入れる。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野 教育と人間	Life in the Global World (英文) The course is focused on studying global and social issues that face humanity in the world today. Studies will focus on understanding what it means to be a global citizen and what will be required to live responsibly and actively in the 21st century. Students will explore and study the concept of global citizenship through a variety of issues that affect the development and maintenance of a healthy global society. Learning contents that will support the development of global citizenship include: English as an international language, intercultural communication and the development of digital literacy. (和訳) この授業は今日の社会において人類が直面するグローバルな、そして社会的な問題についての学習に重点を置いている。本授業における学習は、世界市民であることの意義と21世紀において責任を持ち、かつ活動的に生活するために必要となるものを理解することに重点を置いている。学生は健全なグローバル社会の発展と維持に影響を与える多様な問題を通じて、グローバル市民の概念を探求し、学習する。グローバル市民権の発展の支援を行う学習内容は、国際語としての英語、異文化コミュニケーション、そしてデジタルリテラシーを含む。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野 教育と人間	情報メディアと倫理 (概要) ユビキタス情報社会の基盤を形成していくためには、情報技術に関する知識だけでなく、情報倫理、道徳規律、法律の知識が必要となる。本講義の目的は、情報社会に適合できる人間育成するため、情報化社会における倫理観、その中での行動規範、知的所有権、プライバシーの尊重といった考えを身に付けることにある。	

科目区分		授業科目の名称		講義等の内容	備考
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	身体表現入門 (概要) 一般教養として、またデジタル表現分野の基礎教養として必要な身体表現に関する様々なアプローチを体験する。 ①「身体で感じよう」：言葉に頼らないコミュニケーションを遊びながら体験 ②「伝わる身体 ～自分の体・他人の体～」：ラバン身体動作表現理論などに基づき自分の身体の動かし方を分析 ③「挑戦！身体で演じる無声映画の世界」：身体で演じるコメディを紹介。 ④「ショートストーリーを創って発表」	集中
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	シナリオ入門 (概要) シナリオ制作に関する基本的な知識や技術の説明と演習を組み合わせて行う、eラーニングを用いたブレンディッド授業。 1. システム思考とデザイン思考の概念 2. インストラクショナルデザインの手法 3. シナリオ作成の意義と役割 4. シナリオの歴史と活用例 5. シナリオの書き方 6. シナリオ作成の演習1 7. シナリオ作成の演習2 8. シナリオの発表と評価 9. 問題解決のための手法としてのシナリオ作成 10. 問題の発見 11. 問題解決の手順 12. シナリオ分析 13. シナリオ作成 14. シナリオ設計の効果 15. シナリオ設計の評価	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	心の病と癒しのプロセス (概要) うつ病や統合失調症、アディクション、不登校、発達障害、人間関係の問題などの心の病や心の問題について、共感的な理解を促すため、できる限り具体的に解説していく。各回、資料を用いる。個人が特定されないようデフォルメされた典型的な事例や、映画などの作品を具体例として採り上げながら、心の病や問題に関する基本的な知識や、痛みを抱えた心が回復していくプロセスについて解説。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	教育と人間	心身の発達過程 (概要) 生涯発達という昨今の視点から、心身の成長や変化のプロセスを各年齢区分で整理し、発達に関する正しい知識に基づいた理解の視座を獲得することを目的とする。取り上げる項目はおおよそ以下の通り。 ①発達のモデル1 交互作用発達モデルなど ②発達のモデル2 フロイトとエリクソンの発達段階 ③乳幼児期の発達1—社会的コミュニケーション行動の発達 ④乳幼児期の発達2—運動・認知・言葉の発達と親のかかわり ⑤幼児期の発達—保育園における成長・遊びの発達 ⑥乳時期から幼児期におこりうる発達の諸問題 ⑦学童期の発達とメンタルヘルス ⑧思春期の発達とメンタルヘルス ⑨学童期から思春期におこりうる発達の諸問題 ⑩適応行動の発達の変遷 ⑪大学生の発達—モラトリアムの勧め ⑫成人期の発達—社会人・家庭人としての課題とメンタルヘルス ⑬老年期の発達—終の作業・対象喪失	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の諸相	ジャーナリズムの現在 (概要) 佐賀新聞社の協力による開講科目。新聞を媒体としたジャーナリズムの実際について理解を深めるとともに、その将展望を考える。講師は、佐賀新聞社員、報道の最前線にいる記者、紙面のレイアウトを担当する整理部記者をはじめとする編集部門だけでなく、広告、事業、販売のほか、ウェブ・携帯速報、テレビタカなど新聞社のクロスメディア担当らキャップクラスと若手を中心に選び、それぞれ現場の雰囲気やスライド・紙面・実習等を用いて伝える。なお、講義は授業計画にも示すように、複数名の佐賀新聞社社員で担当するオムニバス形式の授業である。	

科目区分		授業科目の名称		講義等の内容	備考
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の諸相	アジアコミュニティ論 (概要) ワンアジア財団の寄付により、学内外・海外から14人の著名講師陣を招き、アジア、とりわけ東アジアを中心に、社会経済、安全、文化等、多面的にアジアの「共生・協働」を模索する。現代の世界は、グローバル化が進む一方で、「地域の平和と繁栄」を理念とした地域共同体の形成が求められている。そのモデルとなっているEUの動向を含めて、アジア各国の現状等を検討しながら、地域コミュニティとしての東アジア共同体構想について、その可能性と課題を検討する。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の諸相	知的財産学 (概要) 現在、インターネットを通じてさまざまな情報を一瞬にして世界中の不特定の人々に対し、個人の知的活動の成果を発信することができるようになってきている。他方、個人の不注意が大変な事態をひきおこしかつ後始末が個人の能力を超えてしまう時代でもある。本講義は、知的財産のエキスパートである、寺本振透弁護士を招き、知的財産に関する法律をその発生原理から解説してもらい、実務で役立つことを目的としている。 ①知的財産の価値を認識しよう ②法制度を眺めてみよう ③巨人の肩に乗って ④自分の創作物を守ろう ⑤守りをかためよう ⑥他人の創作物を尊重しよう ⑦他人の権利の侵害をさけるために ⑧権利行使に対する防御 ⑨権利行使の限界 ⑩肥大化する著作権法 ⑪さまざまな権利による知的財産の保護 ⑫知的財産を経済的に利用してみよう ⑬国境を越えて知的財産を利用してみよう	ネット授業
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の諸相	環境科学Ⅰ (概要) 我が国の環境保全の取組についての知識を、習得し、環境マインドを醸成する。 講義は、教科書を元に行い、関連するトピックを紹介するとともに、グループワークなどの演習を取り入れ、多角的に行う。 また、資料提示等はeラーニングを活用して行う。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の諸相	環境科学Ⅲ (概要) 持続可能な社会の形成に向けた一つのテーマである「3R」および「低炭素社会」に関する理論、手法および取組事例など、将来の社会人として知っておくべき知識等の範囲を紹介する。テキストに沿って、板書による重要事項の解説と、小テストによる知識定着の度合いを確認する。また、グループワーク等アクティブラーニングにより、身につけた知識の実践性を検証する。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の諸相	環境会計 (概要) 企業は、環境保全活動を効率的、効果的に実施していくために環境マネジメントシステムを構築しており、その活動のコストや効果を認識、測定、伝達する必要がある。本講義は、環境会計をおとして、環境マネジメントシステムや環境経営を理解することを目的とし、環境会計の理論および手法、環境マネジメントシステム、環境経営を学ぶ。 1 環境会計の概要 2 環境保全活動と環境マネジメントシステム 3 企業等の環境報告とは 4 環境報告ガイドライン 5 環境会計のフレームワーク 6 環境会計ガイドライン 7 マテリアルフローコスト会計 8 グループワーク：企業の環境報告書の調査・分析 9 グループワーク：企業の環境報告書の発表 10 グループワーク：佐賀大学の環境報告書の調査・分析 11 グループワーク：佐賀大学の環境報告書の発表 12 グループワーク：佐賀大学の環境改善の調査 13 グループワーク：佐賀大学の環境改善の分析 14 グループワーク：佐賀大学の環境改善の発表 15 環境会計のまとめ	

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の諸相	高齢者・障がい者の生活・就労支援概論	(概要) この科目は、高齢者、障がい者（児）の自立した生活を実現するための総合的・学際的な支援の理論と実践法についての理解を目的とし、従来の社会福祉学的なアプローチのみならず、医学的、工学的アプローチを多く取り入れた医文理解融合科目である。 このような知識や技術の習得は、将来の専門教育において、様々な場面での展開が期待できる。	
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の諸相	高齢者・障がい者就労支援の諸理論	(概要) 3日間の集中講義であり、初日は就労支援の基礎知識、2日目は精神障害、うつ、発達障害等今日的障がい課題に対するアプローチについて、最終日は障害者雇用の実態と就労支援の現状、地域ネットワークの役割について解説する。	集中
教養教育科目	基本教養科目	現代社会の分野	現代社会の諸相	インストラクショナル・デザイン	(概要) 学校などで行われている授業設計を目的としたインストラクショナル・デザインを講義する。インストラクショナル・デザインを学ぶ上での基礎を学んだ後、ニーズ分析、タスク分析、学習目標分析、ICTの活用、メディア分析などについて学ぶ。オンライン学習のみの完全なeラーニング形式の授業である。	ネット授業
教養教育科目	基本教養科目	総合科目		海外交流実習	(概要) 本学が交流協定を締結している大学等を訪問し、学生との交流、授業見学、自主課題調査、現地視察、海外で活躍する日本人との交流等を行います。 (実習プログラム) 韓国 大邱大学校 オーストラリア シドニー工科大学 タイ チェンマイ大学 ドイツ ミュンヘン大学 香港 香港中文大学	
教養教育科目	基本教養科目	総合科目		キャリアデザイン	(概要) この講義の目的は、将来、自らキャリアをデザインしていく上で指針となるような、知識とスキルを身に付ける事である。 講義の中盤では、多様なキャリアのゲスト（佐賀大学卒業生）を招聘し、異なる職種におけるキャリア形成のモデルを示す。 講義の後半は、学習してきたことやゲストの講話を参考に、自らの強みと将来のキャリアビジョンを考察し、実践計画を立てる。 この講義を通じて、自分自身で納得のいくキャリアをデザインしていくことができる人材となることを期待する。	
教養教育科目	基本教養科目	総合科目		佐賀版キャリアデザイン	(概要) この授業の目的は、多彩なゲストによる講話を通じて、佐賀の魅力、地方の魅力、地域における多様な働き方の情報を提供することである。授業の前半は、佐賀を中心として、地方で暮らし、働くことの意義を考察することを中心とする。授業の後半は、佐賀における多様な働き方を学ぶことを中心とする。授業の中盤と最終回で、ワールドカフェ形式のディスカッションを行い、受講生同士の意見交換からより深い理解と気づきを促す。	
教養教育科目	基本教養科目	総合科目		グループワークの技法と実践	(概要) 授業では、ワークショップを通して、グループでの話し合いや会議等を進行する際に必要なファシリテーションの技法と考え方を実践的に習得します。また、同時に人材育成を目的としたワークショップを自らデザインします。（ワークショップとは、参加者が持つ既知を共有しながら新たな知を想像する場やその手法のことです。そのため、参加者の主体性が非常に重要な要素となります。）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	基本教養科目	総合科目 データサイエンスへの招待	(概要) 今の社会は、ビッグデータという言葉に象徴されるように、ビジネス、医療、教育、農業、工業など様々な分野で大量かつ多様なデータが得られるようになってきた。そのため、このデータを新しい資源ととらえ、データに基づいて様々な問題を解決していく能力、「データサイエンス力」を備えた人材があらゆる分野で求められている。本講義では、データサイエンスの入り口として、政府機関や自治体などが公開しているデータなどの入手方法やそこから有用な情報を取り出す方法について解説するとともに、実際にパソコンを使ってデータ分析の演習を行う。そして、分析結果に基づき、課題に対する解決策の提案を履修者と共に作成する。	
教養教育科目	基本教養科目	総合科目 チャレンジ・インターンシップA	(概要) 企業・NPO等でのインターンシップを集中で実施する。事前学習、事後学習を含めて、1週間程度の研修を行う。受け入れ先企業・NPO等については、募集説明会で案内する。	集中・共同
教養教育科目	基本教養科目	総合科目 チャレンジ・インターンシップB	(概要) 企業・NPO等でのインターンシップを集中で実施する。事前学習、事後学習を含めて、2週間程度の研修を行う。受け入れ先企業・NPO等については、募集説明会で案内する。	集中・共同
教養教育科目	基本教養科目	外国人留学生用科目 日本事情－自然科学と技術	(概要) 本講義は、外国人留学生を対象に、日本語をもって行います。講義では、主に新聞や雑誌などの記事を用いて、日本に関係する自然科学と技術について考えます。講義における解説とともに、受講生に発言や討議を求めます。	
教養教育科目	基本教養科目	外国人留学生用科目 日本事情－文化	(概要) この講義は、外国人留学生が日本の歴史を学ぶための授業です。約2,000年前からの日本の歴史について、政治や文化の流れを中心とした講義を行います。特に、武士による政治が行われた時代を重点的に取りあげます。 また、大学の周囲に残っている中世や近世の文化財を見学に行き、日本文化の特徴について実物と接しながら学んでいきます。 授業は日本語で進めます。日本史の講義なので漢字を多く使います。ですから、語学の勉強にも励んでおいてください。講義の中で受講者に質問をしたり、意見を求めることがあります。また、受講者の勉強の進み具合を見た上で、日本の歴史に関する小さな課題を与えますので、各自（あるいはグループ）で調べて、その結果を授業の中で発表してもらいます。	
教養教育科目	基本教養科目	外国人留学生用科目 日本事情－現代社会	(概要) 本講義は、外国人留学生を対象に、日本語をもって行います。講義では、第2次世界大戦前後の日本社会において、教育・経済・社会がいかなる発展の過程を歩んできたのかを主な対象とします。特に、世界のグローバル化が日本を含めた東アジア諸国の教育・経済・社会にもたらした影響について、履修生のみなさんとのディスカッションを通して考察します。講義では、ポータルシステムにスライド資料等を事前に登録しておきますので、講義前に資料をよく読んでおいてください。ディスカッションは資料の理解を前提に進めます。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	インターフェイス科目	環境コース	機械工学と環境 I	<p>(概要)</p> <p>21世紀の国際的な緊急課題の一つであるエネルギーと環境問題を取り上げ、最新の現状と展望とともに、その本質および考え方について教授する。また、佐賀大学で行われているエネルギーと環境に関する最先端の研究内容について詳細に概説する。特に、エネルギーの歴史と21世紀の課題、自然エネルギーの開発の現状、資源リサイクルと社会問題などについて行う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(117 池上 康之／5回)</p> <p>エネルギー問題の現状と将来</p> <p>(188 今井 康貴／5回)</p> <p>環境問題とエネルギー問題について</p> <p>(63 永田 修一／5回)</p> <p>自然エネルギーの利用技術の現状と将来展望</p>	オムニバス方式
				<p>(概要)</p> <p>機械設計および機械加工は、自動車を代表とするいわゆる“機械”を生み出す基盤技術となる。本科目では、機械設計・機械加工の基本理論と緒現象について詳述するとともに、近年の環境問題への取組み、技術動向について説明する。本講義はオムニバス形式となり、各教員の専門分野およびその周辺分野に関する内容を扱う。授業を通じて、機械設計・加工にかかわる技術や機器についての理解を深め、設計生産技術と環境の関わりについての知識を習得するとともに、各教員が与えた課題について調査・検討を行い、小論文・レポートとしてまとめ提出する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(224 長谷川 裕之／4回)</p> <p>授業概要説明・機構学の基礎、環境と機構学</p> <p>(89 張 波／4回)</p> <p>機械設計の基礎、環境と機械設計</p> <p>(205 大島 史洋／4回)</p> <p>歯車設計・歯切り加工の基礎、環境と歯車設計</p> <p>(181 馬渡 俊文／3回)</p> <p>トライボロジーの基礎、環境とトライボロジー</p>	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養教育科目	インターフェイス科目	環境コース	機械工学と環境	<p>機械工学と環境 III</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「機械工学と環境 III (流れと環境)」 <p>本講義においては、医工学に関連した流体の基礎と流体機器への応用、流体機械(タービン、ポンプ、ファン、医療用マイクロポンプ等)や自然エネルギーを利用した機器、数値シミュレーションの工学分野での応用、蒸気タービン、翼周り、冷凍サイクルのエジェクターなどで生ずる圧縮性を伴う流動場や関連した流体現象について説明する。また、流体利用技術の現状と将来展望について解説するとともに最先端の研究内容について概説する。さらに、小テストの実施やミニレポートの作成を通して流れと環境について理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「機械工学と環境 III (流れと環境)」 <p>(216 橋本 時忠/5回) 医工学における流体機器の基礎と応用 (211 住 隆博/5回) 数値シミュレーションの基礎と応用 (179 塩見 憲正/5回) 自然エネルギーを利用した流体機械の基礎と応用</p> <p>---</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「機械工学と環境 III (材料と環境)」 <p>本講義では、金属を中心とした機械材料の基礎について概説するとともに、その関連技術および環境問題との関連について学習する。これを通じて、現代の工学・工業における機械材料と環境および人間の生活とのかかわりについて理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「機械工学と環境 III (材料と環境)」 <p>(230 武富 紳也/5回) 機械材料の構造と力学特性、環境問題を考慮した多様なスケールからの材料評価 (217 森田 繁樹/5回) 機械材料の環境影響評価(LCA: ライフサイクルアセスメント)、特殊/過酷環境下での機械材料の特性と設計 (228 只野 裕一/5回) 機械材料と環境との関わり、環境問題を考慮した材料評価へのアプローチ</p>	オムニバス方式2コマ開講

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考				
教養教育科目	インターフェイス科目	環境コース	機械工学と環境 機械工学と環境 IV	<p>(概要)</p> <p>・「機械工学と環境 IV (熱エネルギーと環境)」 熱工学の基礎, 伝熱とエネルギー変換, エネルギー利用と様々なエネルギー機器について講義する。また, エネルギー環境問題とその対策技術について調査させ, 数名のグループ毎にプレゼンテーションを実施する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>・「機械工学と環境 IV (熱エネルギーと環境)」 (261 石田 賢治/3回) 熱工学の基礎, (234 仮屋 圭史/3回) 伝熱とエネルギー変換 (192 有馬 博史/3回) エネルギー利用と様々なエネルギー機器 (261 石田 賢治/2回) エネルギー・環境問題とその対策技術, 調査の準備 (261 石田 賢治, 192 有馬 博史, 234 仮屋 圭史/4回) (共同) 調査のまとめとプレゼンテーション準備(グループ毎), 調査結果のプレゼンテーション(グループ毎)</p> <p>---</p> <p>(概要)</p> <p>・「機械工学と環境 IV (環境計測及び制御)」 Arduinoに代表されるマイクロコントローラを用いて, 我々をとりまく環境情報の一部を自動的に取得し, PCと通信し, 判断し, 動作をする簡単なシステムを構築する。「何をつくるかを考える」のではなく, 「作りながら考えてものを作る」プロセスを体験することを考えている。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>・「機械工学と環境 IV (環境計測及び制御)」 (93 寺本 顕武/3回) マイクロコントローラ, Arduinoの基礎, 電子回路初歩 (189 カン エムテイ タウヒトル イスラム/3回) 開発環境の構築, Arduinoスケッチ (定数, 変数, 型, 関数, 繰り返し, 条件分岐) (99 上野 直広/3回) 外部回路Fritzingで回路設計, デジタル入出力, アナログ入出力 (85 辻村 健/3回) 入力信号に基づきarduinoに意図した動作をさせる。arduinoに意図した動作をさせて結果を外部出力。両者を組み合わせる。 (93 寺本 顕武, 85 辻村 健, 99 上野 直広, 189 カン エムテイ タウヒトル イスラム/3回) (共同) arduinoを用いた簡単なシステムを自ら設計し製作。プレゼンテーションの準備。プレゼンテーション。</p>	オムニバス方式・共同 (一部) 2コマ開講				
				教養教育科目	インターフェイス科目	環境コース	電気電子工学と環境 I	<p>(概要)</p> <p>世界のエネルギー事情が抱える問題, 環境汚染問題などが電気電子工学の技術とどのように関わっているか, あるいはそれらの問題の解決にどのようにアプローチできるか, 歴史的な流れから最近の話題までを講義する。また, 電気電子工学の基礎的技術を実験を織り交ぜながら解説する。また, 班分けを行い, 班ごとに本科目に関連することについて調査をし, プレゼンテーションを実施させる。</p>	
				教養教育科目	インターフェイス科目	環境コース	電気電子工学と環境 II	<p>(概要)</p> <p>電磁工学の基礎についてマックスウェルの方程式を用いて概説するとともに, その関連技術および電気機器や磁気シールドルームなどの応用例について講義する。さらに, 電磁工学とCO2削減や人体への影響などの環境問題との関連について講義する。また, 班分けを行い, 班ごとに, 環境問題の観点から電磁工学の問題点及び対策技術について調査し, プレゼンテーションを実施させる。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	インターフェイス科目 環境コース	電気電子工学と環境 電気電子工学と環境Ⅲ	(概要) プラズマエレクトロニクスの基礎及びその関連技術および環境問題との関連について解説する。班分けを行い、班毎にプラズマエレクトロニクスに関する環境問題やその対策技術に関するグループ調査を行い、プレゼンテーションを実施させ、プラズマエレクトロニクスと環境との関わりについて理解させる。	
教養教育科目	インターフェイス科目 環境コース	電気電子工学と環境 電気電子工学と環境Ⅳ	(概要) 携帯電話に代表されるようなワイヤレス通信の普及と生活環境との関連について講義を行う。また、学生は少人数の班に分かれて、ワイヤレス通信の現状と将来について調べ、それと電磁波環境との関連を議論する。さらには、その結果をまとめてプレゼンテーションを実施する。	
教養教育科目	インターフェイス科目 環境コース	有明海学 有明海学Ⅰ	(概要) 佐賀大学がある佐賀市は、広大な干潟があり、独特の生き物が生息する有明海に面している。この海の自然とそこに生きる人の暮らし、そして今起きている環境問題について概観する。 (オムニバス方式／全15回) (29 速水 祐一／5回, うち2回は共同) 干潟とエスチュアリーを概説し、干潟の体験学習を行う。 (43 阿南 光政/4回, うち2回は共同) 波と潮汐, 集水域がもたらす有明海への影響について講義する。 (34 郡山 益実/4回, うち2回は共同) 干潟の底泥環境について講義する。 (51 木村 圭/4回, うち2回共同) 有明海の植物プランクトンや基礎生産について講義する。 (79 五十嵐 勉/2回) 干潟文化や里海の形成について講義する。 (86 檜澤 秀木/2回) 諫早湾干拓問題と法制度について講義する。	オムニバス方式・共同(一部)
教養教育科目	インターフェイス科目 環境コース	有明海学 有明海学Ⅱ	(概要) 干潟は、希少な生き物が生息している場であるとともに、私たちに生活や安らぎを与える場でもある。この講義では、座学より干潟の生態系や環境に関する基礎知識を概説する。そして、佐賀市の東よか干潟をフィールドに生態環境実習、野鳥の観察会、学生実験のグループワークを行い、干潟の環境やエコシステムに関する基礎知識の理解の促進に繋がると同時に、干潟の保全やワイズユースについて主体的に考え、議論する力を身に付ける。	
教養教育科目	インターフェイス科目 環境コース	有明海学 有明海学Ⅲ	(概要) 有明海を対象に、沿岸海域の物理学、生物学の基礎について講義と野外実習を行った後、沿岸海域の環境問題や水産業について講義する。野外実習では、有明海に船で出て、海洋観測実習を行い、プランクトンや底生生物の採集、観察を行う。 (オムニバス方式／全15回) (29 速水 祐一／9回, そのうち2回は共同) 有明海の地形、歴史、流動特性、水環境の問題について講義する。 (51 木村 圭/7回, そのうち2回は共同) 有明海のノリ、生物生産構造、植物プランクトンについて講義する。 (43 阿南 光政/3回, そのうち2回は共同) 有明海の濁りについて講義する。 (34 郡山 益実/2回) (共同) 有明海の海洋観測実習を行う。	オムニバス方式・共同(一部)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	インターフェイスク目	環境コース 有明海学	有明海学Ⅳ	(概要) 有明海学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの講義で修得した基礎知識を基盤に、有明海と干潟をフィールドにした応用的な修了研究を行う。担当教員5名による自然科学系と人文社会系のグループ研究を後学期を通して行い、その成果を発表会においてプレゼンし、報告書に取りまとめる。グループ研究により、地域課題である有明海の保全とワイズユースに関する学生の理解の促進と主体的な課題解決への取り組みを図る。それと同時に、成果発表を行うことにより、プレゼン資料の作成方法、構成、発表技法の修得を図る。	共同
教養教育科目	インターフェイスク目	環境コース 地域環境の保全と市民社会	地域環境の保全と市民社会Ⅰ	(概要) 環境に関連した様々な問題を身の回りの話題から考え、科学技術、地域、経済、政治など社会全体の変化と対応させる。メディアを通して得られる環境に関する知識は断片的であり、時には誤っている場合もあるので、これらを科学的考察に基づいて精査し、相互に関連づける。環境問題についての“正しい”知識を得るための方法を学ぶ。これまでのライフスタイルを「自然と共生する」ことに主眼をおいて考え直す契機とする。	共同
教養教育科目	インターフェイスク目	環境コース 地域環境の保全と市民社会	地域環境の保全と市民社会Ⅱ	(概要) (A)市民と共に身近な環境問題について調査研究し、佐賀市の環境施策や佐賀大学の環境研究と関連づける。 (B)一線で活躍する環境活動グループの活動に参加し、その実情を体験し、その意義を知る。 アクティブラーニングを実施する。	共同
教養教育科目	インターフェイスク目	環境コース 地域環境の保全と市民社会	地域環境の保全と市民社会Ⅲ	(概要) 佐賀のローカルな環境問題としての里山の保全と活用について考える。里山保全活動を担う市民・NPO等との協働による協同学習(グループ研究)を実施する。 (オムニバス方式/全15回) (79 五十嵐 勉/13回) 里山イニシアティブおよび里山資本主義について講義し(1~3)、協同学習(グループ研究)を指導および報告会での発表を指導する(6~15)。 (27 藤村 美穂/2回) 里山の形成および里山保全の担い手、農山村の課題等について講義する(4~5)。	オムニバス方式
教養教育科目	インターフェイスク目	環境コース 地域環境の保全と市民社会	地域環境の保全と市民社会Ⅳ	(概要) 佐賀のローカルな環境問題としての里山の保全と活用について考える。里山保全活動を担う市民・NPO等との協働による協同学習(グループ研究)を実施する。協同学習は、佐賀県内において実施する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	インターフェース科目 文化と共生コース	芸術創造	芸術創造Ⅰ (概要) 芸術入門のインターフェース科目として音楽の領域に触れる。芸術創造を選択した学生は全員受講しなくてはならない。 音楽の理論を作曲の視点から、音楽史の時代区分に沿って実作品を鑑賞しながら分析することにより学ばせる。特に現代的な様々な課題を反映していると思われる20世紀音楽について詳しく講義する。音楽の基礎的な理論を学び、基本的な歴史を理解しながら、その様式の変遷を概観することによって多様な芸術文化と価値観や現代的な課題を探る。	
教養教育科目	インターフェース科目 文化と共生コース	芸術創造	芸術創造Ⅱ (概要) 芸術入門のインターフェース科目として美術・工芸の各領域に触れる。芸術創造を選択した学生は全員受講しなくてはならない。前半は最大公約数的な立場からデザインについての講義と演習。6回目と12回目の週で佐賀大学美術館での鑑賞実習も実施。後半は美術・工芸領域の歴史や理論を、各分野の教員から作品や地域の特性を交えながら講義する。 (オムニバス方式/全15回) (73 荒木 博申/10回) デザインの世界の基本的な考え方を理解し、演習を通してそれを具現化・体感する。佐賀大学美術館見学を2回行う。 (219 小木曾 誠(西洋画)), (145 徳安 和博(彫刻)), (233 井川 健(漆芸)), (110 柳 健司(ミクストメディア)), (285 鳥谷 さやか(染色工芸))/各1回交代) 美術・工芸の多様な芸術文化と価値観を理解し、それらの違いや共通点、地域(佐賀県)の特徴などを講義する。	オムニバス方式
教養教育科目	インターフェース科目 文化と共生コース	芸術創造	芸術創造Ⅲ (授業概要: 音楽選択者) 声楽の個人レッスンを行い、実技課題に取り組む。基礎的、基本的な技法の学習と併せて、受講者が独自に試行錯誤を重ねることにより、各人の芸術観の再構築につながる課題発見、課題解決の道を探る。 (140 板橋 江利也/全15回) (授業概要: 美術選択者) 絵画(西洋画)制作、木工芸制作、彫刻制作をそれぞれ5コマずつオムニバス方式で行い、それぞれの実技課題に取り組む。基本的な技法の学習と併せて、受講者が独自に試行錯誤を重ねることにより、各人の芸術観の再構築につながる課題発見、課題解決の道を探る。 (オムニバス方式/全15回) (219 小木曾 誠/5回) 絵画制作 (233 井川 健/5回) 木材工芸制作 (145 徳安 和博/5回) 彫刻制作	単独及びオムニバス方式の2コマ開講
教養教育科目	インターフェース科目 文化と共生コース	芸術創造	芸術創造Ⅳ (授業概要: 音楽選択者) 指揮の個人レッスンを行い、実技課題に取り組む。基礎的、基本的な技法の学習と併せて、受講者が独自に試行錯誤を重ねることにより、各人の芸術観の再構築につながる課題発見、課題解決の道を探る。 (128 今井 治人/全15回) (授業概要: 美術選択者) 染色工芸制作を10コマ、ミクストメディア制作を5コマオムニバス方式で行い、それぞれの実技課題に取り組む。基本的な技法の学習と併せて、受講者が独自に試行錯誤を重ねることにより、各人の芸術観の再構築につながる課題発見、課題解決の道を探る。 (オムニバス方式/全15回) (285 鳥谷 さやか/10回) 染色工芸制作 (110 柳 健司/5回) ミクストメディア制作	単独及びオムニバス方式の2コマ開講

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	インターフェェイス科目 文化と共生コース	異文化交流	異文化交流Ⅰ (概要) 副題：「身近な異文化に触れる」 この授業では、「異文化」というものについて自身の経験を題材として、他者との対話を通して学びます。 前半は、「身近な異文化」として自分自身の価値観を明確にし、その背景にある経験について対話を通して他者と共有します。中盤では、「異文化」を受け入れることについて、その必要性や受け入れ方などをワークショップ形式で学びます。後半では、授業のまとめとして、授業での学びを発表します。	
教養教育科目	インターフェェイス科目 文化と共生コース	異文化交流	異文化交流Ⅱ (概要) 学外研修（熊本の大観峰見学、小城の酒蔵・和菓子屋見学）や交流授業において、日本や佐賀の文化、事情、人々のあり方を留学生に説明する。留学生の出身地の文化、事情、人々のあり方について知りたいことを見つけ、留学生にインタビューして、海外のそれらについて知り、理解し、口頭発表をする。学外研修地は、変更されることもある。 (オムニバス方式／全15回) 学外見学2回（授業2回に相当）は二人で引率する。 (166 古賀 弘毅／7回) 1回：自己紹介を口頭で、英語で行う。学生が英語でまとめ、教師が添削する。6回：うち3回は口頭での留学生とのペア発表で、3回はその準備。トピックと4つの質問を教師と議論して、アンケート質問を作る。学生は、インタビューし、その報告を英語と日本語でする。 (169 丹羽 順子／6回) うち3回は口頭での留学生とのペア発表で、3回はその準備。トピックと4つの質問を教師と議論して、アンケート質問を作る。学生は、インタビューし、その報告を英語と日本語でする。	オムニバス方式・共同（一部）
教養教育科目	インターフェェイス科目 文化と共生コース	異文化交流	異文化交流Ⅲ (概要) この授業ではサービス・ラーニング活動を通じて、佐賀の中山間地域（佐賀市三瀬村）のまちづくりに参加し、地域社会の現状や課題、可能性を理解します。今年は「教育とまちづくり」というテーマで、山間部の小中学校や公民館で活動します。地域の人々との協働を通して、諸問題の解決に向けた新しい視点や解決方法を探ります。受講者は受け入れ先となる地域コミュニティや活動についての基礎知識、社会貢献活動を行う上での心構え、振り返りの方法などについて講義を通して学びます。その後、実際にコミュニティにおいて、地域住民・留学生・日本人学生が協力をして活動を行います。現地で発見した問題点や課題をグループで検討し、中山間地域のまちづくりについて提案します。	
教養教育科目	インターフェェイス科目 文化と共生コース	異文化交流	異文化交流Ⅳ (概要) 科目名：Field methods in linguistics `言語学における野外調査法` 本科目は、地域の言語、方言（佐賀の方言も可能）の文や句の研究の入門である。教師の言語の文法型の研究の発表を聞いて、それに従って、学生は、ペアで10分程度の自分たちの分析言語の文法型を素描する発表を口頭で行う。ペア発表の回数は、全部で7回。分析する文法型は簡単なもので、1) 主語一動詞、2) 主語一動詞一目的語、3) 前・後置詞句、4) 位置格句、5) 時制（現在、過去）、6) 繫辞（英語のbe 動詞）一述語名詞・述語形容詞である。7番目の発表（最後の発表）は、各学生が行い、その分析言語での自己紹介である。 口頭発表の資料を作成するとき、学生はペアで言語の母語話者（例、留学生）から言語に関する情報提供を受け、その言語の文法を研究する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	インターフェイス科目	文化と共生コース	Intercultural Communication I	<p>(英文)</p> <p>This is a practical course focused on developing intercultural communication and understanding in English. The course will focus on the study of culture and conflict, using practical examples. To encourage and support learners' knowledge and understanding of the cultures of the world, thereby means strengthening their cultural intelligence. Upon course completion, students are expected to have a better understanding of the world around them and be more culturally sensitive, as well as to function better in English communication.</p> <p>(和訳)</p> <p>この授業は、英語による異文化間コミュニケーションと理解の発展に重点を置いた授業である。また、この授業は実践的な例を用いながら、文化と衝突の学習に焦点を置いている。世界の諸文化についての学習者の知識と理解を支援することは、すなわち学生の異文化適応能力（CQ）を強化することに繋がる。この授業の履修により、学生は英語コミュニケーション能力を向上させると同時に、自分たちの周りの社会をよりよく理解し、そしてより文化的に敏感になることが期待される。</p>	
				<p>(英文)</p> <p>This is an intercultural communication class and, as such, the students will examine a variety of cultures and cultural beliefs. The purpose of this class is to move students further along in their way of thinking about culture by exposing them to thoughts and ideas different from their own culture. In addition, the concept of culture shock will be discussed and how students can prepare for it. At the end of the course, the student are expected to be able to see the difference between cultures, can learn to compare their culture with another, and can try to adapt to another culture if need be.</p> <p>(和訳)</p> <p>これは異文化間コミュニケーションの授業であり、それ故、学生は様々な文化や文化的信条を検証する。本授業の目的は、自身の文化とは異なる考えやアイデアに自分たちを晒すことによって、文化について自ら思考するように学生をさらに促すことにある。加えて、文化的衝撃の概念と学生がそれに備える方法についても議論する。授業終了時には、学生は文化間の差異を学び、自身の文化と他文化の比較する術を学び、そして必要があれば別の文化に適応しようとする事が出来ようになることが期待される。</p>	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	インターフェイス科目	文化と共生コース	Intercultural Communication III	<p>(英文) In this class, 7 cultural clusters will be introduced and explained in terms of the cultural analysis framework of 10 cultural value dimensions. Learners will be encouraged to use their knowledge of both the clusters and the framework to analyse authentic intercultural communications. English is used for teaching, learning and assessment tasks. The intention of the class is to improve the intercultural communication skills of the learners by providing both theory and practice in intercultural communication.</p> <p>(和訳) この授業では、10種類の文化的価値の側面を文化的に分析する枠組みによって、7種類の文化群が導入され、そして説明される。学習者はオーセンティックな異文化間コミュニケーションの分析をするための文化群と枠組みの両方の知識を適用することが推奨される。授業、学習そしてタスクの評価には英語が使用される。この授業の意図は、異文化間コミュニケーション理論と実践の両方を提供することによって、学習者の異文化間コミュニケーション技術を向上させることである。</p>	
		文化と共生コース	Intercultural Communication IV	<p>(英文) This is a multi-skills course--meaning that it will focus on the four language skills, listening, speaking, reading, and writing. In class activities will include listening (via video, discussions in groups & pairs, and teacher talk) and speaking (via discussions in pairs and groups, answering questions from the teacher, etc). Out of class activities (homework) will include both writing and reading assignments. Some more advanced grammar will also be focused on as part of these activities.</p> <p>(和訳) これはマルチスキル、つまりリスニング、スピーキング、リーディング、そしてライティングの4技能に焦点を当てる授業である。クラス内アクティビティには、ビデオ、グループ及びペアによるディスカッション、そして教師の講義によるリスニング、ペア及びグループによるディスカッション、教員の質問に答えるなどによるスピーキングが含まれる。授業外の活動には、ライティングとリーディングの課題が含まれる。より高度な文法もこれらの活動に含まれる。</p>	
		文化と共生コース	映像・デジタル表現	映像・デジタル表現 I	<p>(概要) デジタル表現技術を学ぶに当たり、シナリオやデザイン情報倫理の基礎について知っておくことは必須事項である。また、デジタル画像の制作・加工の技術はあらゆる作品を制作する上で必要となる技術である。この講義では、高度情報化社会におけるデジタル表現技術の必要性を説明しながら、学生として、社会人としてどのように役立てていくか解説する。授業では、IllustratorやPhotoshopを用い、デザイン素材画像、写真加工技術など解説する。そして演習を通して様々な機能や、デジタルデザインにおける画像生成技術について講義する。また、作品テーマの一部として佐賀県内における地域資源をコンテンツとして制作する。</p>

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	インターフェイスクラス	文化と共生コース	映像・デジタル表現Ⅱ	<p>(概要)</p> <p>現在のアニメーションは、デジタル技術により、幅広い表現領域となっており、その概要を知ることは重要である。授業では、アニメーション制作の概観や表現方法を講義し、演習形式でアニメーションを作成する。演習では、制作方式やアプリケーションソフト毎に分かれて作業を行う。制作方式は、2Dセルアニメーション、Flashアニメーション、ストップモーション・アニメーション、3DCGアニメーション、プロジェクションマッピングの5種の技法から選択して制作する。グループもしくは個人でそれぞれのテーマで作品を制作する。作品テーマの一部として佐賀県内における地域資源をアニメーションコンテンツとして制作する。</p>	共同
教養教育科目	インターフェイスクラス	文化と共生コース	映像・デジタル表現Ⅲ	<p>(概要)</p> <p>現在、CGは日常的にあらゆる場面で目にしている。PCを用いて生成する3DCG制作は、映像制作に関する基本的な概念と実世界の現象理解が必要である。この講義では、まず3Dコンピュータグラフィックスの基本概念を養う為に手の鉛筆デッサンを行う。次にIllustratorを用い、三次元理解としてキャラクターデザイン三面図を作成する。次にShadeによりキャラクターを自由曲面モデリングで作成する。最終課題として鉛筆デッサンで描いた手をポリゴンでモデリングし、UVマッピングとジョイントアニメーションでデジタルデッサン作品として完成させる。作品テーマの一部として佐賀県内における地域資源をコンテンツとして制作する。</p>	共同
教養教育科目	インターフェイスクラス	文化と共生コース	映像・デジタル表現Ⅳ	<p>(概要)</p> <p>2年間のデジタル表現技術者養成プログラムの集大成として、修了作品の制作及び研究を行う。2年間の講義及び演習をもとに、独自のテーマ設定、機器の有効活用、計画性、作品表現力、プレゼンテーション能力を養うことを目的とする。最後に修了作品展及び修了研究発表会（公開審査）を行う。スケジュールとしては、5月中旬に各研究テーマ別にグループ分けを行い、グループごとに研究活動を開始する。週に1コマ以上活動時間を設定し、研究を行う。10月初旬に中間発表会を行い、途中経過の報告を行う。1月末までに作品を提出、2月中旬に研究発表会を行う。作品評価及び発表評価をもとに、優秀作品を選出し修了研究作品展「電脳芸術展」を開催する。尚、作品テーマの一部として佐賀県内における地域資源をコンテンツとして制作する。</p>	共同
教養教育科目	インターフェイスクラス	文化と共生コース	肥前陶磁器産業体験Ⅰ	<p>(概要)</p> <p>本授業では、有田の窯元での陶磁器産業体験をつうじて、古くから伝わる伝統的な材料、道具、釉、火の扱いから、近年の新しい産業構造の側面までを、外部からの視点ではなく、窯元、陶磁器商社、陶磁研究機関、分業専門工房等の立場から、職人の仕事を支えるための作業や雑用を行う中で、自ら感じ取る方法を体験的に学ぶ。前半は講義や演習をつうじて陶器や磁器についての知識理解と産業全体の成り立ちについて学ぶ。（場所：有田キャンパス。通学は自費）。後半は、実際に窯元にて陶磁器産業体験をおこなう。（一窯元に一人が原則。夏休み集中講義形式で行う）</p>	
教養教育科目	インターフェイスクラス	文化と共生コース	肥前陶磁器産業体験Ⅱ	<p>(概要)</p> <p>本授業では、有田の窯元での陶磁器産業体験をつうじて、古くから伝わる伝統的な材料、道具、釉、火の扱いから、近年の新しい産業構造の側面までを、外部からの視点ではなく、窯元、陶磁器商社、陶磁研究機関、分業専門工房等の立場から、職人の仕事を支えるための作業や雑用を行う中で、自ら感じ取る方法を体験的に学ぶ。前半は講義や演習をつうじて陶器や磁器についての知識理解と産業全体の成り立ちについて学ぶ。（場所：有田キャンパス。通学は自費）。後半は、実際に窯元にて陶磁器産業体験をおこなう。（一窯元に一人が原則。夏休み集中講義形式で行う）</p>	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	インターフェイス科目	文化と共生コース	肥前陶磁器産業体験Ⅲ	(概要) 本授業では、有田の窯元での陶磁器産業体験をつうじて、古くから伝わる伝統的な材料、道具、釉、火の扱いから、近年の新しい産業構造の側面までを、窯元、陶磁器商社、陶磁研究機関、分業専門工房等の立場から、職人の仕事や研究を支えるための作業や雑用を行う中で、自ら感じ取り体験的に学ぶ。実際に窯元にて陶磁器産業体験をおこなう。(一窯元に一人が原則。夏休み集中講義形式で行う) □	集中・共同
教養教育科目	インターフェイス科目	文化と共生コース	肥前陶磁器産業体験Ⅳ	(概要) 事前指導にはじまり、20コマ及ぶ長時間の肥前陶磁器産業体験、事後指導やお礼状の作成に至るまでのプロセスに、これまで学んできたことを十分に生かしながら主体的にかかわることで、佐賀の主要産業の一つである陶磁産業のことを深く理解し、肥前陶磁器産業の将来の展望を若い視点から推察する。また、所属する機関全体の動向や産業全体のマクロ的な視点を体験的に身につける。	集中・共同
教養教育科目	インターフェイス科目	文化と共生コース	ドイツの歴史・文化探究Ⅰ	(概要) 1年次の「言語と文化Ⅰ」「言語の文化Ⅱ」で学んできた初級文法を最後まで終わらせつつ、日常会話として簡単なドイツ語を実際に使えるようにコミュニケーションの練習を並行して進める。地域に関する項目としては、今学期はドイツの町と姉妹都市関係にある佐賀県内の町にスポットを当て、交流の背景や現状を学ぶ。鳥栖市とツァイツ市のピアノをめぐる縁が今学期のテーマである。	
教養教育科目	インターフェイス科目	文化と共生コース	ドイツの歴史・文化探究Ⅱ	(概要) 1年次の「言語と文化Ⅰ」「言語の文化Ⅱ」で学んできた初級文法を最後まで終わらせつつ、日常会話として簡単なドイツ語を実際に使えるようにコミュニケーションの練習を並行して進める。歴史と文化のテーマは、今学期はドイツ人と原発運動を取り上げる。福島原発事故の後、わずか4日で原発からの撤退を決めたドイツの歴史的背景を押さえると同時に、若い世代によく知られている原発の恐ろしさをテーマとした文学作品を紹介する。	
教養教育科目	インターフェイス科目	文化と共生コース	ドイツの歴史・文化探究Ⅲ	(概要) 初級文法と並行してコミュニケーションの手段としてドイツ語を発話することにより、英語以外の生きた外国語を体験することが目的です。ドイツ語圏からのお客さんを迎える予定もあります。「歴史と文化」では、佐賀県有田町と姉妹都市の関係にあるドイツの街マイセンと二国間の交流について学び、理解を深めます。	
教養教育科目	インターフェイス科目	文化と共生コース	ドイツの歴史・文化探究Ⅳ	(概要) 初級文法と並行してコミュニケーションの手段としてドイツ語を発話することにより、英語以外の生きた外国語を体験することが目的です。ドイツ語圏からのお客さんを迎える予定もあります。「歴史と文化」では、キリスト教の教えや風習に基づいた宗教画の見方を学び、西洋美術を積極的に楽しめるようにしていきます。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	インターフェェイス科目	文化と共生コース	フランスの歴史・文化探究 I	(概要) フランスの言語と文化I・IIで学んだ知識をもとに、それを補いつつ、フランスの歴史や文化について、テキストやインターネットの資料をもちいて、学んで行く。	
教養教育科目	インターフェェイス科目	文化と共生コース	フランスの歴史・文化探究 II	(概要) フランスの歴史文化探究Iで学んだ知識をもとに、それを補いつつ、フランスの歴史や文化について、テキストやインターネットの資料をもちいて、学んで行く。	
教養教育科目	インターフェェイス科目	文化と共生コース	フランスの歴史・文化探究 III	フランスの歴史文化探究IIで学んだ知識をもとに、フランスの歴史や文化について、毎回テーマを決めて、テキストやインターネットの資料をもちいて、学んで行く。 フランスの歴史文化探究IIに引き続きより専門的なフランス語で書かれたテキストをもとに、インターネットなどの生きた資料をもちいながら、さまざまな記事を読むことで現代フランスの歴史・文化等について基礎的な知識を身につけさせることを意図している。	
教養教育科目	インターフェェイス科目	文化と共生コース	フランスの歴史・文化探究 IV	フランスの歴史文化探究IIIで学んだ知識をもとに、フランスの歴史や文化について、毎回テーマを決めて、テキストやインターネットの資料をもちいて、学んで行く。 フランスの歴史文化探究IIIに引き続きより専門的なフランス語で書かれたテキストをもとに、インターネットなどの生きた資料をもちいながら、さまざまな記事を読むことで現代フランスの歴史・文化等について基礎的な知識を身につけさせることを意図している。	
教養教育科目	インターフェェイス科目	文化と共生コース	日・中・韓の文化 I	(概要) 主にグループワークの形式で、日本・中国・韓国の文化について調べ、学び、議論し、プレゼンテーションを行い、レポートを作成することによって、①文献調査と分析能力を身につけ、②他人との協同性、コミュニケーション能力、ディスカッション能力を身につけ、③プレゼンテーション能力と自分の考えを文章にまとめて表現する能力を身につけていく。具体的に今学期は、日本・中国・韓国の飲食文化について、グループワークの形式で、文献調査と分析、ディスカッションを通して理解を深め、最後にプレゼンテーションを行い、レポートを作成する。	
教養教育科目	インターフェェイス科目	文化と共生コース	日・中・韓の文化 II	(概要) 主にグループワークの形式で、日本・中国・韓国の文化について調べ、学び、議論し、プレゼンテーションを行い、レポートを作成することによって、①文献調査と分析能力を身につけ、②他人との協同性、コミュニケーション能力、ディスカッション能力を身につけ、③プレゼンテーション能力と自分の考えを文章にまとめて表現する能力を身につけていく。具体的に今学期は、日本・中国・韓国の生活文化について、グループワークの形式で、文献調査と分析、ディスカッションを通して理解を深め、最後にプレゼンテーションを行い、レポートを作成する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	インターフェイス科目	文化と共生コース 日・中・韓の文化	日・中・韓の文化Ⅲ	(概要) 主にグループワークの形式で、日本・中国・韓国の文化について調べ、学び、議論し、プレゼンテーションを行い、レポートを作成することによって、①文献調査と分析能力を身につけ、②他人との協同性、コミュニケーション能力、ディスカッション能力を身につけ、③プレゼンテーション能力と自分の考えを文章にまとめて表現する能力を身につけていく。具体的に今学期は、日本・中国・韓国の年中行事について、グループワークの形式で、文献調査と分析、ディスカッションを通して理解を深め、最後にプレゼンテーションを行い、レポートを作成する。	
教養教育科目	インターフェイス科目	文化と共生コース 日・中・韓の文化	日・中・韓の文化Ⅳ	(概要) 主にグループワークの形式で、日本・中国・韓国の文化について調べ、学び、議論し、プレゼンテーションを行い、レポートを作成することによって、①文献調査と分析能力を身につけ、②他人との協同性、コミュニケーション能力、ディスカッション能力を身につけ、③プレゼンテーション能力と自分の考えを文章にまとめて表現する能力を身につけていく。具体的に今学期は、日本・中国・韓国の芸術文化について、グループワークの形式で、文献調査と分析、ディスカッションを通して理解を深め、最後にプレゼンテーションを行い、レポートを作成する。	
教養教育科目	インターフェイス科目	生活と科学コース 食料と生活	食料と生活Ⅰ	(概要) 本講は、人類の生存と密接に関わる栽培植物、なかでも食生活をささえる主要な穀類・食物・野菜・果物ならびに畜産物を取り上げ、それぞれの栽培・飼育に関する歴史と生産に関わる現代的課題を探ると共に、生物学的ならびに栄養学的視点から食料の特徴を紹介する。また、園芸・動物飼育など生産活動をセラピーの手段として活用する事例について紹介する。 (オムニバス方式／全15回) (11 鄭 紹輝／4回) 食料生産と農業の概況、食用作物の種類と生産歴史、生産状況と生活利用、課題と展望を解説する。 (49 松本 雄一／4回) 野菜の種類と生産歴史、生産状況と生活利用、課題と展望、及び園芸セラピーについて解説する。 (32 福田 伸二／4回) 果物の種類と生産歴史、生産状況と生活利用、課題と展望について解説する。 (37 江原 史雄／3回) 家畜の歴史、生産概況、生活利用及びアニマルセラピーについて解説する。	オムニバス方式
教養教育科目	インターフェイス科目	生活と科学コース 食料と生活	食料と生活Ⅱ	(概要) 本講は、有用作物や家畜家禽の新品種作出や育種改良の手法と育種改良の現状、および家畜の増殖手法について紹介し、農作物や家畜家禽の育種改良や家畜の増殖手法に対する興味を抱かせ、食料資源の開発に関する問題意識を啓発することを目的とする。 (オムニバス方式／全15回) (7 和田 康彦／4回) 家畜化の歴史、多様な家畜・家禽の品種分化と利用を紹介し、特に佐賀県における和牛及び鳥骨鶏の改良について解説する。 (15 穴井 豊昭／4回) 作物の栽培化と馴化、遺伝的多様性、遺伝的改良の原理、作物育種の現状を解説する。 (14 一色 司郎／4回) 野菜作物の起源、歴史、分類を概説し、特にアブラナ科、ウリ科、ユリ科、ナス科の生産と利用を解説する。 (46 山中 賢一／3回) 家畜人工授精技術、体外生産胚の利用とその課題、家畜繁殖技術の応用について解説する。	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	インターフェイスク目	生活と科学コース	食料と生活	食料と生活Ⅲ
		食料と生活	<p>(概要) 日常摂取している食料・食品について、その開発の歴史や製造方法、食品成分の化学的特徴、安全性や機能性について教授する。また、食の文化と科学に関するシンポジウムや研究会に参画することで、食と健康に関する最新知識を習得し、科学的根拠に基づいて食品の機能を評価する力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (10 石丸 幹二／4回) 佐賀の特産物である茶の機能性、新しい加工法と化学成分を学び、茶の文化と科学に関する研究発表会に参画する。 (31 古藤田 信博／4回) 果物や野菜の品種改良の歴史や生産現場の栽培技術、また、果物の健康機能性成分について学ぶ。 (35 光武 進／4回) 食品に潜むリスクを学習し、食品表示のルールから製造工程管理の方法まで、広く食品の安全に関わる事項を学ぶ。 (50 関 清彦／3回) 糖質系甘味料を中心に、その開発の歴史や製造方法、化学的な特徴を学ぶ。</p>	オムニバス方式
教養教育科目	インターフェイスク目	生活と科学コース	食料と生活	食料と生活Ⅳ
		食料と生活	<p>(概要) 本授業は、古くから食料として人間社会に根付いてきた水圏食料（水産物）、そして人々の経験と知恵から生まれてきた発酵食品を取り上げ、それらの人との関わりや生産過程、そして現代における課題を紹介する。また実習等で水産物、発酵食品の生産を見学し、実体験から理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (51 木村 圭／3回) 水圏食料とは？、海藻の水圏食糧、赤潮との戦い (22 川村 嘉応／2回) 水産業ってどんな産業？、養殖業と人々の生活 (57 折田 亮／2回) 魚類の水圏食糧、貝類の水圏食糧 (51 木村 圭・22 川村 嘉応・57 折田 亮／2回)（共同） 生産施設見学、ムツゴロウ保護区見学 (13 小林 元太／2回) 乳酸菌と発酵食品、酵母菌と発酵食品 (16 後藤 正利／2回) 麹菌と発酵食品、かびとカビ毒 (13 小林 元太・16 後藤 正利／2回)（共同） 酒蔵見学</p>	オムニバス方式・共同（一部）
教養教育科目	インターフェイスク目	生活と科学コース	データサイエンス	データサイエンスⅠ
教養教育科目	インターフェイスク目	生活と科学コース	データサイエンス	データサイエンスⅡ
			<p>(概要) データサイエンスは単なるデータ分析と誤解されることが多い。本講義では、データサイエンスの入門として、データからの新たな価値創造という視点から、データサイエンスがビジネスや研究・開発等の場において、どのように活用されているかについて概説する。また、企業や自治体における実際のデータサイエンスの事例や課題をいくつか取り上げ、そこで登場する主なデータ分析手法についても説明する。そして、その課題について解決を図るためのデータ収集やデータ分析手法に関する調査やグループ討論を通じて、課題解決を試みる。</p>	
			<p>(概要) データを統計的に分析する上で必要となる基本的な統計的手法について説明する。理論的な面も理解してもらうため、手計算を中心とした演習も行う。具体的な内容は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確率変数、平均・分散・標準偏差 ・度数分布表、正規分布、標準正規分布 ・標本平均、標本分散、標本平均の分布 ・平均の区間推定(母分散既知)、平均の区間推定(母分散未知) ・標準偏差・分散の区間推定、比率の区間推定 ・仮説検定、カイ自乗検定 	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	インターフェイス科目	生活と科学コース	データサイエンスⅢ	<p>(概要)</p> <p>社会科学(経済, 経営, 教育等)の学問分野において古くからデータ分析が行われており, 近年では, 政策立案, ビジネスの現場において確かな根拠(エビデンス)に基づく分析する能力が求められることが多い。</p> <p>この授業では, 特に社会科学分野におけるデータ採取の方法や実験・調査のデザインならびに, それらの収集されたデータを適切に分析する手順・方法等についての知識を習得し, 実際に受講者が演習を通じて, データに基づく思考や判断のできる(問題解決)能力を身に付けることを目的とする。</p>	
教養教育科目	インターフェイス科目	生活と科学コース	データサイエンスⅣ	<p>(概要)</p> <p>主に, 理学, 工学, 農学, 医学などの自然の現象, 概念, 法則を基礎とする自然科学分野におけるデータサイエンスの実例およびそこで利用されているデータ分析手法等について説明する。具体的には, 企業や研究室から提供された課題に対して, オープンデータや提供されたデータをコンピュータや表計算ソフト等を用いて具体的に分析を行い, 解決を図る。これを通じて, 自然科学分野においてデータに基づく思考や判断ができる問題解決能力の育成を図るとともに, データから新たな価値を創造する意識をもたせる。</p>	
教養教育科目	インターフェイス科目	生活と科学コース	未来を拓く材料の科学Ⅰ	<p>(概要)</p> <p>人類の生活を支える材料の開発の歴史とその機構ならびに利用を講義し, 新しい材料が新たに生み出す世界を考察させる。その中でも, 有機機能性材料の科学について講義をおこなう。</p> <p>未来の有機材料について, グループワークならびに発表会を実施している。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (124 竹下 道範/4回) 分子間力の基礎とそれを応用した液晶と機能性色素, ならびに分子認識について講義する。 (80 大石 祐司/4回) 高分子の基礎ならびにその材料への応用について講義する (221 坂口 幸一/4回) 有機トランジスタ, 有機電界発光, 有機太陽電池について講義する (124 竹下 道範・80 大石 祐司・221 坂口 幸一/3回) (共同)</p> <p>未来の有機材料について, 学生をグループごとに分け, グループごとで調査をおこなって, 発表を行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
教養教育科目	インターフェイス科目	生活と科学コース	未来を拓く材料の科学Ⅱ	<p>(概要)</p> <p>身近な無機材料や佐賀県の代表的な伝統産業の一つである陶磁器の開発の歴史と研究開発の現状を, 板書や配布資料やPowerPointファイルを用いて講義し, 新しい無機材料が新たに生み出す世界を考察することができる人材の育成を目標とする。特に, 陶磁器の歴史・研究開発の講義については, 佐賀県有田町を中心とした肥前地区を対象とした講義を実施する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (78 渡 孝則/4回) 電球や蛍光灯等の発光セラミックスの特性と応用について講義する。 (197 矢田 光徳/7回) 環境浄化や医療に用いられる無機材料の種類や仕組みや社会における役割を講義する(4回)。陶磁器の発展の歴史及び研究開発の現状について講義する(3回)。 (139 山田 泰教/4回) 錯体系無機材料の種類や仕組みや社会における役割を講義する。</p>	オムニバス方式

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	インターフェイスクラス	生活と科学コース	未来を拓く材料の科学Ⅲ	<p>(概要) 人類の生活を支える生体機能材料の開発の歴史とその機構ならびに利用を講義し、新しい生体機能材料が新たに生み出す世界を考察する。また、学生との議論をおこなうことがある。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (104 高橋 利幸/4回) 水の主要な性質について講義し、水と生物や水と地球および宇宙の関わりについて解説する。 (121 海野 雅司/4回) 生体分子として糖類、アミノ酸およびタンパク質、核酸について、その主な性質について講義し、分子構造の観点から生体関連分子などの働きや性質について解説する。 (141 大渡 啓介/4回) 生体内で分子認識機能をもつ分子について講義し、人工生体模倣分子の設計と具体例について解説する。 (220 川喜田 英孝/3回) 酵素や糖の構造とその機能について講義し、その工業的な利用や分離材料について解説する。</p>	オムニバス方式
				<p>(概要) 人類の生活を支える様々な機能性材料に関する講義とこれに関連する実験を通じて、最新化学技術と生活の接点について主体的に学ぶ。 また、佐賀地域の特色を考えた化学関連商品を売り込むための発案、企画、市場調査、アンケートを個々行うことにより、ビジネスプランニングの方法について学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (215 成田 貴行・296 小山田 重蔵/5回) (共同) 実験：ゲル粒子を利用したバイオ燃料の調製の実験を行う。 プランニング：商品の発案をグループワークを取り入れ実際におこなうことでその方法を主体的に学ぶ。 (279 藤澤 知績・286 磯野 健一/5回) (共同) 実験：LEDの発光と太陽光発電(色とエネルギーの相関)の実験を行う。 プランニング：同上 (226 梅木 辰也・297 米田 宏/5回) (共同) 実験：イオン液体の調製とソルバトクロミズムの実験を行う。 プランニング：同上</p>	オムニバス方式・共同
				<p>(概要) 情報通信の基礎知識に関する講義、ならびに固定電話ネットワーク、インターネット、携帯電話、無線通信等に関する講義をテキストを用いて実施する。さらに、佐賀県羽金山の電波時計についても事例として紹介する。これらにより、情報通信に関する基礎的な素養を修得してもらう。また、予習課題を通し問題点(重要点)の抽出を行え、自分なりの方法で調べる習慣を身につけるようにしてもらうことで、課題抽出力および持続的な学習力を養い社会への参画力向上の一助とってもらう。</p>	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	インターフェイス科目	生活と科学コース	エレクトロニクスと生活Ⅱ	<p>(概要)</p> <p>基本的に座学中心で進めていくが、適宜、様々な事項に関する調査と報告の時間枠を設けて、主体的な取り組みを織り交ぜていく予定である。</p> <p>また毎回の授業終了前(10～15分程度)に、当日の授業内容に関する簡単なレポート課題を出す。時間内の提出ならびに適切な解答をもって「出席」とみなす。</p> <p>またこれとは別に、授業内容の区切りを勘案しながら、3～4回に1度の頻度でレポート課題(宿題)を出していく。</p> <p>本講義では、生体情報処理、その応用技術、そして関連する最近の話題について取り上げる。それぞれの内容は以下のとおりである。</p> <p>1) 生体情報処理：生体の仕組み(感覚系・神経系・運動系)、脳の情報処理など</p> <p>2) 応用技術：ニューラルネットワーク、ファジィ、進化計算など</p> <p>3) 関連する最近の話題(鹿島市肥前浜宿を対象とした「ICT防災デザイン」について、我々の取り組み事例も紹介予定。)</p>	
		生活と科学コース	エレクトロニクスと生活Ⅲ	<p>(概要)</p> <p>電波と電波を用いたアプリケーションを理解する上で必要な基礎知識(波動、電波伝搬、電気回路・電子回路など)、およびレーダーの原理について講義し、電波の応用(特にレーダー)を考える上での基礎を養う。9週目まではレーダーの原理を理解する上で必要な基礎知識(波動、電波伝搬、電気回路・電子回路)、レーダーの原理、各種レーダーについて説明する。10週目は佐賀県出身の技術者を紹介する。11週目以降は、数名で班を構成し、現代社会におけるレーダーについて調査し、調査内容についてプレゼンテーションを行うことにより、レーダーの社会に対する役割を理解し、よりよい社会の実現を考えることができるようにする。</p>	
教養教育科目	インターフェイス科目	生活と科学コース	エレクトロニクスと生活Ⅳ	<p>(概要)</p> <p>統計的データ解析の基本的な手法を修得させるとともに、その手法を実データに適用して科学技術と社会との関係を考察させる。また、グループによる発表や他者との討論によって協調性や多面的な考え方を身につけさせる。佐賀県に関するデータも調査してもらう。講義前半は座学で統計的データ解析の基礎を学んでもらう。後半は、数名ずつの班に分かれ、実データを調査しそのデータ解析を行ってもらう。また、その結果を各班に発表してもらい、その内容について全員で討論してもらう。</p>	
教養教育科目	インターフェイス科目	生活と科学コース	情報技術者キャリアデザインⅠ	<p>(概要)</p> <p>情報技術者=SE・プログラマと誤解されるケースも多く見られるが、情報系の職業はそれよりもはるかに多様である。また、情報技術は社会的ニーズや企業活動との関連も強い。本科目を通じて、学生は情報系の様々な職業や、IT(情報技術)と企業活動や社会とのつながりを正しく理解するための基礎知識を身に付け、以下の到達目標を満たす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報を収集し、その適正を判断でき、適切に活用・管理できる。 ・情報分野の様々な職種を理解し、情報技術を活かす様々な立場で物事を考えることができる。 ・自らの社会的役割について主体的に考える態度を身に付ける。 ・ITパスポート試験に合格できるレベルの知識を身に付ける。 	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	インターフェイスク目	生活と科学コース	情報技術者キャリアデザイン	情報技術者キャリアデザインⅡ (概要) 情報技術者として身につけておくべき論理的思考能力、プレゼンテーション能力を講義や演習を通じて養う。具体的な内容は以下のとおりである。 ・コミュニケーション（自己紹介、説明・報告）およびプレゼンの組み立て方についての講義および演習を行う。 ・ロジカルシンキング（概要および基本となる思考）、Whatツリー、Whyツリー、Howツリーおよびピラミッドストラクチャーの概要と活用方法に関する講義および演習を行う。 ・マトリクスおよびプロセスの概要と活用方法に関する講義および演習を行う。また、問題解決（問題発見、原因分析、解決手段検討）に関する講義および演習を行う。	共同
教養教育科目	インターフェイスク目	生活と科学コース	情報技術者キャリアデザイン	情報技術者キャリアデザインⅢ (概要) 基本情報技術者試験は、情報技術者として社会に出る人材にとっての必須知識およびスキルを試験範囲としている。このことを踏まえ、基本情報技術者試験に合格できるレベルの知識およびスキルを学ぶ。本授業の内容は情報処理技術者試験シラバスに従っており、具体的なトピックとしては、情報の基礎理論、データ構造とアルゴリズム、ハードウェア、ソフトウェア、システムの構成と方式、システム開発技術と監査、ネットワーク技術およびデータベース技術が挙げられる。	
教養教育科目	インターフェイスク目	生活と科学コース	情報技術者キャリアデザイン	情報技術者キャリアデザインⅣ (概要) 「敵を知り己を知らば百戦危うべからず」・・・の格言にもあるように、今後、情報技術研究あるいは情報技術関連業界へ巣立っていく者として身につけておかなければならない様々な周辺知識を修得させる。 なお、この授業では、佐賀県内に本社、支社、事業拠点のある情報・通信関連企業を対象とし、業界研究を実施する。 (オムニバス方式/全15回) (122 奥村 浩/1回) ガイダンス (122 奥村 浩・149 福田 修/14回) 企業研究 (共同)	オムニバス方式・共同 (一部)
教養教育科目	インターフェイスク目	生活と科学コース	2年間でできる「がばいベンチャー」の作り方	2年間でできる「がばいベンチャー」の作り方Ⅰ (概要) IoTを活用して「業を起こす(ベンチャーを作る)」をテーマに、プログラミングの基礎、起業に必須のロジカルシンキング、ケースメソッドを活用した企業分析、自ら考える地力をつけるためのキャリア教育を中心にして、2年間の積み上げ式の講義を行う。 ・企業スタートアップ事例考察、ゼロベース思考(演繹法、帰納法)、仮説思考(MECE, ロジックツリー, マトリックス, フレームワーク), MECEを活用したマトリックス分析とマッピング分析, マーケティング等を、グループワークを中心として講義する。 ・プログラミングの概念, GitHubを使用したプログラム構築演習, JAVA及びHTML5の概説を行い, グループワークを中心としたプログラミングの手法を講義する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	インターフェイス科目	生活と科学コース	2年間でできる「がばいベンチャー」の作り方II	(概要) IoTを活用して「業を起こす(ベンチャーを作る)」をテーマに、知財戦略、企業経営の基礎、プログラミング(中級)を実施する。 IT企業からの外部講師と連携し、企業経営と知的財産、知的財産活用の事例考察、企業理念、オープンイノベーションと知財、アイデアと特許の関係を講義する。また、プログラミングとしてJAVAとHTML5を対象としたグループワーク形式の演習を設定して講義を進める。	
		生活と科学コース	2年間でできる「がばいベンチャー」の作り方III	(概要) 本講義は、IoTを活用して「業を起こす(ベンチャーを作る)」をテーマに、企業戦略とイノベーションについて考察し、ビジネスモデルのひな形を作成し、プログラミング(中級)で培った知識を活用したアプリケーション開発に取り組む。また、3年時で作成を目指すビジネスモデルの立案とプレゼンテーションを目標として講義を進める。 IT企業からの外部講師と連携し、JAVAとHTML5のプログラミング演習、企業経営とイノベーション戦略に関する講義、グローバル人材研修、ビジネスモデル構築演習を実施する。	
		生活と科学コース	2年間でできる「がばいベンチャー」の作り方IV	(概要) 本講義は、IoTを活用して「業を起こす(ベンチャーを作る)」をテーマに、自分自身で身につけたプログラミングスキルの応用範囲を理解し、実際のビジネスモデル構築を経験し、ビジネスプランの構築と運用に必要な知財戦略を理解し、オープンイノベーション型の協働を経験することによってチームによる課題解決法を身につける。 IT企業からの外部講師と連携し、ビジネスモデルを達成するためのアプリケーション開発、新規事業の起業設計、IoTビジネスモデル研究に取り組む。また、社会実証の試行、若しくはシミュレーションを行い、成果の発表会を実施する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	アントレプレナーシップ	アントレプレナーシップ I
			アントレプレナーシップ	アントレプレナーシップ II
			<p>(概要) 講座担当者による総括的な導入のためのガイダンスに始まり、自立的なキャリアデザインの指針となる、基本的なフレームワークを学ぶ。その後、社会の幅広い分野においてグローバル（グローバル×ローカル）な価値創造に挑戦する講師陣とのアクティブリスニングおよび対話を通じて、多様な社会観およびキャリア観を涵養する。並行して、各自において自らのキャリア志向についての理解を深め、社会観に位置付ける。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (272 松前 あかね／15回) (共同) 実社会に存する多様な社会観および通底するアントレプレナーシップを実践的に探索させる場を類型ごとに設け、各受講生のキャリアデザインに関連付けつつ固有の社会観・アントレプレナーシップの醸成に必要な方法論を指導する。 (106 中村 隆敏／2回) (共同) 学生の報告に対して、専門領域の観点からフィードバックを行う。 (148 サリヤ ディ シルバ／3回) (共同) 社会的起業に関わるアントレプレナーシップの考察および探索を支援 (141 大渡 啓介／3回) (共同) 技術的起業に関わるアントレプレナーシップの考察および探索を支援 (146 堀 良彰／2回) (共同) 学生の報告に対して、専門領域の観点からフィードバックを行う。 (152 松前 進／2回) (共同) 学生の報告に対して、専門領域の観点からフィードバックを行う。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
			<p>(概要) 佐賀県を始めとする地域でのフィールドワーク、経営者との対話、課題（事業チャンス）発見・事業アイデア創出ワークを行う。プレゼンテーションに関わる映像表現を学び、事業アイデアのプレゼンテーションを講義終盤に行う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (272 松前 あかね／15回) (共同) 地域事業者をはじめ、多様な属性の参加者との混成チームによる価値共創を実践的に経験させる場を設け、共創の際に必要なマインドセット・態度への考察および方法論としてデザイン思考を修得させ事業アイデア映像としてまとめさせる。地域に開かれた学生のプレゼンテーションの場を設け、各プロジェクトについて各専門領域の観点からフィードバックを行う。 (106 中村 隆敏／3回) (共同) デザイン思考による価値共創プロジェクトに有用となる映像技法（撮影編集技術）を実践的に修得させる。 (146 堀 良彰／3回) (共同) 地域に開かれた学生のプレゼンテーションの場を設け、各プロジェクトについて各専門領域の観点からフィードバックを行う。 (152 松前 進／3回) (共同) 地域に開かれた学生のプレゼンテーションの場を設け、各プロジェクトについて各専門領域の観点からフィードバックを行う。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養教育科目	インターフェイスク目	人間と社会コース	アントレプレナーシップ	<p>(概要) この授業では、着想した事業アイデアの社会実装のための知識や技法を学ぶ。事業モデルの構造を学び、基礎的な経営戦略を理解する。チームで事業モデルをデザインし、佐賀県をはじめとする実フィールドでの社会実装準備としてプロトタイプリングに取り組む。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (272 松前あかね／15回) (共同) 事業創造フェーズ特有の仕組みに関わる基礎知識(価値創造デザイン・ビジネスモデルデザイン・組織デザイン・資金調達・法務)を概説し、受講生独自の事業創造チームプロジェクトとして具体的に計画させ、事業プロトタイプとして発表させる。学生プロジェクトに対して、各専門領域の観点からフィードバックを行う。 (106 中村 隆敏／3回) (共同) 学生プロジェクトに対して、各専門領域の観点からフィードバックを行う。 (146 堀 良彰／6回) (共同) 事業案を社会実装する際に求められるユーザーや技術者とのコミュニケーションに必要な情報技術(アプリプロトタイプリング・プログラミング基礎)を実践的に修得させる。学生プロジェクトに対して、各専門領域の観点からフィードバックを行う。 (152 松前 進／6回) (共同) 事業案を社会実装する際に求められるユーザーや技術者とのコミュニケーションに必要な情報技術(アプリプロトタイプリング・プログラミング基礎)を実践的に修得させる。学生プロジェクトに対して、各専門領域の観点からフィードバックを行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
				アントレプレナーシップⅢ	<p>(概要) この授業では、着想した事業アイデアの社会実装のための知識や技法を学ぶ。事業モデルの構造を学び、基礎的な経営戦略を理解する。チームで事業モデルをデザインし、佐賀県をはじめとする実フィールドでの社会実装準備としてプロトタイプリングに取り組む。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (272 松前あかね／15回) (共同) 事業創造フェーズ特有の仕組みに関わる基礎知識(価値創造デザイン・ビジネスモデルデザイン・組織デザイン・資金調達・法務)を概説し、受講生独自の事業創造チームプロジェクトとして具体的に計画させ、事業プロトタイプとして発表させる。学生プロジェクトに対して、各専門領域の観点からフィードバックを行う。 (106 中村 隆敏／3回) (共同) 学生プロジェクトに対して、各専門領域の観点からフィードバックを行う。 (146 堀 良彰／6回) (共同) 事業案を社会実装する際に求められるユーザーや技術者とのコミュニケーションに必要な情報技術(アプリプロトタイプリング・プログラミング基礎)を実践的に修得させる。学生プロジェクトに対して、各専門領域の観点からフィードバックを行う。 (152 松前 進／6回) (共同) 事業案を社会実装する際に求められるユーザーや技術者とのコミュニケーションに必要な情報技術(アプリプロトタイプリング・プログラミング基礎)を実践的に修得させる。学生プロジェクトに対して、各専門領域の観点からフィードバックを行う。</p>
教養教育科目	インターフェイスク目	人間と社会コース	アントレプレナーシップ	<p>(概要) この授業では、アントレプレナーシップⅢにおいてチームで共創した事業モデルを社会実装するための資金調達や組織作りについて学び、佐賀県をはじめとするフィールドにおいて社会との協働による実現を目指し、事業モデルの修正と実践を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (272 松前あかね／15回) (共同) 受講生が計画した独自の事業創造チームプロジェクトを実社会の資源に橋渡すると同時に、プロジェクトの進捗に対して総合的観点から逐次フィードバックを行い、プロジェクトの社会実装へ向けたプロセスを指導する。地域に開かれたプレゼンテーションの場を設け、学生プロジェクトに対して各専門領域の観点からフィードバックを行う。 (106 中村 隆敏／4回) (共同) 地域に開かれたプレゼンテーションの場を設け、学生プロジェクトに対して各専門領域の観点からフィードバックを行う。 (146 堀 良彰／4回) (共同) 地域に開かれたプレゼンテーションの場を設け、学生プロジェクトに対して各専門領域の観点からフィードバックを行う。 (152 松前 進／4回) (共同) 地域に開かれたプレゼンテーションの場を設け、学生プロジェクトに対して各専門領域の観点からフィードバックを行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
				アントレプレナーシップⅣ	<p>(概要) この授業では、アントレプレナーシップⅢにおいてチームで共創した事業モデルを社会実装するための資金調達や組織作りについて学び、佐賀県をはじめとするフィールドにおいて社会との協働による実現を目指し、事業モデルの修正と実践を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (272 松前あかね／15回) (共同) 受講生が計画した独自の事業創造チームプロジェクトを実社会の資源に橋渡すると同時に、プロジェクトの進捗に対して総合的観点から逐次フィードバックを行い、プロジェクトの社会実装へ向けたプロセスを指導する。地域に開かれたプレゼンテーションの場を設け、学生プロジェクトに対して各専門領域の観点からフィードバックを行う。 (106 中村 隆敏／4回) (共同) 地域に開かれたプレゼンテーションの場を設け、学生プロジェクトに対して各専門領域の観点からフィードバックを行う。 (146 堀 良彰／4回) (共同) 地域に開かれたプレゼンテーションの場を設け、学生プロジェクトに対して各専門領域の観点からフィードバックを行う。 (152 松前 進／4回) (共同) 地域に開かれたプレゼンテーションの場を設け、学生プロジェクトに対して各専門領域の観点からフィードバックを行う。</p>

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	インターフェイス科目	人間と社会コース チームビルディングとリーダーシップ	チームビルディングとリーダーシップⅠ (概要) 本授業では、佐賀大学のオープンキャンパスを題材として高校生をステークホルダーとして捉え、企画立案と実施のプロセスにチームで取り組む。 前半は、チームに必要な役割やチームの成長過程などについてワークショップ形式で考える。中盤では、企画立案についての知識のレクチャーと、チームで実際にイベントを企画する。後半ではコンペ形式でチームごとに企画発表を行い、オープンキャンパスでイベントを実施する。授業最終回では、授業での経験を省察する。 (共同担当/全15回) (282 山内 一祥/15 回) (280 町田 正直/15 回) (共同) (154 西郡 大/1回) オープンキャンパスの現状について、高校生の参加者数の推移や実施されている企画(イベント)等について紹介する。また、アドミッションセンターとして何を期待するのか、ニーズについて講演いただく。	共同
教養教育科目	インターフェイス科目	人間と社会コース チームビルディングとリーダーシップ	チームビルディングとリーダーシップⅡ (概要) 本授業では、佐賀市内の事業所と連携・協働し学外でのイベントの企画立案と実施のプロセスにチームで取り組む。 授業はPBL(Project-Based Learning)形式で行い、前期授業の中で学んだ企画立案プロセスやチームビルディング、リーダーシップの知識技能等を活用し、学生が主体となって課題に取り組む。	
教養教育科目	インターフェイス科目	人間と社会コース チームビルディングとリーダーシップ	チームビルディングとリーダーシップⅢ (概要) リーダーシップとチームビルディングⅠおよびⅡで学習・経験したことを振り返り、自分自身のリーダーシップのスタイルと自分自身に必要な能力について考える。 前半は、2人でペアになり自分自身の学生生活の過ごし方を振り返り、(リーダーシップ)ポートフォリオを作成する。ポートフォリオには、リーダーシップというキーワードで、「理念」「行動(エピソード)」「根拠」の各項目をペアでお互いにメンタリングを行い文章化する。中盤では、リーダーシップスタイルについての講義を行う。後半は、夏季集中授業に向けたミニ講義の作り方のレクチャーとミニ講義作成を行う。	
教養教育科目	インターフェイス科目	人間と社会コース チームビルディングとリーダーシップ	チームビルディングとリーダーシップⅣ (概要) 本授業ではプログラムの集大成として、リーダーシップとチームビルディングに関するプロジェクトを実施する。プロジェクトの内容等については、受講学生間で議論し決めることとする。授業の進め方は、基本的にはPBL(Project-Based Learning)を基本とし、プロジェクト実施とそれまでのプロセスを学生が主体となって進める。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	インターフェイス科目	人間と社会コース	リサーチ・リテラシー	<p>(概要)</p> <p>人が決断を迫られる時、何らかの事実に基づいて望ましい決断をしたいと考えることがしばしばある。噂話に耳を傾けることもあれば、信頼している誰かに経験談を語ってもらおうとするかもしれない。統計も事実を知るための一つの方法である。だが、統計が作成され、利用される過程で政治的な仮定が入り込むことや、意図的もしくは無意図的に誤用されることさえある。</p> <p>本プログラムは、統計を適切に活用できるリサーチ・リテラシーの修得を目指「リサーチ・リテラシー」のフェーズⅠとして、統計データの読み込みと統計データの作成を行う。担当教員は、統計の活用に関するさまざまな議論を提示し、統計データの適切な読み込みができるよう支援する。履修者は担当教員や履修者同士でディスカッションしながら、各自の問題意識を明らかにし、グループワークを通して興味・関心に即した統計データを実際に作成する。</p>	
			リサーチ・リテラシーⅠ	<p>(概要)</p> <p>人が決断を迫られる時、何らかの事実に基づいて望ましい決断をしたいと考えることがしばしばある。噂話に耳を傾けることもあれば、信頼している誰かに経験談を語ってもらおうとするかもしれない。統計も事実を知るための一つの方法である。だが、統計が作成され、利用される過程で政治的な仮定が入り込むことや、意図的もしくは無意図的に誤用されることさえある。</p> <p>本プログラムは、統計を適切に活用できるリサーチ・リテラシーの修得を目指「リサーチ・リテラシー」のフェーズⅡとして、統計データの読み込みに加え、統計データの処理に必要な検定と解析を学ぶ。担当教員は、統計的な有意性検定や解析技法の基礎につて、演習を交えて講義し、統計的な知識と技法の修得を支援する。履修者はグループワークを通して統計データの処理を実際に試みる。</p>	
			リサーチ・リテラシーⅡ	<p>(概要)</p> <p>統計を適切に活用できるリサーチ・リテラシーの修得を目指すプログラムとして、統計データを読み込む統計技法に関する知識を深め、その応用可能性について、共同作業やプレゼンテーションを交えて検討する。21世紀に入り既に10年を経過した現代の日本社会が直面している課題は、少子化や個人・企業・政府による経済活動、財政から、地震や河川の氾濫などの災害、DNA解析まで、膨大な領域に及んでいる。「リサーチ・リテラシーⅢ（調査データの分析）」では、人の心理や教育、社会政策に焦点を当て、統計技法を駆使したさまざまな研究成果を提示し、担当教員や履修者同士でディスカッションしながら、履修者が統計データの適切な作成と読み込みができるよう支援する。</p>	
			リサーチ・リテラシーⅢ	<p>(概要)</p> <p>統計を適切に活用できるリサーチ・リテラシーの修得を目指すプログラムとして、統計データを読み込む統計技法に関する知識を深め、その応用可能性について検討する。「リサーチ・リテラシーⅣ（人文・社会・自然科学の統計）」では、人文・社会科学、自然科学が扱う社会的な諸課題に焦点を当て、統計技法を駆使したさまざまな研究成果を提示し、担当教員や履修者同士でディスカッションしながら、履修者が統計データの適切な読み込みができるよう支援する。</p>	
教養教育科目	インターフェイス科目	人間と社会コース	リサーチ・リテラシー	<p>(概要)</p> <p>統計を適切に活用できるリサーチ・リテラシーの修得を目指すプログラムとして、統計データを読み込む統計技法に関する知識を深め、その応用可能性について検討する。「リサーチ・リテラシーⅣ（人文・社会・自然科学の統計）」では、人文・社会科学、自然科学が扱う社会的な諸課題に焦点を当て、統計技法を駆使したさまざまな研究成果を提示し、担当教員や履修者同士でディスカッションしながら、履修者が統計データの適切な読み込みができるよう支援する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (204 村山 詩帆／6回) オリエンテーション、カテゴリカルデータを用いた教育・社会統計 (154 西郡 大／3回) 心理測定、テスト理論 (107 中村 博和／3回) 経済統計と時系列解析の基本、時系列モデル分析の初歩 (130 近藤 文義／3回) 生物・環境統計、生物の形質進化の推定等</p>	オムニバス方式

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	スポーツイベントとボランティアリーダーⅠ	(概要) 本授業「スポーツイベントとボランティアリーダー1」においては、佐賀県周辺の高校生が参加する佐賀大学のオープンキャンパスの学生企画イベントを題材として、イベント企画の基礎を学び、イベントの実施をチームで取り組みます。前半は、アイスブレイクや簡単なチームビルディングゲームを実施する。また、それらを通して、チームに必要な役割やチームの成長過程などについて講義する。中盤では、企画立案についての知識（ニーズ把握やデータの分析方法・アイデア出しの方法など）のレクチャーと、チームで実際にイベントを企画する。後半ではコンペ形式でチームごとに企画の発表を行い、実際にイベントの実施まで行う。	
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	スポーツイベントとボランティアリーダーⅡ	(概要) 本授業「スポーツイベントとボランティアリーダー2」においては、ボランティアリーダーとして行動する前に社会人として求められる能力について理解し、その養成を目指して行動してもらう。また佐賀県庁の職員の方から、佐賀県が主催するスポーツイベントの作り方や考え方、参加者の満足度を向上させる方法について解説してもらう。その後、さが桜マラソン（3月）における佐賀大学ブースの作成を目指して、佐賀県庁で使用している企画書をベースに企画を立案、企画のプレゼン、その後、さが桜マラソンの担当者と共にさが桜マラソンを盛り上げる企画づくりを学生主体で実施する。	
教養教育科目	インターフェース科目	人間と社会コース	スポーツイベントとボランティアリーダーⅢ	(概要) インターフェース科目「スポーツイベントとボランティアリーダー」では、チームで立案したスポーツイベントをボランティアの方と協働して成功に導ける能力を身につけてもらうことを目指しています。そして本授業「スポーツイベントとボランティアリーダー3」においては、サガン鳥栖が実施しているスポーツイベントの作り方に関する考え方などについて学び、その後、調査等のデータを元にサガン鳥栖のホームゲーム等で行うイベントの企画立案を行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	インターフェイス科目	人間と社会コース	スポーツイベントとボランティアリーダーIV	(概要) インターフェース科目「スポーツイベントとボランティアリーダー」では、チームで立案したスポーツイベントをボランティアの方と協働して成功に導ける能力を身につけてもらうことを目指しています。「スポーツイベントとボランティアリーダー4」では「スポーツイベントとボランティアリーダー3」は企画した企画をサガン鳥栖のホームゲーム等で実施する事を通して、スポーツボランティアリーダーとして求められる能力の獲得に向けて行動してもらいます。	
教養教育科目	インターフェイス科目	医療・福祉と社会コース	現代社会と医療I	(概要) 本科目では、現代社会における包括的医療を構築していくための基礎的理解と、社会を見据える力を養うことを目的として、現在の医療科学および体制の成立の過程について、医療史の視点から概観していく。江戸時代の医学のあゆみのなかで、日本漢方医学がどのように成立して、現代にどのように影響しているか、医師及び人々の人体内部を見る目がどのように発達してきたか、医師がどのように医学を発達させてきたか、その医学思想等を学び、現代の医療の問題とリンクさせながら講義を行う。	
教養教育科目	インターフェイス科目	医療・福祉と社会コース	現代社会と医療II	(概要) 医療人として活躍する職域・専門分野は多様に分化している。各分野で活躍する先輩たちをゲストスピーカーとして招き、少子高齢化、多様化する社会において医療を支えていく者として、各専門分野の概要、なぜ自分が進路決定にいたったか、現在のとりくみ、将来の展望、各分野の魅力といった実体験に基づく講話を通して、各職域・専門分野の理解を深め、チーム医療・全人的医療における各分野の相互の役割や医療の社会性を認識するとともに、各自が目指す方向性を定めるための参考とする。	
教養教育科目	インターフェイス科目	医療・福祉と社会コース	現代社会と医療III	(概要) 現代社会における包括的医療を構築していくための基礎的理解と、社会を見据える力を養うことを目的として、「社会」が私達の「健康」や「医療」にどのような影響を及ぼすのかについて考えていく。 前半では、東日本大震災における放射能汚染、有機水銀中毒の代表的な公害事例である水俣病を取り上げ、後半では、現代社会で増え続けている健康格差、その他の医療に関わる諸問題について、関連する新聞記事や図書、あるいはウェブ上の動画などを教材として参照しつつ、グループでの討論と発表を主体に講義を進めていく。	
教養教育科目	インターフェイス科目	医療・福祉と社会コース	現代社会と医療IV	(概要) 本講義では、人間が営む活動の一つとして職業・労働をとりあげ、その中で健康を保持する手法を概観する。具体的には、労働衛生管理について、我が国における法規と、それに基づく手順、方法について学んでいく。特に鍋島キャンパスでの開講ということで、衛生学、環境毒性学等、医学的な側面をクローズアップし、健康保持の観点から考察していく。講義は基本的に教科書の内容に基づいて行うが、それ以外の内容も含む。また、演習、実習、グループワーク等アクティブラーニングを併用し、多角的な学習を行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養教育科目	インターフェイス科目	医療・福祉と社会コース	食と健康	食と健康Ⅰ	<p>(概要) 本講義科目は、人類が生存していくために必須の食と健康の関わりに焦点を絞り、健康社会を構築していく上で必要な基礎的理解と食の在り方を考える力と、現代の食の問題点を科学的に評価できる力を養うことを目的とし、講義と学生同士のディスカッション、意見発表を中心に授業を進めていく。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (50 関 清彦／5回) 食品化学をテーマとして、食品に含まれる種々の成分について学ぶ。 (19 永尾 晃治／5回) 栄養化学をテーマとして、食品成分の代謝について学ぶ。 (151 安西 慶三／5回) 臨床栄養学をテーマとして、病院栄養士をゲストスピーカーとして招き、病院食の在り方など、バランスの良い食事や栄養の取り方や食育の大切さについて学ぶ。</p>	オムニバス方式
				食と健康Ⅱ	<p>(概要) 医療人として活躍する職域・専門分野は多様に分化している。各分野で活躍する先輩たちをゲストスピーカーとして招き、少子高齢化、多様化する社会において医療を支えていく者として、各専門分野の概要、なぜ自分が進路決定にいたったか、現在のとりくみ、将来の展望、各分野の魅力といった実体験に基づく講話を通して、各職域・専門分野の理解を深め、チーム医療・全人的医療における各分野の相互の役割や医療の社会性を認識するとともに、各自が目指す方向性を定めるための参考とする。</p>	
				食と健康Ⅲ	<p>(概要) 生涯にわたり健康を維持・増進するために、健康や身体活動・運動、栄養に関する正しい知識とエビデンスに基づいた情報を習得するとともに、学んだことを日常的に実践できるように、座学とスポーツ実技の融合形式で授業を行う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (159 尾崎 岩太／1回) 健康に関する概説を学ぶ。 (293 西田 裕一郎／9回) 疾患予防に適切な運動につき、実技を交えて学ぶ。また、運動と食事の関係、サプリメントの摂取方法等について学ぶ。 (293 西田 裕一郎・74 池上 寿伸・102 坂元 康成／2回) (共同) 球技を中心とする様々なスポーツについて、実技を交えて学ぶ。 (252 高橋 宏和／1回) 「糖尿病と運動」をテーマとして学ぶ。 (253 松本 明子／1回) 飲酒と遺伝子や健康との関係につき学ぶ。 (87 末岡 榮三朗／1回) 「血液と健康」をテーマとして学ぶ。</p>	オムニバス方式
				食と健康Ⅳ	<p>(概要) 病気の治療にあたって、一般的に薬物療法が行なわれている。この授業は、病気や健康に興味のある学生や医療職を目指す学生を対象として、医学部附属病院などで実際に診療にあたっている医師や薬剤師等をゲストスピーカーとして招き、それぞれの専門の立場から、病気や医薬品に関する最先端の研究成果や、臨床応用など最新の話題も取り混ぜながら病気と医薬品の基礎と臨床応用について、パワーポイントや配布資料を使用してわかりやすく講義する。</p>	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	インターフェイスク目	医療・福祉と社会コース	ライフサイクルから見た医療	ライフサイクルから見た医療Ⅰ	
教養教育科目	インターフェイスク目	医療・福祉と社会コース	ライフサイクルから見た医療	ライフサイクルから見た医療Ⅱ	
教養教育科目	インターフェイスク目	医療・福祉と社会コース	ライフサイクルから見た医療	ライフサイクルから見た医療Ⅲ	
教養教育科目	インターフェイスク目	医療・福祉と社会コース	ライフサイクルから見た医療	ライフサイクルから見た医療Ⅳ	オムニバス方式
教養教育科目	インターフェイスク目	地域・佐賀学コース	佐賀の歴史文化	佐賀の歴史文化Ⅰ	

科目区分		授業科目の名称		講義等の内容	備考
教養教育科目	インターフェイス科目	地域・佐賀学コース	佐賀の歴史文化Ⅱ	(概要) 佐賀地域の古代～近世初頭にかけての歴史を語る多様な史料(古文書, 古絵図, 出土遺物, 石造物など)の中身と意味を解説し, 佐賀の歴史の具体的変遷を学ぶ。特に, 佐賀が舞台となった豊臣秀吉の朝鮮出兵(文禄・慶長の役)を通じて政治史・外交史を深く知るため, 名護屋城跡でのフィールドスタディを予定している。	
教養教育科目	インターフェイス科目	地域・佐賀学コース	佐賀の歴史文化Ⅲ	(概要) (209 鬼嶋 淳) 近現代(明治期以降)の佐賀地域の歴史を歴史資料から探る。前半は講義形式で時代の流れを説明する。後半は受講者が調査を行い, その成果を各自(もしくはグループ)で発表する。 (144 重藤 輝行) 佐賀に関する考古学的遺跡などの歴史的記念物について, グループ討論, 発表を中心に展開する。	隔年
教養教育科目	インターフェイス科目	地域・佐賀学コース	佐賀の歴史文化Ⅳ	(概要) 江戸時代から明治時代の佐賀について, 特に経済のシステムや人々の生活のあり方を古文書や史跡などから探る。城下町に住んでいた人々の暮らし, 使っていた貨幣, 税の納め方, 明治時代の佐賀の町の姿など, 多様な観点から上記課題を考える。	
教養教育科目	インターフェイス科目	地域・佐賀学コース	地域経済と社会Ⅰ	(概要) 一つの国に産業構造があるように, 特定の地域にも産業構造がある。そのため地域は産業の盛衰の影響を免れない。本講義では産業構造の変遷が地域経済に与える影響について, いくつかの代表的な産業に焦点を当て, 佐賀県内の事例も取りあげて説明する。またグループに分かれ, 地域分析の課題にも取り組んでもらう。	
教養教育科目	インターフェイス科目	地域・佐賀学コース	地域経済と社会Ⅱ	(概要) 地域経済をマーケティング的視点から考察する。グループワークで, 住んでいる地域の具体的な地域資源を見直したり, 再発見したりしながら, 地域マーケティングという視点から考察する。新しい地域活性化の方策のひとつとして「地域ブランド」の考え方やマーケティングという考え方を身につけることを講義の目的とする。	
教養教育科目	インターフェイス科目	地域・佐賀学コース	地域経済と社会Ⅲ	(概要) 雇用問題は, 私たちの生活や社会のあり方に大きな影響を与えます。経済学の雇用理論を紹介した上で, とくに地域雇用の問題を考えます。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	インターフェイス科目	地域・佐賀学コース	地域経済と社会Ⅳ	(概要) 地方自治をめぐる法／制度について、基本的には伝統的な講義形式によって、指定した教科書にそくしつつ適宜プリントを配布して授業を進めます。もっとも、こちらから質問を発する、質問票を配布するなど可能な限り双方向型の授業を目指したいと考えていますので、積極的に授業に参加してください。また、授業では、基本的な事項をわかりやすく説明することを何よりも心がけますが、アクチュアルな問題や最近の裁判例なども随時取り上げたいと思います。	
教養教育科目	インターフェイス科目	地域・佐賀学コース	地域創成学Ⅰ	(概要) アジア・太平洋諸地域、及び佐賀県内における地域研究の実践事例を踏まえた「地域学」の考え方、およびその手法の基礎を学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) (79 五十嵐 勉／11回) 授業の統括し、地域調査法に関する講義、地域課題発見およびBLの協同学習(グループ研究)の指導を行う。 (2 稲岡 司／2回) 地域調査法(太平洋地域)について講義する。 (26 辻 一成／2回) 地域調査法(ベトナム)について講義する。	オムニバス方式
教養教育科目	インターフェイス科目	地域・佐賀学コース	地域創成学Ⅱ	(概要) 地域課題の解決(緩和)に取り組む佐賀県内のNPO/NGOについて、体験学習を含む特別講義、地域課題解決に関連するイベントプロデュースを含む協同学習(グループ研究)を行う。対象とする地域は、佐賀県内とし、行政・市民・NPO等との連携によって実施する。	
教養教育科目	インターフェイス科目	地域・佐賀学コース	地域創成学Ⅲ	(概要) (都市の魅力とその再生を考える) 実地調査を中心に、地域の空間的課題の発見・問題解決に関する授業を行う。 地域の建物や町並みに関する空間的魅力や課題を調査し、地域社会と物的環境の持続的な発展について考える。	共同
教養教育科目	インターフェイス科目	地域・佐賀学コース	地域創成学Ⅳ	(概要) 農村と都市の活性化のための調査・企画・実践を協同学習(グループ研究)で実施する。対象とする地域は、佐賀県内とし、行政・市民・NPO等との連携によって実施する。	共同
教養教育科目	インターフェイス科目	共通	インターフェイス演習	(概要) インターフェイス科目で開講する各授業科目に関する発展的な演習を行う。 (アントレプレナーシップ) 変革の時代にあつて、起業に限らず、企業・行政・NPOなど社会のあらゆる分野において、アントレプレナーシップ(起業家精神)をもった人材、すなわち、新たな価値創造に挑戦する人材が求められている。 本演習は、各自の取組みをさらに発展させたい履修希望者のみを対象とする。学内外の様々な関係者との関わりの中で自律的に社会実装を進めプロセスを通じて、プロジェクトの文脈において関連知識・スキルを実践的に拡張してほしい。	共同・集中

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	共通教職科目	体育実技 I	<p>(教育概要) 心身の健康を維持・増進するための素地を養い、生涯スポーツに関する能動的な実践能力を養成するために、体育実技では運動・スポーツを安全かつ継続的に実施するための知識と態度の習得を目指す。 体育実技 I では2種目の大人数で行うスポーツ（バスケットボール、バレーボール、サッカー等）の実践を通して、運動・スポーツをする際に留意すべき点や継続のための知識について教授する。 (オムニバス方式/全15回) 1回目 共通オリエンテーション 2～8回目 1種目目 9～15回目 2種目目 担当教員 月II (102 坂元 康成(サッカー)) , (74 池上 寿伸(バレーボール)) , (207 山津 幸司(バスケットボール)) 木III (241 坂井 充(バスケットボール, バレーボール)) 木IV (249 田口 晴康(バスケットボール)) , (118 井上伸一(バレーボール))</p>	オムニバス方式・共同(一部)
		体育実技 II	<p>(教育概要) 心身の健康を維持・増進するための素地を養い、生涯スポーツに関する能動的な実践能力を養成するために、体育実技では運動・スポーツを安全かつ継続的に実施するための知識と態度の習得を目指す。 体育実技IIでは2種目の少人数で行うスポーツ（バドミントン、卓球、テニス等）の実践を通して、運動・スポーツをする際に留意すべき点や継続のための知識について教授する。 (オムニバス方式/全15回) 1回目 共通オリエンテーション 2～8回目 1種目目 9～15回目 2種目目 担当教員 月I (241 坂井 充(卓球)) , (267 龍頭 信二(バドミントン)) , (68 栗原 淳(テニス)) 木III (249 田口 晴康(卓球)) , (280 町田 正直(バドミントン)) 木IV (280 町田 正直(バドミントン, 卓球))</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(農学部生物資源科学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部 基礎 科目	生物学	農学部の専門科目への展開を念頭に置き、生物学の基礎固めを行う。そのために、中学校、高等学校の生物学の範囲を包括的に網羅した授業を行う。 (オムニバス方式/全15回) (10 石丸 幹二/3回) 第1回：細胞について解説する。 第2回：生殖と発生、特に有性生殖と遺伝子の多様性について解説する。 第3回：生殖と発生、特に生殖と発生について解説する。 (15 穴井 豊昭/3回) 第4回：遺伝の法則、特に遺伝現象の規則性について解説する。 第5回：遺伝の法則、特に染色体と遺伝子について解説する。 第6回：遺伝情報とその発現について解説する。 (17 鈴木 章弘/4回) 第7回：環境と植物の反応、特に植物の生活と環境について解説する。 第8回：環境と植物の反応、特に植物の反応と調節について解説する。 第9回：タンパク質と生物体の機能、特に生物体内の化学反応について解説する。 第10回：タンパク質と生物体の機能、特に生命現象とタンパク質について解説する。 (28 草場 基章/5回) 第11回：環境と動物の反応、特に体液と恒常性について解説する。 第12回：環境と動物の反応、特に刺激受容と応答について解説する。 第13回：生物の分類と進化について解説する。 第14回：生物の集団について解説する。 第15回：総復習と疑問点に関する質疑を行う。	オムニバス方式
	物理学	エネルギー、力学を主題とする。その他物理学全般について重要な法則に関して説明をおこなう。物理学全般について理解を深めるのが目標である。特にエネルギーに関連する内容についてはウェイトをおく。 授業計画 第1回：エネルギーのタイプ 第2回：エネルギーと熱 第3回：エネルギーと仕事 第4回：太陽エネルギーと核エネルギー 第5回：運動の3法則 第6回：重力と加速度 第7回：摩擦力 第8回：運動量保存則 第9回：円運動と万有引力 第10回：電流と起電力、電気路、オームの法則、ジュール熱 第11回：電流と磁場 第12回：光と電磁波 第13回：いろいろな波 第14回：原子物理学 第15回：原子核と素粒子	
	化学	生物、環境、生命の理解とその利用には、様々な物質についての化学的理解と思考が必須である。本講義では後に続く農学部の専門科目を理解する為に必要な化学の基礎知識を習得する事を目的としている。(オムニバス方式/全15回) (5 渡邊 啓一/3回) 第1回：生命と化学 第2回：元素と原子 第3回：電子配置と周期性 (35 光武 進/4回) 第4回：単位と物質の分類 第5回：物質の量と化学反応式 第6回：化学反応 第7回：無機化合物と有機化合物 (36 野間 誠司/4回) 第8回：分子やイオンの形と引き合い 第9回：気体 第10回：化学反応と気体の法則 第11回：溶液 (50 関 清彦/4回) 第12回：化学平衡 第13回：酸と塩基 第14回：酸と塩基の反応 第15回：酸化と還元	オムニバス方式
	基礎数学	本講義においては1変数の微分積分学について基礎的な講義を行う。極限や連続関数について準備した後、合成関数の微分法や初等関数の微分について述べる。高校の数学IIIで扱わない逆三角関数の微分についても取り扱う。その後、テイラー展開について講義する。引き続き、積分についてはまず不定積分を導入して置換積分法と部分積分について講義し、具体的関数について積分を計算する。その後、分割和の極限として定積分を導入する。応用として面積計算を行う。最後に簡単な変数分離形の微分方程式の解法について講義する。	
	基礎統計学	本講義で学ぶ統計学とは、データの整理・分析の理論である。主な内容は以下の通りである。 (1) 与えられたデータを整理し、その特徴を明らかにするいくつかの方法を学ぶ。特に、データを表現する方法、データ全体を一つの数値で表すこと、データの広がり具合を数値で表すことについて述べる。また、二種類のデータの間の関連を把握したり特徴づける方法についても述べる。 (2) 統計学を理論的に記述するための言葉である確率論について、特に確率変数といくつかの代表的な確率分布のあつかいについて学ぶ。 (3) 母集団(全体)の性質がどのように標本(部分)に反映しているかを標本分布を通して調べる。 (4) 以上の知識を用いて、区間推定・仮説検定についての基本的な事項を学ぶ。	

<p>アグリキャリアデザイン</p>	<p>(概要) 農学部で習得する専門知識や技術を生かした職業、あるいは、いわゆる「グリーンライフ活動」を実践するための基本的なキャリアモデルについて学生が理解することを目的とする。学生が具体的なキャリアイメージをもつように、外部講師（実務家）の体験を聴くことを重視する。 (オムニバス方式/全15回) (全員/2回) ガイダンス、まとめ（学生による討論と発表） (3 有馬 進) 農学部の歴史と期待される役割（農学部長） (2 福岡司/2回) 農村地域開発と国際援助—国際交流推進センター、JICA— 産学連携 (26 辻 一成/3回) 農業経営を支援する組織や機関—農業改良普及員、JA営農指導員— 農業経営の実践—農業（法人）経営者— 農産物流通と食品関連産業—JA、農産物卸売会社職員、食品製造業者、食品流通業者— (44 中井 信介/2回) 農業と地域文化 農業と人間の生き方 (27 藤村 美穂/3回) 農業高校と地域社会 農業と女性—農業分野で活躍する女性— 条件不利地を活かす (79 五十 嵐勉/2回) 農業・農村と地方行政—自治体の行政担当者— 農業の6次産業化—農産物直売所経営者、農商工連携実践者、農業金融機関職員、地域団体、NGO など—</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>農学概論</p>	<p>農学部に入学する1年生を対象に、農学における各分野の学問・生活・産業の面における役割を解説し、農学に関する基礎知識を幅広く習得することをテーマに教授する。授業の内容が農学全般にわたるように、毎回設定したテーマに専門知識を有する教員により、当該分野の概況および最新の研究情報を解説する。（オムニバス方式/全15回） (11 吉平（鄭） 紹輝/3回) 第1回：農学とは 第8回：緑地環境科学 第15回：水産資源の利用と保全 (14 一色 司郎/3回) 第2回：植物の生産と利用 第3回：動物の生産と利用 第4回：生物資源の開発と保護 (18 田中 宗浩/3回) 第5回：農業生産環境の保全 第6回：農業生産システム (18 田中 宗浩) 第7回：農地整備と改良 (18 田中 宗浩) (12 濱 洋一郎/3回) 第9回：生命機能科学 第10回：食品加工の科学 第11回：食品の機能性 (2 福岡 司/3回) 第12回：国民経済と農業 第13回：農山村の生活と環境 第14回：森林資源の利用と保全</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>農業ICT学</p>	<p>本講義では、環境情報、植物生育情報、農業経営、流通販売情報といった農業に関連するICT技術を概説し、ビッグデータ解析手法と成果のケーススタディを通して、ロジカルシンキング能力を醸成させる。また、ビッグデータ解析から得られる成果の社会実装のケーススタディを通してアントレプレナーシップ及び知財戦略の現状を概説する。 授業計画における分担状況は以下のとおり（オムニバス方式/全15回） (18 田中宗浩/7回) アントレプレナーシップおよび知的財産戦略の解説 (20 北垣 浩志/2回) 多変量解析などのIT技術の根本となる手法の解説 (25 稲葉 繁樹/6回) ICT技術における実際の技術およびその周辺領域に関する解説</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>生物化学</p>	<p>本講義では、生体分子の中で特に重要な機能をもつ4種類の化合物（タンパク質、核酸、糖質、脂質）の構造、性質および機能について解説する。生命の仕組みを分子レベルで理解するための第一歩として、生きるために重要な役割を果たしている生体分子の構造と機能の関係について理解することを目的としている。 到達目標：1. タンパク質、核酸、糖質、脂質の基本構造と化学的性質について理解し説明できる。2. これらの分子の生体における基本的役割を理解し説明できる。 (オムニバス方式/全15回) (52 本島 浩之/5回) アミノ酸の化学構造と性質、ペプチドとタンパク質の化学構造、タンパク質の立体構造。 (5 渡邊 啓一/10回) タンパク質の構造と機能、ヌクレオチドの化学構造と性質、DNAとRNAの構造と性質、糖質の化学構造と性質、脂質の化学構造と性質。</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>栽培学汎論</p>	<p>人類は長い歴史経験によって、その土地に適する作物を作って食糧にして生き延びてきている。栽培技術はそこから生まれている。本講義は作物の起源と農耕文化から始まり、作物の栽培歴史、栽培環境、作物の成長生理及び品種分化、さらに施肥や雑草防除といった作物の栽培管理技術を教授する。(オムニバス方式/全15回) (3 有馬 進/6回) 第1回：世界及び日本の食料生産概況について解説する 第2回：作物の起源と農耕の歴史について解説する 第12回：作物栽培における施肥技術について解説する 第13回：作物栽培における雑草防除技術について解説する 第14回：作物栽培における圃場管理技術について解説する 第15回：総括・復習 (11 吉平(鄭) 紹輝/6回) 第3回：作物の栽培環境—土壌について解説する 第4回：作物の栽培環境—気象について解説する 第5回：作物品種の生態型について解説する 第6回：普通作物の成長特性について解説する 第7回：普通作物の収量生理—乾物生産について解説する 第8回：普通作物の収量生理—結実と登熟について解説する (14 一色 司郎/3回) 第9回：園芸作物の成長生理 (1) アブラナ科,バラ科, サトイモ科について解説する 第10回：園芸作物の成長生理 (2) ウリ科, ユリ科について解説する 第11回：園芸作物の成長生理 (3) ナス科について解説する</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>土壌学</p>	<p>地球と比べると土壌層はリンゴのワックスのように薄い。しかし、地球上の生物をはぐくむかけがえのない存在だ。人類は土壌を荒廃させる歴史を繰り返しており、持続的社會を作るには、土壌の保全が欠かせない。授業では、土壌の持つ養分保持力や環境調節効果などの巧妙な仕組みや、土壌微生物の働きについて分かりやすく解説し、作物生産の増進や環境保全に関わる土壌の役割について考える。本講義は農学や環境科学の基礎であり、農学系公務員試験対策にも重要。各回の内容は以下の通り。 第1回：【1】土壌学のすすめ 土壌とは、土壌の恵恩、壊れやすい土壌 第2回：【2】土壌無機成分 (1) 土壌の三相, 風化, 母岩 第3回：【2】土壌無機成分 (2) 一次鉱物, 二次鉱物, 粘土鉱物, 1:1型, 2:1型, 珪ばん比 第4回：【3】土壌有機物 (1) 土壌有機物の生成と分解, 土壌腐植 第5回：【3】土壌有機物 (2) 腐植物質の分画 第6回：【3】土壌有機物 (3) 有機物資材 (堆肥) 第7回：【4】土壌化学 (1) 陽イオン交換能, 土壌pH, CEC, 塩基飽和度 第8回：【4】土壌化学 (2) 重金属の吸着, リン酸吸収係数 第9回：【4】土壌化学 (3) 酸化還元, EC, 土壌化学のまとめ 第10回：【5】土壌微生物 (1) 土壌生態系と微生物の分類, 土壌微生物の代謝 第11回：【5】土壌微生物 (2) 物質循環と微生物 第12回：【5】土壌微生物 (3) 土壌窒素動態と微生物, 微生物バイオマス 第13回：【5】土壌微生物 (4) 共生微生物 第14回：【5】土壌微生物 (5) 環流土壌, バイオレメディエーション 第15回：【6】土壌物理 耐水性団粒, 土壌水分恒量, 圃場容水量</p>	
<p>生物統計学</p>	<p>データの傾向を知りたい人や、データをもとに仮説の妥当性を主張しようとする人にとって統計学は欠かせない学問である。とりわけ大きな個体差を伴う生物データを取り扱う人にとって生物統計学の修得は死活問題とも言っても良い。本講義では、そのように重要な生物統計学の初歩を教える。まず記述統計学の概要を説明し、数量データの分類、データの表示、データ集団の代表値と散布度について紹介する。その後、分析統計学の基本的考え方や手法を紹介し、さらに確率論をベースにしたサンプリングの考え方、推定、検定の考え方、様々な検定法の紹介をする。最後に、帰帰分析をはじめとした、データからのモデル推定の話もする。</p>	
<p>農業経済学</p>	<p>(概要) 学生が、現在の日本農業が直面している状況を的確に説明でき、初歩的な経済学の理論を用いてその状況を分析考察できるようになることを目的とする。 (単独/全15回) 第1回：農業経済学と農業的世界 (農業の特質とその分析枠組みとしての農業経済学の意義) 第2回：経済発展と農業 (経済成長に伴う農業部門の相対的かつ絶対的縮小, 食料需要の所得弾力性, エンゲルの法則, 農業の過剰就業問題 (農業の構造問題)) 第3回：食料の需要と供給 (需要面における食料の価格弾力性の特徴と生産面における作況変動の動向からみた食料市場の不安定性と政策介入の必要性) 第4回：農業生産と土地 (土地集約型産業である農業の適正集約度と適正規模) 第5回：農業の経営組織 (農業の主要な企業形態である家族農業経営の特質) 第6回：農産物の市場組織 (農産物市場と農業要素市場の理論と実際) 第7回：農産物貿易と農業保護政策 (1) (穀物貿易の特質と国内農業保護政策) 第8回：農産物貿易と農業保護政策 (2) (ガット農業交渉, WTO農業協定, FTAと地域経済統合) 第9回：世界の人口と食料 (世界の人口増加下における食料生産と分配の問題) 第10回：食生活の成熟とフード・システム (国民の食生活変化に伴う食品産業の成長と課題) 第11回：農業の近代化 (農業の近代化に果たす農業技術進歩の意義) 第12回：資源・環境と農業 (近代農業の外部不経済とその克服に向けた課題) 第13回：日本の農業と食料 (1) (日本の農業・食料問題と農業基本法下の農業の変化) 第14回：日本の農業と食料 (2) (食料・農業・農村基本法成立後の日本農業の動向) 第15回：農業政策と農業経済学 定期試験</p>	

食品科学	<p>近年、「食」に対する社会的関心が高まっている。特に「食の安心安全」や「食品の機能性」には注目が集まり、メディアに取り上げられることも多く、様々な情報が氾濫している。生命機能科学コースでは、専門教育を通して生命および食品に対する「科学的視点」を養い、これらの情報を正しく理解する人材育成を行っている。本講義は、専門教育への導入科目であり、主に食品に対する「科学的視点」の基本的な考え方を理解する事を目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>第1回：イントロダクション (12 濱 洋一郎)</p> <p>第2回：食品衛生監視員、管理者資格と食品衛生行政 (12 濱 洋一郎)</p> <p>第3回：食品に潜在するリスクとそれらのマネージメント (12 濱 洋一郎)</p> <p>第4回：食品に含まれる栄養素の必須性と疾病発症リスクについて (19 永尾 晃治)</p> <p>第5回：生活習慣病の発症・予防と日本人の食事摂取基準について (19 永尾 晃治)</p> <p>第6回：乳酸菌発酵食品の科学 (13 小林 元太)</p> <p>第7回：酵母菌発酵食品の科学 (13 小林 元太)</p> <p>第8回：麹菌発酵食品 (味噌、醤油) の科学 (16 後藤 正利)</p> <p>第9回：麹菌発酵食品 (清酒、焼酎) の科学 (16 後藤 正利)</p> <p>第10回：食品加工における物理的変換操作 (8 林 信行)</p> <p>第11回：食品加工における化学的・生物学的変換操作 (8 林 信行)</p> <p>第12回：食品と分析化学 (基礎) (21 宗 伸明)</p> <p>第13回：食品と分析化学 (応用) (21 宗 伸明)</p> <p>第14回：生命科学と食品 (5 渡邊 啓一)</p> <p>第15回：特定保健用食品と機能性表示食品 (5 渡邊 啓一)</p>	オムニバス方式
生物科学概論Ⅰ	<p>生物科学概論Ⅰ・ⅠⅠでは生物科学コースの各分野で行われている研究の理解を通じ、農学に関する基礎知識を幅広く習得することをテーマとする。生物科学概論Ⅰでは主に農作物・家畜の生産、育種、利用に関する研究を推進している分野を対象に学習する。毎回、分野を担当する教員1名が研究内容を講義する。また、ガイダンスで受講生を分けて各分野の担当を決め、担当する分野の講義が終了した後、教員と質疑を含めた討論を行い、担当分野の研究内容をまとめる。まとめた結果を第14回と第15回で成果発表する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(14 一色 司郎/2回)</p> <p>第1回：ガイダンスを行う。</p> <p>第2回：野菜の科学について解説する。</p> <p>(15 穴井 豊昭/1回)</p> <p>第3回：作物の改良と分子育種技術について解説する。</p> <p>(41 辻田 有紀/1回)</p> <p>第4回：ラン科植物の多様性と進化について解説する。</p> <p>(11 吉平 (鄭) 紹輝/1回)</p> <p>第5回：マメ科植物の活用法について解説する。</p> <p>(40 徳田 誠/1回)</p> <p>第6回：植物の生態について解説する。</p> <p>(46 山中 賢一/1回)</p> <p>第7回：次世代に命をつなぐ生殖細胞について解説する。</p> <p>(45 藤田 大輔/1回)</p> <p>第8回：熱帯地域の作物改良について解説する。</p> <p>(24 上埜 喜八/1回)</p> <p>第9回：イネ科作物の利用について解説する。</p> <p>(31 古藤田 信博/3回)</p> <p>第10回：花が咲くメカニズムと果物の香り・健康機能分子について解説する。</p> <p>第14回：学習成果発表 第2回～第7回の講義を纏めさせる。</p> <p>第15回：学習成果発表 第8回～第13回の講義を纏めさせる。</p> <p>(48 渡邊 啓史/1回)</p> <p>第11回：育種学の基礎について解説する。</p> <p>(49 松本 雄一/1回)</p> <p>第12回：遺伝資源を用いた蔬菜花卉品種の開発と機能性食品への応用について解説する。</p> <p>(32 福田 伸二/1回)</p> <p>第13回：ゲノム情報を利用した果樹の育種について解説する。</p>	オムニバス方式
生物科学概論Ⅱ	<p>生物科学概論Ⅰ・ⅠⅠでは生物科学コースの各分野で行われている研究の理解を通じ、農学に関する基礎知識を幅広く習得することをテーマとする。生物科学概論Ⅰでは主に栽培動植物と他の生物、環境、人間との関わりに関する研究を推進している分野を対象に学習する。毎回、分野を担当する教員1名が研究内容を講義する。また、ガイダンスで受講生を分けて各分野の担当を決め、担当する分野の講義が終了した後、教員と質疑を含めた討論を行い、担当分野の研究内容をまとめる。まとめた結果を第14回と第15回で成果を発表する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(14 一色 司郎/1回)</p> <p>第1回：ガイダンスを行う。</p> <p>(10 石丸 幹二/1回)</p> <p>第2回：植物の代謝機能と健康科学について解説する。</p> <p>(3 有馬 進/1回)</p> <p>第3回：地球環境の変化と作物生産について解説する。</p> <p>(6 早川 洋一/1回)</p> <p>第4回：昆虫学の初歩 (入門) を解説する。</p> <p>(7 和田 康彦/1回)</p> <p>第5回：免疫学の初歩 (入門) を解説する。</p> <p>(9 大島 一里/1回)</p> <p>第6回：植物のウイルス病について解説する。</p> <p>(4 野間口 眞太郎/1回)</p> <p>第7回：動物行動生態学の初歩 (入門) について解説する。</p> <p>(40 徳田 誠/1回)</p> <p>第8回：生物多様性と生物間相互作用について解説する。</p> <p>(30 吉賀 豊司/1回)</p> <p>第9回：線虫の世界について解説する。</p> <p>(28 草場 基章/2回)</p> <p>第10回：微生物学の初歩 (入門) について解説する。</p> <p>第11回：植物の糸状菌病について解説する。</p> <p>(37 江原 史雄/1回)</p> <p>第12回：家畜が人を癒す ～心と体に働きかける動物の特別な力～について解説する。</p> <p>(17 鈴木 章弘/1回)</p> <p>第13回：高等植物と微生物の共生について解説する。</p> <p>(31 古藤田 信博/2回)</p> <p>第14回：学習成果発表 第2回～第7回の講義について纏める。</p> <p>第15回：学習成果発表 第8回～第13回の講義について纏める。</p>	オムニバス方式

応用動物昆虫学	地球上の多様な動物は、直接的または間接的に、私たちの生活と密接に関係を持つ。本講義では、昆虫、線虫、ダニなどの発育と個体数を制御して被害を軽減する方法を理解するための基礎として、これらの動物の生理（早川担当）、行動（吉賀担当）、分類・生態（徳田担当）について、平易に解説する。 （オムニバス方式/全15回） （6 早川 洋一/5回） 第1回：ガイダンス。特に、動物と植物の違いを解説する。 第2回：動物の体の構造と生理の基本原則を解説する。 第3回：生命科学におけるバイオテクノロジーを解説する。 第4回：動物界における昆虫のユニークな特徴、特に体のつくりを解説する。 第5回：動物界における昆虫のユニークな特徴、特に生理を解説する。 （30 吉賀 豊司/5回） 第6回：個体群の成長を解説する。 第7回：種間競争を解説する。 第8回：捕食と寄生を解説する。 第9回：植物寄生性線虫を解説する。 第10回：害虫管理と農業生態系の安定性を解説する。 （40 徳田 誠/5回） 第11回：有害鳥類を解説する。 第12回：有害獣類を解説する。 第13回：有害無脊椎動物（昆虫以外）を解説する。 第14回：個体群動態を解説する。 第15回：まとめを行う。	オムニバス方式
植物生理学	植物細胞の構造とその機能に関する講義である。古典的な研究から、最近の代謝化学分野における発見、分子レベルでのさまざまな機能を詳しく解説する。 （オムニバス方式/全15回） （17 鈴木 章弘/5回） 第1回：植物生理学の概要を解説する。 第2回：植物の生育する環境（光、水）について解説する。 第3回：植物の生育する環境（温度、その他）について解説する。 第4回：植物の細胞培養について解説する。 第5回：植物の遺伝子変化について解説する。 （10 石丸 幹二/5回） 第6回：植物の発生と生長について解説する。 第7回：植物の細胞壁について解説する。 第8回：植物の運動について解説する。 第9回：植物ホルモン（オーキシン、サイトカイニン）について解説する。 第10回：植物ホルモン（ジベレリン、アブシジン酸）について解説する。 （31 古藤田 信博/5回） 第11回：植物ホルモン（その他）について解説する。 第12回：開花について解説する。 第13回：光合成について解説する。 第14回：呼吸とエネルギー利用について解説する。 第15回：植物の栄養について解説する。	オムニバス方式
遺伝学	近年、様々な生物種のゲノム解析が進んでおり、21世紀は生命科学の時代であると言われてい。生物が生物たる所以は種特異的な遺伝情報を含むゲノムを持ち、これを子孫に伝えて行くところにある。本講義では、メンデル遺伝の基礎から細胞遺伝学、分子遺伝学を含む現代の遺伝学全般に関しての講義を行い、最新の農学・生命科学の理解に必要な遺伝的知識を教授する。 （オムニバス方式/全15回） （15 穴井 豊昭/5回） 第1回 遺伝子の構造 第2回 遺伝子の転写 第3回 遺伝子の翻訳 第4回 DNAの複製 第5回 遺伝子発現の制御 （48 渡邊 啓史/5回） 第6回 突然変異 第7回 変異原 第8回 組換え 第9回 メンデル遺伝学 第10回 減数分裂 （45 藤田 大輔/5回） 第11回 連鎖 第12回 量的形質の遺伝 第13回 性と遺伝 第14回 確率と適合性の検定 第15回 組換えDNA技術	オムニバス方式
食用作物学	（3 有馬 進, 17 鈴木 章弘, 24 上埜 喜八） 主要な食用作物の分類・起源・伝播・性状・生産栽培・品種改良・利用について講述する。本講で取り上げる農作物としては、イネ・コムギ・オオムギ・ライムギ・エンバク・トウモロコシ・ダイズ・ラッカセイ・サツマイモ・ジャガイモなどである。イネ科作物に関しては、4回を有馬が、4回を上埜が主に講述し、マメ科作物に関しては、4回を鈴木が、イモ類に関しては3回を上埜が、主に講述する。	オムニバス方式

園芸学	<p><園芸学> 園芸学は、野菜、果実、観賞植物などの園芸作物全般の基本的な講義である。園芸作物の生産、流通、利用、あるいは教育、研究、行政に関わる職業に就く予定の学生だけでなく、人文科学的、社会科学的な分野に関わる学生にも、独立した科目として受け入れられるものとした。各回の講義内容は以下の通り。 (オムニバス方式/全15回) (14 一色 司郎/3回) 第1回：園芸と園芸学について解説する。 第2回：園芸作物の種類と分類について解説する。 第3回：園芸作物の形態について解説する。 (31 古藤田 信博/3回) 第4回：園芸作物の生理、特に発芽から花芽形成について解説する。 第5回：園芸作物の生理、特に種子形成、植物ホルモンについて解説する。 第6回：園芸作物の品種の改良方法と種苗の繁殖方法について解説する。 (41 辻田 有紀/3回) 第7回：園芸作物の発育に伴う生理生態的特性と栽培管理、特に野菜について解説する。 第8回：園芸作物の発育に伴う生理生態的特性と栽培管理、特に果樹について解説する。 第9回：園芸作物の発育に伴う生理生態的特性と栽培管理、特に花卉について解説する。 (32 福田 伸二/3回) 第10回：園芸作物の生産施設と流通施設について解説する。 第11回：園芸作物の鮮度保持方法について解説する。 第12回：園芸作物に含まれる栄養成分と機能性成分、特に野菜と果樹について解説する。 第13回：園芸作物に含まれる栄養成分と機能性成分、特に花卉について解説する。 (49 松本 雄一/2回) 第14回：園芸の新しい展開領域について解説する。 第15回：環境にやさしい園芸生産について解説する。</p>	オムニバス方式
生物学実験	<p>生物を材料とした様々な研究の基礎になるフィールド調査法、培養法、顕微鏡を用いた観察法を中心とした実験を行う。本実験を通して、生物組織の観察を行う能力を身に付けることを目的としている。特に、顕微鏡の構造と使用法、植物や昆虫の微小器官をはじめ微生物の正確な観察方法、植物の培養・観察法、フィールドでの動植物群集の解析法(コンピューター活用を含む)等を教える。(オムニバス方式/全15回) (14 一色 司郎/1回) 第1回：植物の交配実験を行う。 (15 穴井 豊昭/1回) 第2回：植物の花器の構造・染色体の観察を行う。 (4 野間口 真太郎/1回) 第3回：野外生物の個体群調査(コンピューター活用を含む)を行う。 (46 山中 賢一/1回) 第4回：哺乳類生殖細胞の観察を行う。 (7 和田 康彦/1回) 第5回：白血球の分離と染色を行う。 (40 徳田 誠/1回) 第6回：アリを介した生物間相互作用の観察を行う。 (9 大島 一里/1回) 第7回：ウイルスの病徴観察を行う。 (11 吉平(鄭) 紹輝/1回) 第8回：植物の種子と発芽の形態観察を行う。 (30 吉賀 豊司/1回) 第9回：線虫の基本形態観察を行う。 (6 早川 洋一/1回) 第10回：寄生蜂による寄生実験を行う。 (10 石丸 幹二/1回) 第11回：植物の抗酸化活性の測定を行う。 (28 草場 基章/1回) 第12回：植物病原糸状菌の観察を行う。 (31 古藤田 信博/1回) 第13回：果物の香りと食味の多様性評価を行う。 (3 有馬 進/1回) 第14回：植物の根系の観察を行う。 (17 鈴木 章弘/1回) 第15回：植物と微生物の共生に関する実験を行う。</p>	オムニバス方式
フィールド科学基礎実習Ⅰ	<p>ミカンの接ぎ木、防虫、施肥及び除草等の果樹管理を行う。西南暖地で主に栽培されている種々の作物や園芸植物の栽培を行う際の耕起、畝立て、定植、除草、収穫などの栽培管理を行う。牛の捕獲、牛体洗浄、牛体測定、牛床の清掃などの家畜管理を行う。各回の内容は以下の通り。 第1回：ガイドンス、ミカンの接ぎ木 第2回：ミカンの定植、トマトの定植・誘引、イチゴの撤去 第3回：ジャガイモ追肥・土寄せ、キクイモの定植 第4回：乾草収納、キュウリの定植・誘引、モモ袋かけ 第5回：カーネーション撤去・ポット土詰め、ノビルの収穫 第6回：水稻育苗箱播種、サツマイモマルチ被覆 第7回：サツマイモ挿苗、キウイ管理 第8回：有機水稻苗取り、ジャガイモ収穫・調整 第9回：カーネーション定植、トマト・キュウリ管理 第10回：田植え 第11回：イチゴジャム製造、カーネーション摘心・段上げ 第12回：里芋追肥・敷きわら、キクイモ管理 第13回：家畜管理、サツマイモ苗撤去、茶園管理 第14回：トマトケチャップ製造、イチゴ採摘 第15回：キュウリ撤去、トマト撤去</p>	
群集生態学	<p>生態系における生物同士の相互作用や生き物の生活史戦略、生態について紹介し、群集生態学の基本的概念に関する知識を身につける。植物の対捕食者戦略、動物の対捕食者戦略、寄生者による寄主操作の機構と意義、昆虫の性を操る微生物とその機構、動植物と共生微生物との相互作用、動物を介した植物の花粉媒介/種子散布戦略、生態系改変者、種分化と共進化など、生物間相互作用に関する様々な事例紹介を通して、生物におけるふるまいの適応的意義に関して解説する。一連の授業を通して、生態学的思考法やものの見方、および、生物のふるまいにおけるコストとベネフィットの概念について解説する。</p>	
昆虫学	<p>地球上に生息する昆虫は約100万種以上とも言われ、全動物種の3/4~4/5を占めている。これほど多様な昆虫の生き様は、私達に色々な意味で多くのことを語りかけて来る。本講義では、昆虫に関する形態、生理、生化学的知見を紹介し、昆虫への興味を喚起する。さらに、昆虫の生き様を通して私達ヒトの生き方を客観的に再評価する契機となるような話題を提供したい。</p>	

線虫学	<p>線虫は、ヒトや昆虫と同様に、地球上で最も栄えている多細胞動物である。その種類数と個体数は非常に多い。生活様式は多様（自活性、捕食性、寄生性、等）で、線虫は、直接的あるいは間接的に、私たちの生活と深く関わっている。この講義では、線虫の基礎生物学的特徴と、動植物に寄生する線虫ならびに有用線虫について解説する。</p> <p>第1回：ガイダンス。線虫とは？ 第2回：モデル生物C. elegans 第3回：線虫の体制と発育 第4回：多様な線虫（口腔と摂食様式） 第5回：多様な線虫（繁殖様式） 第6回：動物寄生性線虫：脊椎動物に寄生する線虫-1（単独で寄生する線虫） 第7回：動物寄生性線虫：脊椎動物に寄生する線虫-2（媒介される線虫） 第8回：動物寄生性線虫：無脊椎動物に寄生する線虫-1（絶対寄生） 第9回：動物寄生性線虫：無脊椎動物に寄生する線虫-2（条件寄生） 第10回：植物寄生性線虫：マツノザイセンチュウ 第11回：植物寄生性線虫：ネグサレセンチュウ 第12回：植物寄生性線虫：シストセンチュウ 第13回：植物寄生性線虫：ネコブセンチュウ 第14回：植物寄生性線虫：その他の植物寄生性線虫 第15回：全体のまとめ</p>	
微生物学	<p>生命体としての微生物に対して、その生物学的（形態・分類）および生化学的性状（生理代謝・遺伝）を解説する。微生物に対する基礎的概念を理解するとともに、生命現象を科学的に理解するための基礎学力を身に付けることを目標とする。</p>	
植物育種学	<p>1960年代から始まった「緑の革命」は、世界の食糧生産を飛躍的に向上させた。この原動力となったのがコムギ、イネ、トウモロコシといった主要穀物の品種改良であったことは良く知られている。21世紀をむかえ、世界の人口は更に増加すると考えられており、作物の改良は益々重要となると考えられる。本講義では、植物の育種を進める上で重要となる作物ゲノムの成り立ちから遺伝資源の利用、生殖様式に応じた育種法の原理と利用、遺伝的変異の拡大とその遺伝的固定、選抜、検定といった様々な技術について、その基礎理論から最新の応用までを体系的に解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (48 渡邊 啓史/5回) 第1回：育種学とは何か？ 第2回：栽培植物の起源と進化 第3回：遺伝資源の探索と導入 第4回：自殖性作物の交雑育種（1）遺伝様式の理解 第5回：自殖性作物の交雑育種（2）育種の方法の理解 (45 藤田 大輔/5回) 第6回：自殖性作物の交雑育種（3）実際の育種への応用 第7回：他殖性作物の交雑育種（1）遺伝様式の理解 第8回：他殖性作物の交雑育種（2）育種方法の理解 第9回：他殖性作物の交雑育種（3）実際の育種への応用 第10回：栄養繁殖性作物、遠縁交雑育種 (15 穴井 豊昭/5回) 第11回：染色体変異と倍数性育種 第12回：突然変異育種（1）変異原とその変異の機構 第13回：突然変異育種（2）選抜理論 第14回：組織培養の育種利用 第15回：遺伝子組換え育種</p>	オムニバス方式
植物病理学	<p>農作物などの有用植物を対象とし、病原体と植物とのかかわりを研究することによって、病気による被害を防ぐことが可能となることについて紹介する。また病原体の種類や感染、病原体の制御に資する基本的な概念を解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (9 大島 一里/7回) 第1回：植物病理学の概略と歴史を解説する。 第2回：植物の病徴を解説する。 第3回：植物の病気を解説する。 第4回：感染と発病を解説する。 第5回：ウイルス病を解説する。 第6回：ウイロイド病を解説する。 第7回：ウイルス病の診断とバイオサイエンスを解説する。（大島） (28 草場 基章/8回) 第8回：糸状菌病（クロミスタ界）を解説する。 第9回：糸状菌病（真菌）を解説する。 第10回：細菌病を解説する。 第11回：ファイトプラズマ病を解説する。 第12回：病気の伝染を解説する。 第13回：病気の診断・防除を解説する。 第14回：感染生理（抵抗性）を解説する。 第15回：感染生理（病原性を解説する）。</p>	オムニバス方式
畜産学	<p>わが国および世界の畜産業の概要と家畜家禽の遺伝、育種、繁殖、生理、栄養、飼養管理、衛生、畜産物加工など動物生産にかかわるさまざまな学問領域について最新の研究成果も踏まえて概説する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (7 和田 康彦/5回) 第1回：オリエンテーション、畜産学序論 第2回：家畜家禽生産の現場 第3回：家畜衛生と疾病 第4回：家畜化の歴史と家畜の品種 第5回：家畜育種の基礎 (46 山中 賢一/5回) 第6回：家畜栄養学1：栄養素の種類と性質 第7回：家畜栄養学2：栄養素の消化・吸収および代謝 第8回：家畜生体生理学：消化器系の構造と機能 第9回：家畜繁殖生理学1：人工授精 第10回：家畜繁殖生理学2：受精卵移植および体外受精 (37 江原 史雄/5回) 第11回：家畜の飼養管理 第12回：家畜の飼養施設 第13回：畜産物の品質と機能 第14回：畜産物の安全性 第15回：アニマルウェルフェア</p>	オムニバス方式

行動生態学	生き物は厳しい環境条件を生き抜くために捕食行動、回避行動、配偶行動、協力行動等において様々な適応的行動を進化させて来たと考えられる。これら動物の多様な行動の進化を、最適化理論、ゲーム理論、量的遺伝学を取り入れた行動生態学的視点から解説する。	
植物栄養学	<p>植物の無機栄養成分が、光合成をはじめとする各種の代謝にどのようにかかわっているか、またこれらの過不足により、どのような症状を呈するかを主に教授する。植物栄養学は、植物生理学と合わせて、植物を理解する上で重要な学問で、教職の資格や改良普及員の資格試験の関連科目であり、農学部全学生の履修を勧める。各回の内容は以下の通り。</p> <p>第1回：無機元素と光エネルギーの起源 第2回：根による必須栄養素の吸収機構 第3回：必須栄養素、代謝産物および水の移動 第4回：炭素同化（光合成） 第5回：炭素代謝（呼吸） 第6回：窒素同化と窒素代謝 第7回：根粒菌による窒素固定 第8回：窒素、リン酸・カリウムとそれらの栄養的役割 第9回：カルシウム・マグネシウムとそれらの栄養的役割 第10回：鉄・マンガンとそれらの栄養的役割 第11回：銅・亜鉛・ニッケルとそれらの栄養的役割 第12回：モリブデン・ホウ素・塩素とそれらの栄養的役割 第13回：有用元素あるいは有害元素（ケイ素・ナトリウム・アルミニウム）について 第14回：植物栄養とバイオテクノロジー 第15回：肥料の種類と有機農業</p>	
熱帯作物学	<p>アジア・アフリカ地域では、人口増加に伴った食糧の増産が必要不可欠な状態にあり、熱帯地域の主要作物の生産性を向上することは重要な課題となっている。本講義では、熱帯地域に適した作物生産の環境と直面している農業生産上の課題についての知識を教授する。具体的には、熱帯の作物栽培における多様な環境（気候、植生、土壌、作付体系など）を学び、それぞれの環境に適した作物の栽培や品種の利用についての知識を深め、将来的な作物生産についてのあり方を考える。</p> <p>（オムニバス方式/全15回） (11 吉平（鄭） 紹輝/7回） 第1回：熱帯の気候を解説する。 第2回：熱帯の農業生産概況を解説する。 第3回：熱帯の土壌と植生を解説する。 第4回：熱帯農業の多様性を解説する。 第5回：熱帯の作付体系を解説する。 第6回：熱帯の農地管理を解説する。 第7回：熱帯の主要作物（畑作・稲作）を解説する。 (45 藤田 大輔/8回) 第8回：熱帯作物1（穀類）を解説する。 第9回：熱帯作物2（マメ類）を解説する。 第10回：熱帯作物3（イモ類）を解説する。 第11回：熱帯作物4（工芸作物）を解説する。 第12回：熱帯作物5（環境ストレス耐性）を解説する。 第13回：熱帯作物6（生物ストレス耐性）を解説する。 第14回：農学分野における国際協力を解説する。 第15回：遺伝資源の保存を解説する。</p>	オムニバス方式
野菜花卉園芸学	<p><野菜花卉園芸学> 野菜花卉園芸作物の生産、流通、利用、あるいは教育、研究、行政に関わる職業に就く予定の学生だけでなく、人文科学的、社会科学的な分野に関わる学生にも、野菜花卉園芸学の基本から応用までを網羅している。各回の講義内容は以下の通り。</p> <p>（オムニバス方式/全15回） (14 一色 司郎/6回) 第1回：野菜の種類と生産について解説する。 第2回：野菜の育種・採種とバイオテクノロジーについて解説する。 第3回：野菜の栄養と生育について解説する。 第4回：野菜の成長と発育について解説する。 第5回：野菜の栽培技術について解説する。 第6回：野菜の収穫後の生理と品質保持について解説する。 (41 辻田 有紀/6回) 第7回：花卉の種類と分類について解説する。 第8回：花卉の生産について解説する。 第9回：花卉の開花生理について解説する。 第10回：花卉の作型について解説する。 第11回：花卉の繁殖について解説する。 第12回：花卉の鮮度保持について解説する。 (49 松本 雄一/3回) 第13回：花卉の植物ホルモンについて解説する。 第14回：花卉の花色について解説する。 第15回：花卉の消費について解説する。</p>	オムニバス方式
果樹園芸学	<p>40目、134科、695属におよぶ多様な植物を包含する果樹について概観しつつ、主要な果樹の特性、栽培方法、遺伝、育種、機能性成分等について基本事項を習得する。地方及び国家公務員試験にも対応できるような内容とする。</p> <p>（オムニバス方式/全15回） (31 古藤田 信博/8回) 第1回：果樹園芸学の概要、遺伝資源の導入と育種 第2回：分類と形態 第3回：幼若性と花芽形成 第4回：開花、受精、結実 第5回：果実の生長と肥大 第6回：成熟・老化の生理 第7回：種子繁殖と栄養繁殖 第8回：果実の健康機能性成分 (32 福田 伸二/7回) 第9回：果物を食べて、果物を知ろう 第10回：果樹の成長と果実生産 第11回：果樹栽培の基礎（栽培適地から枝の整枝・せん定） 第12回：果樹栽培の基礎（基本となる栽培管理技術から貯蔵・加工の基礎） 第13回：果樹の育種について 第14回：落葉果樹の栽培・利用について 第15回：常緑果樹の栽培・利用について</p>	オムニバス方式

動物繁殖生理学	<p>生物が連続として生き続けるには、生殖によって寿命を新しい個体に引き継ぐことが必要である。この生命の連続性を理解するために、動物の生殖に関係する器官の構造と機能、ならびに性成熟、受精、妊娠といった生殖に関わる諸現象の仕組みについて概説する。また、本分野において集積された知識により開発された技術がどのように活用されているかについても紹介する。講義はパワーポイントと配布プリントを用いて行い、配布プリントにある復習問題を次回講義までの宿題とする。なお、本講義は広範囲の内容を短期間で行うため、受講前に生物学の基本的知識を習得しておく必要がある。</p> <p>第1回：ガイダンス 第2回：生殖様式と生殖系の概要 第3回：雄性生殖器官系の機能解剖学 第4回：雌性生殖器官系の機能解剖学 第5回：性分化 第6回：春季発動と精巣機能 第7回：卵巣機能Ⅰ（ホルモン産生と多様な性周期） 第8回：卵巣機能Ⅱ（卵子形成と卵胞発育） 第9回卵：巣機能Ⅲ（排卵と黄体形成） 第10回：受精 第11回：初期胚発生Ⅰ（細胞増殖と細胞分化） 第12回：初期胚発生Ⅱ（個体発生とエピゲノム情報） 第13回：妊娠と分娩 第14回：小テストの解答と解説Ⅰ（第1から7回授業分） 第15回：小テストの解答と解説Ⅱ（第8から13回授業分） 定期試験</p>	
環境保全型農業論	<p>これまでの農業は効率的であったが、資源の消費量が多く環境に対する負荷を増大させた。今後の食糧生産においては効率だけでなく、長期的視点に基づいた農業生産環境への配慮が求められる。環境保全型農業論では生物系廃棄物の農業への利用、堆肥・厩肥・緑肥の役割、作物を取りまく生き物などについて解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (24 上埜 喜八/8回)</p> <p>第1回：環境保全型農業全般について解説する。 第2回：各種有機質肥料、堆肥の特性、作り方、化学肥料との比較について解説する。 第3回：土壌の世界、畑と水田の生物、遺伝子組み換えと有機農業について解説する。 第4回：雑草の種類、特性、被害について解説する。 第5回：除草剤、農薬の功罪について解説する。 第6回：アレロパシー、緑肥、混作、コンパニオンプランツについて解説する。 第7回：化学肥料、農薬を使わない稲作、JASの有機認証について解説する。 第8回：特別栽培、GAP、不耕起栽培、パーマカルチャーについて解説する。 (49 松本 雄一/7回)</p> <p>第9回：病害虫による農業被害について解説する。 第10回：物理的・化学的・耕種的防除法について解説する。 第11回：天敵による害虫防除、特定農薬の利用について解説する。 第12回：病害虫抵抗性品種の利用について解説する。 第13回：有機栽培・特別栽培における種苗管理について解説する。 第14回：抵抗性誘導による防除技術について解説する。 第15回：病害虫の薬剤感受性の低下について解説する。</p>	オムニバス方式
応用化学実験	<p>化学実験の基礎となる各種の分析法（機器分析法、生体成分の抽出、同定、定性、定量法および組換えDNA）の原理を理解するとともに、それらの基礎的技術を習得する。生物を研究材料とする農学分野において必要とされる化学実験の基礎について説明するとともに実際に実験（コンピューター活用を含む）を指導する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (10 石丸 幹二/2回)</p> <p>第1回：化学実験の基礎と植物色素の分析を行う。 第2回：植物フェノール成分のクロマトグラフィーを行う。 (31 古藤田 信博/1回)</p> <p>第3回：植物におけるビタミンCの定量（コンピューター活用を含む）を行う。 (7 和田 康彦/2回)</p> <p>第4回：分子生物学実験の基礎とバッファーの調整を行う。 第5回：動物組織からのDNAの抽出を行う。 (28 草場 基章/2回)</p> <p>第6回：植物組織からのDNAの抽出を行う。 第7回：PCR法によるDNAの増幅と電気泳動を行う。 (15 穴井 豊昭/2回)</p> <p>第8回：PCR断片の精製を行う。 第9回：ベクターへのライゲーションを行う。 (48 渡邊 啓史/2回)</p> <p>第10回：大腸菌の形質転換を行う。 第11回：大腸菌のタンパク質抽出を行う。 (9 大島 一里/1回)</p> <p>第12回：大腸菌の移植と培地の作成を行う。 (30 吉賀 豊司/2回)</p> <p>第13回：プラスミドの抽出を行う。 第14回：PCR法によるプラスミドの分析を行う。 (17 鈴木 章弘/1回)</p> <p>第15回：制限酵素処理によるプラスミドの分析を行う。</p>	オムニバス方式

応用生物学実験	<p>様々な生物科学研究の基礎になる観察法、フィールド調査法、培養法、顕微鏡を用いた実験手法を習得する。生物の持つ多様な形態、形質と、それをとりまく生態系について学ぶとともに、多様な特性について解析する分析法を習得する。植物、動物、昆虫及び微生物を材料としたさまざまな研究の基礎になる観察法、フィールド調査法、培養法、顕微鏡を用いた観察、コンピューターの利用法などについて説明し、実験の指導を行う。また、生物科学コースの各研究室でおこなわれている研究内容も紹介する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (14 一色 司郎/2回) 第1回：球根類の形態と分類を行う。 第15回：これまでの実験のまとめを行う。 (41 辻田 有紀/2回) 第2回：花粉の観察を行う。 第3回：種子の観察を行う。 (40 徳田 誠/2回) 第4回：昆虫類の多様性調査を行う。 第5回：トノサマバッタの表現型可塑性の調査(コンピューター利用含む)を行う。 (4 野間口 眞太郎/2回) 第6回：ジョロウグモの繁殖生態調査を行う。 第7回：調査・実験データの解析(コンピューター利用含む)を行う。 (6 早川 洋一/2回) 第8回：昆虫の心臓・大動脈の観察と生理実験を行う。 第9回：昆虫の心臓脈動促進因子の生化学実験を行う。 (46 山中 賢一/2回) 第10回：ウシ卵巣所見による性周期判定および卵母細胞の採取を行う。 第11回：ニワトリ胚発生過程の観察を行う。 (45 藤田 大輔/1回) 第12回：イネの種子・穂構造の観察を行う。 (11 吉平(鄭) 紹輝/1回) 第13回：作物の収量調査(ダイズ)を行う。 (3 有馬 進/1回) 第14回：作物の葉・茎・根の観察を行う。</p>	オムニバス方式
フィールド科学基礎実習Ⅱ	<p>有機農場において、ダイコン、ニンジン、ホウレンソウなどの秋野菜の播種から収穫までの一連の栽培管理を行う。フィールド科学基礎実習Ⅰで栽培した種々の作物や園芸植物の収穫・調整に関する実習を行うとともに、試食も行う。食肉加工実習においては、豚肉の解体・調整、ハム・ソーセージの充填実習及び試食を行う。ウメ、モモ、カキ、キウイなどの落葉果樹の剪定を行う。各回の内容は以下の通り。</p> <p>第1回：ガイダンス。秋野菜畝立て・播種 第2回：水稲収量査定(収穫・脱穀・籾数) 第3回：稲わら立て、サツマイモつる切り、キクイモ収穫・調整 第4回：サツマイモ収穫、ノビル定植 第5回：野菜収穫、キウイ・カキ管理、米調整・袋詰め 第6回：果樹園水路整備 第7回：サトイモ収穫・調整 第8回：ソバ収穫、秋野菜収穫 第9回：ソバ脱穀、水稲収量査定 第10回：ミカンジュース製造 第11回：ソバ打ち 第12回：イチゴ・キク・カーネーション収穫、落葉果樹剪定 第13回：肉加工①(豚肉の解体・調整) 第14回：肉加工②(ハム・ソーセージの充填、試食) 第15回：畦畔土上げ、ジャガイモ定植</p>	
有機化学	<p>『有機化学』は、現在は「炭素原子を骨格としてできた化合物を扱う分野」と定義されているが、本来は「生物由来の化合物を扱う分野」というものであった。農学部の研究対象はまさに有機化合物であり、『有機化学』は農学部生の学習や研究において重要な科目である。本講義では、生体分子の性質や反応の基礎を理解することを目標として、炭素原子の特徴、有機化合物の立体構造や反応性、官能基の化学的性質などについて段階的に学ぶ。</p>	
植物代謝解析学実験Ⅰ	<p>植物二次代謝物質の解析と利用のための各種技術を総合的に紹介する。本実験では、二次代謝物質の効率的生産のための組織培養法(茎葉、カルスや根培養)と遺伝子組換え組織の作出、培養法について紹介する。また、発酵技術に利用される各種微生物や植物病原菌の培養と利用についても教授する。</p> <p>第1回：植物組織培養法の基礎技術として培地作成を行う 第2回：植物組織培養法の基礎技術として茎葉培養を行う 第3回：植物組織培養法の基礎技術としてカルスの誘導と培養を行う 第4回：植物組織培養法の基礎技術として不定根の誘導と培養を行う 第5回：遺伝子導入組織の作出、選抜と評価としてAgrobacterium菌の培養を行う 第6回：遺伝子導入組織の作出、選抜と評価としてAgrobacterium菌をベクターとした遺伝子導入を行う 第7回：遺伝子導入組織の作出、選抜と評価として毛根培養を行う 第8回：遺伝子導入組織の作出、選抜と評価として再生植物体の作成と培養を行う 第9回：各種微生物の培養としてRhodococcus菌の培養を行う 第10回：各種微生物の培養としてカビ類の培養を行う 第11回：各種微生物の培養として各種カビ類の植物への感染を行う 第12回：各種微生物の培養としてRhodococcus菌感染植物の培養を行う 第13回：機能性食品素材開発のための分析を行う 第14回：機能性食品成分の単離を行う 第15回：機能性食品成分の構造解析を行う</p>	

果樹園芸学実験 I	<p>カンキツをはじめとする果樹の分野においても、遺伝子機能解析やゲノム解析が急速に進展している。また、果物に含有される機能性成分は年々注目度が上昇している。このような現状を踏まえ、種々の分析・解析手法を学ぶ。また、ミカン亜科カンキツ遺伝資源を中心とした常緑果樹および落葉果樹双方に身近に触れて親しむことを目的とする。実験室・温室あるいはフィールドにおいて実習を行う。</p> <p>第1回：カンキツの種子消毒及び播種 遺伝子配列解析の基礎 第2回：カンキツ葉からのDNA抽出 第3回：カンキツ葉からのRNA抽出 第4回：タンパク質の抽出 第5回：遺伝子クローニングの基礎I 第6回：遺伝子クローニングの基礎II 第7回：PCRによる品種識別手法 第8回：組織培養の基礎I 第9回：組織培養の基礎II 第10回：ミカン亜科植物の果実及び葉の形態 第11回：ブルーベリー及びオリーブの緑枝挿し 第12回：天然物有機化合物の取り扱いI 第13回：天然物有機化合物の取り扱いII 第14回：HPLCによる機能性成分の分析（ビタミンCおよびフラボノイド） 第15回：HPLCによる機能性成分の分析（カロテノイド）</p>	
熱帯作物改良学実験 I	<p>熱帯作物学及び本研究室の研究課題に関する研究の基本・基礎となる実験の方法、実験器具の操作、実験供試材料の育成、作物の特性調査及び実験データの収集に関するテクニックを実験形式で行われる。卒業論文の研究において必要な実験技能に関して、網羅的に習得するため、実験植物の育成法から、分子生物学的な実験まで含まれている。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (11 吉平 (鄭) 紹輝/8回)</p> <p>第1回：実験ノート作成法、エクセルによるデータ整理法（表、グラフ作成）を解説する。 第2回：実験基本操作（1）を解説する。 第3回：実験基本操作（2）を解説する。 第4回：図書館を利用する文献検索法を解説する。 第5回：試薬の調整法を解説する。 第6回：植物色素抽出・定量法を解説する。 第7回：可溶性タンパク抽出・定量法を解説する。 第15回 実験植物育成法（ダイズ：播種・田植え、水管理など）を解説する。 (45 藤田 大輔/7回)</p> <p>第8回：DNA抽出法（1）を解説する。 第9回：DNA抽出法（2）を解説する。 第10回：PCR操作法・電気泳動法を解説する。 第11回：実験植物育成法（イネ：播種・田植え、水管理など）を解説する。 第12回：RNA抽出法を解説する。 第13回：逆転写反応、RT-PCRを解説する。 第14回：ゲノム関連データベースの利用法を解説する。</p>	オムニバス方式
蔬菜花卉園芸学実験 I	<p><蔬菜花卉園芸学実験 I> 蔬菜および花卉の評価・分類・類縁関係の分析に必要な技術、さらに組織培養による蔬菜および花卉種苗の増殖の技術の実習を行う。各回で行う実験の内容は以下の通り。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (14 一色 司郎/8回)</p> <p>第1回：人工交配（1）野菜 第3回：NA抽出法 第5回：RFLP分析 第7回：RAPD分析 第8回：AFLP分析（1）野菜 第10回：アインザイム分析 第11回：染色体観察（1）野菜 第13回：GISH法（1）野菜</p> <p>(41 辻田 有紀/7回)</p> <p>第2回：人工交配（2）花 第4回：PCR法 第6回：RFLP分析（2）花 第9回：AFLP分析（2）花 第12回：染色体観察（2）花 第14回：GISH法（2）花 第15回：組織および器官の培養</p>	オムニバス方式
植物分子育種学実験 I	<p>本実験では、育種学の研究を行う上で必要となる交雑、突然変異誘発、遺伝子組換え等を用いた遺伝変異の拡大から、遺伝的固定および有用形質の評価に至る一連の基礎技術についての実習を行う。特にこの内でも、実験材料となる水稲およびダイズの栽培管理に重点を置いた実習を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (48 渡邊 啓史/8回)</p> <p>第1回：作物の特性と取り扱い 第8回：畑圃場設計・ダイズ種子整理 第9回：畑圃場準備 第10回：畑圃場施肥 第12回：ダイズ播種 第13回：中耕・培土処理 第14回：水稲生育調査 第15回：ダイズ生育調査 (15 穴井 豊昭/7回)</p> <p>第2回：水田圃場設計・水稲種子整理 第3回：塩水撰・種子消毒 第4回：水稲播種 第5回：水稲育苗 第6回：水田準備 第7回：水稲移植 第11回：突然変異誘発</p>	オムニバス方式

動物資源開発学実験 I	動物遺伝育種学および家畜繁殖生理学関係の卒業研究にかかわる基本的な実験ができるように動物遺伝育種学および家畜繁殖生理学関係の実験の手技をマスターする。具体的には和田が器具の洗浄と滅菌。ミニゲル電気泳動、全血からのDNA抽出、PCR、LB/Ampプレートの作成、PCR産物の精製、ライゲーション、形質転換、アルカリミニブレップ、DNAの精製と分光測定、プレートPCR-RFLP、多本架電気泳動、SDS-PAGE、について担当し(10回)、山中が体外成熟、体外受精および体外発生培養液の作成、卵母細胞の体外成熟培養、体外受精および受精卵の体外発生培養を担当する(5回)。 (オムニバス方式/全15回) (7 和田 康彦/10回, 46 山中 賢一/5回)	オムニバス方式
植物病理学実験 I	植物病原体に関する実験として、分離、純化、培養、接種等、糸状菌やウイルスなどの病原微生物の基礎的操作方法について習得させる。また、これら実験に必要な培養器具の滅菌方法、ならびに、培地等の試薬作成方法、温室での植物の育成方法についても習得させる。 (オムニバス方式/全15回) (28 草場 基章/7回) 第1回：糸状菌に関する実験(培養器具の準備および滅菌)を解説する。 第2回：糸状菌に関する実験(培地の作製)を解説する。 第3回：糸状菌に関する実験(病斑の採集)を解説する。 第4回：糸状菌に関する実験(病斑からの分離・培養)を解説する。 第5回：糸状菌に関する実験(分離された糸状菌の観察・同定)を解説する。 第6回：糸状菌に関する実験(分離された糸状菌を用いた植物への接種実験)を解説する。 第7回：糸状菌に関する実験(病斑観察・病原性の評価)を解説する。 (9 大島 一里/8回) 第8回：ウイルスに関する実験(ウイルス用試薬の調整)を解説する。 第9回：ウイルスに関する実験(植物へのウイルス接種)を解説する。 第10回：ウイルスに関する実験(植物からのウイルス分離)を解説する。 第11回：ウイルスに関する実験(ウイルスの同定)を解説する。 第12回：ウイルスに関する実験(ELISAによるウイルス抗血清診断)を解説する。 第13回：ウイルスに関する実験(DIBAによるウイルス抗血清診断)を解説する。 第14回：ウイルスに関する実験(PCRによるウイルス遺伝子診断)を解説する。 第15回：病原体の滅菌処理による廃棄(糸状菌・ウイルス共通)を解説する。	オムニバス方式
線虫学実験 I	地球上に生息する多種多様な線虫は、直接的または間接的に、私たちの生活と関係を持ちながら生活している。線虫の多くは、人間の生活に被害を及ぼすものではなく、有益なものも少なくないが、なかには農作物などを加害し、人間の生活に大きな被害を与える。この講義では、サンプリング、線虫の標本作成、形態観察、分子生物学的手法を用いた同定を行い、線虫についての基礎的知識や線虫を取り扱う際に必要な技術について教える。 第1回：ガイダンス(線虫学実験室の利用方法) 第2回：線虫のサンプリング法 第3回：線虫の分離法1 ベールマン法 第4回：線虫の分離法2 2層遠心浮遊法 第5回：線虫の分離法3 分離した線虫の観察 第6回：標本作成1 ザインホルスト法 第7回：標本作成2 ザインホルスト法の続き 第8回：線虫の形態観察1 実体顕微鏡での観察法 第9回：線虫の形態観察2 生物顕微鏡での観察法 第10回：線虫の形態観察3 線虫種の比較 第11回：分子生物学的手法による線虫の同定1 PCRによるITS領域の増幅 第12回：分子生物学的手法による線虫の同定2 PCRによるCOI領域の増幅 第13回：分子生物学的手法による線虫の同定3 シーケンス反応 第14回：分子生物学的手法による線虫の同定4 分子系統解析 第15回：最終報告会	
昆虫学実験 I	昆虫生理学研究に必要なタンパク質の解析実験手法を理解・習得し、将来、昆虫関連の専門技術者として仕事を為す能力を身に付ける。生理・生化学的実験手法の基礎的トレーニングから始める。その後、昆虫の行動・生理的な側面から観察・実験をしつつ、その過程で、昆虫学実験 IIで必要となる生理・生化学的知識を習得して行く。 (4 野間口 眞太郎, 40 徳田 誠) (全15回)	
生態学実験 I	生態学において、生物の行動を直接観察し、あるいは生物が引き起こす様々な現象を観察して、そこから生じた疑問を解き明かす作業は不可欠である。そこで本実験では、生物の個体、個体群、群集という階層的レベルからの視点を保ちつつ、野外調査を中心にさまざまな生物の生態や行動を実際に調べ、結果を定量的に解析する訓練を行う。	
作物学実験 I	(3 有馬 進, 17 鈴木 章弘) (オムニバス方式/全15回) 作物栽培ならびに品種育成を実践するためには、様々な農学的実験手法と基礎生物学的な実験手法を習得しておかねばならない。本科目では、栽培植物・野生植物・モデル植物を供試し、その形態・生理・生態について観察・実験するとともに、植物生理を基礎とした生育制御法を習得させる。また、植物栽培に対する科学的な見方と考え方を養わせる。また、植物における各種の有用形質について理解を深めさせる。15回の実験のうち、第1~7回は主に有馬が、第8~15回は主に鈴木が指導を担当する。	オムニバス方式
遺伝資源フィールド科学実験 I	教員がそれぞれの専門を生かして、農畜産物の生産に関する実習および実験を分担する。農畜産物の生産・管理の実際を体験するとともに、診断に物理的・科学的な分析方法や生理学的方法を用いることにより、農業生産を科学的に分析する手法を習得させる。 (オムニバス方式/全15回) (49 松本 雄一/4回) 第1回：ガイダンス、農業機械取り扱い講習を行う。 第9回：キクイモの無病苗増殖の実習を行う。 第10回：メロン・キュウリの病害虫診断の実習を行う。 第11回：メロンの果実特性調査を行う。 (24 上埜 喜八/4回) 第2回：圃場設計、施肥、耕耘、畝立ての実習を行う。 第3回：ムギの管理の実習を行う。 第4回：茶園の管理の実習を行う。 第5回：イネの栽培管理の実習を行う。 (32 福田 伸二/3回) 第6回：モモの収穫の実習を行う。 第7回：ピワの収穫の実習を行う。 第8回：ピワの栽培管理の実習を行う。 (37 江原 史雄/4回) 第12回：家畜管理①：牛体測定、牛床交換、牛体洗浄の実習を行う。 第13回：家畜管理②：体温測定、直腸検査、鼻紋採取、血液採取の実習を行う。 第14回：家畜の行動調査①：行動調査についての概説と準備の実習を行う。 第15回：家畜の行動調査②：牛の行動調査とデータ解析の実習を行う。	オムニバス方式

科学英語	<p>研究室の教員が、学生とともに専門分野の論文講読等を行い、学生の科学英語を理解するための能力を養成する。</p> <p>「クラス分け」による授業（各研究室・分野で授業を行う） 以下は、その例示である。 1 一般的な科学に関する文章や論文を講読する 2 学術情報の収集を行い、講読する 3 輪読形式による発表を行い議論する</p>	
食品化学	<p>食品の一般成分の化学と食品成分が食品中に存在する状態や役割等について概説し、さらに食品の品質にかかわる成分変化や成分間の反応についても解説する。 (オムニバス方式/全15回) (50 関 清彦/9回) 第1回：食品化学とは 第2回：水分 第3回：アミノ酸・ペプチド 第4回：タンパク質 第5回：タンパク質の栄養評価 第6回：主要な食品タンパク質 第7回：核酸の代謝と食品 第8回：ビタミン 第9回：ミネラル (12 濱 洋一郎/6回) 第10回：単糖類 第11回：オリゴ糖・配糖体 第12回：単純多糖 第13回：多糖 第14回：脂質の種類と構造 第15回：油脂の性質</p>	オムニバス方式
動物飼養管理学	<p>動物を飼育する場合に考慮しなければならない要因は産業動物が最も多いが、実験動物、伴侶動物、展示動物でもほぼ同一である。よって、動物の飼育管理では、関与する非常に多くの要因を知り、統合化して考えることが重要である。本講義では、家畜化の過程、各国における農用家畜の飼養状況と消費状況、品種、各種動物（家畜）における管理方式と管理作業、畜産物の生産過程と評価基準、飼料成分の消化吸収と代謝、消化器官の構造、飼育動物を取り巻く環境要因及び畜舎等の施設環境まで詳しく解説する。また、近年、動物を取り巻く社会情勢が変化したことにより発展した「動物の福祉」についても詳説する。</p>	
インターンシップ S	<p>社会との繋がりにおける実践的教育としてインターンシップを単位として認定する科目であり、地方自治体、産業界や海外の大学等と連携・交流を図ることにより実務での課題解決や遂行能力を養い、自分の職業適性や将来計画などについて考える機会を提供する。インターンシップSでは、短期(7.5時間×5日以上10日未満)の就業体験や研究活動を通して、自らの実務における課題を見出す能力を養わせる。これによりインターンシップを通じた専門分野の連携の理解と人材育成を図る。インターンシップの評価は、学生が作成する報告書、受入先の評価票、インターンシップ報告会での発表内容と質疑応答に基づく評価事項を設けて適切に行う。</p>	
農業気象学	<p>本科目では、農作物の収量・品質に及ぼす気象要因を理解させるとともに、それらを効果的に制御するための一般気象学、微気象学、気象情報学、農地防災学の基礎と環境制御型農業技術の理論と実践を学習させる。 授業計画 第1回：農業気象学とは 第2回：地球の熱収支と大気的作用 第3回：地表面における熱と物質の輸送：熱収支、放射収支 第4回：地表面における熱と物質の輸送：局地気象 第5回：地表面における熱と物質の輸送：降水 第6回：地表面における熱と物質の輸送：蒸発散 第7回：生物生産に及ぼす気象の影響：生物生産、乾物生産、気候 第8回：生物生産に及ぼす気象の影響：光合成機能 第9回：生物生産に及ぼす気象の影響：蒸発散、吸水 第10回：生物生産に及ぼす気象の影響：微気象、群落 第11回：農業気象情報と局地気候：気候、農業、気象 第12回：農業気象情報と局地気候：気候情報システム、局地気候 第13回：農業気象災害：冷害、水害 第14回：農業気象災害：干害、風害 第15回：世界の農業と地球環境</p>	
農業ビジネスマネジメント学	<p>(概要) 学生が、農業生産の担当者（農業経営体）の経営問題を理解し、農業経営の存続と成長に向けた諸課題を理論的に考察するための基礎知識と方法を習得することが目的である。 (単独/全15回) 第1回：農業の動向と農業経営（日本と世界の農業、農業・農村の多面的機能） 第2回：農業経営の組織と運営①（農業経営の主体と目標） 第3回：農業経営の組織と運営②（農業生産の要素、農業経営組織の編成） 第4回：農業経営の組織と運営③（農業の生産組織と法人化、農業経営の運営） 第5回：農業経営と情報①（農業経営の環境適応、農業経営における情報収集と活用） 第6回：農業経営と情報②（農業のマーケティング、農業経営の社会・政策環境） 第7回：農業経営の会計①（資産・負債・資本勘定と貸借対照表、収益・費用勘定と損益計算書、取引と勘定） 第8回：農業経営の会計②（簿記一巡の手続き） 第9回：農業経営の会計③（仕訳と転記<前半>） 第10回：農業経営の会計④（仕訳と転記<後半>） 第11回：農業経営の会計⑤（決算） 第12回：農業経営の会計⑥（農産物の原価計算） 第13回：農業経営の診断と設計①（農業経営診断の方法と実際） 第14回：農業経営の診断と設計②（農業経営設計の方法と実際） 第15回：農業ビジネスプランの作成 定期試験</p>	
応用微生物学	<p>微生物は人類の生存に大きく貢献している。その微生物を利用した物質生産から環境浄化までの実例を詳しく説明する。微生物を利用するために必要な微生物の性状や取り扱い方法、育種方法などについても理解することを目的としている。身近な発酵食品・酒類・飲料等に製造工程における微生物の役割を理解すること、環境浄化やエネルギー等の分野における微生物の役割を理解すること、そして微生物の無限の可能性を理解することを到達目標とする。</p>	

分子遺伝学	<p>本講義は植物細胞における分子生物学とバイオテクノロジーに関する講義であり、植物が変化する機構、変化した植物の利用などについて学ぶ。本講義では、遺伝子の構造、機能、遺伝子が変化する機構、変異原、植物の遺伝子組換え技術、ゲノム解析技術、ゲノム編集などについて教授し、組換え植物の現状と将来について考えることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(45 藤田 大輔/5回)</p> <p>第1回：生物の情報 第2回：遺伝子の構造 第3回：複製 第4回：転写 第5回：翻訳 (15 穴井 豊昭/5回)</p> <p>第6回：変異 第7回：変異原 第8回：遺伝子解析法 第9回：遺伝子導入法 第10回：組換え植物 (48 渡邊 啓史/5回)</p> <p>第11回：組換え食品の利用 第12回：組換え食品の評価 第13回：ゲノム解析 第14回：ゲノム編集 第15回：ゲノム改変植物の利用</p>	オムニバス方式
生物有機化学	<p>生物のからだは化学物質の集合体であり、それらの変化を引き起こす代謝反応は化学反応である。これらの反応は、触媒として酵素が参加することで、穏やかな条件下で非常に効率良く迅速に進む。そのため、生体内で起こる反応と試験管内で起こる反応は異なるものと考えがちである。しかし、本質的には同じ有機化学反応である。本講義では、酵素反応を有機化学反応として理解することを目標として、代表的な酵素反応を例として取り上げ、その反応機構および関連する物質についての基礎を学ぶ。</p>	
施設園芸学	<p>施設園芸学は、温室やポイラー等の施設や設備を利用して、植物の生育にとって最適な環境を提供することにより、作物の生産性を向上させるための知見を集積する学問である。そこには、植物生理学的側面と工学的側面の両方の視点が常に求められる。本講では、施設園芸学の基礎である温室内の環境制御の理論と方法を解説する。さらに、近年、社会的要請が強まっている省エネ、温室効果ガス削減と施設園芸との関わりについて講述する。</p>	
植物代謝解析学実験Ⅱ	<p>植物二次代謝物質の解析と利用のための各種技術を総合的に教授する。本実験では、植物生理活性物質の単離のためのカラムクロマトグラフィー、化学構造解析法、生理活性機能の評価法について紹介する。</p> <p>第1回：成分抽出法について紹介する 第2回：カラムクロマトグラフィーの基礎について紹介する 第3回：カラムクロマトグラフィーの準備を行う 第4回：カラムクロマトグラフィーを行う 第5回：薄層クロマトグラフィーの基礎について紹介する 第6回：薄層クロマトグラフィーによる定性分析を行う 第7回：HPLC法による定量分析の機器操作を行う 第8回：HPLC法により植物エキスの分析を行う 第9回：HPLC法による定量分析のためのスペクトル解析法について紹介する 第10回：機器分析による化学構造解析について紹介する 第11回：機器分析による化学構造解析の演習を行う 第12回：生理活性評価法：抗酸化活性測定について紹介する 第13回：機能性食品素材開発のための素材調整を行う 第14回：機能性食品成分の単離を行う 第15回：構造解析技術について紹介する</p>	
果樹園芸学実験Ⅱ	<p>カンキツをはじめとする果樹の分野においても、遺伝子機能解析やゲノム解析が急速に進展している。また、果物に含有される機能性成分は年々注目度が上昇している。このような現状を踏まえ、種々の分析・解析手法を紹介する。</p> <p>第1回：タンパク質の泳動 第2回：果樹遺伝資源からのDNA抽出I (スモールスケール) 第3回：果樹遺伝資源からのDNA抽出II (ラージスケール) 第4回：果樹遺伝資源からのRNA抽出I (CTAB法) 第5回：果樹遺伝資源からのRNA抽出II (フェノール-SDS法) 第6回：果汁中のアスコルビン酸の定量 第7回：HPLCによる機能性成分の分析 (フラボノイド) I 第8回：HPLCによる機能性成分の分析 (フラボノイド) II 第9回：分析機器取り扱い法I (吸光度計, マイクロプレートリーダー) 第10回：分析機器取り扱い法II (キャピラリーシーケンサー) 第11回：SSRマーカー利用による珠心胚と交雑胚の識別 第12回：形質転換ベクターの構築I 第13回：形質転換ベクターの構築II 第14回：モデル植物 (シロイヌナズナ, トマト) の栽培法 第15回：モデル植物の形質転換</p>	

熱帯作物改良学実験Ⅱ	<p>熱帯作物改良学実験Ⅰに継続して行うが、熱帯作物学及び本研究室の研究課題に関する研究の基本・基礎となる実験的方法、実験供試料の作成、作物の特性調査及び実験データの収集に関するテクニックを実験形式で指導する。最終的に、データの統計解析、ならびに論文作成要領を指導することにより、卒業論文の研究において必要な技能を習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(11 吉平(鄭) 紹輝/7回)</p> <p>第1回：切片の作成を解説する。</p> <p>第2回：顕微鏡観察を解説する。</p> <p>第3回：蛍光定量分析法を解説する。</p> <p>第4回：光合成の測定法(1)を解説する。</p> <p>第5回：光合成の測定法(2)を解説する。</p> <p>第14回：研究論文のまとめ方(1)を解説する。</p> <p>第15回：研究論文のまとめ方(2)を解説する。</p> <p>(45 藤田 大輔/8回)</p> <p>第6回：圃場における作物の生育調査(1)を解説する。</p> <p>第7回：圃場における作物の生育調査(2)を解説する。</p> <p>第8回：組織培養(1)を解説する。</p> <p>第9回：組織培養(2)を解説する。</p> <p>第10回：作物の収量性の調査(1)を解説する。</p> <p>第11回：作物の収量性の調査(2)を解説する。</p> <p>第12回：実験データの解析(1)を解説する。</p> <p>第13回：実験データの解析(2)を解説する。</p>	オムニバス方式
蔬菜花卉園芸学実験Ⅱ	<p>蔬菜および花卉を対象として染色体倍加、半数体作出、染色体添加、削除、細胞質置換及び細胞融合を実際に行う。また、染色体地図の作成も行う。蔬菜および花卉の細胞操作、特に、ゲノム、染色体及び細胞質の操作に必要な基本技術を実際に体験することで習得させることを目標とする。各回で行う実験の内容は以下の通り。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(14 一色 司郎/8回)</p> <p>第1回：染色体倍加(1) 野菜</p> <p>第3回：半数体作出(1) 野菜</p> <p>第5回：染色体添加(1) 野菜</p> <p>第8回：細胞質置換(1) 野菜</p> <p>第10回：細胞融合(1) 野菜</p> <p>第12回：細胞培養</p> <p>第13回：染色体地図作成(1) 野菜</p> <p>第15回：遺伝子地図作成</p> <p>(41 辻田 有紀/7回)</p> <p>第2回：染色体倍加(2) 花</p> <p>第4回：半数体作出(2) 花</p> <p>第7回：染色体削除</p> <p>第6回：染色体添加(2) 花</p> <p>第9回：細胞質置換(2) 花</p> <p>第11回：細胞融合(2) 花</p> <p>第14回：染色体地図作成(2) 花</p>	オムニバス方式
植物分子育種学実験Ⅱ	<p>本実験では、育種学の研究を行う上で必要となる交雑、突然変異誘発、遺伝子組換え等を用いた遺伝変異の拡大から、遺伝的固定および有用形質の評価に至る一連の基礎技術についての実習を行う。特にこの中でも、人工交配による実験材料の作成と試料のサンプリング、遺伝子分析、成分分析に重点を置いた実習を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(48 渡邊 啓史/8回)</p> <p>第1回：人工交配</p> <p>第2回：植物試料のサンプリング</p> <p>第3回：DNAの抽出</p> <p>第4回：PCR法によるマーカー分析</p> <p>第5回：QTL解析</p> <p>第6回：形質転換植物の作成</p> <p>第9回：ダイズ収穫・調製</p> <p>第10回：種子形質等の調査</p> <p>(15 穴井 豊昭/7回)</p> <p>第6回：組織培養</p> <p>第8回：水稻収穫・調製</p> <p>第11回：種子試料の調製</p> <p>第12回：GCの使用法</p> <p>第13回：GCを用いた脂肪酸組成の分析</p> <p>第14回：HPLCの使用法</p> <p>第15回：HPLCを用いたイソフラボン含量の分析</p>	オムニバス方式
動物資源開発学実験Ⅱ	<p>(7 和田 康彦, 46 山中 賢一) (オムニバス方式/全15回)</p> <p>動物遺伝育種学および家畜繁殖生理学関係の実験手法を解説するとともに、実際に実験を行い、実験手法を体得させる。具体的には、和田がDIG RNAプロブの収量検定、Whole Mount in situ ハイブリダイゼーション、トータルRNAの抽出、FTAカードからのDNA抽出、ルシフェラーゼ 発光測定を担当し(5回)、山中が受精卵の観察およびPCR法による受精卵の性別別、体細胞培養液の作製、ウシ線維芽細胞の播種、DNAメチル化検出、ウシ線維芽細胞の播種、total RNAおよびタンパク質の単離、cDNA合成、qPCR、western blotting、qPCRとwestern blotting結果のデータ解析を実習させる(10回)。</p>	オムニバス方式

植物病理学実験Ⅱ	<p>植物病原体に関する実験を通して、特に遺伝子工学や分子生物学的手法により病原微生物の基礎的だけでなく応用的操作方法、また実験技術だけでなくこれら実験データから得られた病理学的理解と考察についても習得させる。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (28 草場 基章/7回)</p> <p>第1回：糸状菌に関する実験（糸状菌からのDNA抽出）を解説する。 第2回：糸状菌に関する実験（RFLP実験1：制限酵素分解・電気泳動）を解説する。 第3回：糸状菌に関する実験（RFLP実験2：プロテイング）を解説する。 第4回：糸状菌に関する実験（RFLP実験：検出）を解説する。 第5回：糸状菌に関する実験（AFLP分析1：制限酵素分解）を解説する。 第6回：糸状菌に関する実験（AFLP分析2：ライゲーション・PCR）を解説する。 第7回：糸状菌に関する実験（AFLP分析3：電気泳動・検出）を解説する。 (9 大島 一里/8回)</p> <p>第8回：ウイルスに関する実験（ウイルスRNAの抽出）を解説する。 第9回：ウイルスに関する実験（ウイルスDNAの抽出）を解説する。 第10回：ウイルスに関する実験（ウイルスDNAゲノムの増幅実験）を解説する。 第11回：ウイルスに関する実験（ウイルスRNAゲノムの増幅実験）を解説する。 第12回：ウイルスに関する実験（ウイルスゲノムのダイレクトシーケンス法）を解説する。 第13回：ウイルスに関する実験（ウイルスシーケンスデータの解説）を解説する。 第14回：ウイルスに関する実験（ウイルスシーケンスデータの系統樹作成）を解説する。 第15回：発表および総合討論（実験データから得られた病理学的理解と考察）を行う。</p>	オムニバス方式
線虫学実験Ⅱ	<p>地球上に生息する多種多様な線虫は、直接的または間接的に、私たちの生活と関係を持ちながら生活している。線虫の多くは、人間の生活に被害を及ぼすものではなく、有益なものも少なくないが、なかには農作物などを加害し、人間の生活に大きな被害を与える。本講義では、卒業研究を行っていく上で必要な、線虫を取り扱う方法や培養方法を教える。</p> <p>第1回：ネコブセンチュウの培養法1 培養のための準備 第2回：ネコブセンチュウの培養法2 トマトを用いた培養 第3回：ネグサレセンチュウの培養法1 植物を用いた培養 第4回：ネグサレセンチュウの培養法2 カルスをを用いた培養 第5回：菌食性線虫の培養法1 PDA培地での培養 第6回：菌食性線虫の培養法2 大麦培地での培養 第7回：細菌食性線虫の培養法1 NGM培地の作成 第8回：細菌食性線虫の培養法2 C. elegansの培養 第9回：昆虫病原性線虫の培養法1 昆虫を使った方法 第10回：昆虫病原性線虫の培養法2 人工培地の作成 第11回：昆虫病原性線虫の培養法3 人工培地上での培養 第12回：昆虫病原性線虫を用いた殺虫試験1 ハチノスツリガ幼虫を用いた方法 第13回：昆虫病原性線虫を用いた殺虫試験1 アロヨトウを用いた方法 第14回：データ処理 次回までの課題：データ処理および報告書のまとめ 第15回：最終報告会</p>	
昆虫学実験Ⅱ	<p>昆虫生理学研究に必要な分子生物学的な解析実験手法を理解・習得し、将来、昆虫関連の専門技術者あるいは研究者として仕事する為の能力を身に付ける。遺伝学・分子生物学的実験手法をトレーニングする。その上で、昆虫の行動・生理的な側面に着目しつつ、昆虫を遺伝子レベルで解析する手法を習得するための実験を行う。その過程で、将来必要となる一般的な分子遺伝学的知識を習得して行く。</p>	
生態学実験Ⅱ	<p>(4 野間口 真太郎, 40 徳田 誠) (全15回)</p> <p>野外調査において、「アリの種子分散」、「アリとシジミチョウの共生」、「ベニツチカメムシの個体群維持」など生態学実験Ⅰで取り上げなかったテーマを中心に様々な生物の生態や行動を調べ、その結果を定量的に解析する訓練を行う。特に、卒業研究に必要な実験・調査のテクニックやデータ解析法、発表の仕方について実践的に教える。</p>	
作物学実験Ⅱ	<p>作物学実験実習Ⅰで習得した知識と実験手法を踏まえ、さらに、応用的・先端的な実験手法を習得させる。具体的には、作物学実験実習Ⅰと同様に、栽培植物・野生植物・モデル植物を供試し、その生理・生態についての実験と、分子植物学的実験手法を習得させる。実験の第1～6回は植物の遺伝子解析に関する実験手法（RT-PCR法等）、第7～9回は根粒菌・菌根菌の単離・培養・接種、第10～12回は植物ホルモンに関する実験、第13～15回は植物根と根粒菌の相互の遺伝子解析に関する実験手法を習得させる。実験指導は12回分を鈴木が主に担当し、3回分を有馬が主に担当する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (3 有馬 進/12回, 17 鈴木 章弘/3回)</p>	オムニバス方式
遺伝資源フィールド科学実験Ⅱ	<p>遺伝資源フィールド科学実験Ⅱ</p> <p>教員がそれぞれの専門を生かして、農畜産物の生産および加工に関する実習および実験を分担する。農畜産物の生産・管理・加工の実際を体験するとともに、診断に物理的・科学的な分析方法や生理学的な方法を用いることにより、農業生産を科学的に分析する手法を習得させる。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (24 上埜 喜八/3回)</p> <p>第1回：ムギの播種準備の実習を行う。 第2回：水稲収穫の実習を行う。 第3回：水稲収量調査の実習を行う。 (32 福田 伸二/4回)</p> <p>第4回：モモの剪定の実習を行う。 第5回：果樹幼苗管理の実習を行う。 第6回：カンキツ栽培管理の実習を行う。 第7回：カンキツ収穫・調整の実習を行う。 (49 松本 雄一/4回)</p> <p>第8回：アサガオの生殖様式観察を行う。 第9回：ウリ科作物の品種判別の実習を行う。 第10回：キクイモの食品加工の実習を行う。 第11回：キクイモの機能性成分調査を行う。 (37 江原 史雄/4回)</p> <p>第12回：家畜のストレス評価の実習を行う。 第13回：家畜を用いた動物介在介入の評価の実習を行う。 第14回：食肉加工①：ロースハム・ベーコンの製造の実習を行う。 第15回：食肉加工②：ロースハム・ベーコンのバックングの実習を行う。</p>	オムニバス方式

生物科学英語	<p>研究室の教員による専門分野の英語論文等を講読し、生物科学英語を使いこなしていく能力を養成する。</p> <p>「クラス分け」による授業（研究室・分野に分かれた授業） 各研究室によって異なる。 以下は、その例示である。 1 専門分野の学術図書、専門雑誌、研究論文の紹介 2 学術情報の収集と講読 3 輪読形式による発表と議論</p>	
生物情報処理演習	<p>各研究室において卒業研究に必要な訓練として、情報収集の仕方とその利用法、研究計画の立て方、研究データの取りまとめ、発表の仕方等について説明し、演習形式で授業を行う。</p> <p>「クラス分け」による授業（研究室・分野に分かれて行う） 以下のような流れで、演習を行う（例）</p> <p>第1回：研究情報収集の手法 第2回：研究情報の整理 第3回：研究計画の作成と注意点 第4回：研究遂行時のデータの収集法 第5回：研究データの取り扱いとまとめ 第6回：生物学的データの統計処理方法（統計的仮説検定） 第7回：生物学的データの統計処理方法（分散分析） 第8回：生物学的データの統計処理方法（多重比較） 第9回：生物学的データの統計処理方法（回帰分析） 第10回：生物・化学測定機器の解析ソフトウェアの取り扱い 第11回：核酸・タンパク質の配列解析 第12回：プレゼンテーション資料の作成法（図表の作成）</p>	
動物遺伝育種学	<p>家畜家禽を材料として、現代遺伝学と分子生物学の概要を講義するとともに、それらの応用としての家畜家禽の遺伝子工学、ゲノム解析、家畜育種学を概説する。具体的には遺伝子とDNA、細胞と染色体、遺伝子工学とゲノム解析、家系分析、連鎖と組み換え、分子進化と系統樹、動物の進化と遺伝子の進化、集団遺伝学入門、量的形質の遺伝学、選抜と交配、種畜の遺伝能力評価法、わが国における乳牛と肉牛の育種体制、わが国における豚と鶏の育種体制、ゲノム解析とその応用などについて講義する。</p>	
インターンシップ I	<p>海外を含む社会との繋がりにおける実践的教育としてインターンシップを単位として認定する科目であり、地方自治体、産業界や海外の大学等と連携・交流を図ることにより実務での課題解決や遂行能力を養い、自分の職業適性や将来計画などについて考える機会を提供する。創成科学インターンシップIでは、長期(7.5時間×10日以上)の就業体験や海外の大学での研究活動の中で自らの実務における課題とその解決に向けて取り組む能力を養わせる。これによりインターンシップを通じた専門分野の連携の理解と人材育成を図る。インターンシップの評価は、学生が作成する報告書、受入先の評価票、インターンシップ報告会での発表内容と質疑応答に基づく評価事項を設けて適切に行う。</p>	
植物工場学	<p>園芸施設の中で最も先進的な取組みである植物工場について、実際にどのような作物がどのような設備を用いて栽培されているのか、あるいは従来の施設園芸とはどのような点で異なっているか等を実例を交えながら、その理論的根拠について詳しく解説していく。また、太陽光型植物工場についても施設園芸の先進地帯であるオランダの実例や日本における取組について解説する。</p>	
農業生産機械学	<p>農業機械は、食料生産などの農業において労働生産性を支援する大きな役割を担っているが、その使用目的により多くの種類に分類される。そこで、主な農業生産活動にかかわる機械類について、その作業内容から作動原理に至るまで、対象である土・作物・栽培方法などの関連のある事象を含めた講義を行う。</p> <p>授業計画 第1回：人間生活と農業機械化 第2回：農業機械の構成 第3回：乗用トラクタ、作業機（アタッチメント） 第4回：さまざまな工具・トラクタ操作と安全作業 第5回：歩行トラクタ・燃料等 第6回：内燃機関（火花点火機関） 第7回：内燃機関（圧縮点火機関） 第8回：電動機・伝動機械 第9回：作業機の構造と利用 第10回：作業機・稲作用機械1 第11回：稲作用機械2 第12回：乾燥・調製機械および施設 第13回：野菜畑作用・飼料畑作用機械 第14回：かんがい排水/防除用機械 第15回：農業機械の利用と機械化体系</p>	
農業化学	<p>農薬のあらましを主として化学の面から平易に解説する。農薬の歴史、基本構造、作用機構、選択性、主要な農薬の特性・適用などを概説するとともに、毒性とリスク評価についても解説していく。農薬は安定した食糧生産をもたらした我々の生活に大きく貢献してきた一方で、過剰施用による健康被害や環境汚染の問題を引き起こしてきたことも事実である。農薬のリスクとベネフィットを考慮した利用について、食品安全および環境保全の観点からも考察していく。</p> <p>授業計画 第1回：農薬の定義 第2回：農薬の変遷 第3回：農薬の役割 第4回：農薬の名称と分類 第5回：規制農薬と代替農薬 第6回：殺菌剤 第7回：殺虫剤 第8回：殺ダニ剤、線虫防除剤、殺鼠剤 第9回：除草剤 第10回：除草剤抵抗性雑草と除草剤抵抗性作物 第11回：植物生育調節剤 第12回：バイオテク農薬 第13回：農薬のヒトへの毒性とその評価 第14回：農薬の野生生物や環境への影響 第15回：総括と農薬の未来</p>	
栄養化学	<p>基礎的な食品成分の栄養機能性から最近の分子栄養学まで講義し、健康を維持・増進し病気を予防するための栄養成分の栄養生化学および代謝調節機構について議論を深める事を目的とする。本講義を受講することで、食生活と健康の関係を理解するために、栄養素が体の中でどのように代謝され、どのような役割を果たしているかの基礎知識を習得する。</p>	

分子細胞生物学	様々な生物のゲノム配列が容易に解読可能になったことで、生命に対する分子レベルでの理解が急速に深まりつつある。この新しい研究の潮流を踏まえつつ、主に「真核生物の分子生物学」について講義する。しかし、「真核生物の分子生物学」は幅広いので、現在、劇的に進展している「ゲノム科学」を中心に講義する。なぜなら、現在、生命科学研究・分子生物学研究を大きく牽引しているのがゲノム科学だからである。具体的には、DNAと染色体、遺伝子発現の調節、遺伝子とゲノムの進化、ゲノム解読技術とその応用について講義する。	
分析化学	(概要) 本講義は、生体成分等の化学的測定方法の基礎となるものである。本講義では、化学分析の基礎となる物質の定量的な取り扱い方を説明する。また、機器分析法や生体分析法の原理と実際についても講述する。 (オムニバス方式/全15回) (50 関 清彦/8回) 物質の定量的な取り扱い方を修得させるため、化学平衡、酸塩基平衡、酸化還元平衡、重量分析、容量分析等について、計算・演習を中心に講義する。 (21 宗 伸明/7回) 紫外可視分光法、蛍光光度法、赤外線吸収スペクトル測定法、クロマトグラフィーなどの機器分析法、並びにゲル電気泳動やイムノアッセイなどの生体分析法の原理と実際について講義する。	オムニバス方式
生物科学演習 I	各教員が少人数制クラスにおいて、学生に対しセミナー形式で卒業研究に必須な知識や実験・解析・調査手法等について教授する。特に、学生が主体となり、卒業研究に関連する論文について他者にわかりやすく紹介するなどの演習を設定し、互いに質問し議論することを促しながら授業を進める。また、卒業研究計画についても適宜発表を課し、実験デザインの構築やプレゼンテーションの手法などを学べるようにする。	
生物科学演習 II	各教員が少人数制クラスにおいて、学生に対しセミナー形式で卒業研究に必須な知識や実験・解析・調査手法等について教授する。学生が主体となり、卒業研究に関連する論文について他者にわかりやすく紹介するなどの演習を設定し、互いに質問し議論することを促しながら授業を進める。さらに、卒業研究の進捗状況についても適宜発表を課し、自身の研究内容をわかりやすく説明する技法、データの解釈やプレゼンテーションの手法および論文作成の方法などを学べるようアドバイスする。	
卒業研究	学生は分属された研究分野において、自ら研究テーマを定め、修得した専門知識及び実験技能を応用し、教員の指導の下、課題解決のための計画、調査実験、データ解析、論文作成、そして最後に成果の発表を行う。卒業研究を履修することによりこれまで学んだ専門知識の実践的应用、事象に対する観察力・実行力・判断力など総合的な技能を身につけることができる。	
環境基礎解析学 I	農産物生産を支える農業ICT技術や生産基盤を構成する三圏(水圏、大気圏、土壌圏)の管理および整備に関する食資源環境科学コースの専門科目を体系的に履修するためには、微積分学の基礎と農学における応用法の両者を修得することが必要である。本科目では、微積分の基礎、微分方程式、フーリエ解析などに加え、食資源環境科学に関連する演習・応用課題を適宜課すことにより、2年次後学期以降の専門教育の土台となる数学力を効率的に学習する。 授業計画 第1回：環境科学における数学の役割 第2回：微分法 第3回：初等関数の微分 第4回：高階導関数 第5回：平均値の定理 第6回：テイラーの定理 第7回：偏微分法 第8回：2変数合成関数の微分 第9回：不定積分 第10回：定積分 第11回：微分方程式1:変数分離型 第12回：微分方程式2:同時形、完全形 第13回：微分方程式3:1階線形方程式、2階線形同時方程式、2階線形非同時方程式 第14回：環境解析への応用1:BOD、放射性同位体の核壊変 第15回：環境解析への応用2:光合成の早さ、炭素14による年代測定法、騒音問題	
応用力学	土木・建築構造物を構成する部材には荷重などによる外力が作用する。外力に対して安全な構造物を設計するためには、材料の性質、部材の形状、荷重により部材内部により生ずる応力を知る必要がある。担当教員は、力とモーメント、応力の算定法などについてその考え方や解き方を解説する。 授業計画 第1回：中学校理科の復習 第2回：力とモーメント(てこの原理) 第3回：力とモーメント(滑車と輪軸) 第4回：力とモーメント(力のモーメント) 第5回：静定ばり(力とモーメントのつり合い) 第6回：静定ばり(支点反力) 第7回：静定ラーメン 第8回：はりの応力(Q-図とM-図) 第9回：はりの応力(関数の微分と増減) 第10回：静定トラス(節点法) 第11回：静定トラス(断面法) 第12回：材料の強さと性質 第13回：平面図形の性質(関数の積分) 第14回：平面図形の性質(曲線図形) 第15回：平面図形の性質(置換積分法)	

応用力学演習	<p>土木・建築構造物を構成する部材には荷重などによる外力が作用する。外力に対して安全な構造物を設計するためには、材料の性質、部材の形状、荷重により部材内部により生ずる応力を知る必要がある。担当教員が「応用力学」で講義した内容の理解を深めるための演習をアクティブ・ラーニング形式で行う。</p> <p>授業計画 第1回：中学校理科の復習（力のつり合い） 第2回：力とモーメント（てこの原理） 第3回：力とモーメント（滑車と輪軸） 第4回：力とモーメント（力のモーメント） 第5回：静定ばり（力とモーメントのつり合い） 第6回：静定ばり（支点反力） 第7回：静定ラーメン（剛節結合） 第8回：はりの応力（Q-図とM-図） 第9回：はりの応力（関数の微分と増減） 第10回：静定トラス（節点法） 第11回：静定トラス（断面法） 第12回：材料の強さと性質（フックの法則） 第13回：平面図形の性質（関数の積分） 第14回：平面図形の性質（曲線図形） 第15回：平面図形の性質（置換積分法）</p>	
生産情報処理学	<p>本授業は、表計算ソフトを様々な用法で利用するための基礎知識・技能の習得・プログラム言語の体験を目標に演習を主として実施する。</p> <p>授業計画 第1回：表計算ソフトの基本操作の復習 第2回：関数の復習IF、ROUND、Vlookup 第3回：条件をとまなうセル表現法、入力規則の設定 第4回：グラフの作成およびその応用法 第5回：データベースとしてのExcelの活用 第6回：マクロプログラミングの基礎、フローチャートの作成、プログラムにおける手順の作成 第7回：IFの組み合わせによる多岐選択方法 第8回：エラーにならないためのプログラミング 第9回：ループ（For～Next）、乱数 第10回：ループの応用（約数の精査） 第11回：多重ループ（並び替え） 第12回：多重ループ（覆面算） 第13回：数値計算への応用、定積分 第14回：配列、乱数を応用したプログラミング 第15回：数値計算（統計への応用）</p>	
農業水利学	<p>農業に不可欠な水資源の現状と農地における水利用について講義する。水田および畑における灌漑手法および用水量の算定方法について解説する。また、排水の意義について講義する。これらを踏まえ、農業水利システムの構造と計画について講義する。</p> <p>授業計画 第1回：灌漑および排水の目的と歴史 第2回：世界と日本の水資源と水利権 第3回：水田灌漑の意義・役割と灌漑方法 第4回：水田用水量の構成要素と純用水量 第5回：農業用水の反復利用と広域用水量 第6回：畑地灌漑の意義 第7回：畑地灌漑方式と灌漑効率 第8回：畑地の水分消費メカニズム 第9回：畑地における消費水量の算定方法 第10回：圃場および広域レベルにおける排水のメカニズム 第11回：農業水利システムの概要 第12回：農業水利システムを構成する施設計画（貯水施設・取水施設の種類の構造） 第13回：農業水利システムを構成する施設計画（配水施設・調整施設・末端施設の種類の構造） 第14回：環境との調和に配慮した農業水利システムの計画（生態系配慮） 第15回：環境との調和に配慮した農業水利システムの計画（景観配慮）</p>	
農業気象学	<p>本科目では、農作物の収量・品質に及ぼす気象要因を理解させるとともに、それらを効果的に制御するための一般気象学、微気象学、気象情報学、農地防災学の基礎と環境制御型農業技術の理論と実践を学習させる。</p> <p>授業計画 第1回：農業気象学とは 第2回：地球の熱収支と大気的作用 第3回：地表面における熱と物質の輸送：熱収支、放射収支 第4回：地表面における熱と物質の輸送：局地気象 第5回：地表面における熱と物質の輸送：降水 第6回：地表面における熱と物質の輸送：蒸発散 第7回：生物生産に及ぼす気象の影響：生物生産、乾物生産、気候 第8回：生物生産に及ぼす気象の影響：光合成機能 第9回：生物生産に及ぼす気象の影響：蒸発散、吸水 第10回：生物生産に及ぼす気象の影響：微気象、群落 第11回：農業気象情報と局地気候：気候、農業、気象 第12回：農業気象情報と局地気候：気候情報システム、局地気候 第13回：農業気象災害：冷害、水害 第14回：農業気象災害：干害、風害 第15回：世界の農業と地球環境</p>	

フィールド科学基礎実習 I	<p>ミカンの接ぎ木、防虫、施肥及び除草等の果樹管理を行う。西南暖地で主に栽培されている種々の作物や園芸植物の栽培を行う際の耕起、畝立て、定植、除草、収穫などの栽培管理を行う。牛の捕獲、牛体洗浄、牛体測定、牛床の清掃などの家畜管理を行う。各回の内容は以下の通り。</p> <p>第1回：ガイドンス、ミカンの接ぎ木 第2回：ミカンの定植、トマトの定植・誘引、イチゴの撤去 第3回：ジャガイモ追肥・土寄せ、キクイモの定植 第4回：乾草収納、キュウリの定植・誘引、モモ袋かけ 第5回：カーネーション撤去・ポット土詰め、ノビルの収穫 第6回：水稲育苗箱播種、サツマイモマルチ被覆 第7回：サツマイモ挿苗、キウイ管理 第8回：有機水稲苗取り、ジャガイモ収穫・調整 第9回：カーネーション定植、トマト・キュウリ管理 第10回：田植え 第11回：イチゴジャム製造、カーネーション摘心・段上げ 第12回：里芋追肥・敷きわら、キクイモ管理 第13回：家畜管理、サツマイモ苗撤去、茶園管理 第14回：トマトケチャップ製造、イチゴ採摘 第15回：キュウリ撤去、トマト撤去</p>	
栽培環境制御学	<p>この講義では、まず、農業に影響を与える環境要因として、光、空気、温度の環境特性を概説する。次に、農業施設を利用した環境制御の効果と仕組みを説明する。最終的には、農業生産に係わるエネルギー及び物質収支を理解し、環境を保全しながら食料生産を継続するための理論や考え方を理解させる。</p> <p>授業計画 第1回：社会の発展と農業の歴史的展開 第2回：食料自給と農業の生産規模 第3回：野菜生産出荷安定法 第4回：農業用温室の種類と構造 第5回：温室の被覆資材と特性～光、水、温度 第6回：温室の被覆資材と特性～内張資材 第7回：温室内の環境特性～光 第8回：温室内の環境特性～温湿度、熱収支 第9回：温室内の環境特性～二酸化炭素 第10回：温室内の環境制御～必要換気率（高温抑制） 第11回：温室内の環境制御～必要換気率（二酸化炭素濃度、湿度） 第12回：温室内の環境制御～温室の熱収支 第13回：温室内の環境制御～暖房の原理と暖房負荷 第14回：温室内の環境制御～暖房装置と環境負荷 第15回：温室内の環境制御～冷房、二酸化炭素施肥</p>	
生化学	<p>生化学は、生命現象を化学的に分子レベルで解明・理解しようとする学問である。本授業では、物質生化学を中心に解説する生物化学に続き、物質代謝（分解と合成）とエネルギー代謝およびその調節機構について講義を行う。特に糖質代謝を中心に学び、生物が生命活動に必要なエネルギーをどのようにして取り出し、利用するかを分子レベルで理解することを目的としている。</p> <p>到達目標：物質代謝とエネルギー代謝の関係及びその調節機構について理解する。</p>	
土壌環境科学	<p>農業に関する学問を学ぶ学生にとって、必要最低限と思われる、特に土壌物理的な内容を理解し、実際の問題について解答できる能力を身に付ける。全ての分野に通用する専門用語の意味を理解する。</p> <p>授業計画 第1回：環境問題に於ける土の役割 第2回：土の一般的な性質 第3回：土の中の水の動き 第4回：降水と浸透 第5回：土中の水のエネルギー 第6回：ダルシー則 第7回：飽和した土の水の流れ 第8回：飽和していない土の水の流れ 第9回：土の中に於ける化学物質の流れ 第10回：乾燥地に於ける塩害 第11回：植物による土の水の吸水 第12回：土からの蒸発 第13回：土の水分の測定原理 第14回：これからの土壌環境科学 第15回：まとめ</p>	
地盤環境学 I	<p>気候変動に伴って地球環境が急速に変貌するなか、生活や農業基盤の基礎を成す地盤の安全かつ有効な活用は、有明海沿岸低平地における地域農業の持続に関わる重要な課題となっている。本科目では、地盤を構成する土の地質学・鉱物学的性質、土を介した地盤-大気間の水循環、土の農業土木学的特性と位置付け、規格・国際基準における農学と工学の差異等について学習することにより、履修者が、地盤の安全性や環境性能の向上に資する基礎知識・技術を身に付けることを目標とする。</p> <p>授業計画 第1回：身近な地盤環境問題 第2回：母岩からの土の生成、化学組成 第3回：コンシステンシー、コロイド化学的性質 第4回：土の地質学的分類・鉱物学的性質、国際的な土の分類基準 第5回：土の締め固め 第6回：毛管現象、透水性、ダルシーの法則 第7回：浸透理論、地盤破壊 第8回：地盤内応力有効応力 第9回：土の圧縮機構 第10回：土の圧密機構と圧密試験 第11回：土の圧密沈下量の算定 第12回：土のせん断、モールの応力円、破壊基準 第13回：Excelを用いた応力計算 第14回：土のせん断試験、飽和土のせん断 第15回：粘性土・砂質土のせん断</p>	

環境基礎解析学Ⅱ	<p>線形代数学は、微積分学と並んで大学における数学の基礎をなすものであり、情報処理におけるプログラミング、土木工学におけるトラス問題のような多項連立方程式の解法など、あらゆる分野において不断に使用されているこの授業では行列、行列の演算、行列の基本変形、連立1次方程式の解法、正則行列、逆行列の求め方、など線形代数学における基礎知識を得る為の講義を行う。</p> <p>授業計画 第1回：イントロダクション（線形代数学について） 第2回：行列の演算 第3回：解がある3×3連立一次方程式の解法 第4回：逆行列 第5回：一般の連立方程式 第6回：行列式の計算と用法 第7回：余因子と逆行列の公式 第8回：連立方程式のCramerの公式 第9回：置換と互換 第10回：数ベクトル空間と一次独立 第11回：行列と線型変換 第12回：内積と正規直行基底 第13回：固有値と固有ベクトル 第14回：行列の対角化 第15回：行列とコンピュータプログラム</p>	
環境水理学Ⅰ	<p>農業用水の安定供給のためには農業用排水路、農業用ため池・貯水池のような農業用水利施設が不可欠である。環境水理学Ⅰでは、これらの施設の建設や維持管理で必要となる水の力学的性質に係る基礎的事項と解析方法について講義する。流体の物理的性質、静水力学、流れの基礎理論を中心に解説する。</p> <p>授業計画 第1回：講義内容の説明、水理学の基礎（単位系、次元） 第2回：水の物理的性質（重量、圧力） 第3回：平面に働く静水圧（1）：平面、合圧力、静水圧分布 第4回：平面に働く静水圧（2）：平面、作用点 第5回：曲面に働く静水圧（1）：曲面、合圧力の成分 第6回：曲面に働く静水圧（2）：曲面、全水圧 第7回：浮力 第8回：連続の式・完全流体の運動方程式 第9回：前半のまとめ及び中間試験 第10回：ベルヌーイの定理 第11回：ベルヌーイの定理の適用 第12回：運動量の定理（1）：運動量の定理の導出 第13回：運動量の定理（2）：流体が物体に及ぼす力 第14回：粘性の作用 第15回：乱れの作用</p>	
環境水理学演習Ⅰ	<p>同じ学期に開講される環境水理学Ⅰの内容をより深く理解するための演習である。例題について解説をした後、グループワークで演習問題を解かせる。</p> <p>授業計画 第1回：講義内容の説明、水理学の基礎（単位系、次元） 第2回：水の物理的性質（重量、圧力） 第3回：平面に働く静水圧（1）：平面、合圧力、静水圧分布 第4回：平面に働く静水圧（2）：平面、作用点 第5回：曲面に働く静水圧（1）：曲面、合圧力の成分 第6回：曲面に働く静水圧（2）：曲面、全水圧 第7回：浮力 第8回：連続の式 第9回：静水圧についてのまとめ 第10回：ベルヌーイの定理 第11回：ベルヌーイの定理の適用 第12回：運動量の定理（1）：運動量の定理の導出 第13回：運動量の定理（2）：流体が物体に及ぼす力 第14回：粘性の作用 第15回：乱れの作用</p>	
農業生産機械学	<p>農業機械は、食料生産などの農業において労働生産性を支援する大きな役割を担っているが、その使用目的により多くの種類に分類される。そこで、主な農業生産活動にかかわる機械類について、その作業内容から作動原理に至るまで、対象である土・作物・栽培方法などの関連のある事象を含めた講義を行う。</p> <p>授業計画 第1回：人間生活と農業機械化 第2回：農業機械の構成 第3回：乗用トラクタ、作業機（アタッチメント） 第4回：さまざまな工具・トラクタ操作と安全作業 第5回：歩行トラクタ・燃料等 第6回：内燃機関（火花点火機関） 第7回：内燃機関（圧縮点火機関） 第8回：電動機・伝動機械 第9回：作業機の構造と利用 第10回：作業機・稲作用機械1 第11回：稲作用機械2 第12回：乾燥・調製機械および施設 第13回：野菜畑作用・飼料畑作用機械 第14回：かんがい排水/防除用機械 第15回：農業機械の利用と機械化体系</p>	

農産食品流通貯蔵学	<p>本講義では、まず、青果物（野菜類、果菜類、果実、花木類）を対象とし、これらの青果物に含まれる基本的な栄養成分の種類と性質を概説し、各青果物の品質特性を明らかにする。次に、様々な流通及び貯蔵技術を概説し、青果物の品質維持を図るために必要となる、選別、洗浄、包装、貯蔵、輸送技術について概説し、冷蔵施設の設計を行う。</p> <p>授業計画</p> <p>第1回：日本を取りまく食糧事情 第2回：日本の食糧自給率と農産物生産値 第3回：主要農産物の流通と生産 第4回：農産食品流通の仕組み 第5回：農産物の品質～食品成分の種類と特性1 第6回：農産物の品質～食品成分の種類と特性2 第7回：農産物の生活生理 第8回：青果物の流通前処理 第9回：青果物の選別と包装 第10回：青果物の輸送 第11回：青果物の貯蔵～貯蔵の必要性、常温貯蔵 第12回：青果物の貯蔵～低温貯蔵 第13回：低温貯蔵の原理 第14回：低温貯蔵庫の設計（貯蔵庫の熱収支） 第15回：低温貯蔵庫の設計（貯蔵庫の冷蔵負荷）</p>	
フィールド科学基礎実習Ⅱ	<p>有機圃場において、ダイコン、ニンジン、ホウレンソウなどの秋野菜の播種から収穫までの一連の栽培管理を行う。フィールド科学基礎実習Ⅰで栽培した種々の作物や園芸植物の収穫・調整に関する実習を行うとともに、試食も行う。食肉加工実習においては、豚肉の解体・調整、ハム・ソーセージの充填実習及び試食を行う。ウメ、モモ、カキ、キウイなどの落葉果樹の剪定を行う。各回の内容は以下の通り。</p> <p>第1回：ガイダンス。秋野菜畝立て・播種 第2回：水稲収量査定（収穫・脱穀・籾数） 第3回：稲わら立て、サツマイモつる切り、キクイモ収穫・調整 第4回：サツマイモ収穫、ノビル定植 第5回：野菜収穫、キウイ・カキ管理、米調整・袋詰め 第6回：果樹園水路整備 第7回：サトイモ収穫・調整 第8回：ソバ収穫、秋野菜収穫 第9回：ソバ脱穀、水稲収量査定 第10回：ミカンジュース製造 第11回：ソバ打ち 第12回：イチゴ・キク・カーネーション収穫、落葉果樹剪定 第13回：肉加工①（豚肉の解体・調整） 第14回：肉加工②（ハム・ソーセージの充填、試食） 第15回：畦畔土上げ、ジャガイモ定植</p>	
栄養化学	<p>基礎的な食品成分の栄養機能性から最近の分子栄養学まで講義し、健康を維持・増進し病気を予防するための栄養成分の栄養生化学および代謝調節機構について議論を深める事を目的とする。本講義を受講することで、食生活と健康の関係を理解するために、栄養素が体の中でどのように代謝され、どのような役割を果たしているかの基礎知識を習得する。</p>	
食品化学	<p>食品の一般成分の化学と食品成分が食品中に存在する状態や役割等について概説し、さらに食品の品質にかかわる成分変化や成分間の反応についても解説する。</p> <p>（オムニバス方式/全15回） （50 関 清彦/9回）</p> <p>第1回：食品化学とは 第2回：水分 第3回：アミノ酸・ペプチド 第4回：タンパク質 第5回：タンパク質の栄養評価 第6回：主要な食品タンパク質 第7回：核酸の代謝と食品 第8回：ビタミン 第9回：ミネラル （12 濱 洋一郎/6回）</p> <p>第10回：単糖類 第11回：オリゴ糖・配糖体 第12回：単純多糖 第13回：多糖 第14回：脂質の種類と構造 第15回：油脂の性質</p>	オムニバス方式
植物栄養学	<p>植物の無機栄養成分が、光合成をはじめとする各種の代謝にどのようにかわっているか、またこれらの過不足により、どのような症状を呈するかを主に教授する。植物栄養学は、植物生理学と合わせて、植物を理解する上で重要な学問で、教職の資格や改良普及員の資格試験の関連科目であり、農学部全学生の履修を勧める。各回の内容は以下の通り。</p> <p>第1回：無機元素と光エネルギーの起源 第2回：根による必須栄養素の吸収機構 第3回：必須栄養素、代謝産物および水の移動 第4回：炭素同化（光合成） 第5回：炭素代謝（呼吸） 第6回：窒素同化と窒素代謝 第7回：根粒菌による窒素固定 第8回：窒素、リン酸・カリウムとそれらの栄養的役割 第9回：カルシウム・マグネシウムとそれらの栄養的役割 第10回：鉄・マンガンとそれらの栄養的役割 第11回：銅・亜鉛・ニッケルとそれらの栄養的役割 第12回：モリブデン・ホウ素・塩素とそれらの栄養的役割 第13回：有用元素あるいは有害元素（ケイ素・ナトリウム・アルミニウム）について 第14回：植物栄養とバイオテクノロジー 第15回：肥料の種類と有機農業</p>	

遺伝学	<p>近年、様々な生物種のゲノム解析が進んでおり、21世紀は生命科学の時代であると言われてい る。生物が生物たる所以は種特異的な遺伝情報を含むゲノムを持ち、これを子孫に伝えて行くこ ろにある。本講義では、メンデル遺伝の基礎から細胞遺伝学、分子遺伝学を含む現代の遺伝学 全般に関する講義を行い、最新の農学・生命科学の理解に必要な遺伝的知識を教授する。 (オムニバス方式/全15回) (15 穴井 豊昭/5回) 第1回：遺伝子の構造 第2回：遺伝子の転写 第3回：遺伝子の翻訳 第4回：DNAの複製 第5回：遺伝子発現の制御 (48 渡邊 啓史/5回) 第6回：突然変異 第7回：変異原 第8回：組換え 第9回：メンデル遺伝学 第10回：減数分裂 (45 藤田 大輔/5回) 第11回：連鎖 第12回：量的形質の遺伝 第13回：性と遺伝 第14回：確率と適合性の検定 第15回：組換えDNA技術</p>	オムニバス方式
植物生理学	<p>植物細胞の構造とその機能に関する講義である。古典的な研究から、最近の代謝化学分野におけ る発見、分子レベルでのさまざまな機能を詳しく解説する。 (オムニバス方式/全15回) (17 鈴木 章弘/5回) 第1回：植物生理学の概要を解説する。 第2回：植物の生育する環境（光、水）について解説する。 第3回：植物の生育する環境（温度、その他）について解説する。 第4回：植物の細胞培養について解説する。 第5回：植物の遺伝子改変について解説する。 (10 石丸 幹二/5回) 第6回：植物の発生と生長について解説する。 第7回：植物の細胞壁について解説する。 第8回：植物の運動について解説する。 第9回：植物ホルモン（オーキシン、サイトカイニン）について解説する。 第10回：植物ホルモン（ジベレリン、アブシジン酸）について解説する。 (31 古藤田 信博/5回) 第11回：植物ホルモン（その他）について解説する。 第12回：開花について解説する。 第13回：光合成について解説する。 第14回：呼吸とエネルギー利用について解説する。 第15回：植物の栄養について解説する。</p>	オムニバス方式
植物病理学	<p>農作物などの有用植物を対象とし、病原体と植物とのかかわりを研究することによって、病気に よる被害を防ぐことが可能となることについて紹介する。また病原体の種類や感染、病原体の制 御に資する基本的な概念を解説する。 (オムニバス方式/全15回) (9 大島 一里/7回) 第1回：植物病理学の概略と歴史を解説する。 第2回：植物の病徴を解説する。 第3回：植物の病気を解説する。 第4回：感染と発病を解説する。 第5回：ウイルス病を解説する。 第6回：ウイロイド病を解説する。 第7回：ウイルス病の診断とバイオサイエンスを解説する。（大島） (28 草場 基章/8回) 第8回：糸状菌病（クロミスタ界）を解説する。 第9回：糸状菌病（真菌）を解説する。 第10回：細菌病を解説する。 第11回：ファイトプラズマ病を解説する。 第12回：病気の伝染を解説する。 第13回：病気の診断・防除を解説する。 第14回：感染生理（抵抗性）を解説する。 第15回：感染生理（病原性を解説する。</p>	オムニバス方式
昆虫学	<p>地球上に生息する昆虫は約100万種以上とも言われ、全動物種の3/4～4/5を占めてい る。これほど多様な昆虫の生き様は、私達に色々な意味で多くのことを語りかけて来る。本講義 では、昆虫に関する形態、生理、生化学的知見を紹介し、昆虫への興味を喚起する。さらに、昆 虫の生き様を通して私達ヒトの生き方を客観的に再評価する契機となるような話題を提供した い。</p>	
環境水理学Ⅱ	<p>環境水理学Ⅱでは環境水理学Ⅰで学んだ運動を支配する法則を用いて、管路や開水路などの水 の流れを具体的な実例を交えながら、基礎方程式の作り方とその解析方法について解説する。さ らに、水路内に付帯構造物の堰・水門（ゲート）がある場合の水理についても講述する。 授業計画 第1回：管路定常流の基礎方程式 第2回：摩擦損失と形状損失 第3回：単線管路の流量計算 第4回：単線管路のエネルギー線と動水勾配線 第5回：サイフォン、キャビテーションの水理 第6回：異径管路、水車、ポンプを含む管路の流れ 第7回：合流管、分岐管、管網の計算 第8回：開水路定常流の基礎方程式 第9回：管路と開水路の水理的相違 第10回：限界水深と常流・射流、跳水現象 第11回：開水路の等流、平均流速公式 第12回：一樣断面水路の不等流計算 第13回：開水路流れの水面形の種類 第14回：一樣でない開水路の不等流計算 第15回：堰・ゲートの水理</p>	

環境水理学演習Ⅱ	<p>同一学期に開講される環境水理学Ⅱの内容をより深く理解する。 環境水理学Ⅱの講義に関する例題について解説した後、学生が演習問題を各自解く。</p> <p>授業計画</p> <p>第1回：静水圧の計算 第2回：管水路定常流の計算 第3回：摩擦損失と形状損失の計算 第4回：単線管水路の流量計算 第5回：エネルギー線と動水勾配線の計算 第6回：サイフンの計算 第7回：異径管路、水車、ポンプを含む管路の計算 第8回：合流管、分岐管、管網の計算 第9回：開水路定常流の計算 第10回：限界水深と常流・射流、跳水現象の計算 第11回：開水路（単断面）の等流計算 第12回：一様断面水路（複断面）の等流計算 第13回：一様断面水路の不等流計算 第14回：一様でない開水路の不等流計算 第15回：堰・ゲートの流量計算</p>	
生物有機化学	<p>生物のからだは化学物質の集合体であり、それらの変化を引き起こす代謝反応は化学反応である。これらの反応は、触媒として酵素が参加することで、穏やかな条件下で非常に効率良く迅速に進む。そのため、生体内で起こる反応と試験管内で起こる反応は異なるものと考えがちである。しかし、本質的には同じ有機化学反応である。本講義では、酵素反応を有機化学反応として理解することを目標として、代表的な酵素反応を例として取り上げ、その反応機構および関連する物質についての基礎を学ぶ。</p>	
園芸学	<p><園芸学></p> <p>園芸学は、野菜、果実、観賞植物などの園芸作物全般の基本的な講義である。園芸作物の生産、流通、利用、あるいは教育、研究、行政に関わる職業に就く予定の学生だけでなく、人文科学的、社会科学的分野に関わる学生にも、独立した科目として受け入れられるものとした。各回の講義内容は以下の通り。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(14 一色 司郎/3回)</p> <p>第1回：園芸と園芸学について解説する。 第2回：園芸作物の種類と分類について解説する。 第3回：園芸作物の形態について解説する。 (31 古藤田 信博/3回)</p> <p>第4回：園芸作物の生理、特に発芽から花芽形成について解説する。 第5回：園芸作物の生理、特に種子形成、植物ホルモンについて解説する。 第6回：園芸作物の品種の改良方法と種苗の繁殖方法について解説する。 (41 辻田 有紀/3回)</p> <p>第7回：園芸作物の発育に伴う生理生態的特性と栽培管理、特に野菜について解説する。 第8回：園芸作物の発育に伴う生理生態的特性と栽培管理、特に果樹について解説する。 第9回：園芸作物の発育に伴う生理生態的特性と栽培管理、特に花卉について解説する。 (32 福田 伸二/4回)</p> <p>第10回：園芸作物の生産施設と流通施設について解説する。 第11回：園芸作物の鮮度保持方法について解説する。 第12回：園芸作物に含まれる栄養成分と機能性成分、特に野菜と果樹について解説する。 第13回：園芸作物に含まれる栄養成分と機能性成分、特に花卉について解説する。 (49 松本 雄一/2回)</p> <p>第14回：園芸の新しい展開領域について解説する。 第15回：環境にやさしい園芸生産について解説する。</p>	オムニバス方式
植物育種学	<p>1960年代から始まった「緑の革命」は、世界の食糧生産を飛躍的に向上させた。この原動力となったのがコムギ、イネ、トウモロコシといった主要穀物の品種改良であったことは良く知られている。21世紀をむかえ、世界の人口は更に増加すると考えられており、作物の改良は益々重要となると考えられる。本講義では、植物の育種を進める上で重要となる作物ゲノムの成り立ちから遺伝資源の利用、生殖様式に応じた育種法の原理と利用、遺伝的変異の拡大とその遺伝的固定、選抜、検定といった様々な技術について、その基礎理論から最新の応用までを体系的に解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(48 渡邊 啓史/5回)</p> <p>第1回：育種学とは何か？ 第2回：栽培植物の起源と進化 第3回：遺伝資源の探索と導入 第4回：自殖性作物の交雑育種（1）遺伝様式の理解 第5回：自殖性作物の交雑育種（2）育種の方法の理解 (45 藤田 大輔/5回)</p> <p>第6回：自殖性作物の交雑育種（3）実際の育種への応用 第7回：他殖性作物の交雑育種（1）遺伝様式の理解 第8回：他殖性作物の交雑育種（2）育種方法の理解 第9回：他殖性作物の交雑育種（3）実際の育種への応用 第10回：栄養繁殖性作物、遠縁交雑育種 (15 穴井 豊昭/5回)</p> <p>第11回：染色体変異と倍数性育種 第12回：突然変異育種（1）変異原とその変異の機構 第13回：突然変異育種（2）選抜理論 第14回：組織培養の育種利用 第15回：遺伝子組換え育種</p>	オムニバス方式

地球環境学	地球環境を構成する大気、海、地殻、生物といった様々な要素を“システム”として一体的に捉え、それらの自然的・社会的メカニズムとそれに起因する農業環境問題を、多面的且つ客観的に理解する能力を養うことを目的とした農業地理学および地球統計学の基礎と応用を講義する。 授業計画 第1回：宇宙の階層構造、膨張する宇宙 第2回：宇宙と元素の誕生、星の誕生・進化 第3回：元素の誕生（まとめ） 第4回：微惑星の衝突により太陽系が誕生する 第5回：海と大気の進化：全球凍結を救った温室効果一 第6回：海と大気の進化：大気中の酸素と生物 第7回：地震 第8回：地震から分かる地球の内部構造 第9回：地殻の進化 第10回：地磁気及び岩石の残留磁気から分かる大陸の移動 第11回：岩石の残留磁気から分かる大陸の移動 第12回：地磁気の逆転と海洋底の拡大 第13回：プレートテクトニクスとはなにか 第14回：日本のテクトニクス：火山 第15回：日本のテクトニクス：東日本地震、南海地震	
有機化学	『有機化学』は、現在は「炭素原子を骨格としてできた化合物を扱う分野」と定義されているが、本来は「生物由来の化合物を扱う分野」というものであった。農学部の研究対象はまさに有機化合物であり、『有機化学』は農学部生の学習や研究において重要な科目である。本講義では、生体分子の性質や反応の基礎を理解することを目標として、炭素原子の特徴、有機化合物の立体構造や反応性、官能基の化学的性質などについて段階的に学ぶ。	
分析化学	(概要) 本講義は、生体成分等の化学的測定方法の基礎となるものである。本講義では、化学分析の基礎となる物質の定量的な取り扱い方を説明する。また、機器分析法や生体分析法の原理と実際についても講述する。 (オムニバス方式/全15回) (50 関 清彦/8回) 物質の定量的な取り扱い方を修得させるため、化学平衡、酸塩基平衡、酸化還元平衡、重量分析、容量分析等について、計算・演習を中心に講義する。 (21 宗 伸明/7回) 紫外可視分光法、蛍光光度法、赤外線吸収スペクトル測定法、クロマトグラフィーなどの機器分析法、並びにゲル電気泳動やイムノアッセイなどの生体分析法の原理と実際について講義する。	オムニバス方式
物理化学	生体内反応の詳細な理解のためには、物理化学の知識が重要である。本講義では、生命科学やその応用を学ぼうとする学生に必要な物理化学に関する内容を必要最小限の教式しか使わずにできるだけわかりやすく述べる。より具体的には、化学熱力学におけるエンタルピー、エントロピー、自由エネルギー、熱力学の法則、化学反応速度論における反応速度法則や衝突理論、遷移状態理論、化学平衡における平衡定数やルシャトリエの原理などについて、基礎的な内容から講述する。	
英書講読	本科目は、専攻した教育研究分野に関連した基礎的知識の修得と、正確な英文読解力を養うためのものである。専門分野に関連した英文の専門書・文献の講読を通して英文法の基礎知識を確認しながら英文和訳の訓練を行い、翻訳能力を高める。また英語の専門書・文献の講読を通じて、科学的あるいは専門的知識を習得するとともに、英文に対する考察力を身につける。授業は所属する教育研究分野が指定する英書を読み各自で翻訳したうえで、その内容について他の受講者に對して説明および討議を実施する。	
測地学 I	不均一な地球表面上の各点の距離・高低差・角度を測定し、その結果をもとに農地の地図・図面を作成したり、農業関連施設の形状・面積およびその構築に要する農業土木材料等を算定したりする農業測量の基礎、すなわち農業測量の原理、測量機器の取り扱い、農地測量計算法などに関する基礎を学習する。 授業計画 第1回：地球のすがたと測量地球の測定、位置の表し方、投影図 第2回：角測量：単測法 第3回：角測量：複測法 第4回：角測量：複測法 第5回：水準測量：昇降式 第6回：水準測量：器高式 第7回：距離測量：光波 第8回：スタジア測量：スタジア公式 第9回：平板測量：放射法 第10回：平板測量：導線法 第11回：空中写真測量 第12回：誤差論：最確値、平均2乗誤差、誤差の伝達 第13回：誤差論：信頼性の評価 第14回：測量計算：線形で囲まれた図形の面積 第15回：測量計算：土量計算	
測地学演習 I	各種測量機器を用いて、地球表面上の各点の距離・高低差・角度を測定する。その結果に基づき、地図や図面を作成や面積・体積の計算をレポートにまとめて提出する。 授業計画 第1回：測量機器の取扱い 第2回：単測法 第3回：複測法 第4回：複測法 第5回：水準測量：昇降式 第6回：水準測量：器高式 第7回：距離測量 第8回：スタジア測量 第9回：平板測量：放射線法 第10回：平板測量：導線法 第11回：空中写真測量 第12回：誤差論：最確値、平均2乗誤差、誤差伝達（コンピューター活用を含む。） 第13回：誤差論：信頼性の評価（コンピューター活用を含む。） 第14回：測量計算：線形で囲まれた図形の面積 第15回：測量計算：土量計算	

<p>地盤環境学Ⅱ</p>	<p>農業土木の分野においては、地盤は構造物の基礎となり、また地盤土そのものを築造材料として用い、さらに直接自然地盤に施工する、など地盤を対象とすることが非常に多い。担当教員は、地盤の力学的特性の実務への応用として、土圧、斜面の安定、地盤の支持力、地盤改良について解説する。</p> <p>授業計画 第1回：土木三力の復習 第2回：はり構造物におけるたわみの微分方程式 第3回：はり構造物のたわみ：弾性荷重法) 第4回：地盤沈下 第5回：土圧：クーロンの土圧 第6回：土圧：ランキンの土圧 第7回：土圧：土留め構造物 第8回：地滑り：地滑り、山崩れ 第9回：地滑り：地形、地質、安定解析 第10回：斜面の安定：平面滑り解析 第11回：斜面の安定：円弧滑り解析 第12回：陸地変動：地震、安定解析 第13回：骨材：細骨材、粗骨材 第14回：地盤の支持力：浅い基礎、深い基礎 第15回：地盤改良：軟弱地盤、安定処理)</p>	
<p>農村環境計画学</p>	<p>農村空間は生産空間、生活空間、自然空間等から構成され、これらの概要や役割について講義する。また、農業農村の持続的な発展のために、集落計画、交通計画、水利計画、公共施設計画および景観計画について解説する。</p> <p>授業計画 第1回：農村の成り立ちと特質 第2回：農業農村を取り巻く環境と課題 第3回：農業農村における土地利用計画 第4回：農業基盤整備の意義と必要性 第5回：農業基盤整備の考え方 第6回：農村生活環境整備の意義と必要性 第7回：農村生活環境整備の考え方 第8回：農村環境の保全と管理（農村環境と資源の循環利用） 第9回：農村環境の保全と管理（水環境の保全と創造） 第10回：農村環境の保全と管理（地域生態系の保全と管理） 第11回：農村環境の保全と管理（景観の保全と形成） 第12回：中山間地域の活性化（現状と課題、新たな期待） 第13回：中山間地域の活性化（活性化に向けた具体策） 第14回：諸外国の農業農村整備 第15回：環境との調和に配慮した農業農村整備事業</p>	
<p>食資源物質工学</p>	<p>食に関わる資源にどのようなものがあるかを概説した後、それらがどのような物質でできているか、そしてそれらの物質の性質はどのようになっていて食・環境産業ではそれらをどのように変換しているかについて講義する。</p> <p>授業計画 第1回：食に関わる資源について 第2回：食資源を構成する物質 第3回：食資源を構成する物質：糖質 第4回：食資源を構成する物質：脂質 第5回：食資源を構成する物質：タンパク質 第6回：糖質の性質 第7回：脂質の性質 第8回：タンパク質の性質 第9回：糖質の変換技術 第10回：脂質の変換技術 第11回：タンパク質の変換技術 第12回：糖質を利用した産業 第13回：脂質を利用した産業 第14回：タンパク質を利用した産業 第15回：まとめ</p>	
<p>設計・製図学</p>	<p>図面作成における手描きでの図学の基本および製図方法の講義をおこなう 2次元平面図の規則、3次元立体の2次元図面における表現方法、設計製図における各種ルールなどの習得をめざす</p> <p>授業計画 第1回：基本図形の作図法（1）道具の使用法 第2回：基本図形の作図法（2）基本線の描き方 第3回：三次元立体物の二次元表記法（1）三面図 第4回：三次元立体物の二次元表記法（2）等角図 第5回：三次元立体物の二次元表記法（3）演習の仕上げ 第6回：演習製図器具についての説明・解説 第7回：線表記法外形線 第8回：線表記法注釈線 第9回：寸法表記寸法、矢印、角度等 第10回：寸法表記基準面 第11回：寸法公差、部品図 第12回：組み合わせ図 第13回：総合作図演習（1）課題の説明 第14回：総合作図演習（2）課題についての補足説明 第15回：総合作図演習（3）課題の仕上げ</p>	

実験水気圏環境学	<p>農業環境や地学に関連した基礎的な内容を講義した上で、その理解を深めるための実験・実習手技を身に付け、グループでそれらを遂行する。実験結果に基づき、結果に対する科学的考察・説明を行う。</p> <p>授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：地質の観察 第3回：火山灰中の鉱物 第4回：土粒度の粒径計測 第5回：根圏の貯水量 第6回：土壌表面の水移動 第7回：地質の電磁波計測 第8回：地質保水性の計算（コンピュータを使用した保水性のマップ作成） 第9回：解説 第10回：水文地質の特性の演習 第11回：水文地質の特性の計測 第12回：地質の硬度試験 第13回：地震と液化現象 第14回：大気-地表面の水収支 第15回：授業の総括</p>	
インターンシップ S	<p>社会との繋がりにおける実践的教育としてインターンシップを単位として認定する科目であり、地方自治体、産業界や海外の大学等と連携・交流を図ることにより実務での課題解決や遂行能力を養い、自分の職業適性や将来計画などについて考える機会を提供する。インターンシップSでは、短期(7.5時間×5日以上10日未満)の就業体験や研究活動を通して、自らの実務における課題を見出す能力を養わせる。これによりインターンシップを通じた専門分野の連携の理解と人材育成を図る。インターンシップの評価は、学生が作成する報告書、受入先の評価票、インターンシップ報告会での発表内容と質疑応答に基づく評価事項を設けて適切に行う。</p>	
インターンシップ L	<p>海外を含む社会との繋がりにおける実践的教育としてインターンシップを単位として認定する科目であり、地方自治体、産業界や海外の大学等と連携・交流を図ることにより実務での課題解決や遂行能力を養い、自分の職業適性や将来計画などについて考える機会を提供する。創成科学インターンシップLでは、長期(7.5時間×10日以上)の就業体験や海外の大学での研究活動の中で自らの実務における課題とその解決に向けて取り組む能力を養わせる。これによりインターンシップを通じた専門分野の連携の理解と人材育成を図る。インターンシップの評価は、学生が作成する報告書、受入先の評価票、インターンシップ報告会での発表内容と質疑応答に基づく評価事項を設けて適切に行う。</p>	
応用微生物学	<p>微生物は人間の生存に大きく貢献している。その微生物を利用した物質生産から環境浄化までの実例を詳しく説明する。微生物を利用するために必要な微生物の性状や取り扱い方法、育種方法などについても理解することを目的としている。身近な発酵食品・酒類・飲料等に製造工程における微生物の役割を理解すること、環境浄化やエネルギー等の分野における微生物の役割を理解すること、そして微生物の無限の可能性を理解することを到達目標とする。</p>	
農業化学	<p>農薬のあらましを主として化学の面から平易に解説する。農薬の歴史、基本構造、作用機構、選択性、主要な農薬の特性・適用などを概説するとともに、毒性とリスク評価についても解説していく。農薬は安定した食糧生産をもたらす我々の生活に大きく貢献してきた一方で、過剰施用による健康被害や環境汚染の問題を引き起こしてきたことも事実である。農薬のリスクとベネフィットを考慮した利用について、食品安全および環境保全の観点からも考察していく。</p> <p>授業計画 第1回：農薬の定義 第2回：農薬の変遷 第3回：農薬の役割 第4回：農薬の名称と分類 第5回：規制農薬と代替農薬 第6回：殺菌剤 第7回：殺虫剤 第8回：殺ダニ剤、線虫防除剤、殺鼠剤 第9回：除草剤 第10回：除草剤抵抗性雑草と除草剤抵抗性作物 第11回：植物生育調節剤 第12回：バイオテク農薬 第13回：農薬のヒトへの毒性とその評価 第14回：農薬の野生生物や環境への影響 第15回：総括と農薬の未来</p>	
農地環境工学	<p>教科書に沿って内容を説明していく。教科書の説明でわかりにくいところや重要なところについては、別の資料を示したり、練習問題を出して、その解答について説明を加えることで理解してもらう。</p> <p>授業計画 第1回：環境問題に於ける農地の役割 第2回：農地の一般的な性質 第3回：農地の植物生産機能 第4回：農地の水質汚染物質浄化機能 第5回：農地の貯水透水機能 第6回：農地のアメニティ機能 第7回：農地の建造物支持機能 第8回：農地の自然教育教材機能 第9回：文明と農地 第10回：乾燥地に於ける塩害 第11回：世界の食糧生産と農地面積 第12回：増大する人口と荒廃する農地 第13回：日本の農地が直面する問題 第14回：これからの農地環境工学 第15回：まとめ</p>	
科学英語	<p>本科目は、専攻した教育研究分野に関連した基礎的知識の修得と、正確な英文読解力を養うためのものである。所属する教育研究分野が指定する英文の専門書・文献を読んだうえで、その内容についての説明・討議を行う。それにより、英文理解力を高めるとともに、科学的あるいは専門的知識を身に付ける。また、その内容について、担当教員と学生との討論を行うことにより、英語により記載された科学的知識を自らの言葉でその内容を纏め、分かり易く説明でき、質問に対して的確に回答できる能力を身につける。</p>	

<p>実験食資源環境科学</p>	<p>食資源環境学コース学生を対象とし、コースの各教育研究分野で用いられる基本的な実験手法を習得するとともに、本実験実習を通じて専攻分野に関する情報を得る。 (クラス分け方式/全15回) (1 長 裕幸) 数理科学的手法を用いて、土壌環境科学の課題の研究指導を行う。 (130 近藤 文義) 石炭灰など産業廃棄物の有効利用を取り上げ、環境に配慮したリサイクル材料に関する研究指導を行う。 (18 田中 宗浩) バイオマス及び食資源を対象とした農業環境工学手法を活用した研究計画の立案、研究指導を行う。 (20 北垣 浩志) 微生物の代謝や機能性を対象とした研究、その解析手法の開発に関する研究計画の立案、研究指導を行う。 (25 稲葉 繁樹) 農業における機械・情報通信技術についての論文講読における指導を行う。 (43 阿南 光政) 水理水文解析手法を用いて、農地防災機能を維持するための水利施設の管理・運用に関する研究指導を行う。 (38 上野 大介) 農地環境の保全に向け、環境中の化学物質を分析化学的手法により検出・解析する手法について研究指導を行う。 (34 郡山 益美) 内湾沿岸域の保全と有効利用を目指し、干潟域の生態系と物質循環に関する課題の研究指導を行う。 (33 原口 智和) 地域の抱える環境問題の解決を目指した地域環境保全に関する研究指導を行う。 (42 宮本 英揮) 土にまつわる環境問題を取り上げ、持続可能な食糧生産のための土壌環境制御に関する研究指導を行う。 (39 弓削 こずえ) 食料生産に不可欠な水資源の有効利用と保全を目指し、農業用水利用技術の高度化に関する課題の研究指導を行う。 (55 徳本 家康) 農地の土壌環境の保全を目指し、食料生産に必要な水・施肥管理に関する課題の研究指導を行う。</p>	
<p>測地学 II</p>	<p>前学期に開講する「測地学 I」の学習内容を基礎として、急速な発展を遂げる情報技術・地球観測技術の応用法や、我が国の農業農村整備事業を念頭に置いた実践的な農業測量技術の理論と実践活用法を学習する。 授業計画 第1回：平板測量(1)前方交会法 第2回：平板測量(2)後方交会法 第3回：トラバース測量(1)原理 第4回：トラバース測量(2)方位角、緯距、経距、誤差の調整 第5回：トラバース測量(3)製図法 第6回：三角測量(1)三角形の基線と配列 第7回：三角測量(2)平均計算 第8回：三辺測量原理 第9回：応用測量(1)路線測量 第10回：応用測量(2)河川測量 第11回：応用測量(3)用地測量 第12回：デジタル・サーベイニング(1)GPS測量 第13回：デジタル・サーベイニング(2)リモートセンシング 第14回：デジタル・サーベイニング(3)地理情報システム(GIS) 第15回：公共測量測量法、測量法施行令</p>	
<p>測地学演習 II</p>	<p>各種測量機器を用いて、地球表面上の各点の距離・高低差・角度を測定する。その結果に基づき、地図や図面を作成や面積・体積の計算をレポートにまとめて提出する。 授業計画 第1回：平板測量 (1) 前方交会法 第2回：平板測量 (2) 後方交会法 第3回：トラバース測量 (1) 原理 第4回：トラバース測量 (2) 方位角、緯距、経距、誤差調整 第5回：トラバース測量 (3) 製図法 第6回：三角測量 (1) 三角形の基線と配列 第7回：三角測量 (2) 平均計算 第8回：三角測量 (3) 原理 第9回：応用測量 (1) 路線測量 第10回：応用測量 (2) 河川測量 第11回：応用測量 (3) 用地測量 第12回：デジタル・サーベイニング (1) GPS測量 第13回：デジタル・サーベイニング (2) リモートセンシング 第14回：デジタル・サーベイニング (3) 地理情報システム 第15回：公共測量測量法、測量法施行令</p>	
<p>干潟環境学</p>	<p>浅海干潟域の環境や物質循環、エコシステムによって支えられている干潟の多様な役割、さらには干潟の環境保全とワイズユースについて必要な知識を習得する。 授業計画 第1回：概論－国内外の干潟について－ 第2回：潮汐について 第3回：潮流について 第4回：海水交換と滞留時間について 第5回：有明海における「濁り」の形成とその役割について 第6回：風波、波の基本方程式 第7回：微小振幅波理論、長波、深海波 第8回：干潟の多面的機能について 第9回：有明海特産種、有明海準特産種 第10回：堆積物食者、懸濁物食者、摂食タイプ、生物多様性 第11回：Bioturbation、潮汐、底泥、酸化還元環境 第12回：硝化、脱窒、アナモックス、窒素循環、水質浄化機能 第13回：モニタリング手法、表在性・埋在性マクロベントス、生物多様性 第14回：底泥環境、栄養塩 第15回：東よか干潟の現状、野鳥、環境教育</p>	

水環境学	<p>農村地域において水環境、水循環が果たす多面的効果について講義し、水環境保全のあり方について考えさせる。さらに農業に不可欠な水資源の現状と農業用水と農村環境の関係性について講義する。</p> <p>授業計画 第1回：農業農村の水環境と多面的機能 第2回：国内外の水資源と水環境： 第3回：水環境を取り巻く諸問題： 第4回：水環境調査、水質関連法規： 第5回：河川の水環境： 第6回：貯水池の水環境： 第7回：沿岸域の水環境： 第8回：農業用水と水源開発： 第9回：水環境と治水・利水施設： 第10回：水質保全・浄化： 第11回：水環境と防災： 第12回：水域の生態系： 第13回：水域の景観： 第14回：水環境の評価手法： 第15回：現場における水環境の保全・管理</p>	
CAD利用学	<p>コンピュータマニファクチャリング等に利用されているCAD (ComputerAidedDesign) 製図法について講義・演習を行なう。</p> <p>授業計画 第1回：製図用プログラムのセットアップおよびCADの基本使用法 第2回：線図による図面の描き方演習 第3回：レイヤーの使用法、コピー、貼り付け、移動などの基本編集操作 第4回：補助線の利用法等 第5回：等角図における基本描画法 第6回：作成した等角図についての検討 第7回：寸法の入力方法 第8回：寸法記入の実践練習 第9回：機械部品図面の作成 第10回：部品の登録、使用 第11回：縮尺・倍尺などのスケールの設定 第12回：スケールの応用 第13回：部品図の作成 第14回：部品図を利用した組立図の作成 第15回：登録部品利用法</p>	
農業水文学	<p>人口増加に伴って食糧増産が世界的な課題となり、食糧生産手法の改善が迫られるなか、その生産に不可欠となる水資源の質・量の確保とその有効利用は重要な課題である。本科目では、地球表層における雨・雪などの降水、蒸発や植物からの蒸散、地表・地下を流れて河川に至る水の動きなど水文現象を一体的に理解し、観測・解析を基礎とした農業用水の安定的確保および農地における有効利用に資する知識・応用技術について講義する。</p> <p>授業計画 第1回：農業水文学について 第2回：土壌中の間隙、水 第3回：面積雨量 第4回：DAD解析 第5回：水文確率（雨量） 第6回：降雨の再現期間 第7回：水収支 第8回：流出 第9回：単位図法 第10回：最大流出（ピーク流量） 第11回：河川の水位・流量 第12回：水位流量曲線 第13回：流域 第14回：湖沼・貯水池の流量調節作用 第15回：地下水流動</p>	
食資源環境科学演習	<p>各学生が分属した分野（研究室）の研究範囲とその詳細な研究内容を把握するために、分野個別の課題に関して演習形式で質疑討論、ならびに実験実習を行う。 (クラス分け方式/全15回)</p> <p>(1 長 裕幸) 数理科学的手法を用いて、土壌環境科学の課題の研究指導を行う。 (130 近藤 文義) 石炭灰など産業廃棄物の有効利用を取り上げ、環境に配慮したリサイクル材料に関する研究指導を行う。 (18 田中 宗浩) バイオマス及び食資源を対象とした農業環境工学手法を活用した研究計画の立案、研究指導を行う。 (20 北垣 浩志) 微生物の代謝機能性を対象とした研究、その解析手法の開発に関する研究計画の立案、研究指導を行う。 (25 稲葉 繁樹) 農業における機械・情報通信技術についての論文講読における指導を行う。 (43 阿南 光政) 水理水文解析手法を用いて、農地防災機能を維持するための水利施設の管理・運用に関する研究指導を行う。 (38 上野 大介) 農地環境の保全に向け、環境中の化学物質を分析化学的手法により検出・解析する手法について研究指導を行う。 (34 郡山 益実) 内湾沿岸域の保全と有効利用を目指し、干潟域の生態系と物質循環に関する課題の研究指導を行う。 (33 原口 智和) 地域の抱える環境問題の解決を目指した地域環境保全に関する研究指導を行う。 (42 宮本 英揮) 土にまつわる環境問題を取り上げ、持続可能な食糧生産のための土壌環境制御に関する研究指導を行う。 (39 冨削 こずえ) 食料生産に不可欠な水資源の有効利用と保全を目指し、農業用水利用技術の高度化に関する課題の研究指導を行う。 (55 徳本 家康) 農地の土壌環境の保全を目指し、食料生産に必要な水・施肥管理に関する課題の研究指導を行う。</p>	

農業工学総合演習	<p>農業工学総合演習は、農業農村工学（ルーラルエンジニアリング）や都市工学（シビルエンジニアリング）における公務員就職を希望している学生または民間企業への就職を希望している学生に対する支援科目として開講するものである。具体的には、いわゆる土木の基本的な3力学（応用力学、水理学、土質力学）について総復習を実施し、併せて実務上必要となる土木材料・施工に係わる内容を補填するものである。本演習は、基本的にアクティブ・ラーニング形式で行う。</p> <p>（オムニバス方式/全15回） (43 阿南 光政/8回) 水理学を中心とした講義及び演習 (130 近藤 文義/7回) 応用力学・土質力学を中心とした講義及び演習と土木材料施工法など</p>	オムニバス方式
卒業研究	<p>研究分野において取り組むべき課題を設定し、専門分野の講義で得た知識、実験実習を通して身につけてきた技術を用いて、問題解決や新たな発見を果すための研究を行い、そのプロセス及び結果を論文としてまとめる。また、得られた成果は第三者の前で発表をし、質疑応答を行う。その結果として、研究テーマの設定、研究計画の立案、調査・実験・解析の遂行、データの解析・整理、要旨・卒業論文の作成、プレゼンテーションの実施といった一連の取り組みを通じた問題発見力・問題解決力を育成する。また、農学分野の基礎的な知識・技術を修得と農学関連業務の遂行能力、研究チームの一員としての協調性やリーダーシップや、高い倫理観・豊かな人間性・規範意識を身に付け、社会の発展に主体的に寄与することができる人材を育成することを到達目標とする。</p>	
物理化学	<p>生体内反応の詳細な理解のためには、物理化学の知識が重要である。本講義では、生命科学やその応用を学ぼうとする学生に必要な物理化学に関する内容を、必要最小限の数式しか使わずにできるだけわかりやすく述べる。より具体的には、化学熱力学におけるエンタルピー、エントロピー、自由エネルギー、熱力学の法則、化学反応速度論における反応速度法則や衝突理論、遷移状態理論、化学平衡における平衡定数やルシャトリエの原理などについて、基礎的な内容から講述する。</p>	
有機化学	<p>『有機化学』は、現在は「炭素原子を骨格としてきた化合物を扱う分野」と定義されているが、本来は「生物由来の化合物を扱う分野」というものであった。農学部の研究対象はまさに有機化合物であり、『有機化学』は農学部生の学習や研究において重要な科目である。本講義では、生体分子の性質や反応の基礎を理解することを目標として、炭素原子の特徴、有機化合物の立体構造や反応性、官能基の化学的性質などについて段階的に学ぶ。</p>	
分析化学	<p>（概要） 本講義は、生体成分等の化学的測定方法の基礎となるものである。本講義では、化学分析の基礎となる物質の定量的な取り扱い方を説明する。また、機器分析法や生体分析法の原理と実際についても講述する。</p> <p>（オムニバス方式/全15回） (50 関 清彦/8回) 物質の定量的な取り扱い方を修得させるため、化学平衡、酸塩基平衡、酸化還元平衡、重量分析、容量分析等について、計算・演習を中心に講義する。</p> <p>(21 宗 伸明/7回) 紫外可視分光法、蛍光光度法、赤外線吸収スペクトル測定法、クロマトグラフィーなどの機器分析法、並びにゲル電気泳動やイムノアッセイなどの生体分析法の原理と実際について講義する。</p>	オムニバス方式
遺伝学	<p>近年、様々な生物種のゲノム解析が進んでおり、21世紀は生命科学の時代であると言われていいる。生物が生物たる所以は種特異的な遺伝情報を含むゲノムを持ち、これを子孫に伝えて行くところにある。本講義では、メンデル遺伝の基礎から細胞遺伝学、分子遺伝学を含む現代の遺伝学全般に関する講義を行い、最新の農学・生命科学の理解に必要な遺伝的知識を教授する。</p> <p>（オムニバス方式/全15回） (15 穴井 豊昭/5回) 第1回：遺伝子の構造 第2回：遺伝子の転写 第3回：遺伝子の翻訳 第4回：DNAの複製 第5回：遺伝子発現の制御 (48 渡邊 啓史/5回) 第6回：突然変異 第7回：変異原 第8回：組換え 第9回：メンデル遺伝学 第10回：減数分裂 (45 藤田 大輔/5回) 第11回：連鎖 第12回：量的形質の遺伝 第13回：性と遺伝 第14回：確率と適合性の検定 第15回：組換えDNA技術</p>	オムニバス方式
植物生理学	<p>植物細胞の構造とその機能に関する講義である。古典的な研究から、最近の代謝化学分野における発見、分子レベルでのさまざまな機能を詳しく解説する。</p> <p>（オムニバス方式/全15回） (17 鈴木 章弘/5回) 第1回：植物生理学の概要を解説する。 第2回：植物の生育する環境（光、水）について解説する。 第3回：植物の生育する環境（温度、その他）について解説する。 第4回：植物の細胞培養について解説する。 第5回：植物の遺伝子改変について解説する。 (10 石丸 幹二/5回) 第6回：植物の発生と生長について解説する。 第7回：植物の細胞壁について解説する。 第8回：植物の運動について解説する。 第9回：植物ホルモン（オーキシン、サイトカイニン）について解説する。 第10回：植物ホルモン（ジベレリン、アブシジン酸）について解説する。 (31 古藤田 信博/5回) 第11回：植物ホルモン（その他）について解説する。 第12回：開花について解説する。 第13回：光合成について解説する。 第14回：呼吸とエネルギー利用について解説する。 第15回：植物の栄養について解説する。</p>	オムニバス方式

応用動物昆虫学	地球上の多様な動物は、直接的または間接的に、私たちの生活と密接に関係を持つ。本講義では、昆虫、線虫、ダニなどの発育と個体数を制御して被害を軽減する方法を理解するための基礎として、これらの動物の生理（早川担当）、行動（吉賀担当）、分類・生態（徳田担当）について、平易に解説する。 (オムニバス方式/全15回) (6 早川 洋一/5回) 第1回：ガイダンス。特に、動物と植物の違いを解説する。 第2回：動物の体の構造と生理の基本原則を解説する。 第3回：生命科学におけるバイオテクノロジーを解説する。 第4回：動物界における昆虫のユニークな特徴、特に体のつくりを解説する。 第5回：動物界における昆虫のユニークな特徴、特に生理を解説する。 (30 吉賀 豊司/5回) 第6回：個体群の成長を解説する。 第7回：種間競争を解説する。 第8回：捕食と寄生を解説する。 第9回：植物寄生性線虫を解説する。 第10回：害虫管理と農業生態系の安定性を解説する。 (40 徳田 誠/5回) 第11回：有害鳥類を解説する。 第12回：有害獣類を解説する。 第13回：有害無脊椎動物（昆虫以外）を解説する。 第14回：個体群動態を解説する。 第15回：まとめを行う。	オムニバス方式
生物有機化学	生物のからだは化学物質の集合体であり、それらの変化を引き起こす代謝反応は化学反応である。これらの反応は、触媒として酵素が参加することで、穏やかな条件下で非常に効率良く迅速に進む。そのため、生体内で起こる反応と試験管内で起こる反応は異なるものと考えがちである。しかし、本質的には同じ有機化学反応である。本講義では、酵素反応を有機化学反応として理解することを目標として、代表的な酵素反応を例として取り上げ、その反応機構および関連する物質についての基礎を学ぶ。	
生化学	生化学は、生命現象を化学的に分子レベルで解明・理解しようとする学問である。本授業では、物質生化学を中心に解説する生化学に続き、物質代謝（分解と合成）とエネルギー代謝およびその調節機構について講義を行う。特に糖質代謝を中心に学び、生物が生命活動に必要なエネルギーをどのようにして取り出し、利用するかを分子レベルで理解することを目的としている。 到達目標：物質代謝とエネルギー代謝の関係及びその調節機構について理解する。	
酵素化学	本授業では、酵素の構造と機能の関係や酵素反応機構について、実験的な研究アプローチの説明を加えながら講述する。本講義では、個々のタンパク質や酵素の機能と機能発現に必要な構造について理解することを目的とする。到達目標：1. タンパク質の機能について物理化学的な視点から考察できる。2. 酵素の構造と機能の関係について理解し説明できる。3. タンパク質の機能調節機構や生体内での役割について物理化学的な視点から説明できる。 (オムニバス方式/全15回) (52 本島 浩之/6回) リガンドに対するタンパク質の結合の可逆性、ミオグロビンの酸素に対する単一結合性、ヘモグロビンの酸素運搬、ヘモグロビンとミオグロビンの類似性、酸素結合によるヘモグロビンの構造変化、協同性 (53 堀谷 正樹/3回) 分光学、熱力学 (1) 一般論、熱力学 (2) 酵素反応論 (5 渡邊 啓一/6回) 酵素触媒の一般原理、酵素反応速度論 (1) 酵素の反応特性、酵素反応速度論 (2) 阻害、調節機構の解析、酵素触媒反応機構、酵素反応の調節、総合復習	オムニバス方式
微生物学	生命体としての微生物に対して、その生物学的（形態・分類）および生化学的性状（生理代謝・遺伝）を解説する。微生物に対する基礎的概念を理解するとともに、生命現象を科学的に理解するための基礎学力を身に付けることを目標とする。	
生命機能科学概説	(13 小林 元太, 5 渡邊 啓一, 23 上田 敏久, 52 本島 浩之, 21 宗 伸明, 47 辻田 忠志, 16 後藤 正利, 53 堀谷 正樹, 178 永野 幸生, 298 龍田 勝輔, 19 永尾 晃治, 8 林 信行, 12 濱 洋一郎, 50 関 清彦, 35 光武 進, 36 野間 誠司, 56 川口 真一) (オムニバス方式/全15回) 生命機能科学コースの教員がオムニバス形式で講義する。生命機能科学コースの各教育研究分野が、どのような専門教育を担当し、どのような研究を行っているかを把握する。具体的には、以下の項目を到達目標とする。 (1) 生命機能科学コースの各教育研究分野が担当している教育内容を理解する。 (2) 生命機能科学コースの各教育研究分野で行っている研究内容を理解する。	オムニバス方式
植物病理学	農作物などの有用植物を対象とし、病原体と植物とのかかわりを研究することによって、病気による被害を防ぐことが可能となることについて紹介する。また病原体の種類や感染、病原体の制御に資する基本的な概念を解説する。 (オムニバス方式/全15回) (9 大島 一里/7回) 第1回：植物病理学の概略と歴史を解説する。 第2回：植物の病徴を解説する。 第3回：植物の病気を解説する。 第4回：感染と発病を解説する。 第5回：ウイルス病を解説する。 第6回：ウイロイド病を解説する。 第7回：ウイルス病の診断とバイオサイエンスを解説する。（大島） (28 草場 基章/8回) 第8回：糸状菌病（クロミスタ界）を解説する。 第9回：糸状菌病（真菌）を解説する。 第10回：細菌病を解説する。 第11回：ファイトプラズマ病を解説する。 第12回：病気の伝染を解説する。 第13回：病気の診断・防除を解説する。 第14回：感染生理（抵抗性）を解説する。 第15回：感染生理（病原性を解説する。	オムニバス方式

線虫学	<p>線虫は、ヒトや昆虫と同様に、地球上で最も栄えている多細胞動物である。その種類数と個体数は非常に多い。生活様式は多様（自活性、捕食性、寄生性、等）で、線虫は、直接的あるいは間接的に、私たちの生活と深く関わっている。この講義では、線虫の基礎生物学的特徴と、動植物に寄生する線虫ならびに有用線虫について解説する。</p> <p>第1回：ガイダンス。線虫とは？ 第2回：モデル生物C. elegans 第3回：線虫の体制と発育 第4回：多様な線虫（口腔と摂食様式） 第5回：多様な線虫（繁殖様式） 第6回：動物寄生性線虫：脊椎動物に寄生する線虫-1（単独で寄生する線虫） 第7回：動物寄生性線虫：脊椎動物に寄生する線虫-2（媒介される線虫） 第8回：動物寄生性線虫：無脊椎動物に寄生する線虫-1（絶対寄生） 第9回：動物寄生性線虫：無脊椎動物に寄生する線虫-2（条件寄生） 第10回：植物寄生性線虫：マツノザイセンチュウ 第11回：植物寄生性線虫：ネグサレセンチュウ 第12回：植物寄生性線虫：シストセンチュウ 第13回：植物寄生性線虫：ネコブセンチュウ 第14回：植物寄生性線虫：その他の植物寄生性線虫 第15回：全体のまとめ</p>	
昆虫学	<p>地球上に生息する昆虫は約100万種以上とも言われ、全動物種の3/4～4/5を占めている。これほど多様な昆虫の生き様は、私達に色々な意味で多くのことを語りかけて来る。本講義では、昆虫に関する形態、生理、生化学的知見を紹介し、昆虫への興味を喚起する。さらに、昆虫の生き様を通して私達ヒトの生き方を客観的に再評価する契機となるような話題を提供したい。</p>	
地球環境学	<p>地球環境を構成する大気、海、地殻、生物といった様々な要素を“システム”として一体的に捉え、それらの自然的・社会的メカニズムとそれに起因する農業環境問題を、多面的且つ客観的に理解する能力を養うことを目的とした農業地理学および地球統計学の基礎と応用を講義する。</p> <p>授業計画 第1回：宇宙の階層構造、膨張する宇宙 第2回：宇宙と元素の誕生、星の誕生・進化 第3回：元素の誕生（まとめ） 第4回：微惑星の衝突により太陽系が誕生する 第5回：海と大気の進化：全球凍結を救った温室効果－ 第6回：海と大気の進化：大気中の酸素と生物 第7回：地震 第8回：地震から分かる地球の内部構造 第9回：地殻の進化 第10回：地磁気及び岩石の残留磁気から分かる大陸の移動 第11回：岩石の残留磁気から分かる大陸の移動 第12回：地磁気の逆転と海洋底の拡大 第13回：プレートテクトニクスとはなにか 第14回：日本のテクトニクス：火山 第15回：日本のテクトニクス：東日本地震、南海地震</p>	
化学基礎実験	<p>化学実験の基礎として重要な、測容と秤量、容量分析、pHと緩衝液、比色分析、について理論を理解し、実際に実験することにより器具の操作方法を含む実験手技を習得する。また、コンピュータを活用することにより、得られたデータの解析と整理についても実施する。</p> <p>（オムニバス方式/全15回）（隔年） 第1回：測容と秤量（天秤の使用法）（13 小林 元太） 第2回：測容と秤量（試薬の秤取法）（21 宗 伸明） 第3回：測容と秤量（溶液の調製）（19 永尾 晃治） 第4回：容量分析（試薬の調製）（50 関 清彦） 第5回：容量分析（試薬の標定）（5 渡邊 啓一） 第6回：容量分析（試料の定量）（23 上田 敏久） 第7回：pHと緩衝液（試薬の調製）（8 林 信行） 第8回：pHと緩衝液（pHメーターの使い方）（52 本島 浩之） 第9回：pHと緩衝液（試料のpH測定）（12 濱 洋一郎） 第10回：比色分析（試料の調製）（35 光武 進） 第11回：比色分析（吸収スペクトルの測定）（36 野間 誠司） 第12回：比色分析（各サンプルの吸光度測定）（47 辻田 忠志） 第13回：コンピュータによるデータ解析と整理（データ処理用ソフトウェアの使い方）（16 後藤 正利） 第14回：コンピュータによるデータ解析と整理（データの入力）（53 堀谷 正樹） 第15回：コンピュータによるデータ解析と整理（データの解析）（56 川口 真一）</p>	オムニバス方式 隔年
フィールド科学基礎実習Ⅰ	<p>ミカンの接ぎ木、防虫、施肥及び除草等の果樹管理を行う。西南暖地で主に栽培されている種々の作物や園芸植物の栽培を行う際の耕起、畝立て、定植、除草、収穫などの栽培管理を行う。牛の捕獲、牛体洗浄、牛体測定、牛床の清掃などの家畜管理を行う。各回の内容は以下の通り。</p> <p>第1回：ガイダンス、ミカンの接ぎ木 第2回：ミカンの定植、トマトの定植・誘引、イチゴの撤去 第3回：ジャガイモ追肥・土寄せ、キクイモの定植 第4回：乾草収納、キュウリの定植・誘引、モモ袋かけ 第5回：カーネーション撤去・ポット土詰め、ノビルの収穫 第6回：水稲育苗箱播種、サツマイモマルチ被覆 第7回：サツマイモ挿苗、キウイ管理 第8回：有機水稲苗取り、ジャガイモ収穫・調整 第9回：カーネーション定植、トマト・キュウリ管理 第10回：田植え 第11回：イチゴジャム製造、カーネーション摘心・段上げ 第12回：里芋追肥・敷きわら、キクイモ管理 第13回：家畜管理、サツマイモ苗撤去、茶園管理 第14回：トマトケチャップ製造、イチゴ採摘 第15回：キュウリ撤去、トマト撤去</p>	
化学実験Ⅰ	<p>生命機能科学科で学ぶ学生諸君にとって、物事を科学的に証明していく作業は非常に重要な項目であり、それは実験によって実証される。本実験では、化学実験を行うにあたって必要となる基礎的な実験手技を身につけてもらう。化学的な実験を行う際に基礎となる測定器具の使用法や実験手技を習得する。具体的には、以下の項目を到達目標とする。</p> <p>(1) 食品の分析に関わる実験を行う際に必要な基礎的な技術、器具の使用法を習得する。 (2) 科学的な思考を行う能力および観察力を身につける。 (3) 実験レポートの書き方を学び、これを身につける。</p>	

食品衛生学	<p>食品による健康上の危害を未然に防ぐための学問が食品衛生学である。本講義では、主に食品の変質と細菌性食中毒について詳しく解説する。全ての食品には、程度の差はあれ、リスクが存在している。これら食品に潜在するリスクを正しく理解するとともに、その防止手段を学ぶことが、本講義および食糧安全学の目的である。また、本講義は生命機能科学コースの必修科目であり、生命機能科学コース学生が、食品衛生監視員・管理者の有資格者になるにあたって、基礎となる知識および情報を提供する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (12 濱 洋一/9回)</p> <p>第1回：概要説明 第2回：食品衛生の概念、関連法規、行政機構 第3回：食品の変質Ⅰ 第4回：食品の変質Ⅱ 第5回：初期腐敗の鑑別法Ⅰ 第6回：初期腐敗の鑑別法Ⅱ 第7回：化学的変質Ⅰ 第8回：化学的変質Ⅱ 第9回：食中毒（概要、分類、発生状況） (35 光武 進/6回)</p> <p>第10回：細菌性食中毒各論Ⅰ 第11回：細菌性食中毒各論Ⅱ 第12回：細菌性食中毒各論Ⅲ 第13回：細菌性食中毒各論Ⅳ 第14回：ウイルス性食中毒、三類感染症 第15回：総括</p>	オムニバス方式
栄養化学	<p>基礎的な食品成分の栄養機能性から最近の分子栄養学まで講義し、健康を維持・増進し病気を予防するための栄養成分の栄養化学および代謝調節機構について議論を深める事を目的とする。本講義を受講することで、食生活と健康の関係を理解するために、栄養素が体の中でどのように代謝され、どのような役割を果たしているかの基礎知識を習得する。</p>	
化学実験Ⅱ	<p>主として食品に含まれる各種成分の分離、分析、定量を行う実験を行う。食品の分析に関連する実験手法、器具の操作方法を習得する。具体的には、以下の項目を到達目標とする。</p> <p>(1) 食品の分析に関わる実験を行う際に必要な基礎的な技術、器具の使用法を習得する。 (2) 科学的な思考を行う能力および観察力を身につける。 (3) 実験レポートの書き方を学び、これを身につける。</p>	
分子生物学	<p>生命現象に欠かせないタンパク質、核酸（DNA、RNA）の構造と機能、遺伝子の発現、細胞の制御機構について講義する。細胞の構造と機能、生命現象を分子レベルで理解することを目的としている。生体における遺伝情報が何であるか、またその情報がどうやって次世代に伝えられるかを理解すること、遺伝情報の転写・翻訳に関する基本的なメカニズムを理解することを到達目標とする。</p>	
食品化学	<p>食品の一般成分の化学と食品成分が食品中に存在する状態や役割等について概説し、さらに食品の品質にかかわる成分変化や成分間の反応についても解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (50 関 清彦/9回)</p> <p>第1回：食品化学とは 第2回：水分 第3回：アミノ酸・ペプチド 第4回：タンパク質 第5回：タンパク質の栄養評価 第6回：主要な食品タンパク質 第7回：核酸の代謝と食品 第8回：ビタミン 第9回：ミネラル (12 濱 洋一郎/6回)</p> <p>第10回：単糖類 第11回：オリゴ糖・配糖体 第12回：単純多糖 第13回：多糖 第14回：脂質の種類と構造 第15回：油脂の性質</p>	オムニバス方式
動物繁殖生理学	<p>生物が連続して生き続けるには、生殖によって寿命を新しい個体に引き継ぐことが必要である。この生命の連続性を理解するために、動物の生殖に関係する器官の構造と機能、ならびに性成熟、受精、妊娠といった生殖に関わる諸現象の仕組みについて概説する。また、本分野において集積された知識により開発された技術がどのように活用されているかについても紹介する。講義はパワーポイントと配布プリントを用いて行い、配布プリントにある復習問題を次回講義までの宿題とする。なお、本講義は広範囲の内容を短期間で行うため、受講前に生物学の基本的知識を習得しておく必要がある。</p> <p>第1回：ガイダンス 第2回：生殖様式と生殖系の概要 第3回：雄性生殖器系の機能解剖学 第4回：雌性生殖器系の機能解剖学 第5回：性分化 第6回：春季発動と精巣機能 第7回：卵巣機能Ⅰ（ホルモン産生と多様な性周期） 第8回：卵巣機能Ⅱ（卵子形成と卵胞発育） 第9回：卵巣機能Ⅲ（排卵と黄体形成） 第10回：受精 第11回：初期胚発生Ⅰ（細胞増殖と細胞分化） 第12回：初期胚発生Ⅱ（個体発生とエピゲノム情報） 第13回：妊娠と分娩 第14回：小テストの解答と解説Ⅰ（第1から7回授業分） 第15回：小テストの解答と解説Ⅱ（第8から13回授業分） 定期試験</p>	

<p>農薬化学</p>	<p>農薬のあらましを主として化学の面から平易に解説する。農薬の歴史、基本構造、作用機構、選択性、主要な農薬の特性・適用などを概説するとともに、毒性とリスク評価についても解説していく。農薬は安定した食糧生産をもたらした我々の生活に大きく貢献してきた一方で、過剰施用による健康被害や環境汚染の問題を引き起こしてきたことも事実である。農薬のリスクとベネフィットを考慮した利用について、食品安全および環境保全の観点からも考察していく。</p> <p>授業計画 第1回：農薬の定義 第2回：農薬の変遷 第3回：農薬の役割 第4回：農薬の名称と分類 第5回：規制農薬と代替農薬 第6回：殺菌剤 第7回：殺虫剤 第8回：殺ダニ剤、線虫防除剤、殺鼠剤 第9回：除草剤 第10回：除草剤抵抗性雑草と除草剤抵抗性作物 第11回：植物生育調節剤 第12回：バイオテク農薬 第13回：農薬のヒトへの毒性とその評価 第14回：農薬の野生生物や環境への影響 第15回：総括と農薬の未来</p>	
<p>人間開発論</p>	<p>(概要) 「人間開発」の概念は、社会の豊かさや進歩を測るのに、経済指標だけでなく、これまで数字として現れなかった側面も考慮に入れようとして生まれた。国際・地域マネジメントの中で大変重要な概念となる「人間開発」について、基本的な知識を身につけて世界を覗くことを目的とする。時には学生による討論や発表も組み入れた講義形式とする。</p> <p>(単独) 内容としては、1) 国際開発とミレニアム開発目標、2) 所得貧困、3) マイクロファイナンス、4) コミュニティの参加、5) 飢餓と栄養不良、6) 子どもの健康、7) 女性の健康、8) HIV/AIDS、結核とマラリア、9) 水と衛生、10) 乳幼児のケアと初等教育、11) 教育とジェンダー、12) 教育と情報通信技術、13) 援助機関と被援助国、14) 国連の役割、15) NGO・企業と開発協力について、講義する。</p>	
<p>植物栄養学</p>	<p>植物の無機栄養成分が、光合成をはじめとする各種の代謝にどのように関わっているか、またこれらの過不足により、どのような症状を呈するかを主に教授する。植物栄養学は、植物生理学と合わせて、植物を理解する上で重要な学問で、教職の資格や改良普及員の資格試験の関連科目であり、農学部全学生の履修を勧める。各回の内容は以下の通り。</p> <p>第1回：無機元素と光エネルギーの起源 第2回：根による必須栄養素の吸収機構 第3回：必須栄養素、代謝産物および水の移動 第4回：炭素同化（光合成） 第5回：炭素代謝（呼吸） 第6回：窒素同化と窒素代謝 第7回：根粒菌による窒素固定 第8回：窒素、リン酸・カリウムとそれらの栄養的役割 第9回：カルシウム・マグネシウムとそれらの栄養的役割 第10回：鉄・マンガンとそれらの栄養的役割 第11回：銅・亜鉛・ニッケルとそれらの栄養的役割 第12回：モリブデン・ホウ素・塩素とそれらの栄養的役割 第13回：有用元素あるいは有害元素（ケイ素・ナトリウム・アルミニウム）について 第14回：植物栄養とバイオテクノロジー 第15回：肥料の種類と有機農業</p>	
<p>フィールド科学基礎実習Ⅱ</p>	<p>有機圃場において、ダイコン、ニンジン、ホウレンソウなどの秋野菜の播種から収穫までの一連の栽培管理を行う。フィールド科学基礎実習Ⅰで栽培した種々の作物や園芸植物の収穫・調整に関する実習を行うとともに、試食も行う。食肉加工実習においては、豚肉の解体・調整、ハム・ソーセージの充填実習及び試食を行う。ウメ、モモ、カキ、キウイなどの落葉果樹の剪定を行う。各回の内容は以下の通り。</p> <p>第1回：ガイダンス。秋野菜畝立て・播種 第2回：水稻収量査定（収穫・脱穀・籾数） 第3回：稲わら立て、サツマイモつる切り、キクイモ収穫・調整 第4回：サツマイモ収穫、ノビル定植 第5回：野菜収穫、キウイ・カキ管理、米調整・袋詰め 第6回：果樹園水路整備 第7回：サトイモ収穫・調整 第8回：ソバ収穫、秋野菜収穫 第9回：ソバ脱穀、水稻収量査定 第10回：ミカンジュース製造 第11回：ソバ打ち 第12回：イチゴ・キク・カーネーション収穫、落葉果樹剪定 第13回：肉加工①（豚肉の解体・調整） 第14回：肉加工②（ハム・ソーセージの充填、試食） 第15回：畦畔土上げ、ジャガイモ定植</p>	

食糧安全学	<p>食品の安全性および食品衛生（食品衛生学で扱った内容は除く）について説明する。全ての食品には、程度の差はあれ、リスクが存在している。それらのリスクを正しく理解するとともに、食品の安全性を担保する手段について学ぶことが本講義の目的である。食品表示、機能性食品の安全性、食品アレルギー、自然毒、カビ毒、化学物質による食中毒、食品添加物、寄生虫、食品衛生対策、などの項目について、正しい理解を得ることを目的とする。</p> <p>（オムニバス方式／全15回） （35 光武 進／9回） 第1回：概要説明 第2回：食品表示 第3回：機能性食品とその安全性 I 第4回：機能性食品とその安全性 II 第5回：食品アレルギーと免疫 I 第6回：食品アレルギーと免疫 II 第7回：食中毒（自然毒） 第8回：食中毒（カビ毒） 第9回：食中毒（化学物質） （12 濱 洋一郎／6回） 第10回：寄生虫 第11回：食品添加物 I 第12回：食品添加物 II 第13回：HACCP, ISO 第14回：衛生指標細菌 第15回：総括</p>	オムニバス方式
食品工学	食品成分は多種多様で不可逆的な変化を起こすものもあり、その加工にあたっては食品特有の単位操作が必要となる場合が多い。本講義では物理的変換操作（洗浄、浸漬、泡沫化、混練、濾過、抽出、晶析、冷凍、解凍、濃縮、乾燥など）や化学的・生物学的変換操作（化学反応、酵素反応、微生物反応、殺菌、クッキングなど）など、食品加工で常用される単位操作を中心に講述し、食品に係わる化学工学を修得することを目的としている。	
食品機能化学	栄養成分と身体、組織、細胞との相互作用を講義し、我々が栄養素の摂取量や摂取方法によって、どのような影響を受けるかについて議論を深める事を目的とする。本講義を受講することで、正しい知識もなく好き嫌いや痩身目的で偏った食事をすることが身体にとっていかに危険かを理解するために、日常摂取している食品中の様々な必須栄養素についての知識を習得する。	
分子細胞生物学	様々な生物のゲノム配列が容易に解読可能になったことで、生命に対する分子レベルでの理解が急速に深まりつつある。この新しい研究の潮流を踏まえつつ、主に「真核生物の分子生物学」について講義する。しかし、「真核生物の分子生物学」は幅広いので、現在、劇的に進展している「ゲノム科学」を中心に講義する。なぜなら、現在、生命科学研究・分子生物学研究を大きく牽引しているのがゲノム科学だからである。具体的には、DNAと染色体、遺伝子発現の調節、遺伝子とゲノムの進化、ゲノム解読技術とその応用について講義する。	
生化学実験	<p>生化学実験は、生命現象を化学的に探求する方法の理解とその基礎実験技術の習得を目的としている。</p> <p>到達目標：単に分析データを出すことが目的ではなく、実験を通して観察力や思考判断力を養うことを第一の目標とする。</p> <p>（オムニバス方式／全15回） （23 上田 敏久・21 宗 伸明／4回） 安全な実験のための諸注意およびサリチル酸メチルの合成、アセチルサリチル酸の合成と物性測定、発色試薬の合成と分析応用、蛍光試薬の合成と分析応用 （178 永野 幸生・298 龍田 勝輔／4回） 酵母を用いた組換えDNA実験、タンパク質間の相互作用の測定、RT-PCRによる遺伝子発現解析、組換えショウジョウバエのin vivo蛍光観察 （5 渡邊 啓一、52本島 浩之、53 堀谷 正樹／3回） 酵素タンパク質の精製、電気泳動、酵素活性の測定と反応速度論的解析 （47 辻田 忠志／4回） 培養細胞の種類・作製方法、観察・取り扱い、培養方法、細胞毒性評価実験</p>	オムニバス方式
微生物学実験	微生物の性状を理解し、その取り扱い方を修得する。グループ実験を行う。酵母、カビおよび細菌の代表的な数種を材料として基本操作から応用実験まで多くの項目を実施する。微生物の取り扱いで重要な無菌操作、培地の作成さらには組換えDNA基礎実験までを行い、正しい技法と理論を習得することを目標とする。	
応用微生物学	微生物は人類の生存に大きく貢献している。その微生物を利用した物質生産から環境浄化までの実例を詳しく説明する。微生物を利用するために必要な微生物の性状や取り扱い方法、育種方法などについても理解することを目的としている。身近な発酵食品・酒類・飲料等に製造工程における微生物の役割を理解すること、環境浄化やエネルギー等の分野における微生物の役割を理解すること、そして微生物の無限の可能性を理解することを到達目標とする。	
食糧流通貯蔵学	食糧を有効活用するためには品質保持期間の延長が重要となる。生鮮食品は一部代謝機能を残しており、また付着した微生物も代謝を行う。したがって、これらを制御しなければ短期間のうちに品質変化が進行する。本講義では、貯蔵や流通の過程における食糧の劣化を可能な限り抑制するための基礎を講義する。具体的には、食品の劣化要因となる酵素、微生物、参加、変色について、また、これらの制御に関わる水分、高温・低温、燻煙、pH、発酵、CA、MA、包装等について学ぶ。	
水圏生物学	<p>健康的食品として和食が目される中、和食の重要な食材となっている水圏生物（水産物）の正しい理解が求められている。この授業では、木村は生命体としての水圏生物について、その生物学的（分類・形態・生理代謝）性状について基礎的な内容を講義し（7回）、川村は水圏生物の生態学的関係やその保全、産業利用についても解説し、水圏の生物とその生態の理解を目指す（8回）。</p> <p>（オムニバス方式／全15回） （51 木村 圭／7回、22 川村 嘉応／8回）</p>	オムニバス方式

生物資源化学	<p>(概要)</p> <p>(1) バイオマスエネルギーとしての生物資源 (2) 機能性食品素材としての生物資源の2項目を中心に、最近のトピックスをおりまぜながら生物資源の有効利用を目指した研究開発について解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(8 林 信行/8回)</p> <p>第1回：生物資源概説</p> <p>第2回：生体と水</p> <p>第3回：水の機能と特性</p> <p>第4回：バイオマスの定義・バイオマスの利用方法</p> <p>第5回：エネルギー資源としてのバイオマス</p> <p>第6回：生物資源に含まれる機能性物質の機能</p> <p>第7回：生物資源に含まれる機能性物質利用方法</p> <p>第8回：生物資源活用方法総括</p> <p>(50 関 清彦/7回)</p> <p>第9～10回：食品の機能性、保健機能食品制度について</p> <p>第11回：有害成分</p> <p>第12回：代表的な疾病と食生活</p> <p>第13回～14回：食品中の三次機能成分</p> <p>第15回：キチン、キトサンの化学、キチン、キトサンの有効利用</p>	オムニバス方式
遺伝子工学	<p>生物の生理機能を明らかにする際に、細胞の設計図である遺伝子の操作技術、すなわち遺伝子工学技術は、極めて有効である。本講義では、遺伝子工学実験で用いられる酵素類や分析機器の機能や作用原理などを講義する。また、最新のゲノム科学についても情報提供する。様々な核酸関連酵素、核酸の性状および分子遺伝学の知識を理解し、それらの応用力を身につけることを目的とする。</p>	
基礎放射線科学	<p>(概要)</p> <p>本講義では、放射線および放射性同位元素に関する基礎知識を、物理・化学・生物の視点から解説する。さらに、放射線を利用した研究において必須となる放射線の測定および管理技術について説明する。なお、放射線取扱主任者の資格取得を目指す学生には試験対策講座として受講することを勧めている。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(178 永野 幸生/3回)</p> <p>放射線および放射性同位元素に関する知識を物理学的視点から解説する。具体的には、放射性壊変の種類、放射線と物質の相互作用について解説する。</p> <p>(298 龍田 勝輔/12回)</p> <p>放射線および放射性同位元素に関する知識を、化学・生物学的視点から解説する。具体的には放射性核種、人工放射性核種とその利用、放射性壊変の経時変化、放射性核種の化学分離法、放射線の生体高分子・細胞・組織に対する作用機序と影響などである。また、放射線測定器および測定方法、放射線被ばく管理方法、放射線の産業利用についても解説する。</p>	オムニバス方式
コスメ産業学	<p>コスメ(化粧品)産業は、幅広い分野の科学と技術の集積の上に成り立っている。例えば、スキンケア化粧品においては、皮膚科学はもちろんのこと、油分と水分を肌に補うために乳化技術や油脂化学が必要になり、メイクアップ化粧品では、色彩科学や心理学も必要となる。実際の製造販売に関しては、マーケティングや薬事法の知識も不可欠となる。また、最近では、コスメ産業界で機能性食品も扱われてきている。本講義では、コスメ産業界の第一線で基礎研究、商品企画・開発・製造、販売、経営の分野で活躍している講師陣が、それぞれの立場からコスメ産業の基礎と実際について講義を行う。</p> <p>到達目標：コスメ産業を理解し、キャリア設計に役立てることができる。</p>	
藻類学	<p>健康的食品としての海藻、バイオマス原料としての藻類の認識が浸透する中、生命体としての藻類の正しい理解が求められている。この授業では、生命体としての藻類について、その生物学的(分類・進化・形態)、生化学的性状(光合成・生理代謝)について、基礎的な内容を講義する(前半9回)。また、生態学的役割(環境・産業)についても解説する(後半5回)。最終回には最新の研究トピックスも紹介することで、藻類学の概要の理解を目指す。</p>	
水産増養殖学	<p>健康的食品として和食が目される中、和食の重要な食材となっている水産物がどのように生産されているのかを知ることは重要である。この授業では、水圏の生物資源を利用する水産業について、そして人により手を加えられ、最適化されてきた水産増養殖について説明する。具体的には川村が養殖関係の講義(1-12,15回目:13回)を担当し、木村が赤潮関係の講義(13,14回目:2回)を担当する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(51 木村 圭/13回, 22 川村 嘉広/2回)</p>	オムニバス方式
インターンシップ S	<p>社会との繋がりにおける実践的教育としてインターンシップを単位として認定する科目であり、地方自治体、産業界や海外の大学等と連携・交流を図るにより実務での課題解決や遂行能力を養い、自分の職業適性や将来計画などについて考える機会を提供する。インターンシップSでは、短期(7.5時間×5日以上10日未満)の就業体験や研究活動を通して、自らの実務における課題を見出す能力を養わせる。これによりインターンシップを通じた専門分野の連携の理解と人材育成を図る。インターンシップの評価は、学生が作成する報告書、受入先の評価票、インターンシップ報告会での発表内容と質疑応答に基づく評価事項を設けて適切に行う。</p>	
インターンシップ L	<p>海外を含む社会との繋がりにおける実践的教育としてインターンシップを単位として認定する科目であり、地方自治体、産業界や海外の大学等と連携・交流を図るにより実務での課題解決や遂行能力を養い、自分の職業適性や将来計画などについて考える機会を提供する。創成科学インターンシップLでは、長期(7.5時間×10日以上)の就業体験や海外の大学での研究活動の中で自らの実務における課題とその解決に向けて取り組む能力を養わせる。これによりインターンシップを通じた専門分野の連携の理解と人材育成を図る。インターンシップの評価は、学生が作成する報告書、受入先の評価票、インターンシップ報告会での発表内容と質疑応答に基づく評価事項を設けて適切に行う。</p>	
専門外書講読	<p>外国語(主に英語)で書かれた学術書や研究論文を読ませ、専門的な情報の収集力と内容についての理解力を身につけさせる。資料の整理およびプレゼンテーション能力を高める。担当教員や他の学生との議論を通して専門分野についての高度な知識を身につける。収集した情報を整理し、資料を作成する事ができる。また、プレゼンテーションを行い、担当教員や他の学生と議論することができる様になることを到達目標とする。</p>	

基礎演習	<p>生命機能科学科の分野分属に伴い、卒業研究に着手する前に研究に潜む危険性を理解し、生命機能科学研究を行う上での基本的な技術を体系的に学ぶ。本演習の到達目標は、(1)生命機能科学科の各分野で行われている研究技術を理解し習得する、(2)広く生命化学で用いられている技術を習得する事は勿論、卒業研究を開始する前に実験に潜む危険性を学び、安全性についても考える、である。</p> <p>吸光分析実験 (担当:21 宗 伸明) 酵素活性測定法の基礎 (担当:5 渡邊 啓一, 52 本島 浩之) 有機合成実験の基礎 (担当:23 上田 敏久, 56 川口 真一) 動物細胞培養の基礎 (担当:47 辻田 忠志) 遺伝子導入法の基礎 (担当:178 永野 幸生, 298 龍田 勝輔) 微生物の培養と分離の基礎 (担当:13 小林 元太) 微生物培養物の分析法 (担当:16 後藤 正利) 食品中の微生物制御(殺菌効果の評価) (担当:36 野間 誠司) 食品工学基礎演習 (担当:8 林 信行) 脂肪酸分析法の基礎 (担当:12 濱 洋一郎) 糖質分析法の基礎 (担当:50 関 清彦) ペプチド・タンパク質分析法の基礎 (担当:53 堀谷 正樹) 動物実験法の基礎 (担当:19 永尾 晃治, 47 辻田 忠志)</p>	
生命機能科学演習Ⅰ	<p>食糧科学、生命化学分野の研究を理解する為に必要な基礎的知識と技術を習得する。演習の到達目標としては、(1)食糧科学の研究を理解する為に必要な基礎的知識・技術を学ぶ、(2)生命化学の研究を理解する為に必要な基礎的知識・技術を学ぶ、(3)自らの卒業研究の課題を解決するための方法論・技術を学ぶ、の3つが挙げられる。</p> <p>食品分子解析の基礎①糖の定量法(HPLC) (担当:50 関 清彦) 食品分子解析の基礎②質量分析機(GC-MS) (担当:12 濱 洋一郎) 食品分子解析の基礎③タンパク質の解析(SDS-PAGE) (担当:178 永野 幸生, 35 光武 進, 298 龍田 勝輔) 食品中の微生物制御(殺菌処理) (担当:36 野間 誠司) 食品の栄養評価 (担当:19 永尾 晃治) 食品工学単位操作基礎 (担当:8 林 信行) 原核微生物の分類と同定 (担当:13 小林 元太) 真核微生物の分類と同定 (担当:16 後藤 正利) 生化学解析基礎①組み替えタンパク質発現 (担当:5 渡邊 啓一, 52 本島 浩之) 生化学解析基礎②レポーター解析 (担当:47 辻田 忠志, 53 堀谷 正樹) ペプチド合成実験の基礎 (担当:23 上田 敏久, 56 川口 真一) 蛍光分析実験の基礎 (担当:21 宗 伸明)</p>	
生物学基礎実験	<p>顕微鏡の取り扱いと生物試料の分析を含む基礎的な生物学実験を行い、生物学に関する基礎的な知識を修得する。より具体的には、生物学実験の基礎となる顕微鏡観察に関し、その原理と基本的な使用方法を学び、微生物、植物及び動物の細胞・組織・器官の観察を行う。また、生物試料において重要な生体成分の分析法を学ぶ。</p> <p>光学顕微鏡の原理と使用方法 (担当:21 宗 伸明, 50 関 清彦) 電子顕微鏡の原理と使用方法 (担当:5 渡邊 啓一, 53 堀谷 正樹) 微生物の取り扱いに関する注意事項 (担当:13 小林 元太) 微生物の形態 (担当:16 後藤 正利) 微生物の増殖 (担当:36 野間 誠司) 細胞の取り扱いに関する注意事項 (担当:35 光武 進, 47 辻田 忠志) 植物の細胞・組織・器官 (担当:12 濱 洋一郎, 178 永野 幸生) 動物の細胞・組織・器官 (担当:19 永尾 晃治) 生体分子の取り扱いに関する注意事項 (担当:8 林 信行) 生物試料のタンパク質分析 (担当:52 本島 浩之) 生物試料の核酸分析 (担当:298 龍田 勝輔) コンピュータによるデータ解析と整理 (担当:23 上田 敏久, 56 川口 真一)</p>	
生命機能科学演習Ⅱ	<p>食糧科学、生命化学分野で広く用いられている実践的な研究・実験技術を習得する。さらにこれらの原理を深く理解し、自らの卒業研究の課題解決に応用する。演習の到達目標は、(1)食糧科学の研究に広く用いられている実践的な研究・実験技術を学ぶ、(2)生命化学の研究に広く用いられている実践的な研究・実験技術を学ぶ、(3)研究・実験技術のみならず、原理を深く理解し応用力も高める、の3つである。</p> <p>食品分子の性状解析①オリゴ糖 (担当:12 濱 洋一郎, 50 関 清彦) 食品分子の性状解析②ペプチド (担当:52 本島 浩之, 298 龍田 勝輔) 食品分子の性状解析③極性脂質 (担当:35 光武 進) 食品分子の性状解析④単純脂質 (担当:19 永尾 晃治) 植物由来成分の機能解析 (担当:178 永野 幸生) 食品工学単位操作応用 (担当:8 林 信行) 食品中の微生物制御 (担当:36 野間 誠司) 原核微生物の物質生産法 (担当:13 小林 元太) 真核微生物の物質生産法 (担当:16 後藤 正利) 生化学解析実践①組換え酵素の活性測定 (担当:5 渡邊 啓一, 53 堀谷 正樹) 生化学解析実践②レポーター細胞の樹立 (担当:47 辻田 忠志) ペプチド合成実験の実践 (担当:23 上田 敏久, 56 川口 真一) 蛍光分析実験の応用 (担当:21 宗 伸明)</p>	
生命機能科学演習Ⅲ	<p>生命機能科学科のそれぞれの研究分野で行われている卒業研究から大学院レベルの研究を理解するための専門性の高い研究・実験技術を学ぶ。本演習の到達目標は、(1)生命機能科学科のそれぞれの研究分野で行われている卒業研究から大学院レベルの研究を理解する、(2)様々な研究を理解し、自ら研究計画を立案する能力を磨き、大学院や企業での研究分野で活躍するための応用力を身につける、事が挙げられる。</p> <p>食品分子の機能解析①酵素の機能解析と酵素方を用いたオリゴ糖の調整 (担当:50 関 清彦) 食品分子の機能解析②ペプチドの抗菌・抗真菌性 (担当:23 上田 敏久) 食品分子の機能解析③ポルフィラン (担当:12 濱 洋一郎) 食品分子の機能解析④スフィンゴ脂質 (担当:35 光武 進) 脂質異性体の機能解析 (担当:19 永尾 晃治) 食品工学単位操作実践 (担当:8 林 信行) 食品中の微生物制御(殺菌機構の解析) (担当:36 野間 誠司) 微生物の培養工学 (担当:13 小林 元太) 微生物の遺伝子工学 (担当:16 後藤 正利) 生化学解析応用①組換え酵素の性状解析 (担当:5 渡邊 啓一, 52 本島 浩之, 53 堀谷 正樹) 生化学解析応用②レポーター細胞スクリーニング (担当:47 辻田 忠志, 56 川口 真一) ペプチドの機能解析 (担当:178 永野 幸生, 298 龍田 勝輔) 生体分子材料の作製 (担当:21 宗 伸明)</p>	

卒業研究	学生は分属された研究分野において、自ら研究テーマを定め、修得した専門知識及び実験技能を応用し、教員の指導の下、課題解決のための計画、調査実験、データ解析、論文作成、そして最後に成果の発表を行う。卒業研究を履修することによりこれまで学んだ専門知識の実践的応用、事象に対する観察力・実行力・判断力など総合的な技能を身につけることができる。	
国際・地域マネジメント入門	(概要) 日本をはじめアジア・太平洋諸国(地域)における社会開発の諸相とその課題を、自然的・政治的・社会経済的基盤を背景として、世界システムやグローバリゼーションというマクロスケール、及び教員のフィールドワーク経験に基づくミクロな地域レベルで講義する。コースの教員およびその研究の紹介も兼ねる。 (オムニバス方式/全15回) (2 稲岡 司/3回) オセアニア、東南アジアの途上国の健康問題、人間開発にかかわる諸相と課題を講義する。 (26 辻 一成/3回) 日本および東南アジアの農業や農産物と経済に関する諸相と課題を講義する。 (44 中井 信介/3回) 日本および東南アジアの自然資源利用や生業に関する諸相と課題を講義する。 (27 藤村 美穂/3回) 日本およびアジアの農村の環境問題や生活問題に関する諸相と課題を講義する。 (全員/3回) ガイダンス、学生による受講成果の発表会には、教員全員が参加する。	オムニバス方式
食用作物学	(3 有馬 進, 17 鈴木 章弘, 24 上埜 喜八) (オムニバス方式/全15回) 主要な食用作物の分類・起源・伝播・性状・生産栽培・品種改良・利用について講述する。本講で取り上げる農作物としては、イネ・コムギ・オオムギ・ライムギ・エンバク・トウモロコシ・ダイズ・ラッカセイ・サツマイモ・ジャガイモなどである。イネ科作物に関しては、4回を有馬が、4回を上埜が主に講述し、マメ科作物に関しては、4回を鈴木が、イモ類に関しては3回を上埜が、主に講述する。	オムニバス方式
アジア地誌	(概要) 地誌学的な地域の見方について、アジアの諸地域を例にして考える。とくに東アジアおよび東南アジア地域をとりあげ、日本との関係性にも留意した内容となる。質疑応答を含む講義による。適宜、パワーポイントや映像資料等を用いる。 (単独/全15回) 第1回: イントロダクション 第2回: 地誌とはなにか 第3回: 地域を見る視点 第4回: アジア地域1 自然環境の基礎 第5回: アジア地域2 文明の形成 第6回: アジア地域3 稲作社会 第7回: アジア地域4 複合的生業社会 第8回: アジア地域5 地域の環境史 第9回: 小まとめ 第10回: アジア地域6 都市とグローバル化 第11回: アジア地域7 景観とツーリズム 第12回: アジア地域8 国家と政治 第13回: アジア地域9 開発と社会変化 第14回: まとめ 第15回: 小テスト	
農村地理学	(概要) 現代農村の地理学的課題について、景観と環境の変遷史・保全と活用、地域資源の持続可能な利用、農村コミュニティの活性化等に焦点を当て、その特色について講義する。授業の学習過程において、随時、協同学習のアクティブラーニングを実施する。 (単独 全15回) 1, 農村地理学における課題 (1) 2, 農村地理学における課題 (2) 3, 農村景観の構造・機能・変遷史 (1) 4, 農村景観の構造・機能・変遷史 (2) 5, 農村景観の保全と活用 (1) 6, 農村景観の保全と活用 (2) 7, 農村環境としての里地・里山 8, 里地・里山イニシアティブ (1) 9, 里地・里山イニシアティブ (2) 10, 地域資源の持続的利用 (1), 11, 地域資源の持続的利用 (2) 12, 地域資源の持続的利用 (2) 13, 農村コミュニティの活性化 (1), 14, 農村コミュニティの活性化 (2), 15, まとめ	
農業市場流通学	(概要) 農業市場流通学における基礎概念や基礎理論を、各農産物市場や土地、労働力、生産財、金融の市場を例示して平易に解説する。 (単独, 全15回) 第1回: 戦後の日本経済と農業 一学問的領域と背景一 第2回: 国際的な農業市場と農業貿易 一農産物と生産財を巡って一 第3回: 戦後の食料消費動向と食料問題 第4回: 米の市場構造と流通問題 第5回: 青果物(野菜・果実)の市場構造と流通問題 第6回: 畜産物(牛肉・豚肉)の市場構造と流通問題 第7回: 畑作物(麦類, 馬鈴薯)の市場構造と流通問題 第8回: 加工原料・加工食品の市場構造と流通問題 第9回: 花卉の市場構造と流通問題 第10回: 農地の市場と農地政策 第11回: 生産財(農機具, 肥料, 農薬)の市場構造と流通問題 第12回: 農業労働力の市場と農業所得 第13回: 農業金融市場と農業情報システム 第14回: 農協の組織と事業戦略 第15回: 学生による質疑, 応答, ディスカッション	
群集生態学	生態系における生物同士の相互作用や生き物の生活史戦略、生態について紹介し、群集生態学の基本的概念に関する知識を身につける。植物の対被食者戦略、動物の対捕食者戦略、寄生者による寄主操作の機構と意義、昆虫の性を操る微生物とその機構、動植物と共生微生物との相互作用、動物を介した植物の花粉媒介/種子散布戦略、生態系改変者、種分化と共進化など、生物間相互作用に関する様々な事例紹介を通して、生物におけるふるまいの適応的意義に関して解説する。一連の授業を通して、生態学的思考法やもの見方、および、生物のふるまいにおけるコストとベネフィットの概念について解説する。	
地域再生論	中心市街地では地域再生(地域活性化)は今日的な重要な課題となっている。授業では、可能であれば野外実習もとりいれながら、地域再生を図るために必要な既存の関連学問分野を横断的に理解することを目指している。佐賀地域で育まれた風土・文化・自然を基盤とした持続力を有した地域の活性化が求められている。衰退の激しい佐賀市中心市街地の現状を正しく把握するとともに、各地で行われている実践的な活動を理解することにより、いかなる再生策が必要であるかを学ぶ。	

地域マネジメント論	<p>人口減少社会における持続可能性のあるまちづくりをメインテーマとし、まちづくりに関する基礎理論を理解することと、各地のまちづくりの取り組みを比較検討することを大きな二つの柱として講義を構成する。具体的には、まちづくりとは何か、まちづくりのひろがり、まちづくりの多様性、まちづくりの可能性、まちづくりの変遷、住民主体のまちづくり、コミュニティの再生、パートナーシップによるガバナンスの形成、地域産業とまちづくり、地域産業とまちづくり、まちづくりと地方自治体、地域デザイン、町並みと景観、安心・安全なまちづくりなどに分けて講義を行う。</p>	
園芸学	<p><園芸学> 園芸学は、野菜、果実、観賞植物などの園芸作物全般の基本的な講義である。園芸作物の生産、流通、利用、あるいは教育、研究、行政に関わる職業に就く予定の学生だけでなく、人文科学的、社会科学的な分野に関わる学生にも、独立した科目として受け入れられるものとした。各回の講義内容は以下の通り。 (オムニバス方式/全15回) (14 一色 司郎/3回) 第1回：園芸と園芸学について解説する。 第2回：園芸作物の種類と分類について解説する。 第3回：園芸作物の形態について解説する。 (31 古藤田 信博/3回) 第4回：園芸作物の生理、特に発芽から花芽形成について解説する。 第5回：園芸作物の生理、特に種子形成、植物ホルモンについて解説する。 第6回：園芸作物の品種の改良方法と種苗の繁殖方法について解説する。 (41 辻田 有紀/3回) 第7回：園芸作物の発育に伴う生理生態的特性と栽培管理、特に野菜について解説する。 第8回：園芸作物の発育に伴う生理生態的特性と栽培管理、特に果樹について解説する。 第9回：園芸作物の発育に伴う生理生態的特性と栽培管理、特に花卉について解説する。 (32 福田 伸二/4回) 第10回：園芸作物の生産施設と流通施設について解説する。 第11回：園芸作物の鮮度保持方法について解説する。 第12回：園芸作物に含まれる栄養成分と機能性成分、特に野菜と果樹について解説する。 第13回：園芸作物に含まれる栄養成分と機能性成分、特に花卉について解説する。 (49 松本 雄二/2回) 第14回：園芸の新しい展開領域について解説する。 第15回：環境にやさしい園芸生産について解説する。</p>	オムニバス方式
農業水利学	<p>農業に不可欠な水資源の現状と農地における水利用について講義する。水田および畑における灌漑手法および用水量の算定方法について解説する。また、排水の意義について講義する。これらを踏まえ、農業水利システムの構造と計画について講義する。 授業計画 第1回：灌漑および排水の目的と歴史 第2回：世界と日本の水資源と水利権 第3回：水田灌漑の意義・役割と灌漑方法 第4回：水田用水量の構成要素と純用水量 第5回：農業用水の反復利用と広域用水量 第6回：畑地灌漑の意義 第7回：畑地灌漑方式と灌漑効率 第8回：畑地の水分消費メカニズム 第9回：畑地における消費水量の算定方法 第10回：圃場および広域レベルにおける排水のメカニズム 第11回：農業水利システムの概要 第12回：農業水利システムを構成する施設計画（貯水施設・取水施設の種類の構成） 第13回：農業水利システムを構成する施設計画（配水施設・調整施設・末端施設の種類の構成） 第14回：環境との調和に配慮した農業水利システムの計画（生態系配慮） 第15回：環境との調和に配慮した農業水利システムの計画（景観配慮）</p>	
人間開発論	<p>(概要) 「人間開発」の概念は、社会の豊かさや進歩を測るのに、経済指標だけでなく、これまで数字として現れなかった側面も考慮に入れようとして生まれた。国際・地域マネジメントの中で大変重要な概念となる「人間開発」について、基本的な知識を身につけて世界を観ることを目的とする。時には学生による討論や発表も組み入れた講義形式とする。 (単独) 内容としては、1) 国際開発とミレニアム開発目標、2) 所得貧困、3) マイクロファイナンス、4) コミュニティの参加、5) 飢餓と栄養不良、6) 子どもの健康、7) 女性の健康、8) HIV/AIDS、結核とマラリア、9) 水と衛生、10) 乳幼児のケアと初等教育、11) 教育とジェンダー、12) 教育と情報通信技術、13) 援助機関と被援助国、14) 国連の役割、15) NGO・企業と開発協力について、講義する。</p>	
社会調査実習 I	<p>(概要) 国際・地域調査法で学んだ知識を活かして、実際の地域調査（フィールドワーク）を学生自身が企画し、実行する体験を通して、研究分野への関心を高め、研究テーマの設定と研究方法の基礎を身に付ける。学生はグループをつくり、農林水産業の生産現場についての資料収集、現地調査を行い、その結果を取りまとめて報告する、アクティブラーニングの主王をとりいれた調査実習を行う。 (集中、共同) ガイダンスや講義、中間報告と、学生（グループ）による現地調査を組み合わせる授業を行う。</p>	
フィールド科学基礎実習 I	<p>ミカンの接ぎ木、防虫、施肥及び除草等の果樹管理を行う。西南暖地で主に栽培されている種々の作物や園芸植物の栽培を行う際の耕起、畝立て、定植、除草、収穫などの栽培管理を行う。牛の捕獲、牛体洗浄、牛体測定、牛床の清掃などの家畜管理を行う。各回の内容は以下の通り。 第1回：ガイダンス、ミカンの接ぎ木 第2回：ミカンの定植、トマトの定植・誘引、イチゴの撤去 第3回：ジャガイモ追肥・土寄せ、キクイモの定植 第4回：乾草収納、キュウリの定植・誘引、モモ袋かけ 第5回：カーネーション撤去・ポット土詰め、ノビルの収穫 第6回：水稲育苗箱播種、サツマイモマルチ被覆 第7回：サツマイモ挿苗、キウイ管理 第8回：有機水稲苗取り、ジャガイモ収穫・調整 第9回：カーネーション定植、トマト・キュウリ管理 第10回：田植え 第11回：イチゴジャム製造、カーネーション摘心・段上げ 第12回：里芋追肥・敷きわら、キクイモ管理 第13回：家畜管理、サツマイモ苗撤去、茶園管理 第14回：トマトケチャップ製造、イチゴ採摘 第15回：キュウリ撤去、トマト撤去</p>	

環境社会学	<p>(概要) 現代社会が抱える様々な環境問題、およびその背景にある生活の多様性、自然利用や管理の工夫などについて、事例をふまえながら講義する。学生は、農林水産業の舞台であるとともに生活の舞台でもある環境の現状を理解することで、自分たちの生きる社会を知り、課題の解決をめざすための視野を獲得することを目的とする。</p> <p>(単独) 15回の講義のなかでは、現在の社会が直面する環境問題の実態とその背景、環境問題を複雑にする社会背景、自然環境を活かす工夫や知恵、新たな動きなどについて、事例と理論をふまえて紹介し、さらにそれを身近な事例に惹きつけて考えることができるよう、討論や、レポート作成などの機械を背景的にとりいれる。</p>	
国際地域調査法	<p>(概要) 教員は国内外において社会調査を実施する際に必要となる基本的知識を教授する。本授業の内容は今後の社会調査に関係するすべての授業を受講する上で前提となる。学生が国内外で円滑な社会調査を実施するために最低限理解しておかなくてはならない事項や諸注意を理解する。</p> <p>(オムニバス/全15回) (27 藤村 美穂/4回) 第1回: 授業ガイダンス 第6回: 構造化面接によるデータ収集とその分析 (27 藤村 美穂) 第9回: 地域資源の利用と管理に関する調査の事例 (27 藤村 美穂) 第13回: 調査相手の人権への配慮 (27 藤村 美穂) (26 辻 一成/4回) 第2回: 社会調査とは何か—意義と目的— 第5回: 構造化面接(アンケート調査法)によるデータ収集とその分析 第8回: 世帯の生計実態把握に関する調査の事例 第11回: 地域の社会経済構造に関する調査の事例 (44 中井 信介/4回) 第3回: 二次資料の収集とその方法 第7回: 非構造化面接によるデータ収集とその分析 第12回: 調査目的と調査地の選定方法 第14回: 調査地の宗教・文化・政治状況への配慮 (2 稲岡 司/3回) 第4回: 一次資料の収集(大数調査と質的調査) 第10回: 住民の健康や保健状況に関する調査の事例 第15回: 海外調査時の健康管理・安全確保対策</p>	オムニバス方式
国際関係学要説	<p>現代の国際紛争を例としてとりあげ、その紛争の背景にある諸要因を明らかにする。さらに英国および米国外交の起源と現代にいたる動向を主要な焦点として、国際政治学の基本を講義することで国際政治学研究の導入をはかる。</p> <p>内容は以下のとおりである。 北アフリカ・中東で起こっていることについて考える 大国の外交の歴史と現在(イギリス、アメリカ合衆国を中心に) 国境線の問題 イデオロギーと宗教 国際政治と経済(貧困)問題</p>	
栽培環境制御学	<p>この講義では、まず、農業に影響を与える環境要因として、光、空気、温度の環境特性を概説する。次に、農業施設を利用した環境制御の効果と仕組みを説明する。最終的には、農業生産に係わるエネルギー及び物質収支を理解し、環境を保全しながら食料生産を継続するための理論や考え方を理解させる。</p> <p>授業計画 第1回 社会の発展と農業の歴史的展開 第2回 食料自給と農業の生産規模 第3回 野菜生産出荷安定法 第4回 農業用温室の種類と構造 第5回 温室の被覆資材と特性～光、水、温度 第6回 温室の被覆資材と特性～内張資材 第7回 温室内の環境特性～光 第8回 温室内の環境特性～温湿度、熱収支 第9回 温室内の環境特性～二酸化炭素 第10回 温室内の環境制御～必要換気率(高温抑制) 第11回 温室内の環境制御～必要換気率(二酸化炭素濃度、湿度) 第12回 温室内の環境制御～温室の熱収支 第13回 温室内の環境制御～暖房の原理と暖房負荷 第14回 温室内の環境制御～暖房装置と環境負荷 第15回 温室内の環境制御～冷房、二酸化炭素施肥</p>	
経済法 I	<p>(概要) 経済法は、Competition Law(競争法)と訳されるように、市場経済システムを採用する各国共通のルールである。日本における経済法の実定法は、「独占禁止法」であり、経済法 I と同 II の講義で学ぶ中核となる法律である。</p> <p>経済法 I では、「なぜ競争法が必要であるか」との問いを講義の出発点として、「市場/競争/消費者と法」に関する基本的な考え方と知識を習得することを目的とする。</p>	
経営管理論	<p>(概要) 企業をとりまく経営環境を理解しながら、主に企業家の立場からの経営管理に関する理論および方法について学ぶ。消費者や企業で働く立場として、企業について目利きとなることを目標とします。さらにこの授業は、学士力 1. 知識と技能、2. 課題発見・問題解決能力、3. 個人と社会の発展を支える力のいずれも習得することを目標とする。</p>	

農業生産機械学	<p>農業機械は、食料生産などの農業において労働生産性を支援する大きな役割を担っているが、その使用目的により多くの種類に分類される。そこで、主な農業生産活動にかかわる機械類について、その作業内容から作動原理に至るまで、対象である土・作物・栽培方法などの関連のある事象を含めた講義を行う。</p> <p>授業計画</p> <p>第1回 人間生活と農業機械化 第2回 農業機械の構成 第3回 乗用トラクタ、作業機（アタッチメント） 第4回 さまざまな工具・トラクタ操作と安全作業 第5回 歩行トラクタ・燃料等 第6回 内燃機関（火花点火機関） 第7回 内燃機関（圧縮点火機関） 第8回 電動機・伝動機械 第9回 作業機の構造と利用 第10回 作業機・稲作用機械1 第11回 稲作用機械2 第12回 乾燥・調製機械および施設 第13回 野菜畑作用・飼料畑作用機械 第14回 かんがい排水/防除用機械 第15回 農業機械の利用と機械化体系</p>	
農村開発論	<p>（概要） 農村開発のテーマと課題について、生産力主義とポスト生産力主義の視点から講義する。授業の学習過程において、随時、協同学習のアクティブラーニングを実施する。 （単独 全15回）</p> <p>第1回：農村開発をめぐる課題（1） 第2回：農村開発をめぐる課題（2） 第3回：農地開発と農村集落の形成（1） 第4回：農地開発と農村集落の形成（2） 第5回：水資源開発と水利システム（1） 第6回：水資源開発と水利システム（2） 第7回：農村コミュニティの開発（1） 第8回：農村コミュニティの開発（2） 第9回：農村開発と地域振興（1） 第10回：農村開発と地域振興（2） 第11回：農村開発とルール・ツーリズム（1） 第12回：農村開発とルール・ツーリズム（2） 第13回：農村開発と国際開発援助（1） 第14回：農村開発と国際開発援助（1）（2） 第16回：まとめ</p>	
島嶼・半島地域社会経済論	<p>（概要） 半島や島嶼の環境特性および、それに規定された農漁業形態や社会経済的な特性について概説する。そのうえで、身近な佐賀県の半島（東松浦半島＝上場台地）、および佐賀県の島嶼の事例を取り上げ、それらの地域の農漁業や地域社会が直面する諸問題、新たな産業展開の可能性について、これまで積み重ねられてきた研究成果をふまえて講義する。さらに、県内だけを見ても、農業廃棄物も含めた資源循環（稲わらや牛糞など）への関心や経済のグローバル化によって、これらの地域が「条件不利」を相対化して、持続的発展を行うための方向について議論する。 （単独、全15回）</p> <p>第1回：半島・島嶼研究の意義 第2回：半島農業の展開 第3回：半島農業の事例 第4回：半島漁業の事例 第5回：佐賀県東松浦半島の農業の展開 第6回：島嶼の環境特性 第7回：島嶼社会論 第8回：全国の島嶼問題 第9回：九州の島嶼問題 第10回：佐賀県の島嶼問題と農業 第11回：佐賀県の島嶼問題と漁業 第12回：低平地農業と漁業 第13回：有明海の漁業の展開 第14回：有明海の環境問題 第15回：まとめ</p>	
社会統計学	<p>（概要） 統計学の基礎と社会科学への応用について講義する。学生は与えられた代表的な表計算ソフトや統計ソフトを実際に自分で使って、統計学の基本を理解しながら、現実の社会統計データに基づいて仮説を検証する。将来の卒論などに必須の科目である。</p> <p>内容については、1) 表計算・統計ソフト、2) データの整理方法、3) 確率分布、4) 推計統計学の基礎、5) 統計的推定、6) χ^2分布とF分布、7) 統計的検定（1）8) 統計的検定（2）、9) 分散分析、10) 多重比較法、11) ノンパラメトリック分析（1）、12) ノンパラメトリック分析（2）、13) 多変量解析（1）、14) 多変量解析（2）、15) 多変量解析（3）に分けて講義する。</p>	

畜産学	<p>わが国および世界の畜産業の概要と家畜家禽の遺伝、育種、繁殖、生理、栄養、飼養管理、衛生、畜産物加工など動物生産にかかわるさまざまな学問領域について最新の研究成果も踏まえて概説する。</p> <p>(オムニバス/全15回) (7 和田 康彦/5回)</p> <p>第1回：オリエンテーション、畜産学序論 第2回：家畜家禽生産の現場 第3回：家畜衛生と疾病 第4回：家畜化の歴史と家畜の品種 第5回：家畜育種の基礎 (46 山中 賢一/5回)</p> <p>第6回：家畜栄養学1：栄養素の種類と性質 第7回：家畜栄養学2：栄養素の消化・吸収および代謝 第8回：家畜生体生理学：消化器系の構造と機能 第9回：家畜繁殖生理学1：人工授精 第10回：家畜繁殖生理学2：受精卵移植および体外受精 (37 江原 史雄/5回)</p> <p>第11回：家畜の飼養管理 第12回：家畜の飼養施設 第13回：畜産物の品質と機能 第14回：畜産物の安全性 第15回：アニマルウェルフェア</p>	オムニバス方式
昆虫学	<p>地球上に生息する昆虫は約100万種以上とも言われ、全動物種の3/4～4/5を占めている。これほど多様な昆虫の生き様は、私達に色々な意味で多くのことを語りかけて来る。本講義では、昆虫に関する形態、生理、生化学的知見を紹介し、昆虫への興味を喚起する。さらに、昆虫の生き様を通して私達ヒトの生き方を客観的に再評価する契機となるような話題を提供したい。</p>	
干潟環境学	<p>浅海干潟域の環境や物質循環、エコシステムによって支えられている干潟の多様な役割、さらには干潟の環境保全とワイズユースについて必要な知識を習得する。</p> <p>授業計画</p> <p>第1回：概論－国内外の干潟について－ 第2回：潮汐について 第3回：潮流について 第4回：海水交換と滞留時間について 第5回：有明海における「濁り」の形成とその役割について 第6回：風波、波の基本方程式 第7回：微小振幅波理論、長波、深海波 第8回：干潟の多面的機能について 第9回：有明海特産種、有明海準特産種 第10回：堆積物食者、懸濁物食者、摂食タイプ、生物多様性 第11回：Bioturbation、潮汐、底泥、酸化還元環境 第12回：硝化、脱窒、アナモックス、窒素循環、水質浄化機能 第13回：モニタリング手法、表在性・埋在性マクロベントス、生物多様性 第14回：底泥環境、栄養塩 第15回：東よか干潟の現状、野鳥、環境教育</p>	
農産物食品流通貯蔵学	<p>本講義では、まず、青果物(野菜類、果菜類、果実、花木類)を対象とし、これらの青果物に含まれる基本的な栄養成分の種類と性質を概説し、各青果物の品質特性を明らかにする。次に、様々な流通及び貯蔵技術を概説し、青果物の品質維持を図るために必要となる、選別、洗浄、包装、貯蔵、輸送技術について概説し、冷蔵施設的设计を行う。</p> <p>授業計画</p> <p>第1回：日本を取りまく食糧事情 第2回：日本の食糧自給率と農産物生産値 第3回：主要農産物の流通と生産 第4回：農産物流通の仕組み 第5回：農産物の品質～食品成分の種類と特性1 第6回：農産物の品質～食品成分の種類と特性2 第7回：農産物の生活生理 第8回：青果物の流通前処理 第9回：青果物の選別と包装 第10回：青果物の輸送 第11回：青果物の貯蔵～貯蔵の必要性、常温貯蔵 第12回：青果物の貯蔵～低温貯蔵 第13回：低温貯蔵の原理 第14回：低温貯蔵庫の設計(貯蔵庫の熱収支) 第15回：低温貯蔵庫の設計(貯蔵庫の冷蔵負荷)</p>	
熱帯作物学	<p>アジア・アフリカ地域では、人口増加に伴った食糧の増産が必要不可欠な状態にあり、熱帯地域の主要作物の生産性を向上することは重要な課題となっている。本講義では、熱帯地域に適した作物生産の環境と直面している農業生産上の課題に関しての知識を教授する。具体的には、熱帯の作物栽培における多種多様な環境(気候、植生、土壌、作付体系など)を学び、それぞれの環境に適した作物の栽培や品種の利用についての知識を深め、将来的な作物生産についてのあり方を考える。</p> <p>(オムニバス/全15回) (11 吉平(郷) 紹輝/7回)</p> <p>第1回：熱帯の気候を解説する。 第2回：熱帯の農業生産概況を解説する。 第3回：熱帯の土壌と植生を解説する。 第4回：熱帯農業の多様性を解説する。 第5回：熱帯の作付体系を解説する。 第6回：熱帯の農地管理を解説する。 第7回：熱帯の主要作物(畑作・稲作)を解説する。 (45 藤田 大輔/8回)</p> <p>第8回：熱帯作物1(穀類)を解説する。 第9回：熱帯作物2(マメ類)を解説する。 第10回：熱帯作物3(イモ類)を解説する。 第11回：熱帯作物4(工芸作物)を解説する。 第12回：熱帯作物5(環境ストレス耐性)を解説する。 第13回：熱帯作物6(生物ストレス耐性)を解説する。 第14回：農学分野における国際協力を解説する。 第15回：遺伝資源の保存を解説する。</p>	オムニバス方式

農村の環境・健康問題	<p>(概要) 第1次産業（農林漁業・鉱業）は環境問題のリスクだけではなく、健康問題のリスクや地域社会での問題のリスクも高い。講義では、これまで担当者が調査研究を通して実際に見てきた環境・健康・社会問題が起こる事例を紹介し、そのメカニズムを分析する中で、地域社会の中で環境問題と健康問題のリスク、ひいては社会問題のリスクを減らす方を国際的な視野で検討する (複数/全15回) ひとつのトピックについて、専門の異なる3名の仔牛がそれぞれの視点から解説し、それをふまえて学生が討論するというスタイルをとるため、複数教員が共同で授業を行う。国際保健学は稲岡、農業化学は上野、環境社会学は藤村など、である。全体の流れとしては、国際的な視野で見た農村の現状について概観し、次に、環境問題と健康問題の実例をとりあげる。そしてそれがどのように社会問題化していくのかについてのプロセスを検討する。これらをふまえて、最後に、環境・健康・社会問題の連鎖とリスク軽減への総合討論を行う。</p>	
社会調査実習Ⅱ	<p>(概要) 社会調査実習Ⅰで調査した農林水産業の現場に関する知識や地域との関係を前提に、そこで生産された生産物の購入・販売、加工などに参加することをとおして、農業の現場と地域社会がかかえる問題にふれる。 (後期集中) 事前計画、農家との交渉、大学との交渉、仕入れ、販売、会計などを学生が一貫して行う。</p>	
フィールド科学基礎実習Ⅱ	<p>有機圃場において、ダイコン、ニンジン、ホウレンソウなどの秋野菜の播種から収穫までの一連の栽培管理を行う。フィールド科学基礎実習Ⅰで栽培した種々の作物や園芸植物の収穫・調整に関する実習を行うとともに、試食も行う。食肉加工実習においては、豚肉の解体・調整、ハム・ソーセージの充填実習及び試食を行う。ウメ、モモ、カキ、キウイなどの落葉果樹の剪定を行う。各回の内容は以下の通り。 第1回：ガイダンス。秋野菜畝立て・播種 第2回：水稲収量査定（収穫・脱穀・籾数） 第3回：稲わら立て、サツマイモつる切り、キクイモ収穫・調整 第4回：サツマイモ収穫、ノビル定植 第5回：野菜収穫、キウイ・カキ管理、米調整・袋詰め 第6回：果樹園水路整備 第7回：サトイモ収穫・調整 第8回：ソバ収穫、秋野菜収穫 第9回：ソバ脱穀、水稲収量査定 第10回：ミカンジュース製造 第11回：ソバ打ち 第12回：イチゴ・キク・カーネーション収穫、落葉果樹剪定 第13回：肉加工①（豚肉の解体・調整） 第14回：肉加工②（ハム・ソーセージの充填、試食） 第15回：畦畔土上げ、ジャガイモ定植</p>	
生態人類学	<p>(概要) 自然と深い関わりのなかで生きてきた人々の生き方（生態）の多様性と普遍性について、生態人類学の視点から考える。その際には、それぞれの多様な生き方が人類の長い歴史のなかで育まれてきた点に留意する。質疑応答を含む講義形式で行う。適宜、パワーポイントや映像資料等を用いる。 (単独/全15回) 第1回：イントロダクション 第2回：生態人類学とはなにか1 第3回：生態人類学とはなにか2 第4回：生態人類学の基礎1 狩猟採集民 第5回：生態人類学の基礎2 農耕民 第6回：生態人類学の基礎3 牧畜民 第7回：小まとめ 第8回：人間の生態と環境問題1 野生動植物 第9回：人間の生態と環境問題2 森林破壊 第10回：人間の生態と環境問題3 砂漠化 第11回：人間の生態と社会変化1 都市と開発 第12回：人間の生態と社会変化2 近代化とグローバル化 第13回：人間の生態と社会変化3 自然資源の持続的利用 第14回：まとめ 第15回：小テスト</p>	
農業ビジネスマネジメント学	<p>(概要) 学生が、農業生産の担当者（農業経営体）の経営問題を理解し、農業経営の存続と成長に向けた諸課題を理論的に考察するための基礎知識と方法を習得することが目的である。 (単独/全15回) 第1回：農業の動向と農業経営（日本と世界の農業、農業・農村の多面的機能） 第2回：農業経営の組織と運営①（農業経営の主体と目標） 第3回：農業経営の組織と運営②（農業生産の要素、農業経営組織の編成） 第4回：農業経営の組織と運営③（農業の生産組織と法人化、農業経営の運営） 第5回：農業経営と情報①（農業経営の環境適応、農業経営における情報収集と活用） 第6回：農業経営と情報②（農業のマーケティング、農業経営の社会・政策環境） 第7回：農業経営の会計①（資産・負債・資本勘定と貸借対照表、収益・費用勘定と損益計算書、取引と勘定） 第8回：農業経営の会計②（簿記一巡の手続き） 第9回：農業経営の会計③（仕訳と転記＜前半＞） 第10回：農業経営の会計④（仕訳と転記＜後半＞） 第11回：農業経営の会計⑤（決算） 第12回：農業経営の会計⑥（農産物の原価計算） 第13回：農業経営の診断と設計①（農業経営診断の方法と実際） 第14回：農業経営の診断と設計②（農業経営設計の方法と実際） 第15回：農業ビジネスプランの作成 定期試験</p>	

比較農政学	<p>(概要) 農業・農村・食料に関わる政策は、国内的な要因だけではなく、国際的に共通した問題を背景として成り立っていると同時に、国際的な調整や交渉を経て変化の方向が決定づけられている。本講義では、日本の農政の展開や特質について講義し、さらに世界における位置づけを理解するために、海外の農業・農村政策について概観し、現代社会における農政の方向性とその特質について講義する。</p> <p>(単独、全15回) 第1回：イントロダクション：授業の目的と全体概要を説明し、授業の到達目標や評価についてガイダンス 第2回：日本における農業政策：戦後～1990年代（1）終戦直後の食料難と食料増産施策の展開 第3回：日本における農業政策：戦後～1990年代（2）農業基本法農政の到達点と限界 第4回：日本における農業政策：1990年代～現代（1）食料・農業・農村基本法成立までの経緯 第5回：日本における農業政策：1990年代～現代（2）政権交代と食料・農業・農村基本計画 第6回：日本における農業政策：1990年代～現代（3）現行政権の農業政策（「強い農業」とは何か） 第7回：日本における農村地域政策の展開：中山間地等直接支払制度を中心に 第8回：日本の農政と農業交渉：GATT農業交渉、WTO農業協定交渉、TPP交渉における日本政府の立場と主張 第9回：アメリカにおける農業法とその特徴（1）：農業大国アメリカの実相と政策課題 第10回：アメリカにおける農業法とその特徴（2）：米農農業法の変遷過程 第11回：EU・ヨーロッパにおける農業政策の展開（1）：EUの形成と参加諸国の農業事情 第12回：EU・ヨーロッパにおける農業政策の展開（2）：EU共通農業政策 第13回：アジアにおける農業・農村政策（1）：中国の食料事情と農業・農村政策の展開 第14回：アジアにおける農業・農村政策（2）：ASEAN諸国の農業の課題と政策 第15回：今後の国際的な農政の動向：グローバル化の進展と日本農政 定期試験</p>	
開発経済論	<p>(概要) 本講義の主な目的は、開発経済学の性質や発展途上国の多様な構造と共通な特徴、同諸国が直面している諸問題、経済発展とは何か、経済政策の役割、今までの経験、現代の経済発展に関する重大な課題などに関する基本的な知識を与えることである。同時に、同諸国が戦後導入されてきた様々な経済発展戦略、特に封鎖経済制度、開放経済政策、経済のグローバル化、海外援助、海外直接投資などによって発展途上国がどのように経済・社会発展過程をしてきたのかを理論的かつ実証的に検討する。</p>	
農村環境計画学	<p>農村空間は生産空間、生活空間、自然空間等から構成され、これらの概要や役割について講義する。また、農業農村の持続的な発展のために、集落計画、交通計画、水利計画、公共施設計画および景観計画について解説する。</p> <p>授業計画 第1回：農村の成り立ちと特質 第2回：農業農村を取り巻く環境と課題 第3回：農業農村における土地利用計画 第4回：農業基盤整備の意義と必要性 第5回：農業基盤整備の考え方 第6回：農村生活環境整備の意義と必要性 第7回：農村生活環境整備の考え方 第8回：農村環境の保全と管理（農村環境と資源の循環利用） 第9回：農村環境の保全と管理（水環境の保全と創造） 第10回：農村環境の保全と管理（地域生態系の保全と管理） 第11回：農村環境の保全と管理（景観の保全と形成） 第12回：中山間地域の活性化（現状と課題、新たな期待） 第13回：中山間地域の活性化（活性化に向けた具体策） 第14回：諸外国の農業農村整備 第15回：環境との調和に配慮した農業農村整備事業</p>	
農村と産業演習 I	<p>(概要) 教員（辻）は、当初、産業組織論的アプローチを概説し、その後、地元の農家・食品製造業者・流通業者・農協などへ学生とともに訪問し、主として当該業者のマーケティング戦略（訪問聞き取り）を学ばせる。 教員（五十嵐）は、農村地域で展開される多就業構造及びそれらの実態分析を行うためのフィールドワークの技法について講義し、グループワーク等を通じた問題解決型ケーススタディの演習を実施する。</p> <p>(オムニバス/全15回) (授業計画) (26 辻 一成/10回) 第1回：農業経済・経営研究の方法—仮説と実証—（研究の科学性を担保するための手続き） 第2回：農業統計の種類と利用（2次データの効率的な収集方法と利用時の注意） 第3回：大数調査と質的調査（研究目的に応じた1次データ収集方法の適切な選択） 第4回：農業経営調査の構造（調査目的に応じた適切な調査票の作成） 第5回：聴取調査の手順と心得（社会調査の特殊性と調査先とのコミュニケーション） 第6回：産業組織論的アプローチを概説 第7回：米・麦・大豆・花卉栽培を行う複合経営の経営とマーケティング戦略（訪問聞き取り） 第8回：施設園芸農家の経営とマーケティング戦略（訪問聞き取り） 第9回：食品（清酒）製造業者のマーケティング戦略（訪問聞き取り） 第10回：食品（醤油）製造業者のマーケティング戦略（訪問聞き取り） (79 五十嵐 勉/5回) 第11回：農村地域における多就業化をめぐる動向と課題 第12回：農村地域における地域資源の商品化をめぐる動向と課題 第13回：フィールドワークの技法 第14回：グループ研究による問題解決型ケーススタディ（資料研究） 第15回：グループ研究による問題解決型ケーススタディ（事例研究） 定期試験</p>	オムニバス方式

環境と生活演習 I	<p>(概要) 農村調査について、文献の調べ方、調査の方法、テーマの設定、調査票の作成など、現地調査にいたるまでの必要な事柄について、一線をととして習得させる。 (オムニバス/全15回) (2 稲岡 司/5回) 第1回：世界の農村が直面する自然資源利用や環境・健康問題について 第2回：先行研究について (日本・世界) 第3回：調査方法論について (二次的資料の収法) 第4回：調査方法論について (質問紙作成) 第5回：調査方法論について (質問紙作成実習) (27 藤村 美穂/5回) 第6回：先行研究からみる調査方法論 (学生による発表) 第7回：先行研究からみる調査方法論 (学生による発表と討論) 第8回：テーマの設定に関する資料収集 第9回：調査地に関する資料収集 第10回：各自のテーマの決定。発表 (2 稲岡 司/5回) 第11回：テーマに即した調査計画の作成 第12回：テーマに即した調査計画の作成 (調査項目) 第13回：テーマに即した調査計画の作成 (予備調査・プレテスト) 第14回：学生による発表と討論 (前半) 第15回：学生による発表と討論 (後半)</p>	オムニバス方式
実践語学	<p>(概要) 英語および、アジア・フィールドワークの授業で研修先となる諸外国での実践的コミュニケーションについて、半年を通じて学習する。単に語学だけではなく、コミュニケーションに必要な身振り手振り、風習など文化的な側面の知識もふまえて、実践的な側面から講義、演習を行う。授業はこれらの国での調査経験のある担当教員がアレンジし、留学生などネイティブを講師として招きながら行う。学生は、それぞれの関心に応じて、クラスに分かれて学習するが、共通ガイダンス、英語研修、中間および最終プレゼンテーションの時間などには合同での授業とする。アジアフィールドワークの派遣先などによって、言語も変更する可能性がある。学生の希望がないクラス (地域) はその年度には開かない。 (クラス分け) (稲岡) バングラデシュ、アフリカ (辻) ベトナム、スリランカ (中井) タイ、ミャンマー (藤村) インドネシア、ラオス</p>	
インターンシップ S	<p>(概要) 実務訓練、および事前・事後学習を通して、現実の社会や学問の応用などについて体験し、考察する。 (集中、1週間、クラス分け、担当者は行先による) 夏季休暇中の1週間 (5日間)、現地での研修を行う。あわせて、事前学習、事後報告 (報告会およびレポート作成) を行う。</p>	
インターンシップ L	<p>(概要) 実務訓練、および事前・事後学習を通して、現実の社会や学問の応用などについて体験し、考察する。 (集中、2週間、クラス分け、担当者は行先による) 夏季休暇中の2週間 (10日間)、現地での研修を行う。あわせて、事前学習、事後報告 (報告会およびレポート作成) を行う。</p>	
アジア・フィールドワーク	<p>(概要) 学生は、自ら海外調査を企画し、海外渡航の諸手続きをはじめ現地受入機関の協力を得るために必要かつ適切な事前準備の仕方を体験する。教員は、1) 事前学習では調査地の概要を把握し調査目的を明確にさせるほか、渡航計画を立てさせ渡航上の諸注意を共有させる。2) 現地調査を実施し、現地の外国人インフォーマントと良好な人間関係を形成して必要なデータを収集させる。3) 事後学習では調査レポートを報告させる。 (集中、共同) 1. 事前学習 (1) 授業ガイダンス (2) 現地概要の把握と調査目的の明確化、海外渡航上の諸注意 (3) 調査計画の立案 2. 海外調査の実施 (7~10日間) 3. 事後学習 (1) 調査データの整理と分析 (2) 調査報告書のとりまとめ (3) 報告会でのプレゼンテーション</p>	
民法IV	<p>(概要) 民法が規定する典型契約の概要を理解し、取引社会で用いられる契約の意味を正確に理解できるようにするために、債権各論領域のうち主として13の典型契約についての概説をする。</p>	
農村社会学	<p>(概要) 日本や世界の農村が現在どのような生活や生業、地域維持上の課題に直面しているのか、それをどのような視点からどのように研究すればよいのかについて、農村社会の基礎構造という視点から考えるための基本的な知識を身につけることを目的とする。学生による討論や発表も組み入れた講義形式とする。 内容としては以下のことについて講義する。1、日本の地域組織の特徴 2、「家」(いえ)についての理論 3、「家」をめぐる現在の諸問題 4、「村落」についての理論 5、農的・自然的の管理と村落 6、コモンズ論 7、村落の社会関係 8、変容する村落 9、農山漁村の過疎・高齢化10、森林資源の管理 11、水の管理と農村組織 12、水の管理と農村 (事例) 13、アジアの農村社会 14、アジアの農村問題 15、まとめ(討論)</p>	
人口学	<p>(概要) 人口とはヒトの数であり、人口学とはそれに関する法則性やメカニズムを研究する学問であるため、人類の生存を考える上で不可欠である。人口の法則性の研究は形式人口学あるいは人口統計学とも呼ばれ、一方、メカニズムの研究は世界の人口集団を対象とした研究であるため、裾野が大変広い。本講義では人口学の基礎から現代人口学までを概説する。 (単独/全15回) 授業内容としては、人口統計学の基礎、集団人口学の実例、様々な人口研究、現代人口学の射程について、それぞれ数回に分けて講義を行う。</p>	

地域資源論	(概要) 本講義では、地理学の立場から、農山漁村の成り立ちとその資源化について解説する。とりわけ、近年、ルーラル・ツーリズムに代表されるような農山漁村空間の商品化が進んでおり、具体的な事例を挙げながら紹介する。ただし、こうした現代日本の農山漁村の資源化や活用について考えるためには、そもそも農山漁村とはどのような場所であるのかを理解しておく必要がある。そのため地理学的視点や地域概念について、前半の講義で説明する。(312 藤永 豪)	隔年
経営史	(概要) 主に企業家や企業のケーススタディーから、今日の状況に問題意識を持ちつつ、経営について歴史的に理解する。歴史的に優れた企業や経営者の要件を理解し、それを今日や今後に活かしていくこととつめていくことで一応の到達点とします。さらにこの授業は、学力1. 知識と技能、2. 課題発見・問題解決能力、3. 個人と社会の発展を支える力のいずれも習得することを目標とする。	
民法Ⅱ	(概要) 民法(財産法)のうち、物権に関するルールを学びます。物権の代表格は所有権です。前半は、まず所有権の内容を確認した上で、それが侵害された場合の救済、所有権を取得する方法や、取得したことを外部に主張するための要件等を解説します。後半は、債権(例えば、貸金)を確実に回収するために、他人の物を裁判所の手続を通じて強制的に売却する権利である「担保物権」の仕組みを解説する。	
アグリビジネス論	(概要) アグリビジネス論における基礎概念や基礎理論を、多様なアグリビジネスの展開事例を例示して平易に解説する。 (単独、全15回) 第1回：戦後の日本経済とアグリビジネス 一学問的領域と背景一 第2回：食料貿易とアグリビジネス 第3回：食料消費動向と加工食品 第4回：加工食品のハーフィンダール指数と累積生産集中度 第5回：清酒製造業と好適米生産・契約栽培 第6回：パン製造業とパン用小麦生産・契約栽培 第7回：素麺製造業と普通小麦生産・地元原料生産 第8回：菓子製造と地元普通小麦生産 第9回：豆腐製造業と大豆契約栽培 第10回：味噌・醤油製造業と大豆契約栽培 第11回：野菜漬物製造業と高菜契約栽培 第12回：農産物直売所、学校給食と食育 第13回：食料・農業・農村基本法における食品産業政策 第14回：アグリビジネスにおける循環型社会形成のための廃棄物減量化及びリサイクルの推進 第15回：まとめ	
協同組合論	(概要) 本講義は、国際的かつ歴史的視点から、世界と日本の協同組合の役割について社会経済的に検討を行い、協同組合の独自性及びあり方を検討する。国連は2012年を国際協同組合年とした。世界で8億人、日本で4千万人以上が構成員である協同組合の社会経済上の独自性を、一般企業・NPOとの比較によって、協同組合の歴史・理論・現状の検討によって、運動体、組織体、経営体の視点から考察する。農業、消費、金融、中小企業、福祉、環境、就労における協同組合セクターの役割を検討する。 (単独、全15回) 第1回：協同組合論の意義と講義の概要：本授業の目的と課題、講義概要の説明 第2回：協同組合の定義：協同組合研究諸説の検討 第3回：世界協同組合の歴史①：消費組合(イギリス)、信用組合(ドイツ)、生産組合(フランス)の歴史的検討 第4回：世界協同組合の歴史②(イタリア、アメリカなど)：各国の協同組合の歴史的検討とその特質 第5回：東南アジア、アフリカの農協(スリランカ、バングラデシュ、マダガスカル) 第6回：東アジアの農協(中国、韓国、台湾) 第7回：日本協同組合の歴史①(江戸末期の先駆的形態と産業組合)：日本の協同組合の歴史について、その源流と産業組合について検討 第8回：日本協同組合の歴史②(戦後改革)：戦後改革期の協同組合 第9回：日本協同組合の歴史③：日本協同組合の現状 第10回：協同組合と株式会社とNPO：協同組合と株式会社とNPOの組織原理や経営原理 第11回：協同組合の現状と課題①：農協を中心に協同組合の現状と課題 第12回：協同組合の現状と課題②：生協を中心に協同組合の現状と課題 第13回：協同組合の現状と課題③：漁協・森林組合を中心に協同組合の現状と課題 第14回：協同組合の現状と課題④：協同組織金融(信金・信組・労金)の現状と課題 第15回：まとめ 協同組合の使命と課題	
ランドスケープ	自然保護や地域づくりの一環として、景観保全や街並み保全の手法が採用されるようになってきた。この授業では、ランドスケープの概念と領域を、地理的視点・工学的視点・文化的視点・環境的視点などの様々な視点から理解すると共に、日本における「景観・風景」と欧米における「ランドスケープ」の違いを把握する。さらに、日本と海外における街並み保全の事例や新たな都市景観創造の事例をケーススタディとしながら、良好なランドスケープを形成あるいは保全するための理論と方法を都市空間要素ごとに学ぶ。最後に、ランドスケープ形成に関する仕組み・制度および取り組み・活動について理解する。	
環境法	環境法学はまだ学問的に成熟してはいないが、現代の環境問題の解明と対応には不可欠となりつつある。講義の前半では、環境法の歴史や基礎的事項を述べ、それが民法や行政法からどのようにして分化し、政策科学的色彩を強めつつあるかを示す。後半では、具体的な問題に即して講義する。	

農村と産業演習Ⅱ	<p>(概要) 教員(辻)は、学生の研究課題に応じた調査票作成、調査データ収集、データ分析内容についてアドバイスし、調査報告書のとりまとめ方について助言し、地域の農家・食品製造業者・流通業者・農協などのマーケティング戦略に関する分析結果を報告・討論させる。 教員(五十嵐)は、学生の研究テーマの選定・調査計画の立案を概説し、学生による地域調査報告とディスカッションを通して、農村ビジネスの課題について学ばせる。 (オムニバス/全15回) (26 辻 一成/10回) 第1回:農業経営における資本利用の調査(資本集約度の分析) 第2回:農業経営における労働力利用の調査(労働集約度の分析) 第3回:農業経営における土地利用の調査(土地集約度の分析) 第4回:農業経営における技術構造と生産力要因の調査(合理的な農業経営組織の編成と経営成果の分析) 第5回:調査データの一次分析と報告書の作成 第6回:食品(素麺)製造業者のマーケティング戦略(発表と討論) 第7回:地方卸売市場(青果,花卉)の卸売戦略(発表と討論) 第8回:地方スーパーマーケットの小売戦略(発表と討論) 第9回:農産物直売所の小売戦略(発表と討論) 第10回:農協の販売事業戦略(発表と討論) (79 五十嵐 勉/5回) 第11回:研究テーマ及び調査地域の選定 第12回:調査地域の概要についての発表(調査報告) 第13回:先行研究・資料についての発表(研究報告) 第14回:調査結果の報告及びディスカッション(前半)(ディスカッション) 第15回:調査結果の報告及びディスカッション(後半)(ディスカッション) 定期試験</p>	オムニバス方式
環境と生活演習Ⅱ	<p>(概要) 農村調査について、調査地に赴いてデータを収集し、分析し、考察するまでの必要な事柄について習得させる。 (オムニバス/全15回) (2 稲岡 司/5回) 第1回:各自の調査計画や調査内容についての検討 第2回:データの収集(本調査) 第3回:データの収集(本調査) 第4回:データの収集(本調査) 第5回:量的なデータの整理について (27 藤村 美徳/5回) 第6回:収集したデータの分析作業(統計データの整理) 第7回:収集したデータの分析作業(表,グラフの作成) 第8回:収集したデータの分析作業(質的データの整理) 第9回:先行研究とのディスカッション 第10回:先行研究とのディスカッション (44 中井 信介/5回) 第11回:学生による発表と討論(前半) 第12回:学生による発表と討論(後半) 第13回:最終レポートの作成 第14回:最終レポートの作成(まとめ) 第15回:農村の環境や生活についての、新たな課題の発見</p>	オムニバス方式
科学英語	<p>(概要) 本科目は、専攻した教育研究分野に関連した分野について、正確な英文読解力を養うためのものである。所属する教育研究分野が指定する英文の専門書・文献を読んだうえで、その内容について学生が説明・討議を行う。 (クラス分け/全15回) 第1回:講義の概要、進め方、英語文献の紹介と説明 第2回~第7回:英語文献の講読と討議 第8回:小括 第9回~第14回:英語文献の講読と討議 第15回:授業の総括</p>	
卒業研究Ⅰ	<p>(概要) 学生は、大学(学士課程)で学ぶ専門分野の知識や分析の方法を実社会においてどのように役立てることができるかを考え、論文にまとめたり人に説明したりする能力を磨く。教員は、演習をとおして、卒業論文制作のための文献収集、データ収集、データ分析、プレゼンテーション能力の基礎を固め、卒業研究Ⅱの学習への円滑な接続をはかる。 下記の内容について立案・実行する。学生の研究進捗の個性も考慮に入れ、特に回数等は区分しない。 1. 研究計画の立案 (1) 先行研究(文献資料)の要約(報告と討論) (2) 研究資料の収集と一次分析(報告と検討) (3) 研究計画の検討(課題と研究方法の決定) (4) 調査計画の検討と作成 2. プレゼンテーションの基礎 (1) 説得力のあるプレゼンテーション(時間配分と発表の態度、配布資料の作り方) (2) ワード・エクセル・パワーポイントの効果的な使用法(文書作成、表計算、図表作成の方法) (クラス分け,全15回) (稲岡) 上記のうち健康・保健問題を用いた研究について指導を行う。 (辻) 上記のうち経済や経営を対象とする研究について指導を行う。 (中井) 上記のうち生業研究、地域振興を対象とする研究について指導を行う。 (藤村) 上記のうち農村問題、環境問題を対象とする研究について指導を行う。 (五十嵐) 上記のうち、地理的手法、住民参加に関する研究について指導を行う。</p>	

<p>アカデミック・プレゼンテーション I</p>	<p>(概要) 効果的なプレゼンテーションのスキルは、基本的な話し方、プレゼンの固有技術、プレゼンの組み立てからなる。本授業で、学生はこれらのうち基本的な話し方とプレゼンの組み立てについて学ぶ。教員は、演習をとおして、学術研究報告やビジネスプランなど効果的なプレゼンテーションのスキルを身につけさせる。 (共同、全15回) 下記の内容について講義と演習を組み合わせる。学生の研究進捗の個性も考慮に入れ、特に回数等は区分しない。 1. プレゼンテーションのスキルとは何か (1) 基本的な話し方 (2) プレゼンテーション固有の技術 (3) 組み立て 2. 効果的なプレゼンテーションの構成 (1) ストーリー作りのセオリー (2) 説得力のあるストーリー (3タイプ) (3) ストーリーの組み方 3. プレゼンテーション時の聴衆とのコミュニケーション (1) 本番前のチェックポイント (2) 配布資料の使い方 (3) アイコンタクト (4) ボディランゲージ (5) スクリーンの指し方 (6) 質疑応答のスキル 4. 演習 (1) 1分スピーチ (2) 3分スピーチ (3) 5分スピーチ</p>	
<p>国際・地域インターンシップ</p>	<p>(概要) 学生が、企業などのグローバル化に対応して、各国の経済状況や文化を実際に体験しながら、働き方や文化の違いを学び、将来的にはグローバル企業への就職など学生のキャリア形成支援につなげていくための科目である。 (集中、2週間、クラス分け、担当者は行先による) 夏季休暇中の2週間、現地での研修を行う。あわせて、事前学習、事後報告 (報告会およびレポート作成) を行う。実習先は、提携大学のプログラムへの参加または、卒業生の勤務先、NPOなどで、安全が確保できる研修先とする。</p>	
<p>卒業研究 II</p>	<p>(概要) 学生は、卒業研究 I で修得した技能を用いて、卒業論文制作のための関係資料の収集、データ分析と結果の考察を行い、卒業論文をまとめる。また、その内容を報告して的確な質疑応答をする。 (授業計画) 下記の内容について立案・実行する。学生の研究進捗の個性も考慮に入れ、特に回数等は区分しない。 1. 調査 (1) 予備調査、本調査の実施 (一次データの収集) (2) 参与観察の記録 2. 調査結果のまとめ (1) データの整理・集計 (2) 結果の分析と考察 3. 卒業論文の作成 (1) 構成の検討と執筆 4. プレゼンテーション (1) 論文の発表とディフェンス (的確な質疑応答) (クラス分け、全15回) (稲岡) 上記のうち健康・保健問題を用いた研究について指導を行う。 (辻) 上記のうち経済や経営を対象とする研究について指導を行う。 (中井) 上記のうち生業研究、地域振興を対象とする研究について指導を行う。 (藤村) 上記のうち農村問題、環境問題を対象とする研究について指導を行う。 (五十嵐) 上記のうち、地理的手法、住民参加に関する研究について指導を行う。</p>	
<p>アカデミック・プレゼンテーション II</p>	<p>(概要) 学生は、卒業研究 I で修得した技能を用いて、卒業論文制作のための関係資料の収集、データ分析と結果の考察を行い、卒業論文をまとめる。また、その内容を報告して的確な質疑応答をする。 (共同、全15回) 下記の内容について立案・実行する。学生の研究進捗の個性も考慮に入れ、特に回数等は区分しない。 1. 調査 (1) 予備調査、本調査の実施 (一次データの収集) (2) 参与観察の記録 2. 調査結果のまとめ (1) データの整理・集計 (2) 結果の分析と考察 3. 卒業論文の作成 (1) 構成の検討と執筆 4. プレゼンテーション (1) 論文の発表とディフェンス (的確な質疑応答)</p>	

教 員 の 氏 名 等												
(農学部 生物資源科学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数
1	専	教授	チヨウ ヒロキ 長 裕幸 <平成31年4月>		農学博士		物理学 土壌環境科学 英書講読 科学英語 実験食資源環境科学 農地環境工学 食資源環境科学演習 インターンシップ S インターンシップ L 卒業研究	1前 2後 3前 3後 3後 3後 4前 3前・3後 3前・3後 4通	2 2 2 2 2 2 1 1 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 教授 (昭和55年7月)	5日
	兼任	非常勤 講師	チヨウ ヒロキ 長 裕幸 <平成32年4月>		農学博士		物理学 土壌環境科学 農地環境工学	1前 2後 3後	2 2 2	1 1 1	佐賀大学 農学部 非常勤講師 (平成32年4月)	日
2	専	教授	付村 ヲサ 稲岡 司 <平成31年4月>		保健学 博士		農学概論※ 地域創成学Ⅰ※ アグリキャリアデザイン※ 農村の環境・健康問題 人間開発論 社会統計学 人口学 国際・地域マネジメント入門※ 社会調査実習Ⅰ 国際地域調査法※ 社会調査実習Ⅱ 社会統計学 環境と生活演習Ⅰ※ インターンシップS インターンシップL アジア・フィールドワーク 実践語学 環境と生活演習Ⅱ※ 科学英語 卒業研究Ⅰ アカデミック・プレゼンテーションⅠ 国際・地域インターンシップ 卒業研究Ⅱ アカデミック・プレゼンテーションⅡ	1後 2前 1前 2後 2前 2後 3後 2前 2前 2前 2後 2後 3前 3前 3前 3前 3後 3後 4前 4前 4前 4後 4後	0.4 0.3 0.3 2 2 2 2 0.5 1 0.5 2 2 0.4 1 1 1 0.4 2 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1	佐賀大学 農学部 教授 (平成14年7月)	5日
	兼任	非常勤 講師	付村 ヲサ 稲岡 司 <平成32年4月>		保健学 博士		人間開発論 社会統計学 人口学	2前 2後 3後	2 2 2	1 1 1	佐賀大学 農学部 非常勤講師 (平成32年4月)	日
3	専	教授	アリマ スミ 有馬 進 <平成31年4月>		博士 (農学)		アグリキャリアデザイン※ 栽培学汎論※ 生物科学概論Ⅱ※ 食用作物学※ 生物学実験※ 応用生物学実験※ 作物学実験Ⅰ※ 科学英語 インターンシップS 作物学実験Ⅱ※ 生物科学英語 生物情報処理演習 インターンシップL 生物科学演習Ⅰ 生物科学演習Ⅱ 卒業研究	1前 1後 2後 2後 2前 2後 3前 3前・後 3後 3後 3後 3前・後 4前 4後 4通	0.3 0.8 0.1 0.5 0.1 0.1 0.5 2 1 0.2 2 2 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 教授 (昭和59年3月)	5日

4	専	教授	マナチ シタロウ 野間口 眞太郎 <平成31年4月>	理学博士	生物統計学 生物科学概論Ⅱ※ 生物学実験※ 行動生態学 応用生物学実験※ 生態学実験Ⅰ 科学英語 インターンシップ S 生態学実験Ⅱ 生物科学英語 生物情報処理演習 インターンシップ L 生物科学演習Ⅰ 生物科学演習Ⅱ 卒業研究	1後 2後 2前 2後 2後 3前 3前 3後 3後 3後 3前・後 4前 4後 4通	2 0.1 0.1 2 0.1 0.5 2 1 0.5 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 教授 (平成5年4月)	5日
	兼任	非常勤講師	マナチ シタロウ 野間口 眞太郎 <平成33年4月>	理学博士	生物統計学 行動生態学	1後 2後	2 2	1 1	佐賀大学 農学部 非常勤講師 (平成33年4月)	日
5	専	教授	ワナハ ケイ子 渡邊 啓一 <平成31年4月>	農学博士	くらしの中の生命科学※ 化学※ 農業ICT学※ 生物化学※ 食品科学※ 生化学 酵素化学※ 生命機能科学概説※ 化学基礎実験【隔年】 生化学実験※ インターンシップ S インターンシップ L 専門外書講読 基礎演習 生命機能科学演習Ⅰ 生物学基礎実験 生命機能科学演習Ⅱ 生命機能科学演習Ⅲ コスメ産業学 卒業研究	1・2後 1前 1後 1後 1後 2・3前 2前 3前 2前 3前 3前・後 3後 3後 3後 4前 4前 4後 3後 4通	0.1 0.5 0.5 1 0.3 2 0.7 0.1 1 0.1 1 2 2 2 1 2 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 教授 (昭和63年7月)	5日
	兼任	非常勤講師	ワナハ ケイ子 渡邊 啓一 <平成33年4月>	農学博士	生化学	2・3前	2	1	佐賀大学 農学部 非常勤講師 (平成33年4月)	1日
6	専	教授	ハナハ ケイ子 早川 洋一 <平成31年4月>	理学博士	生物科学の世界△※ 応用動物昆虫学※ 生物科学概論Ⅱ※ 生物学実験※ 昆虫学 応用生物学実験 ※ 昆虫学実験Ⅰ 科学英語 インターンシップ S 昆虫学実験Ⅱ 生物科学英語 生物情報処理演習 インターンシップ L 生物科学演習Ⅰ 生物科学演習Ⅱ 卒業研究	1・2前 2前 2後 2前 2前 2後 3前 3前 3前・後 3後 3後 3後 3前・後 4前 4後 4通	1.1 0.7 0.1 0.1 2 0.1 1 2 1 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 教授 (平成16年4月)	5日
	兼任	非常勤講師	ハナハ ケイ子 早川 洋一 <平成33年4月>	博士 (農学)	昆虫学 昆虫学実験Ⅰ 昆虫学実験Ⅱ	2前 3前 3後	2 1 1	1 1 1	佐賀大学 農学部 非常勤講師 (平成33年4月)	日

7	専	教授	ワカ ヤスヒコ 和田 康彦 <平成31年4月>	博士 (農学)	生物科学概論Ⅱ※ 暮らしの中の生命科学※ 情報基礎演習Ⅰ 食料と生活Ⅱ※ 生物学実験※ 畜産学※ 応用化学実験※ 科学英語 生物科学英語 動物資源開発学実験Ⅰ※ インターンシップS インターンシップL 動物遺伝育種学 動物資源開発学実験Ⅱ※ 生物科学演習Ⅰ 生物科学演習Ⅱ 卒業研究	2後 1・2後 1・2前 2後 2前 2後 2後 3前 3前 3前 3前・後 3前・後 3後 3後 4前 4後 4通	0.1 1.1 1 0.5 0.1 0.7 0.1 2 2 0.5 1 2 2 0.5 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 教授 (平成12年4月)	5日
8	専	教授	ハヤシ ノブキ 林 信行 <平成31年4月>	博士 (農学)	食品科学※ 生命機能科学概説※ 化学基礎実験【隔年】 化学実験Ⅰ 化学実験Ⅱ 食品工学 生物資源化学※ インターンシップ S インターンシップ L 専門外書講読 基礎演習 生命機能科学演習Ⅰ 生物学基礎実験 生命機能科学演習Ⅱ 生命機能科学演習Ⅲ 卒業研究	1後 3前 2前 2後 2後 3前 3後 3前・後 3前・後 3後 3後 3後 4前 4前 4後 4通	0.3 0.1 1 1 3 2 1 1 1 2 2 2 2 1 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 教授 (平成5年9月)	5日
9	専	教授	オシマ カズナト 大島 一里 <平成31年4月>	農学博士	暮らしの中の生命科学※ 生物科学概論Ⅱ※ 生物学実験※ 植物病理学※ 応用化学実験※ 植物病理学実験Ⅰ※ 科学英語 インターンシップ S 植物病理学実験Ⅱ※ 生物科学英語 生物情報処理演習 インターンシップ L 生物科学演習Ⅰ 生物科学演習Ⅱ 卒業研究	1・2後 2後 2前 2・3後 2後 3前 3前 3前・後 3後 3後 3後 3前・後 4前 4後 4通	0.1 0.1 0.1 1 0.1 0.6 2 1 0.6 2 2 2 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 教授 (平成4年5月)	5日
10	専	教授	イマル カンジ 石丸 幹二 <平成31年4月>	薬学博士	食料と生活Ⅲ※ 生物学※ 生物科学概論Ⅱ※ 生物学実験※ 植物生理学※ 応用化学実験※ 植物代謝解析学実験Ⅰ 科学英語 インターンシップ S 植物代謝解析学実験Ⅱ 生物科学英語 生物情報処理演習 インターンシップ L 生物科学演習Ⅰ 生物科学演習Ⅱ 卒業研究	3前 1前 2後 2前 2前 2後 3前 3前 3前・後 3後 3後 3後 3前・後 4前 4後 4通	0.5 0.4 0.1 0.1 0.6 0.1 1 2 1 1 2 2 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 教授 (平成2年6月)	5日

11	専	教授	ヨシタ(マイ) ショウキ 吉平(郷) 紹輝 <平成31年4月>	博士 (農学)	食料と生活Ⅰ※ 農学概論※ 栽培学汎論※ 生物科学概論Ⅰ※ 生物学実験※ 熱帯作物学 ※ 応用生物学実験※ 熱帯作物改良学実験Ⅰ※ 科学英語 インターンシップ S 熱帯作物改良学実験Ⅱ※ 生物科学英語 生物情報処理演習 インターンシップ L 生物科学演習Ⅰ 生物科学演習Ⅱ 卒業研究	2前 1後 1後 2前 2前 2後 2後 3前 3前 3前・後 3後 3後 3後 3前・後 4前 4後 4通	0.5 0.4 0.8 0.1 0.1 1 0.1 2 1 0.5 2 2 2 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 教授 (平成16年7月)	5日
12	専	教授	ハマ ヨシイロウ 濱 洋一郎 <平成31年4月>	博士 (農学)	農学概論※ 食品科学※ 生命機能科学概説※ 化学基礎実験【隔年】 化学実験Ⅰ 食品衛生学※ 化学実験Ⅱ 食品化学※ 食糧安全学※ インターンシップ S インターンシップ L 専門外書講読 基礎演習 生命機能科学演習Ⅰ 生物学基礎実験 生命機能科学演習Ⅱ 生命機能科学演習Ⅲ 卒業研究	1後 1後 3前 2前 2後 2後 2後 3前 3前・後 3前・後 3後 3後 3後 4前 4前 4後 4通	0.4 0.3 0.1 1 1 1.2 3 1 0.8 1 2 2 2 1 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 教授 (平成14年5月)	5日
13	専	教授	コバヤシ ゲンタ 小林 元太 <平成31年4月>	博士 (農学)	食料と生活Ⅳ※ 食品科学※ 生命機能科学概説※ 化学基礎実験【隔年】 分子生物学 微生物学実験 応用微生物学 インターンシップ S インターンシップ L 専門外書講読 基礎演習 生命機能科学演習Ⅰ 生物学基礎実験 生命機能科学演習Ⅱ 生命機能科学演習Ⅲ 卒業研究	3後 1後 3前 2前 2後 3前 3前・後 3前・後 3後 3後 3後 4前 4前 4後 4通	0.5 0.3 0.1 1 2 1 2 2 2 2 2 1 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 教授 (平成17年5月)	5日
14	専	教授	イチシロ シロウ 一色 司郎 <平成31年4月>	博士 (農学)	大学入門科目Ⅰ 食料と生活Ⅱ※ 生物学実験※ 応用生物学実験※ 栽培学汎論※ 農学概論※ 園芸学※ 蔬菜花卉園芸学実験Ⅰ※ 蔬菜花卉園芸学実験Ⅱ※ 生物科学概論Ⅰ※ 生物科学概論Ⅱ※ 蔬菜花卉園芸学※ インターンシップ S インターンシップ L 科学英語 生物科学英語 生物情報処理演習 生物科学演習Ⅰ 生物科学演習Ⅱ 卒業研究	1前 2後 2前 2後 1後 1前 2・3前 3前 3後 2前 2後 2後 3前・後 3後・後 3前 3後 3後 4前 4後 4通	2 0.5 0.1 0.1 0.4 0.4 0.4 0.5 0.5 0.1 0.1 0.8 1 2 2 2 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 教授 (平成5年4月)	5日

15	専	教授	アライ トヨアキ 穴井 豊昭 <平成31年4月>	博士 (理学)	食料と生活Ⅱ※ 生物学※ 生物科学概論Ⅰ※ 遺伝学※ 生物学実験※ 植物育種学 ※ 応用化学実験※ 植物分子育種学実験Ⅰ※ 科学英語 インターンシップ S 分子遺伝学※ 植物分子育種学実験Ⅱ※ 生物科学英語 生物情報処理演習 インターンシップ L 生物科学演習Ⅰ 生物科学演習Ⅱ 卒業研究	2後 1前 2前 2前 2後 2後 3前 3前 3前 3後 3後 3後 3前・後 4前 4後 4通	0.5 0.5 0.1 0.7 0.1 0.7 0.1 0.5 2 1 0.7 0.5 2 2 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 教授 (昭和63年4月)	5日
16	専	教授	コトカ マサトシ 後藤 正利 <平成31年4月>	博士 (農学)	食料と生活Ⅳ※ 食品科学※ 微生物学 生命機能科学概説※ 化学基礎実験【隔年】 微生物学実験 遺伝子工学 インターンシップ S インターンシップ L 専門外書講読 基礎演習 生命機能科学演習Ⅰ 生物学基礎実験 生命機能科学演習Ⅱ 生命機能科学演習Ⅲ 卒業研究	3後 1後 2前 3前 2前 3前 3後 3前・後 3前・後 3後 3後 3後 4前 4前 4後 4通	0.5 0.3 2 0.1 1 2 2 1 2 2 2 1 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 教授 (平成28年4月)	5日
17	専	教授	スズキ アキヒロ 鈴木 章弘 <平成31年4月>	博士 (理学)	生物科学の世界A※ 生物学※ 生物科学概論Ⅱ※ 植物生理学※ 食用作物学※ 生物学実験※ 応用化学実験※ 作物学実験Ⅰ※ 科学英語 インターンシップ S 作物学実験Ⅱ※ 生物科学英語 生物情報処理演習 インターンシップ L 生物科学演習Ⅰ 生物科学演習Ⅱ 卒業研究	1・2前 1前 2後 2前 2後 2前 2後 3前 3前 3前・後 3後 3後 3後 3前・後 4前 4後 4通	0.9 0.5 0.1 0.5 0.7 0.1 0.1 0.5 2 1 0.5 2 2 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 教授 (平成17年4月)	5日
18	専	教授	タナカ ムネヒロ 田中 宗浩 <平成31年4月>	博士 (農学)	農学概論※ 農業ICT学※ 2年間でできる「がばいベンチャー」の作り方Ⅰ 2年間でできる「がばいベンチャー」の作り方Ⅱ 2年間でできる「がばいベンチャー」の作り方Ⅲ 2年間でできる「がばいベンチャー」の作り方Ⅳ 栽培環境制御学 農産食品流通貯蔵学 英書講読 科学英語 実験食資源環境科学 食資源環境科学演習 インターンシップ S インターンシップ L 卒業研究	1後 1後 2前 2後 3前 3後 2前 2後 3前 3後 3後 4前 3前・3後 3前・3後 4通	0.4 0.9 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 1 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 教授 (平成9年7月)	5日

19	専	教授	ナガオ コウジ 永尾 晃治 <平成31年4月>	博士 (農学)	食と健康 I ※ 食品科学※ 生命機能科学概説※ 化学基礎実験【隔年】 化学実験 I 栄養化学 化学実験 II 食品機能化学 インターンシップ S インターンシップ L 専門外書講読 基礎演習 生命機能科学演習 I 生物学基礎実験 生命機能科学演習 II 生命機能科学演習 III 卒業研究	2前 1後 3前 2前 2後 2・3後 2後 3前 3前・後 3前・後 3後 3後 3後 4前 4前 4後 4通	0.7 0.3 0.1 1 1 2 3 2 1 2 2 1 1 2 2 1 1 2 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 教授 (平成12年12月)	5日
20	専	教授	キタキ ヒロシ 北垣 浩志 <平成31年4月>	博士 (農学)	情報基礎概論 農業ICT学※ 英書講読 食資源物質工学 科学英語 実験食資源環境科学 食資源環境科学演習 インターンシップ S インターンシップ L 卒業研究	1前 1後 3前 3前 3後 3後 4前 3前・3後 3前・3後 4通	2 0.3 2 2 2 2 1 1 2 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 教授 (平成20年4月)	5日
21	専	教授	ソウ ノブアキ 宗 伸明 <平成31年4月>	博士 (工学)	食品科学※ 物理化学 分析化学※ 生命機能科学概説※ 化学基礎実験【隔年】 生化学実験※ インターンシップ S インターンシップ L 専門外書講読 基礎演習 生命機能科学演習 I 生物学基礎実験 生命機能科学演習 II 生命機能科学演習 III 卒業研究	1後 2前 3前 3前 2前 3前 3前・後 3前・後 3後 3後 3後 4前 4前 4後 4通	0.3 2 1 0.1 1 0.3 1 2 2 2 1 2 2 1 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 教授 (平成23年4月)	5日
22	専	教授	カミムラ ヨシオ 川村 嘉広 <平成31年4月>	博士 (農学)	水圏生物学※ 食料と生活IV※ 水産増養殖学※	3前 3後 3後	1 0.5 1	1 1 1	佐賀大学 農学部 特任教授 (平成29年11月)	5日
23	専	准教授	ウエダ トシキ 上田 敏久 <平成31年4月>	理学博士	実験化学 I ※ 有機化学 生物有機化学 生命機能科学概説※ 化学基礎実験【隔年】 生化学実験※ インターンシップ S インターンシップ L 専門外書講読 基礎演習 生命機能科学演習 I 生物学基礎実験 生命機能科学演習 II 生命機能科学演習 III 卒業研究	1・2前 2・3前 2・3前 3前 2前 3前 3前・後 3前・後 3後 3後 3後 4前 4前 4後 4通	0.3 2 2 0.1 1 0.3 1 2 2 2 1 2 2 1 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 准教授 (平成1年3月)	5日

24	専	准教授	ウエノ キハチ 上 榎 喜八 <平成31年4月>	博士 (農学)	食用作物学※ 環境保全型農業論※ 生物科学概論Ⅰ※ 科学英語 生物科学英語 生物情報処理演習 生物科学演習Ⅰ 生物科学演習Ⅱ フィールド科学基礎実習Ⅰ フィールド科学基礎実習Ⅱ 遺伝資源フィールド科学実験Ⅰ※ 遺伝資源フィールド科学実験Ⅱ※ インターンシップ S インターンシップ L 卒業研究	2後 2後 2前 3前 3後 3後 4前 4後 2前 2後 3前 3後 3前・後 3前・後 4通	1 1 0.1 2 2 2 2 2 1 1 0.3 0.3 1 1 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 准教授 (平成17年4月)	5日
25	専	准教授	イハハ シゲキ 稲葉 繁樹 <平成31年4月>	博士 (農学)	情報基礎演習Ⅰ 農業ICT学※ 生産情報処理学 環境基礎解析学Ⅱ 農業生産機械学 英書講読 設計・製図学 科学英語 実験食資源環境科学 CAD利用学 食資源環境科学演習 インターンシップ S インターンシップ L 卒業研究	1前 1後 2前 2後 2・3後 3前 3前 3後 3後 3後 4前 3前・3後 3前・3後 4通	1 0.8 2 2 2 2 2 2 2 2 1 1 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 准教授 (平成2年1月)	5日
26	専	准教授	ウツ カズナリ 辻 一成 <平成31年4月>	博士 (農学)	地域創成学Ⅰ※ アグリキャリアデザイン※ 農業経済学 農業ビジネスマネジメント学 国際・地域マネジメント入門※ 社会調査実習Ⅰ 国際地域調査法※ 社会調査実習Ⅱ 農村と産業演習Ⅰ※ インターンシップS インターンシップL アジア・フィールドワーク 実践語学 農村と産業演習Ⅱ※ 科学英語 卒業研究Ⅰ アカデミック・プレゼンテーションⅠ 国際・地域インターンシップ 卒業研究Ⅱ アカデミック・プレゼンテーションⅡ	2前 1前 1後 3前 2前 2前 2前 2後 3前 3前 3前 3前 3前 3後 3後 4前 4前 4前 4後 4後	0.3 0.5 2 2 0.5 1 0.5 2 0.5 1 1 1 0.5 2 2 1 1 2 4 2 4 1	1 1	佐賀大学 農学部 准教授 (平成15年1月)	5日
27	専	准教授	フジムラ ミホ 藤村 美穂 <平成31年4月>	博士 (社会学)	大学入門科目Ⅰ 地域環境の保全と市民社会Ⅲ※ アグリキャリアデザイン※ 農村の環境・健康問題 環境社会学 国際・地域マネジメント入門※ 社会調査実習Ⅰ 国際地域調査法※ 社会調査実習Ⅱ 環境と生活演習Ⅰ※ インターンシップS インターンシップL アジア・フィールドワーク 実践語学 環境と生活演習Ⅱ※ 科学英語 農村社会学 卒業研究Ⅰ アカデミックプレゼンテーションⅠ 国際・地域インターンシップ 卒業研究Ⅱ アカデミックプレゼンテーションⅡ	1前 3前 1前 2後 2前 2前 2前 2後 3前 3前 3前 3前 3前 3前 3後 3後 4前 4前 4前 4後 4後	2 0.3 0.5 2 2 0.5 1 0.5 2 0.3 1 2 1 0.3 2 2 4 1 2 4 1	1 1	佐賀大学 農学部 准教授 (平成9年10月)	5日

28	専	准教授	クサハ モトキ 草場 基章 <平成31年4月>	博士 (農学)	暮らしの中の生命科学※ 生物学※ 生物学概論Ⅱ※ 生物学実験※ 植物病理学※ 応用化学実験※ 植物病理学実験Ⅰ※ 科学英語 インターンシップ S 植物病理学実験Ⅱ※ 生物科学英語 生物情報処理演習 インターンシップ L 生物科学演習Ⅰ 生物科学演習Ⅱ 卒業研究	1・2後 1前 2後 2前 2・3後 2後 3前 3前 3前・後 3後 3後 3後 3前・後 4前 4後 4通	0.1 0.7 0.1 0.1 1 0.1 0.4 2 1 0.4 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 准教授 (平成10年4月)	5日
29	専	准教授	ハヤミ ヨウイチ 速水 祐一 <平成31年4月>	博士 (農学)	有明海学Ⅰ※ 有明海学Ⅲ 有明海学Ⅳ	2前 3前 3後	0.7 1.2 2	1 1 1	佐賀大学 理工学部 教授 (平17.4)	5日
30	専	准教授	ヨシガ トヨシ 吉賀 豊司 <平成31年4月>	博士 (農学)	生物学概論Ⅱ※ 応用動物昆虫学※ 生物学実験※ 線虫学 応用化学実験※ 線虫学実験Ⅰ 科学英語 インターンシップ S 線虫学実験Ⅱ 生物科学英語 生物情報処理演習 インターンシップ L 生物科学演習Ⅰ 生物科学演習Ⅱ 卒業研究	2後 2前 2前 2前 2後 3前 3前 3前・後 3後 3後 3後 3前・後 4前 4後 4通	0.1 0.6 0.1 2 0.1 1 2 1 1 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 准教授 (平成11年10月)	5日
31	専	准教授	コトウラ ナブヒロ 古藤田 信博 <平成31年4月>	博士 (農学)	暮らしの中の生命科学※ 食料と生活Ⅲ※ 生物学概論Ⅰ※ 生物学概論Ⅱ※ 植物生理学※ 園芸学※ 生物学実験※ 果樹園芸学※ 応用化学実験※ 果樹園芸学実験Ⅰ 科学英語 インターンシップ S 果樹園芸学実験Ⅱ 生物科学英語 生物情報処理演習 インターンシップ L 生物科学演習Ⅰ 生物科学演習Ⅱ 卒業研究	1・2後 3前 2前 2後 2前 2・3前 2前 2後 2後 3前 3前 3前・後 3後 3後 3後 3前・後 4前 4後 4通	0.1 0.5 0.1 0.1 0.7 0.4 0.1 1 0.1 1 2 1 1 2 2 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 准教授 (平成25年7月)	5日
32	専	准教授	フクダ シンジ 福田 伸二 <平成31年4月>	博士 (農学)	食料と生活Ⅰ※ 生物学概論Ⅰ※ 園芸学※ フィールド科学基礎実習Ⅰ 果樹園芸学※ フィールド科学基礎実習Ⅱ 科学英語 インターンシップS 遺伝資源フィールド科学実験Ⅰ※ 遺伝資源フィールド科学実験Ⅱ※ 生物科学英語 生物情報処理演習 インターンシップL 生物科学演習Ⅰ 生物科学演習Ⅱ 卒業研究	2前 2前 2・3前 2前 2後 2後 2後 3前 3前・後 3前 3後 3後 3後 3前・後 4前 4後 4通	0.5 0.1 0.4 1 1 1 1 1 1 0.2 0.2 2 2 2 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 准教授 (平成26年4月)	5日

33	専	准教授	バクチ トモス 原口 智和 <平成31年4月>		博士 (農学)	環境水理学 I 環境水理学演習 I 英書講読 科学英語 実験食資源環境科学 食資源環境科学演習 インターンシップ S インターンシップ L 卒業研究	2後 2後 3前 3後 3後 4前 3前・3後 3前・3後 4通	2 2 2 2 2 1 1 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 准教授 (平成17年8月)	5日
34	専	准教授	コサヤマ マスミ 郡山 益実 <平成31年4月>		博士 (農学)	環境科学 II ※ 有明海学 I ※ 有明海学 II 有明海学 III ※ 有明海学 IV 英書講読 科学英語 実験食資源環境科学 干潟環境学 食資源環境科学演習 インターンシップ S インターンシップ L 卒業研究	1・2前 2前 2後 2後 3後 3前 3後 3後 4前 3前・3後 3前・3後 4通	1.1 0.5 2 0.3 2 2 2 2 1 1 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 准教授 (平成17年4月)	5日
35	専	准教授	ミツカ スム 光武 進 <平成31年4月>		博士 (農学)	食料と生活 III ※ 化学 ※ 生命機能科学概説 ※ 化学基礎実験【隔年】 化学実験 I 食品衛生学 ※ 化学実験 II 食糧安全学 ※ インターンシップ S インターンシップ L 専門外書講読 基礎演習 生命機能科学演習 I 生物学基礎実験 生命機能科学演習 II 生命機能科学演習 III 卒業研究	3前 1前 3前 2前 2後 2後 2後 3前 3前・後 3前・後 3後 3後 3後 4前 4前 4後 4通	0.5 0.5 0.1 1 1 0.4 3 1.2 1 2 2 2 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 准教授 (平成25年9月)	5日
36	専	准教授	ノマ セイジ 野間 誠司 <平成31年4月>		博士 (農学)	化学 ※ 生命機能科学概説 ※ 化学基礎実験【隔年】 化学実験 I 化学実験 II 食糧流通貯蔵学 インターンシップ S インターンシップ L 専門外書講読 基礎演習 生命機能科学演習 I 生物学基礎実験 生命機能科学演習 II 生命機能科学演習 III 卒業研究	1前 3前 2前 2後 2後 3前 3前・後 3前・後 3後 3後 3後 4前 4前 4後 4通	0.5 0.1 1 1 3 2 1 2 2 2 2 1 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 准教授 (平成26年1月)	5日
37	専	准教授	エハラ フミオ 江原 史雄 <平成31年4月>		博士 (農学)	食料と生活 I ※ 生物科学概論 II ※ フィールド科学基礎実習 I フィールド科学基礎実習 II 畜産学 ※ 遺伝資源フィールド科学実験 I ※ 遺伝資源フィールド科学実験 II ※ インターンシップ S インターンシップ L 動物飼養管理学 生物科学英語 生物情報処理演習 科学英語 生物科学演習 I 生物科学演習 II 卒業研究	2前 2後 2前 2後 2後 3前 3後 3前・後 3前・後 3前 3後 3後 3前 4前 4後 4通	0.4 0.1 1 1 0.6 0.2 0.2 1 2 2 2 2 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 准教授 (平成24年9月)	5日

38	専	准教授	ウエノ ダイスケ 上野 大介 <平成31年4月>	博士 (農学)	英書講読 科学英語 実験食資源環境科学 農薬化学 食資源環境科学演習 インターンシップ S インターンシップ L 卒業研究	3前 3後 3後 2・3後 4前 3前・3後 3前・3後 4通	2 2 2 2 1 1 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 准教授 (平成17年10月)	5日
39	専	准教授	ユカコ コスエ 弓削 ことえ <平成31年4月>	博士 (農学)	農業水理学 英書講読 農村環境計画学 科学英語 実験食資源環境科学 食資源環境科学演習 インターンシップ S インターンシップ L 卒業研究	2前 3前 3前 3後 3後 4前 3前・3後 3前・3後 4通	2 2 2 2 2 1 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 准教授 (平成25年10月)	5日
40	専	准教授	トクダ マコト 徳田 誠 <平成31年4月>	博士 (農学)	生物科学概論 I ※ 生物科学概論 II ※ 応用動物昆虫学※ 生物学実験※ 群集生態学 応用生物学実験※ 生態学実験 I 科学英語 インターンシップ S 生態学実験 II 生物科学英語 生物情報処理演習 インターンシップ L 生物科学演習 I 生物科学演習 II 卒業研究	2前 2後 2前 2前 2前 2後 3前 3前 3前・後 3後 3後 3後 3前・後 4前 4後 4通	0.1 0.1 0.7 0.1 2 0.1 1 2 1 2 2 2 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 准教授 (平成23年10月)	5日
41	専	准教授	ツシタ ユキ 辻田 有紀 <平成31年4月>	博士 (農学)	生物科学概論 I ※ 園芸学※ 野菜花卉園芸学※ 応用生物学実験※ 野菜花卉園芸学実験 I ※ 科学英語 インターンシップ S 野菜花卉園芸学実験 II ※ 生物科学英語 生物情報処理演習 インターンシップ L 生物科学演習 I 生物科学演習 II 卒業研究	2前 2・3前 2後 2後 3前 3前 3前・後 3後 3後 3後 3前・後 4前 4後 4通	0.1 0.4 0.8 0.1 0.5 2 1 0.5 2 2 2 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 准教授 (平成26年10月)	5日
42	専	准教授	ミヤコト ヒロキ 宮本 英揮 <平成31年4月>	博士 (農学)	地盤環境学 I 英書講読 測地学 I 科学英語 実験食資源環境科学 測地学 II 食資源環境科学演習 インターンシップ S インターンシップ L 卒業研究	2後 3前 3前 3後 3後 3後 4前 3前・3後 3前・3後 4通	2 2 2 2 2 2 1 1 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 准教授 (平成22年5月)	5日
43	専	准教授	アナン ミツサ 阿南 光政 <平成31年4月>	博士 (農学)	環境水理学 II 有明海学 I ※ 有明海学 III ※ 環境水理学演習 II 英書講読 科学英語 実験食資源環境科学 水環境学 食資源環境科学演習 農業工学総合演習※ インターンシップ S インターンシップ L 卒業研究	3前 2前 2後 3前 3前 3後 3後 3後 4前 4前 3前・3後 3前・3後 4通	2 0.5 0.4 2 2 2 2 2 1 0.5 1 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 准教授 (平成28年4月)	5日

44	専	准教授	カイ シスカ 中井 信介 <平成31年4月>	博士 (学術)	アグリキャリアデザイン※ アジア地誌 生態人類学 国際・地域マネジメント入門※ 社会調査実習 I 国際地域調査法※ 社会調査実習 II 環境と生活演習 I ※ インターンシップS インターンシップL アジア・フィールドワーク 実践語学 環境と生活演習 II ※ 科学英語 卒業研究 I アカデミック・プレゼンテーション I 国際・地域インターンシップ 卒業研究 II アカデミック・プレゼンテーション II	1前 0.3 1 2前 2 1 3前 2 1 2前 0.5 1 2前 1 1 2前 0.5 1 2後 2 1 3前 0.3 1 3前 1 1 3前 2 1 3前 1 1 3前 2 1 3後 0.3 1 3後 2 1 4前 4 1 4前 1 1 4前 2 1 4後 4 1 4後 1 1	佐賀大学 農学部 准教授 (平成26年8月)	5日
45	専	准教授	フジタ ダイスケ 藤田 大輔 <平成31年4月>	博士 (農学)	生物科学概論 I ※ 遺伝学※ 植物育種学 ※ 熱帯作物学 ※ 応用生物学実験※ 熱帯作物改良学実験 I ※ 科学英語 インターンシップ S 分子遺伝学※ 熱帯作物改良学実験 II ※ 生物科学英語 生物情報処理演習 インターンシップ L 生物科学演習 I 生物科学演習 II 卒業研究	2前 0.1 1 2前 0.6 1 2後 0.6 1 2後 1 1 2後 0.1 1 3前 0.5 1 3前 2 1 3前・後 1 1 3前 0.6 1 3後 0.5 1 3後 2 1 3後 2 1 3前・後 2 1 4前 2 1 4後 2 1 4通 8 1	佐賀大学 農学部 准教授 (平成27年4月)	5日
46	専	准教授	ヤマカ ケイ子 山中 賢一 <平成31年4月>	博士 (農学)	暮らしの中の生命科学※ 食料と生活 II ※ 生物科学概論 I ※ 生物学実験※ 畜産学※ 動物繁殖生理学 応用化学実験※ 動物資源開発学実験 I ※ 科学英語 インターンシップ S 動物資源開発学実験 II ※ 生物科学英語 生物情報処理演習 インターンシップ L 生物科学演習 I 生物科学演習 II 卒業研究	1・2後 0.1 1 2後 0.4 1 2前 0.1 1 2後 0.1 1 2後 0.7 1 2後 2 1 2後 0.1 1 3前 0.5 1 3前 2 1 3前・後 1 1 3後 1 1 3後 2 1 3後 2 1 3前・後 2 1 4前 2 1 4後 2 1 4通 8 1	佐賀大学 農学部 准教授 (平成23年4月)	5日
47	専	講師	ツジタ タケユキ 辻田 忠志 <平成31年4月>	博士 (バイオサイ エンス)	生命機能科学概説※ 化学基礎実験【隔年】 生化学実験※ インターンシップ S インターンシップ L 専門外書講読 基礎演習 生命機能科学演習 I 生物学基礎実験 生命機能科学演習 II 生命機能科学演習 III 卒業研究	3前 0.1 1 2前 1 1 3前 0.5 1 3前・後 1 1 3前・後 2 1 3後 2 1 3後 2 1 3後 2 1 4前 1 1 4前 2 1 4後 2 1 4通 8 1	佐賀大学 農学部 講師 (平成27年8月)	5日

48	専	講師	ワナハ サトシ 渡邊 啓史 <平成31年4月>	博士 (農学)	遺伝学※ 暮らしの中の生命科学※ 生物学概論 I ※ 植物育種学※ 分子遺伝学※ 応用化学実験※ 植物分子育種学実験 I ※ 植物分子育種学実験 II ※ 科学英語 生物科学英語 生物情報処理演習 インターンシップ S インターンシップ L 生物科学演習 I 生物科学演習 II 卒業研究	2前 1・2後 2前 2前 3前 2後 3前 3後 3前 3後 3後 3前・後 3前・後 4前 4後 4通	0.7 0.1 0.1 0.6 0.6 0.1 0.5 0.5 2 2 2 1 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 講師 (平成24年7月)	5日
49	専	講師	マサト コウイチ 松本 雄一 <平成31年4月>	博士 (農学)	食料と生活 I ※ 生物学概論 I ※ 園芸学※ フィールド科学基礎実習 I 蔬菜花卉園芸学※ 環境保全型農業論※ フィールド科学基礎実習 II 遺伝資源フィールド科学実験 I ※ 科学英語 インターンシップ S 遺伝資源フィールド科学実験 II ※ 生物科学英語 生物情報処理演習 インターンシップ L 生物科学演習 I 生物科学演習 II 卒業研究	2前 2前 2・3前 2前 2後 2後 2後 3前 3前 3前・後 3後 3後 3後 3前・後 4前 4後 4通	0.5 0.1 0.3 1 0.4 1 1 0.3 2 1 0.3 2 2 2 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 講師 (平成25年12月)	5日
50	専	講師	セキ キヨヒコ 関 清彦 <平成31年4月>	博士 (農学)	暮らしの中の生命科学※ 食料と生活 III ※ 食と健康 I ※ 化学※ 分析化学※ 生命機能科学概説※ 化学基礎実験【隔年】 化学実験 I 化学実験 II 食品化学※ 生物資源化学※ インターンシップ S インターンシップ L 専門外書講読 基礎演習 生命機能科学演習 I 生物学基礎実験 生命機能科学演習 II 生命機能科学演習 III 卒業研究	1・2後 3前 2前 1前 3前 3前 2前 2後 2後 2後 3後 3前・後 3前・後 3後 3後 3後 4前 4前 4後 4通	0.1 0.4 0.7 0.5 1 0.1 1 1 1 1 1 1 2 2 2 2 1 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 講師 (平成6年5月)	5日
51	専	講師	キムラ ケイ 木村 圭 <平成31年4月>	博士 (環境科学)	有明海学 I ※ 有明海学 III ※ 水圏生物学※ 有明海学 IV 食料と生活 IV ※ 藻類学 水産増養殖学※	2前 2後 3前 3後 3後 3後 3後	0.5 0.9 1 2 0.7 2 1	1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 講師 (平成27年1月)	5日
52	専	助教	モシマ ヒロキ 本島 浩之 <平成31年4月>	博士 (薬学)	生物化学※ 酵素化学※ 生命機能科学概説※ 化学基礎実験【隔年】 生化学実験※ インターンシップ S インターンシップ L 専門外書講読 基礎演習 生命機能科学演習 I 生物学基礎実験 生命機能科学演習 II 生命機能科学演習 III 卒業研究	1後 2前 3前 2前 3前 3前・後 3前・後 3後 3後 3後 4前 4前 4後 4通	1 0.7 0.1 1 0.1 1 2 2 2 2 1 2 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 助教 (平成13年4月)	5日

53	専	助教	科タ マ特 堀谷 正樹 <平成31年4月>	博士 (理学)	大学入門科目 I 酵素化学※ 生命機能科学概説※ 化学基礎実験【隔年】 生化学実験※ インターンシップ S インターンシップ L 専門外書講読 基礎演習 生命機能科学演習 I 生物学基礎実験 生命機能科学演習 II 生命機能科学演習 III 卒業研究	1前 2前 3前 2前 3前 3前・後 3前・後 3後 3後 3後 4前 4前 4後 4通	2 0.7 1 1 0.1 1 1 2 2 2 1 2 2 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 助教 (平成28年12月)	5日
54	専	助教	フシイ ナキ 藤井 直紀 <平成31年4月>	博士 (学術)	有明海学IV	3後	2	1	佐賀大学 農学部 特任助教 (平成23年2月)	5日
55	専	助教	トモト イキス 徳本 家康 <平成31年4月>	博士 (農学)、 Ph. D.	英書講読 測地学演習 I 実験水気圏環境学 科学英語 実験食資源環境科学 測地学演習 II 食資源環境科学演習 インターンシップ S インターンシップ L 卒業研究	3前 3前 3前 3後 3後 3後 4前 3前・3後 3前・3後 4通	2 2 2 2 2 2 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 助教 (平成26年3月)	5日
56	専	助教	カリグチ シンイチ 川口 真一 <平成31年4月>	博士 (工学)	生命機能科学概説※ 化学基礎実験【隔年】 化学実験 I 化学実験 II インターンシップ S インターンシップ L 専門外書講読 基礎演習 生命機能科学演習 I 生物学基礎実験 生命機能科学演習 II 生命機能科学演習 III 卒業研究	3前 2前 2後 2後 3前・後 3前・後 3後 3後 3後 4前 4後 4通	0.1 1 1 3 1 2 2 2 1 2 2 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 特任助教 (平成28年3月)	5日
57	専	助教	オチタ リョウ 折田 亮 <平成31年4月>	博士 (環境 共生学)	食料と生活IV※	3後	0.3	1	佐賀大学 農学部 特任助教 (平成29年1月)	5日
58	兼任	教授	ハクヤマ トシオ 畑山 敏夫 <平成31年4月>	博士 (法学)	政治学	1・2前・後	2	1	佐賀大学 経済学部 教授 (平7.4)	5日
59	兼任	教授	フカキ スズキ 古川 末喜 <平成31年4月>	博士 (文学)	アジアの文化・文学	1・2前・後	8	4	佐賀大学 全学教育機構 教授 (平15.5)	5日
60	兼任	教授	オオモト マコト 大元 誠 <平成31年4月>	教育学修士	心理学A	1・2前・後	2	1	佐賀大学 教育学部 教授 (平14.7)	5日
61	兼任	教授	キタムラ ナツオ 北村 二雄 <平成31年4月>	工学博士 ※	実験化学II※	1・2後	0.3	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平14.4)	5日
62	兼任	教授	ツグキ アキラ 都築 彰 <平成31年4月>	経済学修士 ※	西洋史	1・2前・後	4	2	佐賀大学 教育学部 教授 (平8.10)	5日
63	兼任	教授	ナガタ シュウイチ 永田 修一 <平成31年4月>	博士 (工学)	機械工学と環境 I ※	2前	0.7	1	佐賀大学 海洋エネルギー 研究センター 教授 (平17.5)	5日
64	兼任	教授	ハヤシ ヒロリ 早瀬 博範 <平成31年4月>	文学修士	コミュニケーション論※ Citizenship Education	1・2前・後 1・2前・後	2.4 2	2 1	佐賀大学 教育学部 教授 (平14.4)	5日
65	兼任	教授	オチカキ エフオ 堀川 悦夫 <平成31年4月>	博士 (医学)	高齢者・障がい者の生活・就労支援概論 ライフサイクルから見た医療III ライフサイクルから見た医療IV※	1・2前・後 3前 3後	2 2 1.5	1 1 1	佐賀大学 医学部 准教授 (平16.4)	5日
66	兼任	教授	アイノ ヲシ 相野 毅 <平成31年4月>	博士 (文学)	フランスの言語と文化 I フランスの言語と文化 II フランスの歴史・文化探究 I フランスの歴史・文化探究 II フランスの歴史・文化探究 III フランスの歴史・文化探究 IV	1・2前 1・2後 2前 2後 3前 3後	6 6 2 2 2 2	3 3 1 1 1 1	佐賀大学 全学教育機 構 教授 (平15.12)	5日
67	兼任	教授	クマモト ナギ 熊本 千明 <平成31年4月>	文学修士	英語A 英語B 英語C 英語D	1前 1後 2前 2後	2 3 2 1	2 3 2 1	佐賀大学 全学教育機構 教授 (平17.7)	5日
68	兼任	教授	クリハラ アツシ 栗原 淳 <平成31年4月>	体育学修士	体育実技 II ※	1・2前・後	1	1	佐賀大学 教育学部 教授 (平18.7)	5日

69	兼任	教授	スミ カズヒロ 角 和博 <平成31年4月>	博士 (学校教育学)	コミュニケーション論※ 立体アニメーション入門 シナリオ入門 インストラクショナル・デザイン 映像・デジタル表現Ⅰ 映像・デジタル表現Ⅳ	1・2前・後 1・2前・後 1・2前・後 1・2前・後 2前 3後	1 2 2 4 2 2 8	2 1 1 2 1 4	佐賀大学 教育学部 教授 (平15.5)	5日
70	兼任	教授	トダ ユウジ 戸田 修二 <平成31年4月>	博士 (医学)	生命科学の基礎C※	1・2前	0.3	1	佐賀大学 医学部 教授 (平17.11)	5日
71	兼任	教授	ヒラチ 一郎 平地 一郎 <平成31年4月>	博士 (経済学)	地域経済と社会Ⅲ	3前	2	1	佐賀大学 経済学部 教授 (平17.4)	5日
72	兼任	教授	ミヤケ ヒロミ 宮脇 博巳 <平成31年4月>	理学博士	生物学の世界	1・2後	2	1	佐賀大学 教育学部 教授 (平14.6)	5日
73	兼任	教授	アサキ ヒロフ 荒木 博申 <平成31年4月>	修士 (デザイン学)	芸術創造Ⅱ※	2後	1.3	1	佐賀大学 芸術地域デザイン学部 教授 (平17.7)	5日
74	兼任	教授	イカミ トシノブ 池上 寿伸 <平成31年4月>	体育学修士	生命科学の基礎A※ 食と健康Ⅲ※ 体育実技Ⅰ※	1・2後 3前 1前・後	0.3 0.3 1	1 1 1	佐賀大学 教育学部 教授 (平18.7)	5日
75	兼任	教授	エンドウ カシ 遠藤 隆 <平成31年4月>	理学博士	物理の世界Ⅰ 物理の世界Ⅱ	1・2前 1・2後	4 2	2 1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (昭61.6)	5日
76	兼任	教授	カノ ヒロシ 河野 史 <平成31年4月>	医学博士	生命科学の基礎A※	1・2後	1.1	1	佐賀大学 医学部 教授 (平19.2)	5日
77	兼任	教授	ホドカ ツトム 木戸田 力 <平成31年4月>	博士 (経済学)	記号論	1・2前・後	4	2	佐賀大学 経済学部 教授 (平9.4)	5日
78	兼任	教授	ワタリ 孝則 渡 孝則 <平成31年4月>	工学博士	セラミックスの不思議 未来を拓く材料の科学Ⅱ※	1・2後 2後	2 0.5	1 1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (昭61.3)	5日
79	兼任	教授	イナシ ツトム 五十嵐 勉 <平成31年4月>	文学修士	農村と産業演習Ⅰ※ 農村と産業演習Ⅱ※ 地理学 佐賀版キャリアデザイン チャレンジ・インターンシップA チャレンジ・インターンシップB 有明海学Ⅰ※ 有明海学Ⅳ 地域環境の保全と市民社会Ⅰ 地域環境の保全と市民社会Ⅱ 地域環境の保全と市民社会Ⅲ※ 地域環境の保全と市民社会Ⅳ 地域創成学Ⅰ※ 地域創成学Ⅱ 地域創成学Ⅳ 農村地理学 農村開発論 アグリキャリアデザイン※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	3前 3後 1・2前・後 1・2前・後 1・2前・後 1・2前・後 2前 3後 2前 2後 3前 3後 2前 2後 3前 3後 2前 2後 1前 4前 4後	0.5 0.5 2 2 1 2 0.3 2 2 2 1.7 2 2 1.5 2 2 2 2 0.3 4 4	1 1	佐賀大学 全学教育機構 教授 (昭和63年4月)	5日
80	兼任	教授	イシ ユウジ 大石 祐司 <平成31年4月>	工学博士	実験化学Ⅱ※ 未来を拓く材料の科学Ⅰ※	1・2後 2前	0.3 0.9	1 1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平6.3)	5日
81	兼任	教授	サトウ 武 佐藤 武 <平成31年4月>	博士 (医学)	健康科学A	1・2前・後	2	1	佐賀大学 保健管理センター 教授 (平14.4)	5日
82	兼任	教授	タナカ ショウイチ 田中 彰一 <平成31年4月>	文学修士	コミュニケーション論※	1・2前・後	0.2	2	佐賀大学 教育学部 教授 (平14.4)	5日
83	兼任	教授	ハシモト マサヒ 橋本 正昭 <平成31年4月>	芸術学修士	芸術創造Ⅰ	2前	2	1	佐賀大学 教育学部 教授 (平17.4)	5日
84	兼任	教授	イズハラ ケンジ 出原 賢治 <平成31年4月>	博士 (医学)	生命科学の基礎C※	1・2前	0.3	1	佐賀大学 医学部 教授 (平12.9)	5日
85	兼任	教授	ツヅムラ 健 辻村 健 <平成31年4月>	博士 (工学)	機械工学と環境Ⅳ※	3後	0.8	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平22.2)	5日
86	兼任	教授	カシワバ ヒロキ 樫澤 秀木 <平成31年4月>	法学修士	環境法 有明海学Ⅰ	3後	2 0.3	1 1	佐賀大学 経済学部 教授 (平成11年4月)	5日
87	兼任	教授	スエカ エイゾウ 末岡 榮三朗 <平成31年4月>	博士 (医学)	食と健康Ⅲ※	3前	0.1	1	佐賀大学 医学部 教授 (平25.8)	5日
88	兼任	教授	カキ シンイチ 只木 進一 <平成31年4月>	理学博士	情報科学の世界Ⅱ	1・2前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平2.4)	5日
89	兼任	教授	チカハ 波 張 波 <平成31年4月>	工学博士	機械工学と環境Ⅱ※	2後	0.5	1	佐賀大学 理工学部 教授 (昭 .4)	5日

90	兼任	教授	ニシジマ ヒロキ 西島 博樹 <平成31年4月>	博士 (学術)	地域マネジメント論	2前	2	1	佐賀大学 芸術地域 デザイン学部 教授 (平成28年4月)	5日
91	兼任	教授	ハナモト タケシ 花本 猛士 <平成31年4月>	理学博士	化学の世界A※ 実験化学I※	1・2前 1・2前	0.9 0.3	1 1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平9.7)	5日
92	兼任	教授	ヤマタ ミネノ 山下 宗利 <平成31年4月>	理学博士	地域再生論	2前	2	1	佐賀大学 芸術地域デザイン学部 教授 (平成29年4月)	5日
93	兼任	教授	テラモト ケンブ 寺本 顕武 <平成31年4月>	工学博士	知的財産学 機械工学と環境IV※	1・2前・後 3後	2 0.8	1 1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (昭63.4)	5日
94	兼任	教授	フクノメ ケンシ 福留 健司 <平成31年4月>	博士 (医学)	健康科学A 健康科学B	1・2前・後 1・2前・後	4 4	2 2	佐賀大学 全学教育機 構 教授 (平27.9)	5日
95	兼任	教授	マツノ ムネキ 松尾 宗明 <平成31年4月>	医学博士	ライフサイクルから見た医療IV※	3後	0.3	1	佐賀大学 医学部 教授 (平26.12)	5日
96	兼任	教授	ミヤザキ タロウ 宮崎 卓朗 <平成31年4月>	修士経済学 ※	地域経済と社会 I	2前	2	1	佐賀大学 経済学部 教授 (平22.4)	5日
97	兼任	教授	イハバ マサヨシ 市場 正良 <平成31年4月>	博士 (医学)	生命科学の基礎C※ 現代社会と医療III 現代社会と医療IV 食と健康IV	1・2前 3前 3後 3後	0.3 2 2 2	1 1 1 1	佐賀大学 医学部 教授 (平19.10)	5日
98	兼任	教授	イワノ サトシ 岩本 論 <平成31年4月>	政治学修士	経済法 I	2前	2	1	佐賀大学 経済学部 教授 (平成8年4月)	5日
99	兼任	教授	ウエノ ナオヒロ 上野 直広 <平成31年4月>	博士 (工学)	機械工学と環境IV※	3後	0.8	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平25.7)	5日
100	兼任	教授	カシマ トシヤ 岡島 俊哉 <平成31年4月>	理学博士	教育学 実験化学I※ 環境科学I 環境科学II※ 環境科学III 栄養科学A 栄養科学B	1・2前・後 1・2前 2前 2後 3前 1・2前 1・2後	2 0.1 2 0.9 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 教育学部 教授 (平20.8)	5日
101	兼任	教授	カウチ アキオ 倉岡 晃夫 <平成31年4月>	博士 (医学)	スポーツウェルネスの世界	1・2前・後	4	2	佐賀大学 医学部 教授 (平23.3)	5日
102	兼任	教授	サカモト ヤスナリ 坂元 康成 <平成31年5月>	体育学修士	食と健康III※ 体育実技I※	3前 1前・後	0.3 1	1 1	佐賀大学 教育学部 教授 (平23.10)	5日
103	兼任	教授	シノヰ コウイチ 新地 浩一 <平成31年4月>	博士 (医学)	生命科学の基礎A※	1・2後	0.1	1	佐賀大学 医学部 教授 (平17.1)	5日
104	兼任	教授	カミムラ トシキ 高橋 利幸 <平成31年4月>	博士 (理学)	実験化学I※ 未来を拓く材料の科学III※	1・2前 3前	0.3 0.5	1 1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平9.11)	5日
105	兼任	教授	ナカサト リョウ 中里 理子 <平成31年4月>	博士 (人文学) ※	日本語学	1・2前・後	2	1	佐賀大学 教育学部 教授 (平29.4)	5日
106	兼任	教授	ナカムラ カヲシ 中村 隆敏 <平成31年4月>	博士 (芸術)	コミュニケーション論※ 3DCG表現 アニメーション表現 映像・デジタル表現II 映像・デジタル表現III 映像・デジタル表現IV アントレプレナーシップI※ アントレプレナーシップII※ アントレプレナーシップIII※ アントレプレナーシップIV※ インターフェイス演習	1・2前・後 1・2前・後 1・2前・後 2後 3前 3後 3後 2前 2後 3前 3前 3前	0.2 2 2 2 4 8 0.3 0.4 0.4 0.5 2	2 1 1 1 2 4 1 1 1 1 1	佐賀大学 芸術地域デ ザイン学部 教授 (平25.4)	5日
107	兼任	教授	ナカムラ ヒロカズ 中村 博和 <平成31年4月>	博士 (経済学)	リサーチ・リテラシーIV※	3後	0.4	1	佐賀大学 経済学部 教授 (平22.4)	5日
108	兼任	教授	ハツトリ ノブスケ 服部 信祐 <平成31年4月>	博士 (工学)	機械工学の世界A※	1・2前	0.9	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (昭61.4)	5日
109	兼任	教授	マツノ シゲル 松尾 繁 <平成31年4月>	工学博士	機械工学の世界B※	1・2後	0.9	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平6.4)	5日
110	兼任	教授	ヤネギ ケンシ 柳 健司 <平成31年4月>	芸術学修士	芸術創造II※ 芸術創造IV※	2後 3後	0.1 0.7	1 1	佐賀大学 芸術地域デ ザイン学部 教授 (平28.4)	5日
111	兼任	教授	ヨシダ ヒロキ 吉田 裕樹 <平成31年4月>	博士 (医学)	生命科学の基礎C※	1・2前	0.3	1	佐賀大学 医学部 教授 (平15.9)	5日
112	兼任	教授	スズキ シゲル 鈴木 繁 <平成31年4月>	文学修士	英語B 英語C 英語D	1後 2前 2後	3 5 2	3 5 2	佐賀大学 全学教育機構 教授 (平23.11)	5日
113	兼任	教授	ハシハラ セイタ 萩原 世也 <平成31年4月>	工学博士	機械工学の世界A※	1・2後	1.1	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平9.4)	5日
114	兼任	教授	ミヤケ マサト 宮武 正登 <平成31年4月>	文学修士	日本史 日本事情(文化) 佐賀の歴史文化II	1・2前・後 1・2前・後 2後	4 2 2	2 1 1	佐賀大学 全学教育機構 教授 (平26.4)	5日
115	兼任	教授	ヤマモト チヨウジ 山本 長次 <平成31年4月>	経済学修士	経営管理論 経営史	2後 3後	2 2	1 1	佐賀大学 経済学部 教授 (平成6年6月)	5日

116	兼任	教授	ヨシヅミ マコ 吉住 磨子 <平成31年4月>	Doctor of philosophy in art History (イギリス)	芸術論※	1・2前・後	0.9	1	佐賀大学 芸術地域デザイン学部 教授 (平23.6)	5日
117	兼任	教授	イケガミ ヤスキ 池上 康之 <平成31年4月>	工学博士	21世紀のエネギーと環境問題 機械工学と環境 I ※	1・2前 2前	2 0.7	1 1	佐賀大学 海洋エネルギー 研究センター 教授 (平25.7)	5日
118	兼任	教授	イノウエ シンイチ 井上 伸一 <平成31年4月>	修士 (体育学)	体育実技 I ※	1・2前・後	1	1	佐賀大学 教育学部 教授 (平24.2)	5日
119	兼任	教授	イケガミ ヨシタカ 池田 義孝 <平成31年4月>	博士 (医学)	生命科学の基礎 F ※	1・2前・ 後	2	0.4	佐賀大学 医学部 教授 (平16.5)	5日
120	兼任	教授	カハブチ ススム 角縁 進 <平成31年4月>	博士 (理学)	地学の世界	1・2後	2	1	佐賀大学 教育学部 教授 (平24.4)	5日
121	兼任	教授	ウノ マサシ 海野 雅司 <平成31年4月>	博士 (工学)	実験化学 II ※ 未来を拓く材料の科学 III ※	1・2後 3前	0.4 0.5	1 1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平18.4)	5日
122	兼任	教授	オカムラ ヒロシ 奥村 浩 <平成31年4月>	博士 (工学) ※	情報技術者キャリアデザイン IV ※	3後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平12.3)	5日
123	兼任	寄附講座 教授	スギノカ タカシ 杉岡 隆 <平成31年4月>	博士 (医学)	生命科学の基礎 C ※	1・2前	0.3	1	佐賀大学 医学部 寄附講座 教授 (平22.4)	5日
124	兼任	教授	タケタナ ミチノリ 竹下 道範 <平成31年4月>	博士 (工学)	実験化学 II ※ 未来を拓く材料の科学 I ※	1・2後 2前	0.3 0.9	1 1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平11.12)	5日
125	兼任	教授	テライ ナオキ 寺井 直樹 <平成31年4月>	博士 (理学)	基礎数学	1前	2	1	佐賀大学 教育学部 教授 (平成7年9月)	1日
126	兼任	教授	シマノ アブオ 三島 伸雄 <平成31年4月>	博士 (工学)	地域創成学 III	3前	2	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平7.11)	5日
127	兼任	教授	アリマ カズミ 有馬 隆文 <平成31年4月>	博士 (工学)	ランドスケープ	2後	2	1	佐賀大学 芸術地域 デザイン学部 教授 (平成27年4月)	5日
128	兼任	教授	イマイ ハルト 今井 治人 <平成31年4月>	芸術学士	芸術創造 IV ※	3前	2	1	佐賀大学 教育学部 教授 (平27.4)	5日
129	兼任	教授	オカザキ ナツキ 岡崎 泰久 <平成31年4月>	博士 (工学)	情報技術者キャリアデザイン II	2後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平2.6)	5日
130	兼任	教授	コンドウ フミヨシ 近藤 文義 <平成31年4月>	博士 (農学)	農業と農地環境 リサーチ・リテラシー IV ※ 応用力学 応用力学演習 英書講読 地盤環境学 II 科学英語 実験食資源環境科学 食資源環境科学演習 農業工学総合演習 ※	1・2前 3後 2前 2前 3前 3前 3後 3後 4前 4前	2 0.4 2 2 2 2 2 2 1 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 全学教育機構 教授 (平成17年11月)	5日
131	兼任	教授	タカコ ユキ 田中 右紀 <平成31年4月>	芸術学修士	肥前陶磁器産業体験 I 肥前陶磁器産業体験 II 肥前陶磁器産業体験 III 肥前陶磁器産業体験 IV	2前 2後 3前 3後	2 2 2 2	1 1 1 1	佐賀大学 芸術地域デザイン学部 教授 (平25.10)	5日
132	兼任	教授	トシカ マサト 富永 昌人 <平成31年4月>	博士 (工学)	化学の世界 A ※ 実験化学 I ※	1・2前 1・2前	1.1 0.1	1 1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平28.4)	5日
133	兼任	教授	ナモト タツヤ 名本 達也 <平成31年4月>	文学修士	英語 A 英語 B 英語 C 英語 D 囲碁	1前 1後 2前 2後 1・2前・後	2 1 3 2 1	2 1 3 2 1	佐賀大学 全学教育機構 教授 (平27.4)	5日
134	兼任	教授	ムラマツ カズヒロ 村松 和弘 <平成31年4月>	博士 (工学)	電気電子工学と環境 II	2後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平13.3)	5日
135	兼任	教授	ヤマザキ イチオ 山崎 功 <平成31年4月>	修士 (法学)	国際関係学要説 東南アジアの言語と文化 ※	2前 1・2前・後	2 0.8	1 1	佐賀大学 芸術地域 デザイン学部 教授 (平26.4)	5日
136	兼任	教授	オウ ヤスリ 大津 康徳 <平成31年4月>	博士 (工学)	電気電子工学と環境 III	3前	2	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平3.4)	5日
137	兼任	教授	コジマ ショウイチ 小島 昌一 <平成31年4月>	博士 (工学)	都市と生活	1・2前	2	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平19.4)	5日
138	兼任	教授	スズキ チエコ 鈴木 智恵子 <平成31年4月>	博士 (医学)	生命科学の基礎 A ※	1・2後	0.1	1	佐賀大学 医学部 教授 (平27.7)	5日
139	兼任	教授	ヤマダ ヤスリ 山田 泰教 <平成31年4月>	博士 (理学)	実験化学 I ※ 未来を拓く材料の科学 II ※	1・2前 2後	0.3 0.5	1 1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平14.10)	5日
140	兼任	教授	イタバシ エリキ 板橋 江利也 <平成31年4月>	修士 (音楽)	芸術創造 III ※	3前	2	1	佐賀大学 教育学部 教授 (平26.10)	5日

141	兼任	教授	木村 ケイタ 大渡 啓介 <平成31年4月>		博士 (工学)	実験化学Ⅱ※ 未来を拓く材料の科学Ⅲ※ アントレプレナーシップⅠ※	1・2後 3前 2前	0.3 0.5 0.4	1 1 1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平4.4)	5日
142	兼任	教授	キリウ ヨイ 木上 洋一 <平成31年4月>		博士 (工学)	機械工学の世界B※	1・2前	1.1	1	佐賀大学 海洋エネルギー研究センター 教授 (平23.10)	5日
143	兼任	教授	カヤマ ヒロシ 栗山 裕至 <平成31年4月>		修士 (芸術学)	芸術論※	1・2前・後	1.1	1	佐賀大学 教育学部 教授 (平25.10)	5日
144	兼任	教授	シゲフミ テルコ 重藤 輝行 <平成31年4月>		修士 (文学) ※	考古学 佐賀の歴史文化Ⅲ【隔年】	1・2前・後 3前	4 2	2 2	佐賀大学 芸術地域デザイン学部 教授 (平26.10)	5日
145	兼任	教授	トキヤ カズヒロ 徳安 和博 <平成31年4月>		修士 (教育学)	芸術創造Ⅱ※ 芸術創造Ⅲ※	2後 3前	0.1 0.7	1 1	佐賀大学 芸術地域デザイン学部 教授 (平26.10)	5日
146	兼任	教授	オシノキ 堀 良彰 <平成31年4月>		博士 (情報工学)	情報科学の世界Ⅰ 情報科学の世界Ⅱ 情報メディアと倫理 アントレプレナーシップⅠ※ アントレプレナーシップⅡ※ アントレプレナーシップⅢ※ アントレプレナーシップⅣ※ インターフェイス演習 日本事情(自然科学と技術)	1・2前 1・2前・後 1・2前・後 2前 2後 3前 3後 3前 1・2前・後	2 2 2 0.3 0.4 0.8 0.5 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 全学教育機構 教授 (平25.4)	5日
147	兼任	教授	ミナト テルキ 皆本 晃弥 <平成31年4月>		博士 (数理学) ※	データサイエンスへの招待 チャレンジ・インターンシップA チャレンジ・インターンシップB データサイエンスⅠ データサイエンスⅣ 情報技術者キャリアデザインⅡ	1・2前・後 1・2前・後 1・2前・後 2前 3後 2後	2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平12.4)	5日
148	兼任	教授	サウリヤ デイシルバ サウリヤ デイシルバ <平成31年4月>		博士 (農学)	アントレプレナーシップⅠ※ 開発経済論	2前 3前	0.4 2	1 1	佐賀大学 経済学部 教授 (平成27年4月)	5日
149	兼任	教授	フタタ オサム 福田 修 <平成31年4月>		博士 (工学)	情報技術者キャリアデザインⅣ※	3後	1.9	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平26.10)	5日
150	兼任	教授	ヤマナチ ユキコ 山口 夕妃子 <平成31年4月>		博士 (商学)	地域経済と社会Ⅱ	2後	2	1	佐賀大学 芸術地域デザイン 教授 (平27.4)	5日
151	兼任	教授	アサヒ ケイゾウ 安西 慶三 <平成31年4月>		博士 (医学)	食と健康Ⅰ※	2前	0.7	1	佐賀大学 医学部 教授 (平23.11)	5日
152	兼任	教授	マワエ ススム 松前 進 <平成31年4月>		博士 (工学)	アントレプレナーシップⅠ※ アントレプレナーシップⅡ※ アントレプレナーシップⅢ※ アントレプレナーシップⅣ※ インターフェイス演習	2前 2後 3前 3後 3前	0.3 0.4 0.8 0.5 2	1 1 1 1 1	佐賀大学 総合情報基盤センター 教授 (平24.10)	5日
153	兼任	教授	ヨシカ クレコ 吉岡 剛彦 <平成31年4月>		博士 (法学)	生命科学の基礎A※	1・2後	0.1	1	佐賀大学 教育学部 教授 (平29.4)	5日
154	兼任	教授	ニシゴリ マサル 西郡 大 <平成31年4月>		博士 (教育情報学)	チームビルディングとリーダーシップⅠ リサーチ・リテラシーⅣ※	2前 3後	0.1 0.4	1 1	佐賀大学 アドミッションセンター 教授 (平28.8)	5日
155	兼任	准教授	マワエ キヨミ 松尾 清美 <平成31年4月>		工学士 ※	障がい者支援論※	1・2前・後	1.5	1	佐賀大学 医学部 准教授 (平15.5)	5日
156	兼任	准教授	ヤマナ トシオ 山中 利夫 <平成31年4月>		文学修士	英語A 英語B 英語C	1前 1後 2前	2 2 1	2 2 1	佐賀大学 全学教育機構 准教授 (昭60.1)	5日
157	兼任	准教授	フカイ スミ 深井 澄夫 <平成31年4月>		工学博士	電気電子工学の世界B	1・2後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (昭57.3)	5日
158	兼任	准教授	ムラタ ムツシ 村田 祐造 <平成31年4月>		医学博士	生命科学の基礎C※	1・2前	0.4	1	佐賀大学 医学部 准教授 (平19.12)	5日
159	兼任	准教授	オシノキ イワ 尾崎 岩太 <平成31年4月>		博士 (医学)	食と健康Ⅲ※	3前	0.1	1	佐賀大学 保健管理センター 准教授 (平16.3)	5日
160	兼任	准教授	コヤマ ヒロシ 小山 宏義 <平成31年4月>		博士 (医学)	生命科学の基礎A※	1・2後	0.1	1	佐賀大学 医学部 准教授 (平20.11)	5日
161	兼任	准教授	ササキ シンイチ 佐々木 伸一 <平成31年4月>		博士 (工学)	エレクトロニクスと生活Ⅰ	2前	2	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平13.4)	5日
162	兼任	准教授	チャン ハンモ 張 韓模 <平成31年4月>		博士 (経済学)	アジアコミュニティ論	1・2前・後	2	1	佐賀大学 経済学部 教授 (平24.10)	5日
163	兼任	准教授	ムラカミ マサカ 村久保 雅孝 <平成31年4月>		教育学修士	心理学A 心理学B 心理学C	1・2前・後 1・2前・後 1・2前・後	4 2 2	2 2 1	佐賀大学 医学部 准教授 (平13.4)	5日
164	兼任	准教授	アンドリュー マイヤー Andrew Meyerhoff <平成31年4月>		Master of Education (カナダ)	英語A 英語C Breakthroughs in the Modern Age 異文化交流Ⅰ	1前 2前 1・2前 2前	2 2 2 2	2 2 1 1	佐賀大学 全学教育機構 准教授 (平18.10)	5日
165	兼任	准教授	クニヤマ カズトシ 上山 和俊 <平成31年4月>		経済学修士 ※	経済学 ジャーナリズムの現在	1・2前・後 1・2前・後	4 2	2 1	佐賀大学 経済学部 准教授 (平4.4)	5日
166	兼任	准教授	コガ ヒロキ 古賀 弘毅 <平成31年4月>		Ph. D. (Linguistics) (アメリカ)	言語学 異文化交流Ⅱ※ 異文化交流Ⅳ	1・2前・後 2後 3後	2 1.2 2	1 1 1	佐賀大学 全学教育機構 准教授 (平16.1)	5日
167	兼任	准教授	トウケイノ ヒロシ 堂嶋 浩 <平成31年4月>		工学博士 ※	情報基礎概論 情報基礎演習Ⅱ	1・2前 1・2後	2 1	1 1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平6.4)	5日

168	兼任	准教授	ナヤマ イスヲ 中山 泰道 <平成31年4月>		法学修士 ※	民法IV 法律学	3前 1・2前・後	2 2	1 1	佐賀大学 経済学部 准教授 (平7.4)	5日
169	兼任	准教授	ニノ ジュンコ 丹羽 順子 <平成31年4月>		修士 (国際学)	異文化交流Ⅱ※	2後	1.1	1	佐賀大学 全学教育機構 准教授 (平15.10)	5日
170	兼任	准教授	エムラ セイ 江村 正 <平成31年4月>		医学博士	ライフサイクルから見た医療Ⅰ	2前	2	1	佐賀大学 医学部附属 病院卒後臨床研修セン ター 准教授 (平20.2)	5日
171	兼任	准教授	タカミ ミヒロ 高崎 光浩 <平成31年4月>		医学博士	映像・デジタル表現Ⅳ	3後	8	4	佐賀大学 全学教育機構 准教授 (平16.6)	5日
172	兼任	准教授	タナカ カコキ 田中 高行 <平成31年4月>		博士 (工学)	エレクトロニクスと生活Ⅲ	3前	2	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (昭63.4)	5日
173	兼任	准教授	ナカノ リサ 中野 理佳 <平成31年4月>		修士 (看護学)	生命科学の基礎C※	1・2前	0.3	1	佐賀大学 医学部 准教授 (平28.4)	5日
174	兼任	准教授	コイワリ マサユキ 鯉川 雅之 <平成31年4月>		理学博士	化学の世界B※ 実験化学Ⅰ※	1・2後 1・2前	0.7 0.7	1 1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平4.4)	5日
175	兼任	准教授	ヨシタ カズヨ 吉田 和代 <平成31年4月>		博士 (医学)	現代社会と医療Ⅱ 食と健康Ⅱ ライフサイクルから見た医療Ⅱ	2後 2後 2後	2 2 2	1 1 1	佐賀大学 医学部 准教授 (平25.4)	5日
176	兼任	准教授	キタノ シュウジ 北嶋 修司 <平成31年4月>		博士 (獣医学)	生命科学の基礎B※	1・2前	2	1	佐賀大学 総合分析実 験センター 准教授 (平19.4)	5日
177	兼任	准教授	ニシヤマ エイサク 西山 英輔 <平成31年4月>		博士 (工学)	電気電子工学と環境Ⅳ	3後	2	1	佐賀大学 理工学部 准教授 (昭 .4)	5日
178	兼任	准教授	ナガノ ユキオ 永野 幸生 <平成31年4月>		博士 (農学)	生物科学の世界B 生命機能科学概説※ 生化学実験※ 分子細胞生物学 基礎放射線科学※ インターンシップ S インターンシップ L 専門外書講読 基礎演習 生命機能科学演習Ⅰ 生物学基礎実験 生命機能科学演習Ⅱ 生命機能科学演習Ⅲ	1・2後 3前 3前 3後 3後 3前・後 3前・後 3後 3後 3後 4前 4前 4後	2 0.1 0.3 2 0.3 1 2 2 2 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 総合分析 実験センター 准教授 (平成14年11月)	5日
179	兼任	准教授	イシミ リマサ 塩見 憲正 <平成31年4月>		博士 (工学)	機械工学と環境Ⅲ※	3前	0.7	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平8.4)	5日
180	兼任	准教授	ヒビノ ユウジ 日比野 雄嗣 <平成31年4月>		博士 (理学)	基礎統計学 データサイエンスⅡ	1前 2後	2 2	1 1	佐賀大学 理工学部 准教授 (平成5年4月)	1日
181	兼任	准教授	マツリ トシユキ 馬渡 俊文 <平成31年4月>		博士 (工学)	機械工学と環境Ⅱ※	2後	0.4	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平2.4)	5日
182	兼任	准教授	ムラタ ナオエ 村田 尚恵 <平成31年4月>		修士 (保健医療 学)	生命科学の基礎C※	1・2前	0.3	1	佐賀大学 医学部 准教授 (平27.9)	5日
183	兼任	准教授	タカノ コロウ 高野 吾朗 <平成31年4月>		Ph. D (English) (7月)	英語B 英語D 日本文学 欧米の文化・文学	1後 2後 1・2前・後 1・2前・後	2 6 2 2	2 6 1 1	佐賀大学 医学部 准教授 (平17.4)	5日
184	兼任	准教授	ワケヤ ヒロシ 和久屋 寛 <平成31年4月>		博士 (工学)	エレクトロニクスと生活Ⅱ	2後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平6.4)	5日
185	兼任	准教授	チノダ サトシ 長田 聡史 <平成31年4月>		博士 (理学)	化学の世界B※ 実験化学Ⅱ※	1・2後 1・2後	0.7 0.3	1 1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平8.4)	5日
186	兼任	准教授	シゲタカ ヨシエ 重竹 芳江 <平成31年4月>		博士 (文学)	ドイツの言語と文化Ⅰ ドイツの言語と文化Ⅱ 海外交流実習 ドイツの歴史・文化探究Ⅰ ドイツの歴史・文化探究Ⅱ ドイツの歴史・文化探究Ⅲ ドイツの歴史・文化探究Ⅳ	1・2前 1・2後 1・2前・後 2前 2後 2後 3前 3後	6 6 2 2 2 2 2	3 3 1 1 1 1 1	佐賀大学 全学教育機構 准教授 (平25.10)	5日
187	兼任	准教授	イハラ サトシ 猪原 哲 <平成31年4月>		博士 (工学)	電気電子工学と環境Ⅰ	2前	2	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平5.10)	5日
188	兼任	准教授	イワイ ヤスカ 今井 康貴 <平成31年4月>		博士 (工学)	機械工学と環境Ⅰ※	2前	0.7	1	佐賀大学 海洋エネルギー 研究センター 准教授 (平21.4)	5日
189	兼任	准教授	カーン エムディ タリヒト KHAN MD. TAW HIDUL ISLAM <平成31年4月>		博士 (工学)	機械工学と環境Ⅳ※	3後	0.8	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平19.10)	5日
190	兼任	准教授	コガマ ヒロキ 兒玉 宏樹 <平成31年4月>		博士 (理学)	実験化学Ⅰ※ 地域環境の保全と市民社会Ⅰ 地域環境の保全と市民社会Ⅱ	1・2前 2前 2後	0.3 2 2	1 1 1	佐賀大学 総合分析 実験センター 准教授 (平18.11)	5日

191	兼任	准教授	木本 晃 <平成31年4月>		博士 (工学)		電気電子工学の世界A	1・2前	2	1	佐賀大学 理工学部 准教授 (昭 4)	5日
192	兼任	准教授	有馬 博史 <平成31年4月>		博士 (工学)		機械工学と環境IV※	3後	0.9	1	佐賀大学 海洋エネルギー 研究センター 准教授 (平16.3)	5日
193	兼任	准教授	小川 哲彦 <平成31年4月>		博士 (経営学)		会計学 環境会計	1・2前・後 1・2前・後	4 2	2 1	佐賀大学 経済学部 准教授 (平16.4)	5日
194	兼任	准教授	後藤 隆太郎 <平成31年4月>		博士 (工学)		地域創成学Ⅲ	3前	2	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平8.4)	5日
195	兼任	准教授	中尾 友香梨 <平成31年4月>		博士 (比較社会 文化)		日・中・韓の文化Ⅰ 日・中・韓の文化Ⅱ 日・中・韓の文化Ⅲ 日・中・韓の文化Ⅳ	2前 2後 3前 3後	2 2 2 2	1 1 1 1	佐賀大学 全学教育機構 准教授 (平23.12)	5日
196	兼任	准教授	日永田 泰啓 <平成31年4月>		博士 (理学)		情報科学の世界Ⅰ	1・2前	2	1	佐賀大学 総合情報基 盤センター 准教授 (平13.4)	5日
197	兼任	准教授	矢田 光徳 <平成31年4月>		博士 (工学)		実験化学Ⅰ※ 未来を拓く材料の科学Ⅱ※	1・2前 2後	0.3 0.9	1 1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平12.12)	5日
198	兼任	准教授	山田 直子 <平成31年4月>		M.A. (米国) M.A. (オランダ)		東南アジアの言語と文化※ グローバルリーダーシップ 海外交流実習 異文化交流Ⅲ	1・2前・後 1・2前・後 1・2前・後 3前	0.8 2 16 2	1 2 8 1	佐賀大学 国際交流推 進センター 准教授 (平25.4)	5日
199	兼任	准教授	石渡 洋一 <平成31年4月>		博士 (工学)		物理の世界Ⅰ 物理の世界Ⅱ	1・2前 1・2後	4 2	2 1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平17.4)	5日
200	兼任	准教授	伊藤 昭弘 <平成31年4月>		博士 (文学)		日本史 佐賀の歴史文化Ⅳ	1・2前・後 3後	2 2	1 1	佐賀大学 地域学歴史文化 研究センター 准教授 (平19.12)	5日
201	兼任	准教授	江口 誠 <平成31年4月>		博士 (文学)		英語A 英語C 英語D Immersion Program	1前 2前 2後 1・2前・後	3 4 1 2	3 4 4 1	佐賀大学 全学教育機 構 教授 (平26.4)	5日
202	兼任	准教授	布尾 勝一郎 <平成31年4月>		修士 (言語文化 学) ※		アカデミック・ジャパニーズA アカデミック・ジャパニーズB アカデミック・ジャパニーズC アカデミック・ジャパニーズD 異文化交流Ⅱ※ 東南アジアの言語と文化※ 言語学	1前 1前 1後 1後 2後 1・2前・後 1・2前・後	1 1 1 1 2 0.7 2	1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 全学教育機構 准教授 (平25.5)	5日
203	兼任	准教授	洪 廷和 <平成31年4月>		博士 (商学)		経営学	1・2前・後	2	1	佐賀大学 経済学部 准教授 (平26.4)	5日
204	兼任	准教授	村山 詩帆 <平成31年4月>		修士 (教育学) ※		教育学 日本事情 (現代社会) リサーチ・リテラシーⅠ リサーチ・リテラシーⅡ リサーチ・リテラシーⅢ リサーチ・リテラシーⅣ※	1・2前・後 1・2前・後 2前 2後 3前 3後	4 4 2 2 2 0.8	2 2 1 1 1 1	佐賀大学 全学教育機構 准教授 (平19.4)	5日
205	兼任	准教授	大島 史洋 <平成31年4月>		博士 (工学)		機械工学と環境Ⅱ※	2後	0.5	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平9.4)	5日
206	兼任	准教授	福山 由美 <平成31年4月>		博士 (看護学)		生命科学の基礎C※	1・2前	0.3	1	佐賀大学 医学部 准教授 (平27.9)	5日
207	兼任	准教授	山津 幸司 <平成31年4月>		博士 (人間環境 学)		体育実技Ⅰ※	1・2前・後	1	1	佐賀大学 教育学部 准教授 (平23.11)	5日
208	兼任	准教授	井原 秀之 <平成31年4月>		博士 (医学)		生命科学の基礎F※	1・2前	0.7	1	佐賀大学 医学部 准教授 (平27.3)	5日
209	兼任	准教授	鬼嶋 淳 <平成31年4月>		修士 (文学) ※		佐賀の歴史文化Ⅲ【隔年】	3前	2	1	佐賀大学 教育学部 准教授 (平23.6)	5日
210	兼任	准教授	後藤 正英 <平成31年4月>		博士 (文学)		哲学・倫理学 異文化交流Ⅲ	1・2前・後 3前	2 2	1 1	佐賀大学 教育学部 准教授 (平21.10)	5日
211	兼任	准教授	住 隆博 <平成31年4月>		博士 (工学) ※		機械工学と環境Ⅲ※	3前	0.7	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平27.3)	5日
212	兼任	准教授	山口 暢彦 <平成31年4月>		博士 (工学)		情報技術者キャリアデザインⅢ	3前	2	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平15.4)	5日
213	兼任	准教授	伊藤 秀昭 <平成31年4月>		博士 (工学)		大学入門科目Ⅰ エレクトロニクスと生活Ⅳ	1前 3後	2 2	1 1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平21.11)	5日
214	兼任	准教授	土屋 貴哉 <平成31年4月>		修士芸術		映像・デジタル表現Ⅱ 映像・デジタル表現Ⅲ 映像・デジタル表現Ⅳ	2後 3前 3後	2 4 8	1 2 4	佐賀大学 芸術地域デ ザイン学部 准教授 (平28.4)	5日
215	兼任	准教授	成田 貴行 <平成31年4月>		博士 (工学)		未来を拓く材料の科学Ⅳ※ 実験化学Ⅰ※	3後 1・2前	0.7 0.7	1 1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平18.4)	5日
216	兼任	准教授	橋本 時忠 <平成31年4月>		博士 (工学)		機械工学と環境Ⅲ※	3前	0.7	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平20.10)	5日
217	兼任	准教授	森田 繁樹 <平成31年4月>		博士 (工学)		機械工学と環境Ⅲ※	3前	0.7	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平17.1)	5日

218	兼任	准教授	材木 マト 大谷 誠 ＜平成31年4月＞	博士 (工学)	情報メディアと倫理	1・2前・後	2	1	佐賀大学 総合情報 基盤センター 准教授 (平21.4)	5日
219	兼任	准教授	料ノ マト 小木曾 誠 ＜平成31年4月＞	修士 (美術) ※	芸術創造Ⅱ※ 芸術創造Ⅲ※	2後 3前	0.1 0.7	1 1	佐賀大学 芸術地域デ ザイン学部 准教授 (平21.10)	5日
220	兼任	准教授	カサキ ヒデカ 川喜田 英孝 ＜平成31年4月＞	博士 (工学)	実験化学Ⅱ※ 未来を拓く材料の科学Ⅲ※	1・2後 3前	0.7 0.4	1 1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平17.4)	5日
221	兼任	准教授	サカキチ コウイチ 坂口 幸一 ＜平成31年4月＞	博士 (理学) ※	実験化学Ⅱ※ 未来を拓く材料の科学Ⅰ※	1・2後 2前	0.7 0.9	1 1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平23.1)	5日
222	兼任	准教授	スギモト タカヲ 杉本 達應 ＜平成31年4月＞	修士学際情 報学 ※	映像・デジタル表現Ⅳ	3後	8	4	佐賀大学 芸術地域 デザイン学部 准教授 (平28.4)	5日
223	兼任	准教授	タケムツ トシヒコ 竹村 敏彦 ＜平成31年4月＞	博士 (応用経済 学)	データサイエンスⅢ	3前	2	1	佐賀大学 経済学部 准教授 (平25.4)	5日
224	兼任	准教授	ハシガリ ヒロキ 長谷川 裕之 ＜平成31年4月＞	博士 (工学)	機械工学と環境Ⅱ※	2後	0.5	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平22.4)	5日
225	兼任	准教授	イシイ コウキ 石井 宏祐 ＜平成31年4月＞	博士 (教育学)	心の病と癒しのプロセス	1・2前・後	2	1	佐賀大学 教育学部 准教授 (平29.4)	5日
226	兼任	准教授	ウメキ タツヤ 梅木 辰也 ＜平成31年4月＞	博士 (理学)	情報基礎演習Ⅰ 実験化学Ⅰ※ 未来を拓く材料の科学Ⅳ※	1・2前 1・2前 3後	0.17 0.3 0.7	1 1 1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平23.4)	5日
227	兼任	准教授	モリタ マサヲ 森真 真太郎 ＜平成31年4月＞	博士 (工学)	化学の世界B※ 実験化学Ⅱ※	1・2後 1・2後	0.7 0.3	1 1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平24.2)	5日
228	兼任	准教授	タケノ コウイチ 只野 裕一 ＜平成31年4月＞	博士 (工学)	大学入門科目Ⅰ 機械工学と環境Ⅲ※	1前 3前	2 0.7	1 1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平20.4)	5日
229	兼任	准教授	タケグチ タカシ 谷口 高志 ＜平成31年4月＞	博士 (文学)	中国の言語と文化Ⅰ 中国の言語と文化Ⅱ	1・2前 1・2後	2 2	1 1	佐賀大学 教育学部 准教授 (平27.4)	5日
230	兼任	准教授	タケムツ シンヤ 武富 紳也 ＜平成31年4月＞	博士 (工学)	機械工学と環境Ⅲ※	3前	0.7	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平23.4)	5日
231	兼任	准教授	タケシマ タケル 高島 千鶴 ＜平成31年4月＞	博士(理 学)	地学の世界	1・2後	2	1	佐賀大学 教育学部 准教授 (平24.10)	5日
232	兼任	准教授	ナカノ マサユキ 中島 俊思 ＜平成31年4月＞	博士 (心理学)	心身の発達過程	1・2前・後	2	1	佐賀大学 学生支援室 准教授 (平29.10)	5日
233	兼任	准教授	イワノ タカシ 井川 健 ＜平成31年4月＞	博士 (美術)	芸術創造Ⅱ※ 芸術創造Ⅲ※	2後 3前	0.1 0.7	1 1	佐賀大学 芸術地域デ ザイン学部 准教授 (平24.10)	5日
234	兼任	准教授	カキヤ ケン 飯屋 圭史 ＜平成31年4月＞	博士 (工学)	機械工学と環境Ⅳ※	3後	0.9	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平26.4)	5日
235	兼任	准教授	キムラ タカマ 木村 拓馬 ＜平成31年4月＞	博士 (理学)	情報技術者キャリアデザインⅡ	2後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平27.4)	5日
236	兼任	准教授	シバサキ シンヤ 篠崎 伸也 ＜平成31年4月＞	博士 (経済学)	経営学	1・2前・後	2	1	佐賀大学 経済学部 准教授 (平28.4)	5日
237	兼任	准教授	ハシノ コロコ 林 裕子 ＜平成31年4月＞	Ph.D. (教育学) (イギリ ス)	Immersion Program	1・2前・後	2	1	佐賀大学 教育学部 准教授 (平28.4)	5日
238	兼任	准教授	コガマ ヒロシ 児玉 弘 ＜平成31年4月＞	修士 (法学)	地域経済と社会Ⅳ	3後	2	1	佐賀大学 経済学部 准教授 (平27.4)	5日
239	兼任	講師	オウカ セイゴ 大塚 清吾 ＜平成31年4月＞	短期大学士 (芸術)	画像へのアプローチ 伝統工芸と匠	1・2前・後 1・2前・後	2 2	1 1	写真家 佐賀大学 全学教育機構 非常勤講師 (H25.4)	5日
240	兼任	講師	コルマン サウス Coleman South ＜平成31年4月＞	Mastre of Arts (Teaching English to Speakers of Other Language) (アメリ カ)	英語A The Natural World Cultural Metaphors Intercultural Communication I Intercultural Communication II Intercultural Communication III Intercultural Communication IV	1前 1・2前・後 1・2前・後 2前 2後 3前 3後	4 2 2 2 2 2 2	2 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 全学教育機構 非常勤講師 (H25.4)	5日
241	兼任	講師	カイ ミツル 坂井 充 ＜平成31年4月＞	体育学修士	体育実技Ⅰ※ 体育実技Ⅱ※	1・2前・後 1・2前・後	1 1	1 1	佐賀大学 全学教育機構 非常勤講師 (H28.4)	5日
242	兼任	講師	マツイ ノブオ 松為 信雄 ＜平成31年4月＞	文学修士	高齢者・障がい者就労支援の諸理論	1・2前・後	2	1	東京通信大学 人間福祉学部 教授 (H30.4)	5日
243	兼任	講師	アサキ トコキ 青木 歳幸 ＜平成31年4月＞	歴史学博士	現代社会と医療Ⅰ	2前	2	1	佐賀大学 全学教育機構 非常勤講師 (H25.4)	5日
244	兼任	講師	ニシムラ コウイチロウ 西村 雄一郎 ＜平成31年4月＞	文学学士	デジタル表現技法 映画製作	1・2前・後 1・2前・後	2 2	1 1	映画評論家 佐賀大学 全学教育機構 非常勤講師 (H25.4)	5日

245	兼任	講師	イデ マサキ 井手 将文 <平成31年4月>		博士 (情報工 学)		障がい者支援論※	1・2前・後	0.5	1	佐賀大学 全学教育機構 非常勤講師 (H26.4)	5日
246	兼任	講師	アラン ボーマン Alan Bowman <平成31年4月>		Mastre of Arts (English as a Second Language) (アメリ カ)		英語A 英語B 英語C 英語D The Natural World Cultural Metaphors Intercultural Communication II Intercultural Communication II	1前 1後 2前 2後 1・2前 1・2前・後 2後 3後	2 3 3 3 2 2 2	2 3 3 3 1 1 1	佐賀大学 全学教育機構 講師 (平18.4)	5日
247	兼任	講師	ハシ ケイ 林 恵子 <平成31年4月>		修士 (文学)		英語A 英語B 英語C	1前 1後 2前	3 2 1	3 2 1	佐賀大学 全学教育機構 非常勤講師 (H25.4)	5日
248	兼任	特任講師	フカイ ヒサオ 福井 寿雄 <平成31年4月>		文学士		社会思想史	1・2前・後	2	1	佐賀大学 アドミッション センター 特任講師 (平28.4)	5日
249	兼任	講師	タガチ ハルキス 田口 晴康 <平成31年4月>		体育学修士		体育実技Ⅰ※ 体育実技Ⅱ※	1・2前・後 1・2前・後	1 1	1 1	福岡大学 スポーツ科学部 教授 佐賀大学 全学教育機構 非常勤講師 (H25.4)	5日
250	兼任	講師	シシカ カル 吉岡 薫 <平成31年4月>		中学校卒		囲碁	1・2前・後	0.3	1	囲碁プロ棋士八段 (平25.4)	5日
251	兼任	講師	アサキ ローラ 青木 ローラ <平成31年4月>		Masters degree is in literature		英語B	1後	2	2	佐賀大学 全学教育機構 非常勤講師 (H25.4)	5日
252	兼任	講師	タカハシ ヒロユキ 高橋 宏和 <平成31年4月>		博士 (医学)		食と健康Ⅲ※	3前	0.1	1	佐賀大学 医学部 講師 (平28.8)	5日
253	兼任	講師	マツモト アキコ 松本 明子 <平成31年4月>		博士 (医学)		食と健康Ⅲ※	3前	0.1	1	佐賀大学 医学部 講師 (平23.12)	5日
254	兼任	講師	シロウス ヒロカ 白水 浩貴 <平成31年4月>		修士 (文学)		英語A 英語B 英語C	1前 1後 2前 2後	3 2 2 2	3 2 2 2	佐賀大学 全学教育機 構 非常勤講師 (H25.4)	5日
255	兼任	講師	ヒロタ エミ 廣田 恵美 <平成31年4月>		修士 (文学)		英語A 英語B 英語C 英語D	1前 1後 2前 2後	3 1 1 1	3 1 1 1	佐賀大学 全学教育機構 非常勤講師 (H25.4)	5日
256	兼任	講師	ユノハラ キヨシ 湯之原 淳 <平成31年4月>		修士 (教育学)		肥前陶磁器産業体験Ⅲ 肥前陶磁器産業体験Ⅳ	3前 3後	2 2	1 1	佐賀大学 芸術地域 デザイン学部 講師 (平29.4)	5日
257	兼任	講師	エガチ キョウコ 江口 京子 <平成31年4月>		修士 (英文学) 修士 (英語教育 学)		英語A 英語B 英語C 英語D	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	佐賀大学 全学教育機構 非常勤講師 (H25.4)	5日
258	兼任	講師	チャップマン アンドルー Andrew Chapman <平成31年4月>		Master of Arts(Econo mics) (カナダ)		英語D	2後	2	2	九州大学 エネルギー アナリシス部門 助教 (H28.10)	5日
259	兼任	講師	カイ ヒロミ 甲斐 広文 <平成31年4月>		教育学士		肥前陶磁器産業体験Ⅲ 肥前陶磁器産業体験Ⅳ	3前 3後	2 2	1 1	佐賀大学 芸術地域 デザイン学部 講師 (平29.4)	5日
260	兼任	講師	コイケ トモヒサ 小池 知英 <平成31年4月>		修士 (比較社会 文化)		英語A 英語B 英語C 英語D	1前 1後 2前 2後	1 3 1 3	1 3 1 3	佐賀大学 全学教育機構 非常勤講師 (H25.4)	5日
261	兼任	講師	イシタ ケンゾウ 石田 賢治 <平成31年4月>		博士 (工学) ※		機械工学と環境Ⅳ※	3後	0.9	1	佐賀大学 工学系研究科 講師 (平10.4)	5日
262	兼任	講師	ホトリ ケイ 木道 圭子 <平成31年4月>		学士 (医学)		健康科学A	1・2前・後	2	1	佐賀大学 保健管理センター 講師 (平15.8)	5日
263	兼任	講師	オカ ユウコ 岡 有子 <平成31年4月>		修士 (文学)		英語B 英語C 英語D	1後 2前 2後	2 2 2	2 2 2	佐賀大学 全学教育機構 非常勤講師 (H25.4)	5日
264	兼任	講師	ジョナサン ピーター モクス Jonathan Peter Moxon <平成31年4月>		修士 (教育学)		英語B 英語D Life in the Global World	1後 2後 1・2前・後	3 3 2	3 3 1	佐賀大学 全学教育機構 講師 (平30.10)	5日
265	兼任	講師	ムラタ ヒロシ 村田 寛 <平成31年4月>		修士 (言語学)		韓国・朝鮮の言語と文化Ⅰ 韓国・朝鮮の言語と文化Ⅱ	1・2前 1・2後	2 2	1 1	佐賀大学 全学教育機構 非常勤講師 (H25.4)	5日
266	兼任	講師	ヤマサキ ミホ 山崎 美穂子 <平成31年4月>		修士 (文学)		英語B 英語D	1後 2後	1 1	1 1	佐賀大学 全学教育機構 非常勤講師 (H25.4)	5日
267	兼任	講師	リュウリウ シンジ 龍頭 信二 <平成31年4月>		教育学修士		体育実技Ⅱ※	1・2前・後	1	1	久留米工業高等 専門学校 准教授 佐賀大学 全学教育機構 非常勤講師 (H25.4)	5日

268	兼任	講師	ペトルス ルー Petrus Roux <平成31年4月>	M.A. in Teaching English as a Foreign/Second Language (イギリス)	英語C Sustainable Society Critical Thinking for the Modern Age Introduction to Sociology 異文化交流Ⅳ Intercultural Communication I	2前 1・2前 1・2前・後 1・2前・後 3後 2前	1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	佐賀大学 全学教育機構 講師 (平27.4)	5日
269	兼任	講師	ネチ ヌヒロ 菊池 泰弘 <平成31年4月>	博士 (理学)	人類学※	1・2前・後	1.1	1	佐賀大学 医学部 講師 (平24.3)	5日
270	兼任	講師	アサキ タケ 青柳 達也 <平成31年4月>	修士 (芸術学)	身体表現入門	1・2前・後	2	1	演劇家 佐賀大学 全学教育機構 非常勤講師 (H25.4)	5日
271	兼任	講師	マシヨウ ヨウ 満生 洋子 <平成31年4月>	修士 (文学)	アカデミック・ジャパニーズD	1後	2	2	佐賀大学 全学教育機構 非常勤講師 (H25.4)	5日
272	兼任	講師	マヅエ アカネ 松前 あかね <平成31年4月>	博士 (工学) 法務博士 (専門職)	アントレプレナーシップⅠ※ アントレプレナーシップⅡ※ アントレプレナーシップⅢ※ アントレプレナーシップⅣ※ インターフェイス演習	2前 2後 3前 3後 3前	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 デザイン ストラテジー部門 准教授 (H29.9)	5日
273	兼任	講師	モリタ ナコ 森田 佐知子 <平成31年4月>	修士 (経営管理) MBA: 経営管理修士	キャリアデザイン	1・2前・後	2	1	高知大学 学生総合 支援センター 特任准教授 (H30.1)	5日
274	兼任	講師	ミキ エコ 三木 悦子 <平成31年4月>	修士 (デザイン学)	肥前陶磁器産業体験Ⅲ 肥前陶磁器産業体験Ⅳ	3前 3後	2 2	1 1	佐賀大学 芸術地域 デザイン学部 講師 (平29.4)	5日
275	兼任	講師	エジマ タカト 江島 孝人 <平成31年4月>	修士 (文学)	英語A 英語B 英語C 英語D	1前 1後 1後 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	佐賀大学 全学教育機構 非常勤講師 (H25.4)	5日
276	兼任	講師	コトノリ ナミ 近藤 直美 <平成31年4月>	修士 (教育学)	英語A 英語C 英語D	1前 2前 2後	5 3 2	5 3 2	佐賀大学 全学教育機構 非常勤講師 (H25.4)	5日
277	兼任	講師	ヨシカワ トオル 吉川 達 <平成31年4月>	修士 (文学)	アカデミック・ジャパニーズA アカデミック・ジャパニーズC 異文化交流Ⅳ 東南アジアの言語と文化※ 応用言語学	1前 1後 3後 1・2前・後 1・2前・後	1 1 2 0.5 2	1 1 1 1 1	佐賀大学 全学教育機構 講師 (平22.10)	5日
278	兼任	講師	オシロ アキ 大城 綾子 <平成31年4月>	修士 (教育学)	英語B 英語D	1後 1後	1 1	1 1	佐賀大学 全学教育機構 非常勤講師 (H25.4)	5日
279	兼任	講師	フジノ トモミ 藤澤 知積 <平成31年4月>	博士 (理学)	実験化学Ⅱ※ 未来を拓く材料の科学Ⅳ※	1・2後 3後	0.4 0.7	1 1	佐賀大学 工学系研究所 准教授 (平30.4)	5日
280	兼任	講師	マサキ マサオ 町田 正直 <平成31年4月>	博士 (体育学)	スポーツと健康 チームビルディングとリーダーシップⅠ スポーツイベントとボランティアリーダーⅠ スポーツイベントとボランティアリーダーⅡ スポーツイベントとボランティアリーダーⅢ スポーツイベントとボランティアリーダーⅣ 体育実技Ⅱ※	1・2前・後 2前 2前 2後 3前 3後 1・2前・後	4 2 2 2 2 2 4	2 1 1 1 1 1 2	佐賀大学 全学教育機構 講師 (平25.4)	5日
281	兼任	講師	ミツマツ マコト 三ツ松 誠 <平成31年4月>	博士 (文学)	佐賀の歴史文化Ⅰ	2前	2	1	佐賀大学 地域学歴史文化 研究センター 講師 (平26.6)	5日
282	兼任	講師	ヤマチ カズヨシ 山内 祥 <平成31年4月>	修士 (教育学)	教育学 グループワークの技法と実践 異文化交流Ⅰ チームビルディングとリーダーシップⅠ チームビルディングとリーダーシップⅡ チームビルディングとリーダーシップⅢ チームビルディングとリーダーシップⅣ	1・2前・後 1・2前・後 2前 2前 2後 2後 3前 3後	2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 全学教育機構 講師 (平24.10)	5日
283	兼任	講師	シロタ ケイロウ 城下 健太郎 <平成31年4月>	博士 (法学)	日本国憲法	1・2前・後	6	3	佐賀大学 経済学部 講師 (昭 .4)	5日
284	兼任	講師	オウリドーガン ジョ 大渡ドーガン ジョ <平成31年4月>	Mastre of Education (アメリカ)	Western Culture Intercultural Communication III	1・2前・後 3前	2 2	1 1	長崎国際大学 助教 (平24.4)	5日
285	兼任	講師	トリア ナカ 鳥谷 さやか <平成31年4月>	修士 (教育学)	芸術創造Ⅱ※ 芸術創造Ⅳ※	2後 3後	0.1 1.3	1 1	佐賀大学 芸術地域 デザイン学部 講師 (平29.4)	5日
286	兼任	助教	イノ ケイ 磯野 健一 <平成31年4月>	工学修士	実験化学Ⅰ※ 未来を拓く材料の科学Ⅳ※	1・2前 3後	0.3 0.7	1 1	佐賀大学 工学系研究所 助教 (平3.8)	5日
287	兼任	助教	シマエ サト 島ノ江 千里 <平成31年4月>	博士 (医学)	生命科学の基礎C※	1・2前	0.3	1	佐賀大学 医学部 助教 (平26.4)	5日
288	兼任	助教	マダノ アキ 前田 明子 <平成31年4月>	工学士	情報技術者キャリアデザインⅠ	2前	2	1	佐賀大学 工学系研究所 助教 (平4.12)	5日
289	兼任	助教	ショウケン ケイ 菖蒲池 健夫 <平成31年4月>	博士 (薬学)	生命科学の基礎C※	1・2前	0.3	1	佐賀大学 医学部 助教 (平13.1)	5日
290	兼任	助教	ナカハタ ナホ 柿原 奈保子 <平成31年4月>	博士 (医学)	生命科学の基礎A※	1・2後	0.1	1	佐賀大学 医学部 助教 (平22.4)	5日

291	兼任	助教	ナガノ コウジ 永深 晃二 <平成31年4月>		学士 (工学)	3DCG表現 アニメーション表現 映像・デジタル表現Ⅰ 映像・デジタル表現Ⅱ 映像・デジタル表現Ⅲ 映像・デジタル表現Ⅳ	1・2前・後 1・2前・後 2前 2後 3前 3後	2 2 2 4 8	1 1 1 2 4	佐賀大学 全学教育機構 特任助教 (平29.4)	5日
292	兼任	助教	カガフ ヨシノ 川久保 善智 <平成31年4月>		博士 (障害科学)	人類学※	1・2前・後	0.9	1	佐賀大学 医学部 助教 (平19.3)	5日
293	兼任	助教	ニシタ ヨシイロ 西田 裕一郎 <平成31年4月>		博士 (医学)	食と健康Ⅲ※	3前	1.5	1	佐賀大学 医学部 助教 (平20.9)	5日
294	兼任	助教	フクシマ ヨシオ 福森 則男 <平成31年4月>		博士 (医学)	生命科学の基礎C※	1・2前	1.5	1	佐賀大学 医学部 寄附講座 助教 (平25.4)	5日
295	兼任	助教	オガタ タカヒロ 岡田 貴裕 <平成31年4月>		博士 (農学)	生命科学の基礎F※	1・2前	0.7	1	佐賀大学 医学部 助教 (平25.6)	5日
296	兼任	助教	オヤマ シュウジ 小山田 重蔵 <平成31年4月>		博士 (工学)	実験化学Ⅱ※ 未来を拓く材料の科学Ⅳ※	1・2後 3後	0.3 0.7	1 1	佐賀大学 工学系研究科 助教 (平26.4)	5日
297	兼任	助教	ヨネダ コウ 米田 宏 <平成31年4月>		博士 (工学)	実験化学Ⅰ※ 未来を拓く材料の科学Ⅳ※	1・2前 3後	0.3 0.7	1 1	佐賀大学 工学系研究科 助教 (平23.9)	5日
298	兼任	助教	リュウダ マサフミ 龍田 勝輔 <平成31年4月>		博士 (農学)	生命機能科学概説※ 生化学実験※ 基礎放射線科学※ 専門外書講読 基礎演習 生命機能科学演習Ⅰ 生物学基礎実験 生命機能科学演習Ⅱ 生命機能科学演習Ⅲ	3前 3前 3後 3後 3後 3後 4前 4前 4後	0.1 0.3 1.7 2 2 2 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 総合分析 実験センター 助教 (平成25年4月)	5日
299	兼任	助教	オオタマ アキヒコ 大串 昭彦 <平成31年4月>		学士 (医学)	生命科学の基礎C※	1・2前	0.3	1	佐賀大学 医学部 助教 (平26.10)	5日
300	兼任	助教	コウ カタキ 古賀 崇朗 <平成31年4月>		学士 (経営情報学)	アニメーション表現 映像・デジタル表現Ⅱ 映像・デジタル表現Ⅳ	1・前・後 2後 3後	2 4 8	1 2 4	佐賀大学 全学教育機構 特任助教 (平29.4)	5日
301	兼任	助教	マシマ シュン 松島 淳 <平成31年4月>		博士 (医学)	ライフサイクルから見た医療Ⅳ※	3後	0.3	1	佐賀大学 医学部 助教 (平28.4)	5日
302	兼任	助教	カワチ タケシ 河道 威 <平成31年4月>		学士 (経営学)	映像・デジタル表現Ⅰ 映像・デジタル表現Ⅱ 映像・デジタル表現Ⅳ 映像制作入門 シルクロード入門	2前 2後 3後 2 1・2前・後 1・2前・後	2 2 8 2 2	1 1 4 1 1	佐賀大学 全学教育機構 特任助教 (平29.4)	5日
303	兼任	助教	マツシ マサヒ 松久 葉一 <平成31年4月>		博士 (獣医学)	生命科学の基礎B※	1・2前	0.7	1	佐賀大学 総合分析 実験センター 助教 (平27.3)	5日
304	兼任	非常勤講師	コウモトタケ 甲本 達也 <平成31年4月>		農学博士	環境基礎解析学Ⅰ	2前	2	1	ジオポリマー研究所 所長 (平成24.8)	1日
305	兼任	非常勤講師	オオニ ヒロオ 大西 晴夫 <平成31年4月>		修士 (理学)	農業気象学 農業水文学	2前・3前 3後	2 2	1 1	日本気象 予報士会会長 (平成27年4月)	2日
306	兼任	非常勤講師	ハナダ シュン 半田 駿 <平成31年4月>		理学博士	地球環境学	3前	2	1	佐賀大学 非常勤講師 (平成24年4月)	1日
307	兼任	非常勤講師	コバヤシ ツネオ 小林 恒夫 <平成31年4月>		農学博士	比較農政学 島嶼・半島地域社会経済論	3前 2後	2 2	1 1	佐賀大学 非常勤講師 (平成31年4月)	2日

308	兼任	非常勤講師	シラケ ヨシハル 白武 義治 <平成31年4月>		農学博士		農業市場流通学 アグリビジネス論 協同組合論	2前 3後 3後	2 2 2	1 1 1	佐賀大学 非常勤講師 (平成31年4月)	2日
309	兼任	非常勤講師	ソメイ タカシ 染谷 孝 <平成31年4月>		農学博士		土壌学 植物栄養学	1後 2後	2 2	1 1	佐賀大学 非常勤講師 (平成31年4月)	2日
310	兼任	非常勤講師	ゴトリ フミキ 後藤 文之 <平成31年4月>		博士 (農学)		施設園芸学 植物工場学	3前 3後	2 2	1 1	(財)電力中央研究所 上席研究員	2日
311	兼任	非常勤講師	ミズノエ カズトモ 水ノ江 和同 <平成31年4月>		博士 (文化 史学)		考古学	2前	2	1	佐賀大学 非常勤講師 (平成31年4月)	1日
312	兼任	非常勤講師	フジタ コウ 藤永 豪 <平成31年4月>		博士 (理学)		地域資源論【隔年】	3後	2	1	佐賀大学 非常勤講師 (平成31年4月)	1日
313	兼任	非常勤講師	シメガ ダイスケ 下田 大介 <平成31年4月>		修士 (法学)		民法Ⅱ	3後	2	1	佐賀大学 非常勤講師 (平成31年4月)	1日

国立大学法人佐賀大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
佐賀大学				佐賀大学				
教育学部				教育学部				
学校教育課程	120		480	学校教育課程	120		480	
芸術地域デザイン学部				芸術地域デザイン学部				
芸術地域デザイン学科	110	3年次 5	450	芸術地域デザイン学科	110	3年次 5	450	
経済学部				経済学部				
経済学科	110	—	440	経済学科	110	—	440	
経営学科	80	—	320	経営学科	80	—	320	
経済法学科	70	—	280	経済法学科	70	—	280	
医学部				医学部				
医学科	106	—	604	医学科	106	—	604	
看護学科	60	—	240	看護学科	60	—	240	
理工学部				理工学部				
数理科学科	30	—	120	数理科学科	0	—	0	平成31年4月学生募集停止
物理科学科	40	—	160	物理科学科	0	—	0	平成31年4月学生募集停止
知能情報システム学科	60	—	240	知能情報システム学科	0	—	0	平成31年4月学生募集停止
機能物質化学科	90	—	360	機能物質化学科	0	—	0	平成31年4月学生募集停止
機械システム工学科	90	—	360	機械システム工学科	0	—	0	平成31年4月学生募集停止
電気電子工学科	90	—	360	電気電子工学科	0	—	0	平成31年4月学生募集停止
都市工学科	90	—	360	都市工学科	0	—	0	平成31年4月学生募集停止
(3年次編入学)	—	3年次 20	40	(3年次編入学)	—	3年次 0	0	平成33年4月学生募集停止
				理工学科	480	3年次 15	1,950	学部の設置(事前伺い)
農学部				農学部				
応用生物科学科	45	—	180	応用生物科学科	0	—	0	平成31年4月学生募集停止
生物環境科学科	60	—	240	生物環境科学科	0	—	0	平成31年4月学生募集停止
生命機能科学科	40	—	160	生命機能科学科	0	—	0	平成31年4月学生募集停止
(3年次編入学)	—	3年次 10	20	(3年次編入学)	—	3年次 0	0	平成33年4月学生募集停止
				生物資源科学科	145	—	580	学部の設置(事前伺い)
計	1,291	35	5,414	計	1,281	20	5,344	
佐賀大学大学院				佐賀大学大学院				
学校教育学研究科				学校教育学研究科				
教育実践探究専攻(P)	20	—	40	教育実践探究専攻(P)	20	—	40	
地域デザイン研究科				地域デザイン研究科				
地域デザイン専攻(M)	20	—	40	地域デザイン専攻(M)	20	—	40	
医学系研究科				医学系研究科				
医科学専攻(M)	15	—	30	医科学専攻(M)	0	—	0	平成31年4月学生募集停止
医科学専攻(D)	25	—	100	医科学専攻(D)	25	—	100	
看護学専攻(M)	16	—	32	看護学専攻(M)	0	—	0	平成31年4月学生募集停止

平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
工学系研究科				→	工学系研究科				
数理科学専攻(M)	9	—	18		0	—	0	0	平成31年4月学生募集停止
物理科学専攻(M)	15	—	30		0	—	0	0	平成31年4月学生募集停止
知能情報システム学専攻(M)	16	—	32		0	—	0	0	平成31年4月学生募集停止
循環物質化学専攻(M)	27	—	54		0	—	0	0	平成31年4月学生募集停止
機械システム工学専攻(M)	27	—	54		0	—	0	0	平成31年4月学生募集停止
電気電子工学専攻(M)	27	—	54		0	—	0	0	平成31年4月学生募集停止
都市工学専攻(M)	27	—	54		0	—	0	0	平成31年4月学生募集停止
先端融合工学専攻(M)	36	—	72		0	—	0	0	平成31年4月学生募集停止
システム創成科学専攻(D)	24	—	72		24	—	72		
					理工学研究科				研究科の設置(事前伺い)
					理工学専攻(M)				
					167	—	334		
農学研究科				→	農学研究科				
生物資源科学専攻(M)	40	—	80		0	—	0	0	平成31年4月学生募集停止
					生物資源科学専攻(M)				研究科の設置(事前伺い)
					32	—	64		
					先進健康科学研究科				研究科の設置(事前伺い)
					先進健康科学専攻(M)				
					52	—	104		
計					計				
	344	—	762		340	—	754		